

# 大学院便覧・講義要項 博士前期・後期課程

2012



東京女子医科大学大学院  
看護学研究科

1. 目次	
2. 東京女子医科大学の建学の精神、大学の理念	1

**【博士前期課程（修士）】**

3. 平成24年度大学院博士前期課程学事暦	3
4. 東京女子医科大学看護学研究科博士前期課程教育理念	5
5. 教育課程	
1) 授業科目および教員一覧	7
2) 教育課程の構造	11
3) 入学から修了までのプロセス	12
4) 履修について	13
大学院学則第8条および第9条関係「履修方法に関する内規」	14
5) 授業科目、単位数及び学年配置	17
6) 履修モデル	20
7) 講義要目	22
8) 修士論文作成要項	31
9) 課題研究論文作成要項	43
10) 教員一覧、専任教員・兼任教員・非常勤講師	55
6. 講義概要	
1) 基盤分野	
共通必修科目	59
共通選択科目	61
自由選択科目	75
2) 専攻科目（自由選択科目を含む）	
基礎看護学	78
看護職生涯発達学	85
クリティカルケア看護学	91
がん看護学	101
ウーマンズヘルス	115
老年看護学	124
精神看護学	135
地域看護学	150
小児看護学	163
3) 助産選択科目	175

**【博士後期課程（博士・甲）】**

7. 平成24年度大学院博士後期課程学事暦	183
8. 東京女子医科大学大学院看護学研究科博士後期課程教育理念	185
9. 教育課程	
1) 授業科目および教員一覧、論文指導教員一覧	187
2) 教育課程の構造	189
3) 博士後期課程履修の流れ	190
4) 履修について	191

大学院学則第8条および第9条関係「履修方法に関する内規」	192
5) 授業科目、単位数及び学年配置	195
6) 履修例	196
7) 講義要目	197
8) 学位論文作成の過程	199
9) 教員一覧、専任教員・兼任教員・非常勤講師	209
10. 講義概要	
1) 共通選択科目	
心理学特論	211
統計学特論	212
哲学特論	213
倫理学特論	214
研究方法特論	215
2) 看護基礎科学	
看護職生涯発達学	216
3) 実践看護学	
クリティカルケア看護学・がん看護学特論	217
ウーマンズヘルスト論	218
老年看護学特論	219
解釈的精神看護学特論	220
解釈的精神看護学演習	221
地域看護学特論	222
小児看護学特論	223
4) 論文指導	224
<b>【満期退学後2ヶ年以内の者による学位申請（甲）・論文提出による学位申請（乙）】</b>	
11. 平成24年度学事歴	231
12. 論文提出による学位申請について（乙のみ該当）	232
<b>【共通】</b>	
13. 学則・学位規程	237
14. 倫理委員会規程	248
15. 看護学研究科倫理審査委員会規程	250
16. 廣澤克江看護国際交流助成金規程	253
17. Kidney 太田奨励賞規程	255
18. 図書館利用案内	256
19. 学生生活の手引き	
1) 学生証・諸届・諸手続等	259
2) 学生生活	261
3) 障害保険・賠償責任保険	263
4) 奨学金制度・教育訓練給付制度	264
5) 利用施設	265
20. 時間割表	272
21. 2012・2013・2014年カレンダー	

# 東京女子医科大学

## I. 建学の精神

東京女子医科大学は、1900年（明治33年）に創立された東京女醫學校を母体として設立された。東京女子医科大学の創立者である吉岡彌生は、1952年（昭和27年）新制大学設立に際し、東京女醫學校創立の主意をもって建学の精神とした。その主旨は、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出することであった。新制大学設立時の学則には「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する。」と記されている。

建学の精神に基づく医療人育成の場として、1998年（平成10年）度より新たに看護学部が新設された。医療を行うものが学ぶ学府として、現在の東京女子医科大学の使命は、最良の医療を実践する知識・技能を修め高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行うことである。大学建学の精神に基づき、大学教育では社会に貢献する女性の医療人を育成する。

## II. 大学の理念

東京女子医科大学の使命を達成するための教育・研究・診療の基盤となる理念は、「至誠と愛」である。至誠は、「常住不断私が患者に接するときの根本的な心構えを短い二つの文字のなかに言い現したもの（吉岡彌生傳）」という創立者吉岡彌生の座右の銘であり、「きわめて誠実であること」「慈しむ心（愛）」は教育・研究・診療の総ての場において求められる。大学およびそこに学び働くものは本学の理念である「至誠と愛」に従って活動しなくてはならない。



# 博士前期課程（修士）

平成24年度学事暦(博士前期課程)

	事項	日程
前 期	入学式	4月 9日(月)
	オリエンテーション(1年次のみ) * 博士後期課程合同	4月 13日(金)
	前期授業開始	4月 16日(月)
	履修願届提出	4月 20日(金) 17時まで
	特別研究計画書の提出	5月 9日(水) 13時まで
	特別研究計画書の発表会(修士論文コース)	5月 16日(水)
	特別研究計画書の再提出(修士論文コースのみ)	5月 30日(水)
	研究科委員会による特別研究計画書の審査	6月 8日(金)
	課題研究計画書の提出(最終締切日) (注)	6月 29日(金) 13時まで
	課題研究計画書の発表会(実践看護コース)	7月中に実施する(予定) ただし、発表は任意とする
	大学院博士前期・後期課程入学試験(1期)	8月 7日(火)
	履修願変更期間(後期に実施する科目のみ有効)	9月 24日(月)~28日(金) 17時まで
	前期授業終了	9月 29日(土)
後 期	後期授業開始	10月 1日(月)
	大学院博士前期・後期課程入学試験(2期)	1月 16日(水)
	学位申請書(修士論文、課題研究論文)提出	1月 28日(月) 13時まで
	審査委員会の構成委員の決定	2月 1日(金)
	審査委員会による論文審査と最終試験日(実践看護コース)	2月 6日(水)
	審査委員会による論文審査と最終試験日(修士論文コース)	2月 13日(水)
	再審査論文提出締切日	2月 20日(水) 13時まで
	主査による最終審査結果提出日	2月 25日(月)
	研究科委員会による学位授与の可否判定	3月 1日(金)
	学生への通知	3月 4日(月)
	特別研究・課題研究の発表会	3月 13日(水)
	学位授与式ー修了式	3月 22日(金)

(注): 課題研究計画書については、平成24年4月2日(月)以降随時提出可能とし、提出後直近の研究科委員会(定例)にて課題研究計画書の審査を行うこととする。



## 東京女子医科大学大学院看護学研究科博士前期課程の教育理念

### I. 設置の趣旨

わが国の医学・医療は、臓器移植法の実施を迎え、ますます高度化・煩雑化へと急速な変化をとげている。また、高齢・少子化の進展や生活習慣病を中心とした疾病構造の変化に伴い、医療の社会経済的情勢の変化をきたしている。これにより医療制度および医療法の改正がなされ、医療をとりまく新たな環境に応じた医療サービス提供体制の整備が行われてきた。このような現状において、多様な人々の健康の保持増進に向けて、保健・医療・看護・福祉に関連したチーム医療を推進できる質の高い人材がますます必要になっている。また、国際的視野に立ち、看護学の立場から主体的、協調的に他職種の専門家と協働して社会のニーズに対応できる実践能力を有する人材が求められる。

東京女子医科大学は、社会の保健・医療・看護・福祉に対する人々の多様なニーズを認識し、看護の立場から、これらのニーズに対応できる高度な実践能力、豊かな学識および人間性を備え、人々のQOLを高めるように社会を変革する能力を有する人材を育成するために、さらに看護学の独自の学問の発展のために看護学研究科博士前期課程を設置した。

### II. 教育研究上の理念・目的

本学大学院看護学研究科博士前期課程看護学専攻（以下本大学院）は、看護基礎科学（食看護学・基礎看護学）、看護管理学、看護職生涯発達学、実践看護学Ⅰ（クリティカルケア看護学・がん看護学）、実践看護学Ⅱ（ウーマンズヘルス）、実践看護学Ⅲ（老年看護学）、実践看護学Ⅳ（精神看護学）、実践看護学Ⅴ（地域看護学）、実践看護学Ⅵ（小児看護学）の看護実践に即した研究を中心に、看護実践・教育・行政における指導者を育成する。ついで高度医療を専門とする附属病院を有する最良の条件を有効に生かし、多様な状況の中でも本学の創立者の至誠と愛の精神を貫き、常に対象者の立場を理解して包括的、かつ高度な看護を実践できる専門職業人の育成を目指している。

さらに、21世紀の情報化社会において、国際的感覚を有し、あらゆる人々の健康に関するニーズを視野に入れ、人間性を高め、科学的思考および高度な看護技術を提言できる看護研究者の育成をも併せ目的とする。

#### 教育目的

本大学院は、建学の精神にのっとり、看護学に関する学術の理論及び応用学を研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与するとともに社会に貢献すべき有為の人材を育成する。

#### 修了後の資格

- ・ 所定の授業科目を履修し必要な単位を取得したものについては、修了したことを認定し、修士（看護学）の学位が授与される。
- ・ 実践看護学コースの修得者注）に対しては、専門看護師の認定を受ける資格が与えられる。

注）クリティカルケア看護学、がん看護学、老年看護学、精神看護学、地域看護学、小児看護学

- ・ 実践看護学Ⅱ分野（ウーマンズヘルス）の学生で所定の助産選択科目を履修し、必要な単位を取得したものについては、助産師国家試験受験資格が与えられる。



## 授業科目及び教員一覧

### 1. 基盤分野

授業科目名		科目責任者	科目担当者
必修 共通	看護理論	田中 美恵子	田中美恵子、佐藤紀子、守屋治代
	看護研究	水野 敏子	水野敏子、田中美恵子、加藤京里
共通 選択	看護倫理	田中 美恵子	田中美恵子、柳修平、奥津康祐、森川功
	看護教育論	佐藤 紀子	佐藤紀子、山元由美子、守屋治代、菊池昭江
	看護政策論	柳 修平	柳修平、伊藤景一
	コンサルテーション論	下平 唯子	下平唯子、金子眞理子、江川知子
	看護管理論	佐藤 紀子	佐藤紀子、吉田澄恵
	家族論	泉 真由子	泉真由子
	社会学	諏訪 茂樹	諏訪茂樹
	人間学	足立 智孝	足立智孝
	保健統計学	坂田 成輝	坂田成輝
	臨床心理学	松寄 英士	松寄英士
	研究方法 生体・生理学 臨床医学	神山 暢夫 荒井 純子	神山暢夫、伊東栄子 荒井純子、尾崎恭子
	先端医療	伊藤 景一	伊藤景一、伊関洋、岡野光夫、齋藤加代子、清水達也、村垣善浩、大和雅之、大橋一夫、秋山義勝、小林純、中山正道、長瀬健一、岩田隆紀、武岡真司、武田直也
国際コミュニケーション英語演習	木村 みどり	木村 みどり、河村ナディレ	
自由 選択	臨床薬理学☆	丸 義朗	丸義朗、荒井純子、日沼千尋、水野敏子、尾崎恭子、中村(平塚)佐千枝、塚原富士子、家口勝昭、出口敦子、富田毅、瀧田守親
	フィジカルアセスメント☆	下平 唯子	下平唯子、金子眞理子、落合亮太、原三紀子、益田美津美、嵐弘美、小林礼実、原美鈴、原沢のぞみ、松岡志帆、三浦美奈子、岡田芳和、玉置淳、萩原誠久、齋藤登、比嘉隆、成宮孝祐
	病態生理学☆	荒井 純子	荒井純子、尾崎恭子、金子眞理子

### 2. 専攻分野

授業科目名		論文指導	科目責任者および科目担当者
看護 基礎 科学 (食看護学・ 基礎看護学)	食看護学特論Ⅰ	山元 由美子	*今年度開講なし
	食看護学特論Ⅱ		*今年度開講なし
	食看護学特論Ⅲ		*今年度開講なし
	食看護学特論Ⅳ		*今年度開講なし
	食看護学演習Ⅰ		*今年度開講なし
	食看護学演習Ⅱ		*今年度開講なし
	食看護学特別研究		*今年度開講なし
	基礎看護学特論Ⅰ		山元由美子、見城道子
	基礎看護学特論Ⅱ		山元由美子、加藤京里
	基礎看護学特論Ⅲ		山元由美子、守屋治代
	基礎看護学特論Ⅳ		山元由美子、菊池昭代
	基礎看護学演習Ⅰ		山元由美子、守屋治代、菊池昭代、見城道子、加藤京里
	基礎看護学演習Ⅱ		山元由美子、守屋治代、菊池昭江
	基礎看護学特別研究		山元由美子

	授業科目名	論文指導	科目責任者および科目担当者
看護管理学 (看護管理学)	看護管理学特論Ⅰ	—	*今年度開講なし
	看護管理学特論Ⅱ		*今年度開講なし
	看護管理学特論Ⅲ		*今年度開講なし
	看護管理学演習Ⅰ		*今年度開講なし
	看護管理学演習Ⅱ		*今年度開講なし
	看護管理学特別研究		*今年度開講なし
看護職生涯発達学 (看護職生涯発達学)	看護職生涯発達学特論Ⅰ	佐藤 紀子	佐藤紀子、吉田澄恵、草柳かほる、山本夕子
	看護職生涯発達学特論Ⅱ		佐藤紀子、吉田澄恵、松寄英士、原美鈴
	看護職生涯発達学特論Ⅲ		佐藤紀子、吉田澄恵、原三紀子、草柳かほる
	看護職生涯発達学演習Ⅰ		吉田澄恵、佐藤紀子
	看護職生涯発達学演習Ⅱ		吉田澄恵、佐藤紀子、山本夕子、味木由佳、三好麻実子、香川秀太
	看護職生涯発達学特別研究		佐藤紀子、吉田澄恵
実践看護学Ⅰ (クリティカルケア看護学・がん看護学)	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	下平 唯子	下平唯子、松寄英士、益田美津美
	クリティカルケア看護学特論Ⅱ		下平唯子、落合亮太、小林礼実、松岡志帆
	クリティカルケア看護学特論Ⅲ		下平唯子、萩原誠久、小泉雅子、佐藤憲明
	クリティカルケア看護学特論Ⅳ		下平唯子、落合亮太、小林礼実、松岡志帆
	クリティカルケア看護学特論Ⅴ		下平唯子、益田美津美、川島朗
	クリティカルケア看護学演習Ⅰ		下平唯子、岡田芳和、尾崎眞、萩原誠久、遠藤奈津美、大友陽子、佐藤憲明
	クリティカルケア看護学演習Ⅱ		下平唯子、益田美津美、遠藤奈津美
	クリティカルケア看護学実習		下平唯子、益田美津美、小林礼実、松岡志帆、小泉雅子、林千草
	クリティカルケア看護学課題研究		下平唯子
	クリティカルケア看護学特別研究		下平唯子
	がん看護学特論Ⅰ		下平唯子、金子真理子
	がん看護学特論Ⅱ		下平唯子、柴田亮行、山口直人、岡本高宏、有賀淳、寺村正尚、兼村俊範、丸山隆志
	がん看護学特論Ⅲ		下平唯子、金子真理子、花出正美、吉村美樹
	がん看護学特論Ⅳ		下平唯子、三浦美奈子、新井敏子、花出正美、吉村美樹
	がん看護学特論Ⅴ		下平唯子、金子真理子、新井敏子
	がん看護学演習Ⅰ		下平唯子、林和彦、伊東俊雅、大堀洋子、三村直美、近藤まゆみ、秋山正子
	がん看護学演習Ⅱ		下平唯子、金子真理子、佐藤弘、吉川信、三村直美、新井敏子、近藤まゆみ
	がん看護学演習Ⅲ☆		下平唯子、金子真理子、林和彦、兼村俊範、奥山隆二、中島豪、末永きよみ、小川朝生
	がん看護学実習Ⅰ		下平唯子、金子真理子、
	がん看護学実習Ⅱ		下平唯子、金子真理子、大堀洋子、三村直美
	がん看護学実習Ⅲ☆		下平唯子、金子真理子、三村直美
	がん看護学実習Ⅳ☆		下平唯子、金子真理子
	がん看護学課題研究		下平唯子、金子真理子
	がん看護学特別研究		下平唯子、金子真理子

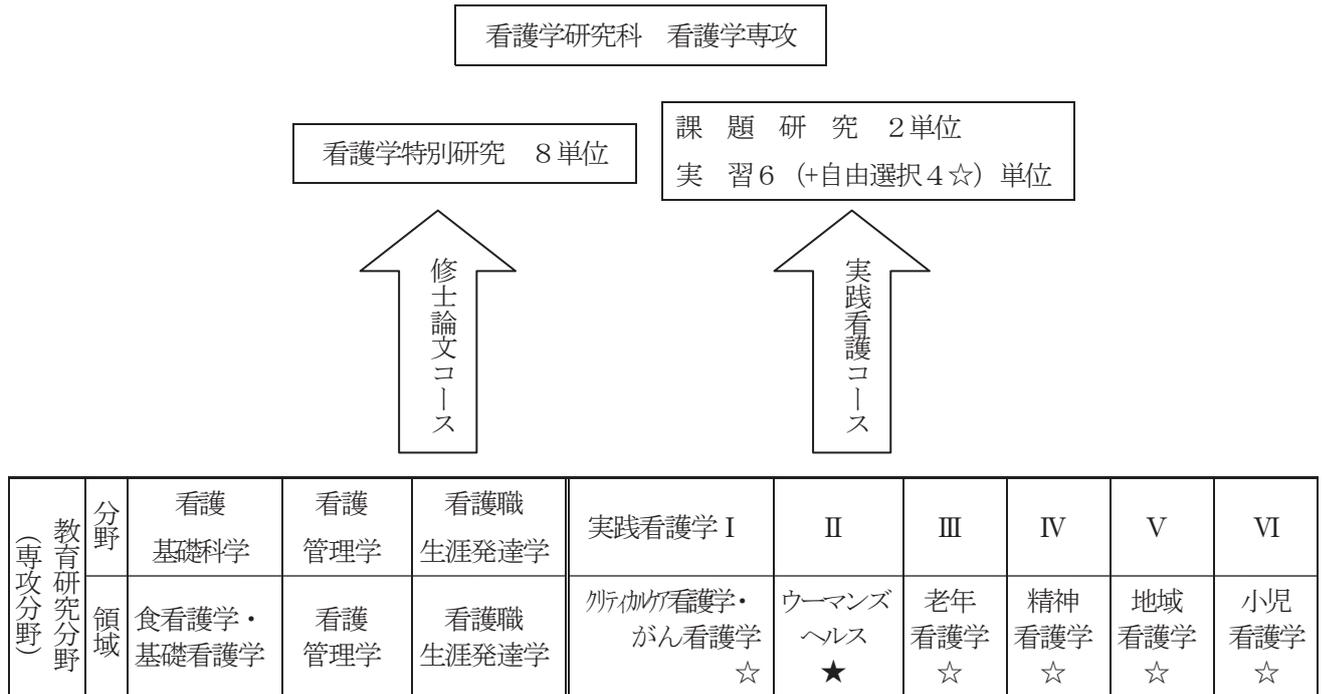
授業科目名		論文指導	科目責任者および科目担当者
実践看護学Ⅱ (ウーマンズヘルス)	ウーマンズヘルス特論Ⅰ	小川久貴子	小川久貴子
	ウーマンズヘルス特論Ⅱ		小川久貴子、宮内清子、高木耕一郎
	ウーマンズヘルス特論Ⅲ		小川久貴子、川嶋朗
	ウーマンズヘルス特論Ⅳ		小川久貴子、遠藤弘良、野口真貴子
	ウーマンズヘルス演習Ⅰ		小川久貴子、日沼千尋、関森みゆき、相野田祐介、富川由美子
	ウーマンズヘルス演習Ⅱ		小川久貴子、原田通予、宮内清子、中北充子
	ウーマンズヘルス実習		小川久貴子、竹内道子、原田通予、宮内清子、飯塚幸恵、井上友里、中北充子
	ウーマンズヘルス課題研究		小川久貴子、宮内清子
	ウーマンズヘルス特別研究		小川久貴子
実践看護学Ⅲ (老年看護学)	老年看護学特論Ⅰ	水野 敏子	水野敏子
	老年看護学特論Ⅱ		水野敏子、小山千加代、坂井志麻、松村美由起、篠聡子
	老年看護学特論Ⅲ		水野敏子、尾崎恭子、坂井志麻、原沢のぞみ、川嶋朗、太田喜久子
	老年看護学特論Ⅳ		水野敏子、坂井志麻、井澤玲奈
	老年看護学特論Ⅴ☆		水野敏子、坂井志麻
	老年看護学演習Ⅰ		小山千加代、井澤玲奈、原沢のぞみ
	老年看護学演習Ⅱ		水野敏子、坂井志麻
	老年看護学実習Ⅰ		水野敏子、小山千加代、坂井志麻、井澤玲奈、原沢のぞみ
	老年看護学実習Ⅱ☆		坂井志麻
	老年看護学課題研究		水野敏子
老年看護学特別研究	水野敏子		
実践看護学Ⅳ (精神看護学)	精神看護学特論Ⅰ	田中 美恵子	田中美恵子
	精神看護学特論Ⅱ		田中美恵子
	精神看護学特論Ⅲ		田中美恵子
	精神看護学特論Ⅳ		田中美恵子、尾崎恭子、山内典子、Pamela A. Minarik
	精神看護学特論Ⅴ☆		田中美恵子、嵐弘美、異儀田はづき、稻田健、高橋一志
	精神看護学演習Ⅰ		田中美恵子、日沼千尋、小山達也、嵐弘美、山内典子
	精神看護学演習Ⅱ		田中美恵子、小山達也、嵐弘美、江波戸和子
	精神看護学演習Ⅲ		田中美恵子、小山達也、嵐弘美、飯塚あつ子、異儀田はづき
	精神看護学実習Ⅰ		田中美恵子、小山達也、嵐弘美、飯塚あつ子、異儀田はづき
	精神看護学実習Ⅱ		田中美恵子
	精神看護学実習Ⅲ☆		田中美恵子、嵐弘美、異儀田はづき、山内典子、安田妙子
	精神看護学実習Ⅳ☆		田中美恵子、安田妙子、山内典子
	精神看護学課題研究		田中美恵子
精神看護学特別研究	田中美恵子		

授業科目名		論文指導	科目責任者および科目担当者
実践看護学Ⅴ (地域看護学)	地域看護学特論Ⅰ	柳 修平 伊藤 景一	柳修平、伊藤景一、中田晴美、服部真理子、池戸啓子
	地域看護学特論Ⅱ		柳修平、伊藤景一、中田晴美、服部真理子、村嶋幸代
	地域看護学特論Ⅲ		柳修平、伊藤景一、中田晴美、服部真理子
	地域看護学特論Ⅳ		伊藤景一、柳修平、秋山正子
	地域看護学特論Ⅴ		柳修平、伊藤景一、中田晴美、服部真理子、犬飼かおり、遠藤直子
	地域看護学特論Ⅵ☆		柳修平、伊藤景一、中田晴美
	地域看護学演習Ⅰ		伊藤景一、中田晴美、服部真理子、犬飼かおり、遠藤直子、池戸啓子
	地域看護学演習Ⅱ		中田晴美、伊藤景一、服部真理子、犬飼かおり、遠藤直子
	地域看護学実習Ⅰ		中田晴美、伊藤景一、服部真理子、犬飼かおり、遠藤直子、池戸啓子
	地域看護学実習Ⅱ		中田晴美、伊藤景一、服部真理子、犬飼かおり、遠藤直子
	地域看護学実習Ⅲ☆		中田晴美、伊藤景一、服部真理子、犬飼かおり、遠藤直子、池戸啓子
	地域看護学課題研究		柳修平、伊藤景一、中田晴美、服部真理子
	地域看護学特別研究		柳修平、伊藤景一、中田晴美
実践看護学Ⅵ (小児看護学)	小児看護学特論Ⅰ	日沼 千尋	日沼千尋、諏訪茂樹、松寄英士、津波古澄子
	小児看護学特論Ⅱ		日沼千尋、関森みゆき、高澤みゆき
	小児看護学特論Ⅲ		日沼千尋、関森みゆき
	小児看護学特論Ⅳ		日沼千尋
	小児看護学演習Ⅰ		日沼千尋、田中美恵子、青木雅子、奥野順子
	小児看護学演習Ⅱ		日沼千尋、相野田祐介、遠藤奈津美、大友陽子、金子恵美子、高澤みゆき、富川由美子、山田咲樹子
	小児看護学演習Ⅲ☆		日沼千尋、木所篤子、宮崎歌津枝、山田咲樹子
	小児看護学実習Ⅰ☆		日沼千尋、関森みゆき、奥野順子、大澤眞木子、杉原茂孝
	小児看護学実習Ⅱ☆		日沼千尋、関森みゆき、奥野順子
	小児看護学実習Ⅲ		日沼千尋、関森みゆき、奥野順子
	小児看護学課題研究		日沼千尋、関森みゆき
	小児看護学特別研究		日沼千尋、関森みゆき
助産選択科目*	助産学特論Ⅰ	小川久貴子	小川久貴子、竹内道子、原田通予、宮内清子、飯塚幸恵、中北充子
	助産学特論Ⅱ		小川久貴子、竹内道子、原田通予、宮内清子、飯塚幸恵、中北充子
	助産学特論Ⅲ		小川久貴子、宮内清子、野口真貴子
	助産学特論Ⅳ		小川久貴子、原田通予
	助産学演習Ⅰ		小川久貴子、尾崎恭子、原田通予、飯塚幸恵、近藤乾、坂井昌人、牧野康男
	助産学演習Ⅱ		小川久貴子、竹内道子、原田通予、宮内清子、飯塚幸恵、井上友里、中北充子
	助産学実習		小川久貴子、竹内道子、原田通予、宮内清子、飯塚幸恵、井上友里、中北充子

\*については、実践看護学Ⅱ（ウーマンズヘルス）分野の学生で助産師国家試験受験資格取得を希望する者はすべて履修すること。

☆については、実践看護学Ⅰ～Ⅵ分野（ただし、実践看護学Ⅱ分野（ウーマンズヘルス）を除く）の学生で日本看護系大学協議会専門看護師教育課程（38単位）修了を希望する者は基盤自由選択科目ならびに専攻主分野の自由選択科目をすべて履修すること。

## 教育課程の構造（博士前期課程）



★助産師国家試験受験資格取得希望者のための選択必修科目を設置

☆日本看護系大学協議会専門看護師教育課程（38単位）修了のための自由選択科目を設置

基盤科目	共通必修科目（4）	看護理論（2） 看護研究（2）
	共通選択科目 修士論文コースは6単位以上 実践看護コースは4単位以上 (但し、4単位は*印の科目から選択する。) 実践看護学分野II（ウーマンズヘルス）実践看護コースは6単位以上	*看護教育論（2）*看護政策論（2）*コンサルテーション論（2） *看護倫理（2）*看護管理論（2）家族論（2）社会学（2） 人間学（2）保健統計学（2）臨床心理学（2） 研究方法（生体・生理学的研究、臨床医学的研究各2）（2） 先端医療（2）国際コミュニケーション英語演習（2）
	自由選択科目（6）☆	病態生理学（2）フィジカルアセスメント（2）臨床薬理学（2）

（ ）内の数字は単位を表す

修士論文コース 修得単位 30単位以上

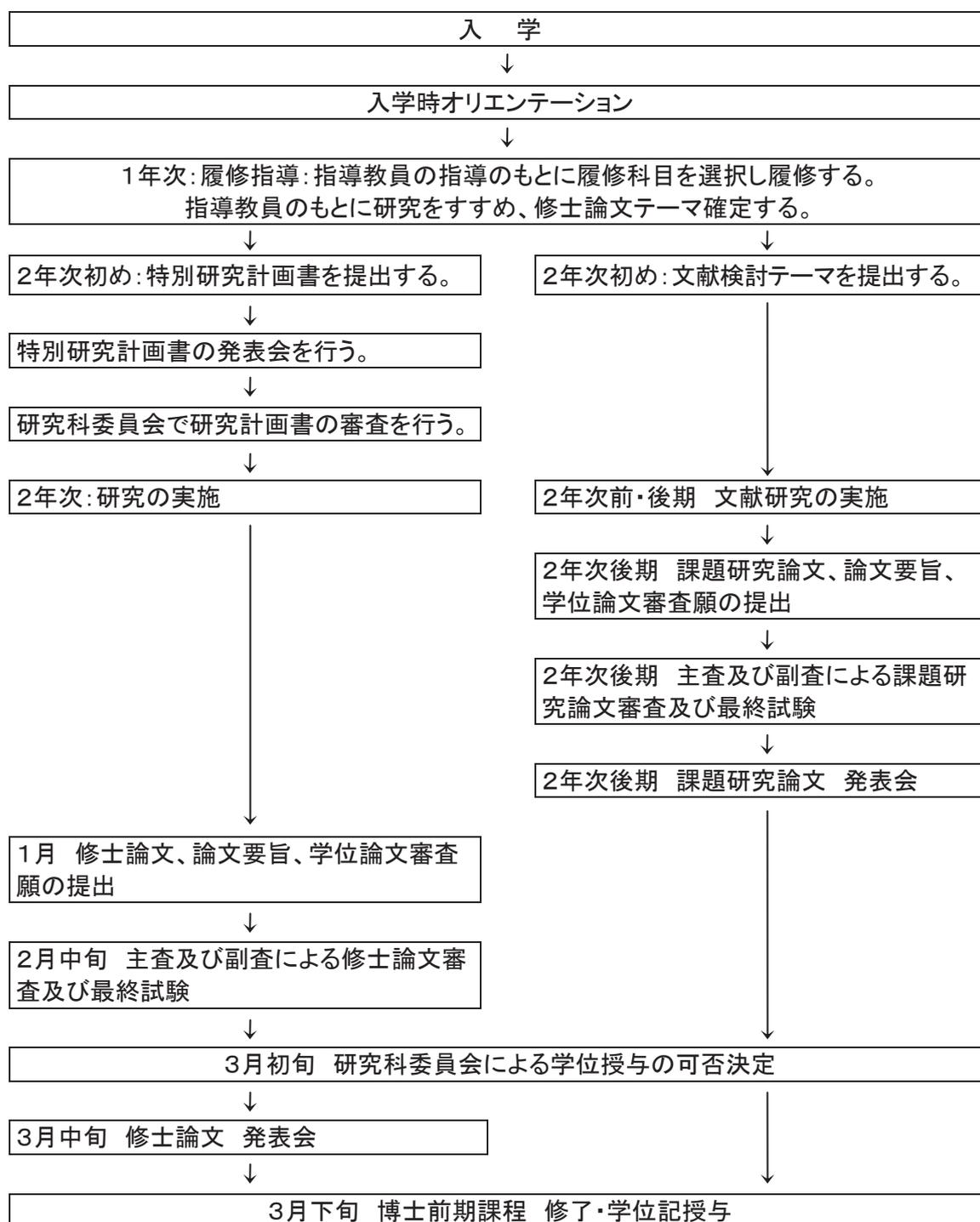
実践看護コース 修得単位 30単位以上

修士論文コース：教育研究分野（専攻分野）の修得単位は、専攻主分野選択必修科目を12単位以上履修する。

実践看護コース：教育研究分野（専攻分野）の修得単位は、専攻主分野選択必修科目を14単位（但し、うち2単位は他の専攻分野でも特論に限り選択可）履修する。但し、実践看護学分野II（ウーマンズヘルス）の学生は、専攻主分野選択必修科目を12単位以上履修する。なお、実践看護学I～VI分野（ただし、実践看護学II分野（ウーマンズヘルス）を除く）の学生で、日本看護系大学協議会専門看護師教育課程（38単位）修了を希望する者は、上記に加えて基盤科目自由選択科目を6単位以上、専攻主分野自由選択科目を2単位以上、実習（自由選択科目）を4単位以上履修する。（平成24年度入学生より適用）

また、実践看護学分野II（ウーマンズヘルス）の学生で助産師国家試験受験資格取得を希望する者は助産師国家試験受験資格希望者のための選択必修科目28単位をすべて履修すること。（平成24年度入学生より適用）\*平成23年度入学生は計23単位すべて履修する。

入学から修了までのプロセス (平成24年度入学生対象)



## 履修について

### 修士論文コース：

基盤分野から10単位、専攻主分野から12単位以上履修する。

基盤分野の10単位の内訳として、共通必修科目の看護理論、看護研究から4単位、共通選択科目の看護倫理、看護教育論、看護政策論、コンサルテーション論、看護管理論、家族論、社会学、人間学、保健統計学、臨床心理学、研究方法、先端医療、国際コミュニケーション英語演習から6単位以上履修する。

### 実践看護コース：

基盤分野から8単位、専攻主分野から14単位以上履修する。

基盤分野の8単位の内訳として、共通必修科目の看護理論、看護研究から4単位、共通選択科目の\*看護倫理、\*看護教育論、\*看護政策論、\*コンサルテーション論、\*看護管理論、家族論、社会学、人間学、保健統計学、臨床心理学、研究方法、先端医療、国際コミュニケーション英語演習から4単位以上履修する。（但し、\*印5科目から選択し4単位以上選択すること。）

専攻主分野の14単位のうち2単位は他の専攻分野でも特論に限り選択可能である。

但し、実践看護学分野Ⅱ（ウーマンズヘルス）の学生は、専攻主分野選択科目を12単位以上履修する。

### 修了要件

- ・ 2年以上在学し、授業科目について30単位以上を修得すること。
- ・ 看護学特別研究または課題研究の審査および最終試験に合格すること。

### 日本看護系大学協議会専門看護師教育課程（38単位）修了について

実践看護学Ⅰ～Ⅵ分野（ただし、実践看護学Ⅱ分野（ウーマンズヘルス）を除く）の学生で日本看護系大学協議会専門看護師教育課程（38単位）修了を希望する者は、上記に加えて基盤自由選択科目を6単位以上、専攻主分野自由選択科目を2単位以上、実習（自由選択科目）を4単位以上履修する。（平成24年度入学生より適用）

### 助産師国家試験受験資格について

実践看護学Ⅱ分野（ウーマンズヘルス）の学生で助産師国家試験受験資格を希望する者は、助産選択科目（助産学特論Ⅰ、助産学特論Ⅱ、助産学特論Ⅲ、助産学特論Ⅳ、助産学演習Ⅰ、助産学演習Ⅱ、助産学実習）の28単位すべて履修すること。（平成24年度入学生より適用）\*なお、平成23年度入学生は計23単位すべて履修する。

大学院学則 8 条および 9 条関係「履修方法に関する内規」

1. 学生は入学後原則として、1 ヶ月以内に、研究指導教授の指導および承認を得て、学科目の選択を決定しなければならない。
2. 学生は、毎学年始め研究指導教授の指導および承認を得て、当該学年に履修しようとする学科目を定め、所定の様式により届け出なければならない。
3. 学科目の単位は、半年間 15 週を標準として、毎週時間数講義 1 時間、演習 2 時間、実習 3 時間が各々 1 単位に相当する。
4. 学科目、単位数については別表の通りとする。
5. 学生は下表に従って学科を履修しなければならない。

<博士前期課程>

《修士論文コース》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	6
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	12
看護学特別研究	8
修了最低修得単位数	計 30 単位

《実践看護コース》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	4
*但し、看護倫理、看護教育論、看護政策論、コンサルテーション論、看護管理論の中から 4 単位以上選択すること 自由選択科目 <sup>注)</sup>	(6)
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	14
*但し、うち 2 単位は、他の専攻分野でも特論に限り選択することができる。 自由選択科目 <sup>注)</sup>	(2)
実習	
選択必修科目	6
自由選択科目 <sup>注)</sup>	(4)
課題研究	2
修了最低修得単位数	計 30 単位
日本看護系大学協議会専門看護師教育課程 (38 単位) 修了のための自由選択科目	12
	計 42 単位

注) 日本看護系大学協議会専門看護師教育課程 (38 単位) 修了を希望する者は、自由選択科目を履修することとする。

《実践看護学分野Ⅱ（ウーマンズヘルス）修士論文コース 選択者》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	6
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	12
看護学特別研究	8
修了最低修得単位数	計 30 単位
助産師国家試験受験資格取得希望者のための選択必修科目	28
	計 58 単位

《実践看護学分野Ⅱ（ウーマンズヘルス）実践看護コース 選択者》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	6
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	12
実習	
選択必修科目	6
課題研究	2
修了最低修得単位数	計 30 単位
助産師国家試験受験資格取得希望者のための選択必修科目	28
	計 58 単位

<博士後期課程>

科 目	修了最低修得単位数
専攻主領域の科目	2 単位 但し、看護管理学、解釈的精神看護学は4単位とする。
共通選択科目または他の専攻領域の科目	4 単位 但し、看護管理学、解釈的精神看護学は2単位とする。
修了最低修得単位数	計 6 単位

- 1) 学科目の内容は、年度始めに発行される博士前期課程講義要項ならびに博士後期課程講義要項に示されている。各科目の内容は、看護学研究科委員会の議を経て変更することができる。
- 2) 博士前期課程の各開講区分中、共通必修科目、共通選択科目、選択必修科目、看護学課題研究および看護学特別研究を置く。
- 3) 2) のほかに、助産師国家試験受験資格取得希望者のための選択必修科目、日本看護系大学協議会専門看護師教育課程（38 単位）修了のための自由選択科目を置く。ただし、これらの科目は本研究科の履修単位として認定されるが、修了要件となる共通必修科目、共通選択科目および選択必修科目として読み替えることはできない。
- 4) 博士後期課程の各開講区分中、共通選択科目および専攻主分野の科目を置く。
- 5) 博士前期課程においては主分野以外、博士後期課程においては主領域以外の特論を選択するときには、研究指導教授の許可を得て、希望する専攻分野あるいは主領域の教授に所定の様式による依頼書を提出し、その許可を得て、当該科目の教員の指導・評価を受けるものとする。但し、実践看護学分野Ⅱ（ウーマンズヘルス）選択者は除くものとする。
- 6) 4 項に示した科目は、看護学研究科委員会の承認を得た後、定員枠内で大学院学生以外の看護師等の受講を有料で認める。料金はその都度決める。
6. 修士論文、課題研究論文および博士論文について、研究指導教授以外の大学教員から研究の指導を希望する学生は、研究指導教授の許可を得て、指導を希望する大学院教員に所定の様式の依頼書を提出し、その許可を得て指導を受けるものとする。
7. 学位論文の審査及び試験方法については、別に定める「学位規程」及び細則による。

附則 この内規は、平成 24 年 4 月 1 日より施行する。

看護学研究科博士前期課程授業科目、単位数および学年配置

授業科目、単位数および学年配置

		授業科目の名称	単位数					配当年次		
			修士論文コース		実践看護コース			1年次	2年次	
			必修	選択必修	必修	選択必修	自由選択			
基盤	共通必修科目	看護理論	2		2			○		
		看護研究	2		2			○		
	共通選択科目	看護倫理		2		*2		○		
		看護教育論		2		*2		○		
		看護政策論		2		*2		○		
		コンサルテーション論		2		*2		○		
		看護管理論		2		*2		○		
		家族論		2		2		○		
		社会学		2		2		○		
		人間学		2		2		○		
		保健統計学		2		2		○		
		臨床心理学		2		2		○		
		研究	生体・生理学的研究		2		2		○	
		方法	臨床医学的研究		2		2		○	
		先端医療		2		2		○		
国際コミュニケーション英語演習		2		2		○				
自由選択科目	臨床薬理学☆					2	○			
	フィジカルアセスメント☆					2	○			
	病態生理学☆					2	○			
専攻	看護基礎科学（食看護学・基礎看護学）	食看護学特論Ⅰ（食生態学・食看護の歴史の変遷）		2				○		
		食看護学特論Ⅱ（食教育とヘルスプロモーション）		2				○		
		食看護学特論Ⅲ（食看護の学際的、科学的アプローチ）		2				○		
		食看護学特論Ⅳ（国際的視野からの食環境・食問題に対応する看護）		2				○		
		食看護学演習Ⅰ（特定機能病院内入院患者および地域住民の食環境と看護）		2				○		
		食看護学演習Ⅱ（食看護の実践と効果測定）		4				○		
		食看護学特別研究		8					○	
		基礎看護学特論Ⅰ（健康の概念と看護）		2				○		
		基礎看護学特論Ⅱ（ホリスティックの視座から捉えた看護）		2				○		
		基礎看護学特論Ⅲ（適応システムから見る看護）		2				○		
		基礎看護学特論Ⅳ（看護技術の探求）		2				○		
		基礎看護学演習Ⅰ（基礎看護学演習に関する課題）		2				○		
		基礎看護学演習Ⅱ（基礎看護学演習）		4				○		
	基礎看護学特別研究		8					○		
	看護管理学	看護管理学特論Ⅰ（看護管理学）		2				○		
		看護管理学特論Ⅱ（組織行動論）		2				○		
		看護管理学特論Ⅲ（看護経済学）		2				○		
		看護管理学演習Ⅰ（看護システム）		3				○		
		看護管理学演習Ⅱ（看護管理学特論）		3					○	
		看護管理学特別研究		8					○	
	生涯発達学	看護職生涯発達学特論Ⅰ（看護職の生涯発達）		2				○		
		看護職生涯発達学特論Ⅱ（看護職生涯発達支援の教育論）		2				○		
		看護職生涯発達学特論Ⅲ（個としての看護職と組織）		2				○		
		看護職生涯発達学演習Ⅰ（『知』の創造）		3				○		
		看護職生涯発達学演習Ⅱ（看護職生涯発達支援プログラムの開発）		3					○	
		看護職生涯発達学特別研究		8					○	
	実践看護学Ⅰ（クリティカルケア看護学・がん看護学）	クリティカルケア看護学特論Ⅰ（人間存在、危機理論に関する科目）		2		2		○		
		クリティカルケア看護学特論Ⅱ（行動生理学に関する科目）		2		2		○		
		クリティカルケア看護学特論Ⅲ（代謝、病態生理に関する科目）		2		2		○		
		クリティカルケア看護学特論Ⅳ（疫学、家族看護学を含む看護職に関する科目）		2		2		○		
クリティカルケア看護学特論Ⅴ（緩和ケア論）			2		2		○			
クリティカルケア看護学演習Ⅰ（クリティカルケア治療、管理に関する科目）			2		2		○			
クリティカルケア看護学演習Ⅱ（倫理的問題解決のための看護職に関する科目）			2		2		○			
クリティカルケア看護学実習					6			○		
クリティカルケア看護学課題研究					2			○		
クリティカルケア看護学特別研究			8					○		

授業科目の名称		単位数					配当年次		
		修士論文コース		実践看護コース			1年次	2年次	
		必修	選択必修	必修	選択必修	自由選択			
専攻	実践看護学Ⅰ (クリティカルケア看護学・がん看護学)	がん看護学特論Ⅰ(基礎的概念と理論)		2		2		○	
		がん看護学特論Ⅱ(病態生理と診断・治療)		2		2		○	
		がん看護学特論Ⅲ(がん看護援助論)		2		2		○	
		がん看護学特論Ⅳ(がんリハビリテーション看護)		2		2		○	
		がん看護学特論Ⅴ(がん予防・早期発見)		2		2		○	
		がん看護学演習Ⅰ(がん薬物療法看護)		2		2		○	
		がん看護学演習Ⅱ(緩和ケア)		2		2		○	
		がん看護学演習Ⅲ(緩和医療における身体・メンタルアセスメント)☆					2	○	
		がん看護学実習Ⅰ				1		○	
		がん看護学実習Ⅱ				5			○
		がん看護学実習Ⅲ☆					2	○	
		がん看護学実習Ⅳ☆					2		○
		がん看護学課題研究				2			○
		がん看護学特別研究		8					○
	実践看護学Ⅱ (ウーマンズヘルス)	ウーマンズヘルス特論Ⅰ(女性のライフサイクル全般にわたる個人及び集団の健康問題の理解に関する科目)		2		2		○	
		ウーマンズヘルス特論Ⅱ(女性のライフサイクル全般にわたる援助に関する科目)		2		2		○	
		ウーマンズヘルス特論Ⅲ(女性の健康への援助に関する科目)		2		2		○	
		ウーマンズヘルス特論Ⅳ(国内外のウーマンズヘルスに関する科目)		2		2		○	
		ウーマンズヘルス演習Ⅰ(女性の健康への課題を理解、解決方法に関する科目)		2		2		○	
		ウーマンズヘルス演習Ⅱ(女性の健康への援助に関する科目)		2		2		○	○
		ウーマンズヘルス実習				6			○
		ウーマンズヘルス課題研究				2			○
		ウーマンズヘルス特別研究		8					○
	実践看護学Ⅲ (老年看護学)	老年看護学特論Ⅰ(老年看護理論)		2		2		○	
		老年看護学特論Ⅱ(健康生活評価)		2		2		○	
		老年看護学特論Ⅲ(老年看護援助論)		2		2		○	
		老年看護学特論Ⅳ(社会システムと老人保健医療政策)		2		2		○	
		老年看護学特論Ⅴ(老年病態・治療学)☆					2	○	
		老年看護学演習Ⅰ(急性期看護演習)		2		2		○	
		老年看護学演習Ⅱ(在宅看護演習)		2		2		○	
		老年看護学実習Ⅰ				6		○	○
		老年看護学実習Ⅱ☆					4	○	○
		老年看護学課題研究				2			○
		老年看護学特別研究		8					○
	実践看護学Ⅳ (精神看護学)	精神看護学特論Ⅰ(歴史・法制度論)		2		2		○	
		精神看護学特論Ⅱ(精神・身体のアセスメント)		2		2		○	
		精神看護学特論Ⅲ(精神看護倫理・当事者論)		2		2		○	
		精神看護学特論Ⅳ(リエゾン精神看護)		2		2		○	
		精神看護学特論Ⅴ(精神科薬物療法)☆					2	○	
精神看護学演習Ⅰ(精神・身体状態のアセスメント演習)			2		2		○		
精神看護学演習Ⅱ(精神科援助技法)			2		2		○		
精神看護学演習Ⅲ(精神看護援助方法)			2		2		○		
精神看護学実習Ⅰ					2		○		
精神看護学実習Ⅱ					4			○	
精神看護学実習Ⅲ☆						2		○	
精神看護学実習Ⅳ☆						2		○	
精神看護学課題研究					2			○	
精神看護学特別研究			8					○	

授業科目の名称		単位数					配当年次			
		修士論文コース		実践看護コース			1年次	2年次		
		必修	選択必修	必修	選択必修	自由選択				
専攻	実践看護学Ⅴ (地域看護学)	地域看護学特論Ⅰ(地域看護の各領域における専門性の探求)		2		2		○		
		地域看護学特論Ⅱ(地域看護政策論)		2		2		○		
		地域看護学特論Ⅲ(ヘルスプロモーション・健康教育論)		2		2		○		
		地域看護学特論Ⅳ(地域ケアシステムと在宅ケア看護学の専門性)		2		2		○		
		地域看護学特論Ⅴ(地域看護学研究論)		2		2		○		
		地域看護学特論Ⅵ(疫学・実践保健統計学)☆					2	○		
		地域看護学演習Ⅰ(地域看護の各分野における実践企画演習)		2		2		○	○	
		地域看護学演習Ⅱ(行政看護実践演習)		2		2		○	○	
		地域看護学実習Ⅰ				4			○	
		地域看護学実習Ⅱ				2			○	
		地域看護学実習Ⅲ☆					4		○	
		地域看護学課題研究				2			○	
		地域看護学特別研究		8					○	
		実践看護学Ⅵ (小児看護学)	小児看護学特論Ⅰ(小児と家族の心理、社会的発達理論)		2		2		○	
	小児看護学特論Ⅱ(発達とアセスメント)			2		2		○		
	小児看護学特論Ⅲ(小児医療倫理)			2		2		○		
	小児看護学特論Ⅳ(小児医療法制度論)			2		2		○		
	小児看護学演習Ⅰ(健康状態・環境へのアセスメント演習)			2		2		○		
	小児看護学演習Ⅱ(小児援助論演習)			2		2		○		
	小児看護学演習Ⅲ(専門領域演習)☆						2	○		
	小児看護学実習Ⅰ☆						2	○	○	
	小児看護学実習Ⅱ☆						2	○	○	
	小児看護学実習Ⅲ					6			○	
	小児看護学課題研究					2			○	
	小児看護学特別研究			8					○	
	助産選択科目※		助産学特論Ⅰ(基礎助産学)		4		4		○	
			助産学特論Ⅱ(助産診断・技術学)		5		5		○	
		助産学特論Ⅲ(地域母子保健)		1		1		○		
助産学特論Ⅳ(助産管理)			2		2		○			
助産学演習Ⅰ(基礎助産学)			2		2		○			
助産学演習Ⅱ(助産診断・技術学)			3		3		○	○		
助産学実習			1	1	1	1	○			

※については、実践看護学Ⅱ分野(ウーマンズヘルス)の学生で助産師国家試験受験資格取得を希望する者はすべて履修すること。  
☆については、**実践看護学Ⅰ～Ⅵ分野(ただし、実践看護学Ⅱ分野(ウーマンズヘルス)を除く)**の学生で日本看護系大学協議会専門看護師教育課程(38単位)修了を希望する者は基盤自由選択科目ならびに専攻主分野の自由選択科目をすべて履修すること。

修士論文コース(最低修得単位数)

基盤共通必修科目	4単位
基盤共通選択科目	6単位
専攻主分野の科目	12単位
看護学特別研究	8単位
計	30単位

実践看護コース(最低修得単位数)

基盤共通必修科目	4単位
基盤共通選択科目	4単位(但し、*印の授業科目から選択のこと)
専攻主分野の科目	14単位(但し、うち2単位は他の専攻分野でも特論に限り選択可)
実習	6単位
課題研究	2単位
計	30単位

実践看護学Ⅱ分野(ウーマンズヘルス) 実践看護コース 選択者(最低修得単位数)

基盤共通必修科目	4単位
基盤共通選択科目	6単位
専攻主分野の科目	12単位
実習	6単位
課題研究	2単位
計	30単位





## 講 義 要 目

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
共通必修科目	看護理論	看護学の理論体系の変遷を概観し、諸理論の構造と特徴について理解を深め、また、理論構築の基本的なアプローチについて学ぶ。
	看護研究	専門技術の向上や開発を図るために、実践の場における研究活動を行うに必要な研究方法について、分野を越えた共通する知識を教授する。
共通選択科目	看護倫理	看護活動場面における倫理的諸問題に対し、解決に向けて調整を行うための幾つかの考えについて論じる。
	看護教育論	看護学の教育の特徴から看護教育のあり方を検討する。また、看護学教育を生涯教育の観点からとらえ、総合的な教育として考察する。
	看護政策論	看護に関する政策決定とは、どのような過程で行われるのかを理解する。またその過程に関わる関連団体の力学的な相互関係についても管理的視点から分析することにより、看護職能のもつ社会的機能と貢献について学習する。
	コンサルテーション論	看護職を含むケア提供者に対して実践的な問題を解決する援助のために、コンサルテーションの概念および実践モデル、コンサルタントとしての役割機能、個人や組織を対象としたコンサルテーションのプロセスについて学習する。また、コンサルテーションの実際について理論的・実践的分析をふまえながら学習する。
	看護管理論	組織論および組織行動論など管理としての理論を学習しリーダーシップ、マネジメント、意思決定、システム論、変化論などの概念を使いながら看護の実践場面における管理的視点を分析する能力を養う。
	家族論	現代社会における家族の多様化の実態を理解する。「家族機能の低下」と表現されている家族をめぐる変化を実証的に分析し、家族介護配偶者介護の現状と問題点を通して、家族機能の展望および家族援助体制のあり方と介入方法について考察する。
	社会学	保健・医療の分野でのコミュニケーション、人間関係、集団・組織にテーマを絞り、講義や演習などを通して学んでいく。
	人間学	これまでに修得した諸知識と人間として生きてきた経験を基に、人間が人間として存在することの意味について探究する。また、人々がお互いを尊重する存在として、又生命に畏敬の念を持ち、尊厳ある存在として意識できることの重要性について、人間哲学の視点から探求する。
	保健統計学	看護基礎課程において保健医療統計学の基礎知識としての統計的手法を、一通り履修している。ここでは、この知識を基に、個々の保健現象の解明に応用できる能力を養うとともに、研究成果を科学的にデータをもとに理論づけることができる能力を養うことを目的とする。
	臨床心理学	臨床心理学を広義に捉え、看護実践に役立つ諸理論および方法論を講義する。まず、アセスメントに関して質問紙（心理尺度）の作成方法について解説し、その応用例として高年齢や病者のQOLを規定する心理・社会的諸要因の研究を取り上げ、臨床心理学の看護への貢献について考察する。また、カウンセリングの基礎理論と諸技法を習得させ、看護実践への応用を目指す。さらに、臨床心理的地域援助、即ちコミュニティ心理学の基本的考え方を、癌患者のサポート・グループに関する介入研究やインフォームド・コンセントに関する医療倫理学的研究を例として解説する。
	研究方法 生体・生理学的研究 臨床医学的研究	医療場面における研究は、治療効果の追求であると同時に原因追求および人間の生体の変化を丁寧に観察することから出発する。それらを方法論として基盤に位置付け、看護研究の方法論に応用できるように学習する。
	先端医療	近年、工学的手法やテクノロジーを医学に持ち込み、従来できなかった先端医療が次々に実現されることとなった。本科目は幅広いテクノロジーと医学の融合によって誕生する先端医療について解説する。特に、再生医療の発展はめざましく、薬物治療とは異なる効果が期待でき、この治療法について移植法との相違について明確にしなが現状と将来について展望する。また遺伝子診断や画像監視下手術、ロボット手術についても最近の進歩を解説し、今後、大きく変わる先端医療全体の流れと、診断、治療と手術の将来について講義する。
	国際コミュニケーション英語演習	海外における看護の情報を積極的に学ぶ姿勢を養うとともに、日本の情報、自分の研究内容を海外に発信することができるようになるための英語演習をおこなう。日本人の苦手とする英語論文理解・国際学会における発表を克服するために、典型的な英語表現や英語による発表スタイルのコツを習得する訓練を通して、英語によるコミュニケーション・スキルの向上を目指す。

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
基 盤	自由選択科目	臨床薬理学☆ 対象者の健康問題に応じた薬物治療を薬力学的、薬物動態学的見地から理解した上で、専門看護師として、対象者の薬物治療の有効性と安全性を最大限に高め、最良の治療や症状緩和のケアの提供に参画するための知識、技術を修得する。
		フィジカルアセスメント☆ 複雑な健康問題をもった対象の身体・精神状況を診査し、日常生活のアセスメントを含んだ臨床判断を行うために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を習得する。
		病態生理学☆ 身体が恒常性を維持する機能の基礎知識を理解した上で、症例をもとに異常をきたす原因、経過、主な症状、治療・処置について学び、今後専門看護師に求められる対象の病態生理学的変化を解釈、判断、実践するために必要な知識と技術について教授する。
専 攻	看護基礎科学（食看護学・基礎看護学）	食看護学特論Ⅰ 人間生活の営みの基本である「食」に焦点をあて、食をめぐる諸学問の概観をし、食生態学的視点で食を問う。また、多様な暮らし、健康状態の人にとってのQOLを高める食とはについて考え、食の援助の歴史の変遷を通して、今日の社会が抱える食の問題、その中で今後の食を中心とした生活への援助における看護が果たす役割について、展望する。
		食看護学特論Ⅱ ヘルスプロモーションの変遷と今日の活動の実態、健康政策や健康教育のための行動学的、食生態学的アプローチについて探求する。食生活を中心とした家族関係と教育効果については、交流分析を用い、実践的レベルにて探求する。
		食看護学特論Ⅲ 食看護学における食看護アプローチの科学的実践方法について多角的に探求する能力を養う。
		食看護学特論Ⅳ 発展途上国および先進国での食生活の現状の比較検討から、今後の食生活援助のあり方および食看護の方向性について検討する。
		食看護学演習Ⅰ 高度医療の特定機能病院の実状にふれ、また、特定の地域に生活する人々の食生活の実状を参加観察し、食生活に関する問題把握および食看護への具体的アプローチについて探求する能力を養う。
		食看護学演習Ⅱ 食看護ケアの具体的な援助とその効果を実証し、人々の健康の保持増進に役立てることが出来るように、創造的・研究的に発展させ、提言できる能力を培う。
		食看護学特別研究 “食は人をつくる”という理想を貫き尊重しつつ、現代の食生活の問題点の様相をあらゆる角度からとらえ、浮き彫りにし、これらの課題に看護者としてどのように対処していくのか、その方向性を探求し、論文とする。また、食への具体的援助を通して人々の生活の質（QOL）の向上に寄与するための、食看護学研究の推進を図る。
		基礎看護学特論Ⅰ 看護や看護技術の歴史、最新の看護技術の研究を踏まえて看護の実践や教育の場における看護技術の本質・看護技術における倫理・看護技術教育・看護技術の方法について探求する能力を養う。
		基礎看護学特論Ⅱ 看護技術における安楽に焦点をあて、理論を用いて分析する能力を身につける。それを通して、安楽の構成要素、対象との援助関係、安楽と安全の関連性、援助のあり方について検討し、個々のニーズに応じた安楽の看護技術提供のあり方を探求する。
		基礎看護学特論Ⅲ 看護学の主要概念である「人間」・「健康」・「環境」を身体・心理・社会・スピリチュアルな側面を含むホリスティックな看護技術の提供のあり方を探求する。
		基礎看護学特論Ⅳ 看護技術および看護技術教育における指導過程に焦点を当て、指導計画、実施、評価に関する理論を学習し、対象に応じた質の高い看護技術の開発や様々な対象へ効果的な看護技術のあり方を探求する。
		基礎看護学演習Ⅰ 看護技術教育の事例を検討し、看護技術教育の理論化や看護実践能力を向上させるための方向性を探る。
		基礎看護学演習Ⅱ 看護技術の指導案の作成・実践・評価を行ない、根拠を探求し、伝え、使える看護技術教育のあり方を創造する。
基礎看護学特別研究 学生個々の研究テーマに沿って具体的な方法論および研究内容に関する討議を通して、個々の研究テーマを極める。その過程を通して、自立して研究論文を作成し公表できる能力を修得する。		

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
看護管理学	看護管理学特論Ⅰ	看護管理学の概念枠組みを用いて、看護サービス提供システムについて、先進諸国の医療政策、時代背景と比較しながら時代に即した看護の変化を創造するために必要な理論や課題を追求する。
	看護管理学特論Ⅱ	組織における人間の行動について理論を活用しながら分析できる能力を身につけ、多様な組織における管理のあり方、管理者としての機能を追求する。
	看護管理学特論Ⅲ	保健医療福祉における経済的管理に焦点を当てるもので、看護経済学の概念、看護ケアの経済評価の基本について探求し、21世紀における診療報酬制度や医療制度が看護にもたらす変化を分析し、戦略的看護サービスを実践するための看護管理者の役割と課題、将来展望について探求する。
	看護管理学演習Ⅰ	看護管理の実践場面において、既修の理論を活用しながら組織における管理者としての機能について、その現象を分析できる能力を養う。具体的には、医療施設において看護管理者について実習を行う。
	看護管理学演習Ⅱ	看護管理の創造として、先駆的・創造的看護管理の発想を展開させる能力開発を行う。具体的には、さまざまな機関において先駆的な管理者の下で実習を行う。
	看護管理学特別研究	世界的な視野から看護管理全般、看護行政または保健医療福祉政策・経済に関して時代の趨勢を反映した現在または未来の看護としてのあり方を追求したり、組織分析や変革を通して創造的看護管理を実践するための手法を追求することを目的として研究を行い、論文としてまとめる。
看護職生涯発達学	看護職生涯発達学特論Ⅰ	実践科学である看護学の特徴を踏まえ、自分と他者とが関与する場において「聴くこと」「語ること」「対話すること」「省察すること」などを通して、その過程で創造される『知』について、理論的かつ実践的に探求する。
	看護職生涯発達学特論Ⅱ	質の高いケアの提供者を育成するという看護学の観点から、看護基礎教育と継続教育の有機的かつ相補的統合を視野に入れながら、「成人教育（アンドラゴジー）」「教育課程」「教育方法」「教育評価」「教育研究」に関する理論を学修し、さらに新規で独創的な教育計画の開発・実施・評価の方法を探求する。
	看護職生涯発達学特論Ⅲ	生涯発達理論を基盤とした個々の看護師の生涯発達を軸とし、「組織論」「変革理論」「キャリアデザイン／キャリアカウンセリング」等に関する理論の学修を通し、人を育てる組織の創造とその活用の方法について探求する。
	看護職生涯発達学演習Ⅰ	学生が選択したフィールドにおいて、看護の『知』の創造のプロセスを実践的に探求する。（場は看護実践あるいは看護教育の場。対象者は学生あるいは看護師あるいはその他の人々）
	看護職生涯発達学演習Ⅱ	学生が選択したテーマについて、教育的機能を発揮しながら対象者に関わり、その過程をとおり自己あるいは組織の課題を探求する。
	看護職生涯発達学特別研究	看護職生涯発達学領域の研究テーマを発見し、研究プロセスを踏むことを通して、臨床実践や教育に貢献できる研究能力の基礎を養う。
実践看護学Ⅰ（クリティカルケア看護学・がん看護学）	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	急性期の患者および家族の抱える心理・社会的問題の特徴を理解するために必要な諸理論を学び、強度なストレス状況下における心身の変化についての的確にアセスメントができる能力を獲得する。
	クリティカルケア看護学特論Ⅱ	クリティカル状況下において、人間の体位、姿勢、活動および情動反応による生理学的変化について正常な状態に対比して異常な状態におけるアセスメントができ、根拠に基づいた看護介入ができる能力を獲得する。
	クリティカルケア看護学特論Ⅲ	クリティカル状況下における患者の呼吸、循環、代謝の変化に示された病態生理のアセスメントをすることができ、治療環境に応じた総合的な医学的知識を踏まえて、看護介入ができる能力を養う。
	クリティカルケア看護学特論Ⅳ	拘束状態にある心身統一としての患者とその家族に対する援助的かかわりについての理論を学ぶ。
	クリティカルケア看護学特論Ⅴ	クリティカル期における患者に対し、治療環境を整えながら苦痛を緩和し、人間としての尊厳を保持し、チームによる心理的・社会的支援ができるための諸理論および看護介入を学ぶ。
	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	救命救急の治療をすすめる状況において必要な医学的知識および技術を理論的に学び、医療機器を装着する患者および家族に対する心理的状況を把握し、専門看護師として実践できる能力を養う。また、治療環境を管理・調整し、専門職種間のコーディネートに必要な基本的知識を学ぶ。

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
専攻 実践看護学 （クリティカルケア看護学・がん看護学）	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	クリティカル状況下において特徴的に示される道徳的価値葛藤状況を適切に認識し、患者の人権擁護の立場から倫理的問題を解決できるための理論的基礎を学ぶ。
	クリティカルケア看護学実習	ICU、CCU、救命救急センターなどでの緊急の場に於いて、クリティカル状態にある人々の病態および心理的状況の観察および把握ができ、アセスメント、計画、ケアの実践、評価へと発展しうる能力を養う。また、患者との人間関係を成立させ相談・教育活動の実践、倫理的な問題の調整、さらに他職種間の連携調整ができ、そのような実践活動の展開のなかで事例を構造的に分析することを通して研究的思考が培われるように教授する。
	クリティカルケア看護学課題研究	クリティカルケア看護学領域において、特定の課題を研究的視点から探求し、課題に即した研究方法を学ぶ。
	クリティカルケア看護学特別研究	クリティカルケア看護学の領域において、特定のテーマを選択し、研究を行う過程を通して自立して研究活動ができ、研究論文を作成し公表できる能力を修得する。
	がん看護学特論Ⅰ	専門的ながん看護の基盤となる基礎的概念と主要理論、ならびにその活用について探求する。
	がん看護学特論Ⅱ	がんの分子生物学、遺伝子を含む病態生理学全般を学び、がん看護に関連した専門的な知識を深める。
	がん看護学特論Ⅲ	がん患者の複雑な健康問題に対して包括的な支援を提供できるよう看護援助の方法を修得する。診断、治療の原理と最新事情を学び、それに伴う患者や家族の反応に対処できるように身体管理・看護ケアの概要を修得する。
	がん看護学特論Ⅳ	がん治療によってもたらされる身体の器質的・機能的な変化に対して、身体・心理・社会的な働きかけを行い、機能の改善方法を提供し、生活の再構築にむけて患者が自らQOL、セルフケア能力を高めることができるような援助を考究する。
	がん看護学特論Ⅴ	がんおよびがん再発の予防・早期発見をめざし、知識、情報、技術を統合し、自己検診や生活の調整、管理ができるような支援・教育方法のため知識・技術を修得する。社会に対するがん予防・早期発見のための啓発のため知識・技術を修得する。さらに治療選択における意思決定の支援のための知識、技術を修得する。
	がん看護学演習Ⅰ	がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対応を行い、治療の継続および治療中の生活の質を高めるために必要な看護について学ぶ。セルフケア能力向上のための方略について探索する。
	がん看護学演習Ⅱ	がんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を包括的に理解し、エビデンスに基づいて適切なケアとケアを統合して提供する能力を修得する。薬物療法、理学療法的介入、心理的支援等包括的な介入についてリソースを活用し展開する能力を修得する。End of Life Care や家族のグリーフワークについて知識と技術を習得する。
	がん看護学演習Ⅲ☆	がん治療過程で特有な身体症状および精神心理的苦悩に関する専門的知識を深め、エビデンスに基づく的確な臨床判断を行うことができる。対象者のQOLの維持・向上に向け看護実践に必要なアセスメント・援助技法を修得する。
	がん看護学実習Ⅰ	がん看護専門看護師の諸活動が実践されている場への主体的な参加を通し、がん看護専門看護師としての役割や機能を発揮するために必要な知識・技術・態度について体験的に学習し、専門看護師の役割を担うための自己の課題を明らかにする。
	がん看護学実習Ⅱ	地域がん診療連携拠点病院である本大学病院において、専門看護師に必要とされている実践、相談、調整、教育、研究、倫理的調整等の実践能力の基礎を実践の中で修得し、自己の課題とその解決方法を明確にする。また、他職種とのチーム医療の中で専門看護師の役割開発に関する学びを深める。さらに、在宅支援推進室において、病棟と在宅における医療チームの連携のあり方や地域医療コーディネーターとしての役割について学ぶ。

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容
実践看護学Ⅰ (クリティカルケア看護学 がん看護学)	がん看護学実習Ⅲ☆	症状緩和を必要としている患者・家族に対して、本大学病院の緩和ケア病棟において、トータルペインの視点から心理的な支援など包括的な介入について、リソースを活用して展開する実践方法を学ぶ。また、エンド・オブ・ライフ・ケアや家族へのグリーフケアの実際について修得する。
	がん看護学実習Ⅳ☆	在宅療養中のがん患者・家族に必要な卓越した直接的ケアを行う。また、医療チームとの連携のあり方や医療連携を推進することのできる地域医療コーディネーターとしての役割について在宅訪問実習を通して修得する。さらに在宅がん看護実践における自己の課題とその解決方法を明確にする。
	がん看護学課題研究	講義、演習、実習を通して、研究的視点からがん看護におけるテーマを見出し、科学的な過程を踏んで実践に寄与する研究を行う。
	がん看護学特別研究	がん看護学特論および演習で得た知見をもとに、がん看護学領域における課題を追求し研究テーマを見出す。研究のプロセスを通して、がん看護実践やがん看護教育の発展に寄与する基礎的研究能力を養う。
専 攻 実践看護学Ⅱ (ウーマンズヘルス)	ウーマンズヘルス特論Ⅰ	出生前の発生・生理の状態から始まり、出生後はライフステージ各段階にある女性特有のホルモンを中心とした身体の変化と精神の変化やその対応策、なりやすい病気の予防などについて、データに基づいて女性のライフステージ各段階のヘルスケアについての基礎を修得する。
	ウーマンズヘルス特論Ⅱ	世界的視野から女性のヒューマン・セクシャリティ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、ジェンダーの視点から女性特有の健康問題を探る。女性への暴力事象については、ジェンダーの視点から問題分析し、性暴力被害者へのケア能力の基礎を修得する。
	ウーマンズヘルス特論Ⅲ	女性のライフサイクルの各段階で味わう経験の諸相を学び、女性という対象の生き方・環境・健康問題について探求し、女性を対象にした看護介入を行うための技法に関する基礎を修得する。
	ウーマンズヘルス特論Ⅳ	国内外のウーマンズヘルスについて理解を深めるとともに発展途上国での援助活動等へ貢献できる基礎的能力を修得する。
	ウーマンズヘルス演習Ⅰ	女性看護学領域の研究の動向(国内・外)と健康に対する課題を理解し、各自の研究課題をみだし、研究的アプローチを修得する。
	ウーマンズヘルス演習Ⅱ	女性の生涯の健康を視野に入れ、性と生殖に関する健康教育援助技術を検証し、科学的根拠に基づくよりよい専門的な援助技術の開発に向けた研究的思考過程を学ぶ。さらに女性の意思や希望を最大限に尊重した支援を実施する能力を修得する。
	ウーマンズヘルス実習	妊婦・産婦・褥婦・新生児に関する水準の高い助産診断・技術の実践を行う。さらにハイリスク事例のケアを実践する。また実践者に必要な役割としての教育・相談・調整能力を培い、さらに地域における助産所のケアの構築について、医療連携を踏まえて実践する能力を修得する。
	ウーマンズヘルス課題研究	特論及び演習で学び得た知識と技術を基に、直接的看護介入や助産診断技術に関する研究テーマを導き出し、一連の研究プロセスを通じた、専門的看護・助産援助の質の向上に寄与する臨床研究能力を養う。
	ウーマンズヘルス特別研究	特論及び演習で学び得た知識を基に、ウーマンズヘルス領域における各自のテーマを導き出し、一連の研究プロセスを通してウーマンズヘルスに寄与する基礎的研究能力を養う。
実践看護学Ⅲ (老年看護学)	老年看護学特論Ⅰ	老年看護で用いる理論、概念について学ぶとともに、老年看護における倫理的課題について探究し、高齢者とその家族を対象にした看護を実践するための理論的基盤を養う。
	老年看護学特論Ⅱ	高齢者の健康生活上のニーズを知るために必要な、健康と生活機能、家族、介護、環境等の評価方法の理論的基盤を理解し、統合して評価する能力を修得する。
	老年看護学特論Ⅲ	高齢者の健康レベルに応じた生活の質を維持、向上するための看護について探求すると共に高齢者に多く見られる健康事象について現状を分析し、看護の開発や評価の方法を探る。

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容		
専攻	実践看護学Ⅲ (老年看護学)	老年看護学特論Ⅳ	個人に最適なサービス調整や他職種との連携を促進し、継続看護を展開するための能力を養う。さらに高齢者への保健医療福祉政策やシステム構築のプロセスを学び、ケアシステム開発能力を養う。老年者の保健福祉政策の現状をグローバルな視点から分析し、今後の方向性を提案できる。	
		老年看護学特論Ⅴ☆	老年期に多くみられる症候について、リスクの程度を判断し、適切に対応するための能力を養う。フィジカルアセスメントや検査方法を学び、ハイリスク状況を査定できる能力を修得する。もってこれらが高齢者の質の高い生活を継続するための方法であることを理解する。	
		老年看護学演習Ⅰ	急性期における老年看護領域の研究から質の高い実践方法、評価アセスメントについて文献購読し、エビデンスに基づいた質の高い看護実践とアセスメントの方法を理解する。特にせん妄や、一般病棟に入院する認知症高齢者に質の高い看護を提供するための方法を習得する。研究的視点を持って事例を詳細に検討し、老年看護の特徴および専門性について探求する。臨床の場において看護実践の場面を、看護理論を用いて振り返り、学生間で討議する。領域における専門性について自己の考えを明確にする。	
		老年看護学演習Ⅱ	在宅における老年看護領域の研究から質の高い実践方法、評価アセスメントについて文献購読し、エビデンスに基づいた質の高い看護実践とアセスメントの方法を理解する。特に終末期看護、退院調整について理解する。研究的視点を持って事例を詳細に検討し、老年看護の特徴および専門性について探求する。各臨床の場において看護実践の場面を、看護理論を用いて振り返り、学生間で討議する。領域における専門性について自己の考えを明確にする。	
		老年看護学実習Ⅰ	急性期の病棟に入院している高齢者（特に認知症高齢者）と在宅療養をしている高齢者（特に終末期、あるいは退院調整の必要な高齢者）に対して、研究的視点を持ちながら、最新の知識と技術を用いた看護実践を行う。そして看護スタッフからの相談への対応、スタッフへの教育、保健医療福祉チームとの調整など、現場の改革者としての独自の行動を発展させる能力を修得する。事例報告と高度実践看護師の役割機能についてのレポート作成	
		老年看護学実習Ⅱ☆	高齢者の病態生理、薬物療法を踏まえ、フィジカルアセスメントによりリスクの程度を判断し、適切な対応を行う能力を修得する。フィジカルアセスメント技法を習得する。事例報告書作成	
		老年看護学課題研究	老年看護学実習に関連するテーマを選択し文献研究を行い論文を作成する。	
		老年看護学特別研究	老年看護学における理論開発、老年者とその家族の健康と生活を支えるアセスメント方法の開発、評価、実践方法に関する研究を通して、老年者のQOLの向上を探求する。	
		実践看護学Ⅳ (精神看護学)	精神看護学特論Ⅰ	精神保健医療・看護の歴史、法制度の変遷、国際的な動向などを、文献を通して踏まえ、現行の精神保健医療制度を批判的観点から把握するとともに、わが国における精神保健問題の現況を把握し、今後の精神保健医療において看護職が果たす役割を展望する。
			精神看護学特論Ⅱ	精神分析理論、精神病理学理論、対人関係論等、精神看護学を構成する基礎的理論を学び、対象をアセスメントし、関係を形成し、看護介入を行うための理論的基盤を養う。
精神看護学特論Ⅲ	精神看護倫理の基礎理論、当事者論等を学び、精神保健医療サービスのユーザーの権利を保護し、当事者のリカバリーを支援する看護活動展開のための理論的基盤を養う。さらに当事者の側から求められる精神保健医療・看護について、リカバリーモデルおよびストレングスモデルを基盤に洞察する。			
精神看護学特論Ⅳ	心身一元論の立場より、ホリスティック・アプローチを基本とするリエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、活動の実際などについて、実践的レベルで探求する。			

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容	
専攻	実践看護学Ⅲ (精神看護学)	精神看護学特論Ⅴ☆	精神科薬理学、精神科薬物治療論について学び、精神科薬物療法の効果(作用・副作用)をアセスメントできる能力を養うとともに、服薬心理教育等、薬物療法を受けている患者への看護について学ぶ。
		精神看護学演習Ⅰ	精神状態のアセスメントならびに個対個の関係の展開、集団における関係について、実践的な演習を通して学習し、対象理解と自己理解を深め、看護介入の基本となる精神状態のアセスメントの技術と対人関係的技術を習得する。
		精神看護学演習Ⅱ	心理教育、家族心理教育、認知行動療法、薬物療法への援助など精神看護における教育治療的介入技法を演習を通して学習するとともに、身体合併症看護、自殺予防、衝動行為への対処、早期介入、リハビリテーション精神看護など、精神看護の多様な実践について焦点化して学び、新しい援助方法開発の可能性を探求する。
		精神看護学演習Ⅲ	特定の精神保健問題について、さらに専門的な知識と技術を獲得するために、学生は以下の領域からいずれかを選択し、その領域の看護援助方法論について、文献学習とフィールドワークを通して探求する。 (領域) 救急・急性期看護、慢性・長期入院看護、薬物依存症看護、児童・思春期看護、うつ病看護、身体合併症看護、精神訪問看護・地域精神看護、リエゾン精神看護
		精神看護学実習Ⅰ	基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、CNSの役割と機能を学習し、専門看護師としての実践能力の基礎を養う。 (1)精神科医療施設におけるCNSの役割と機能について参加観察を通して学習する。 (2)各自の関心テーマに基づいて、独自に実習の焦点を定め、それに基づいて実習中に参加観察を行う。
		精神看護学実習Ⅱ	精神科医療施設において、直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、提供した看護介入を評価することで、より専門的な高度看護実践能力を習得する。
		精神看護学実習Ⅲ☆	学生各自が選択する、救急急性期、慢性期、依存症、リエゾン等の精神看護の専門領域において直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、提供した看護介入を評価することで、より専門的な高度看護実践能力を習得する。
		精神看護学実習Ⅳ☆	基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、施設内において相談・調整・倫理調整などの間接ケアを実際に体験し、専門看護師としての間接ケア能力を養う。
		精神看護学課題研究	精神看護学特論および演習で得た知識と技術をもとに、精神看護における直接的看護介入ならびに間接的看護介入に関する問題群の中から、各自が関心を有するテーマを定め、系統的な文献の検討を行うことで、精神看護学の実践に役立つエビデンスを明らかにし、総説論文としてまとめる。
		精神看護学特別研究	精神看護学特論および演習で得た知見をもとに、精神看護学領域における各自の問題意識を精練し、研究テーマを発見するとともに方法論的吟味を行い、一連の研究プロセスを通して精神看護学の学的発展に寄与する基礎的研究能力を養う。
専攻	実践看護学Ⅳ (地域看護学)	地域看護学特論Ⅰ	行政看護(公衆衛生看護)・産業看護・在宅看護の各分野における看護専門職として個人・家族・集団に対する専門的な看護ケアの本質論、地域看護活動における看護倫理、地域看護の主要な概念、および介入方法の変遷と近年の動向、ケアの質の管理、運営方法等の開発に関わる能力を養う。
		地域看護学特論Ⅱ	コミュニティとしての組織・集団の成員における生涯健康とQOLの向上をめざし、地域看護領域で広く用いられている健康政策の技法を学ぶ。特に、行政看護活動の事業化および政策化のプロセス、および地域と職域を結んだ関連機関とのネットワーク等を構築するための基礎的能力を養う。
		地域看護学特論Ⅲ	地域・職域で生活を共有する人々の健康およびQOLの向上のための主要な活動であるヘルスプロモーション・健康教育について、その理念を理解し、健康教育の具体的なプログラムの開発評価に関わる能力を養う。

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容	
専攻	実践看護学Ⅰ (地域看護学)	地域看護学特論Ⅳ	地域ケアシステムの構成要素および構築プロセスを分析する。また地域における各種ケアシステムおよび社会資源の現状と課題をアセスメントし、その発展の方向性を探求する。さらに、在宅ケアシステムの構成要素と構築プロセスを分析し、現状と課題の査定、発展の方向性を探求し、効果的なケアシステム開発の能力を養う。
		地域看護学特論Ⅴ	地域看護学をめぐる最新の課題を明確にし、活動を発展させ貢献しうる量的・質的研究方法論の実際を学ぶ。その中で、データ収集技法、面接技法、調査と測定の方法、および介入研究の方法を修得する。
		地域看護学特論Ⅵ☆	保健師活動における地域アセスメントおよび地域看護診断の基礎となる疫学・高度保健統計学的手法を習得し、地域ケアにおける情報リテラシー、すなわち体験やメディアを通じて得られる大量の情報の中から必要なものを探し出し、地域の健康課題に即して加工し、意思決定を下したり、アウトカムを記述しエビデンスを得るための知識と技能を養う。
		地域看護学演習Ⅰ	地域看護分野（CNS コースは行政看護分野）において、各自の関心あるトピックスを選択し、それぞれの分野における現状のアセスメント、課題の明確化、その課題を解決するための活動計画の立案、またそれらの活動をマネジメントしていくために看護が果たすべき役割について検討する。
		地域看護学演習Ⅱ	行政看護分野において、実際に行われている活動の評価を行うことを通し、行政看護専門看護師に求められる機能を明確にする。具体的には、行政看護分野のフィールドにおける活動全般について見学し、対象集団の包括的な健康状態、行政保健組織の位置づけ、既存の研究成果などから学びを深め、行政看護実践者やその関連職種者とのディスカッションなどを通して活動全般の批判的評価を試みる。諸活動の成果と専門看護師に求められる機能との関連を考察し、将来的に質の高い実践力をつけるために必要な専門的能力の基礎を養う。
		地域看護学実習Ⅰ	行政看護分野において、都市と地方の双方におけるフィールドワークを企画・実行し、看護実践活動をと通して、行政看護領域の専門的な活動方法論および専門看護師に求められる6つの能力の具体化について探索する。さらに、学際的他職種が連携した活動を行うのに必要なコーディネート能力とリーダーシップ能力の基盤を養う。
		地域看護学実習Ⅱ	産業看護の場における直接的な看護活動を通して、その専門性を学ぶとともに、地域看護専門職種間と協働の実際を学び、産業看護分野との連携を実践により理解する。
		地域看護学実習Ⅲ☆	Population-centered approach を基盤として、行政看護分野において、多職種のヘルスケア専門職との協働による行政看護事業の政策プロセスの実際を実践的に学習し、保健・医療・福祉を含めた包括的な地域ケアシステムの中での行政看護のリーダーシップを学習する。さらに、地域特性と新しい公衆衛生看護学のエビデンスの知見を踏まえて、行政看護事業のアウトカムの評価と改善の方法を実践的に学習する。
		地域看護学課題研究	地域看護の新たな実践方法の開発や、ヘルスケアシステムの構築に関連する内容を中心とした研究活動を通して、地域看護専門看護師の実践家として、現場での活動を行っていく上で効果的な方法と、精練された技術の向上へと応用する課題を論文形式で提出する。
		地域看護学特別研究	量的アプローチと質的アプローチを組み合わせ、修得した調査・測定技法を応用して、地域看護の対象特性や健康問題の明確化、環境と人々の健康や生活との関連性の実証、各種ヘルスケアシステムの構築、地域看護学教育方法の開発等を中心とした研究のプロセスを踏み、地域看護実践や地域看護教育に応用できる基礎能力を養う。
実践看護学Ⅱ (小児看護学)	小児看護学特論Ⅰ	小児看護の対象理解のため、親子を巡る現代社会の特徴を踏まえ、子どもと家族の成長・発達および援助理論について、心理・社会的な側面から理解を深める。	
	小児看護学特論Ⅱ	看護の対象である子どもの心身の発達を査定するために、発達診断と評価について目的、意義、方法、看護への応用の理論や技法の理解を深める。	
	小児看護学特論Ⅲ	臨床において、子どもの最善の利益を保证するための倫理的判断に基づき、小児と家族に適切に援助する能力を修得することを目的に、小児医療および小児看護において発生しやすい倫理的諸問題についてその現状と、状況に応じた対応について学習する。	

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容	
専 攻	実践看護学Ⅰ (小児看護学)	小児看護学特論Ⅳ	子どもと家族を取り巻く小児保健・医療・福祉制度に関して歴史と現状をふまえ、施設および地域における小児と家族への具体的援助方法および制度の活用について理解を深める。
		小児看護学演習Ⅰ	小児のフィジカルアセスメント(呼吸器系・循環器系・代謝系・脳神経系・感覚器系など)および子どもと家族の包括的なアセスメントを実践的に学ぶ。
		小児看護学演習Ⅱ	専門看護師の役割として、複雑な健康問題を抱える子どもと家族への看護実践、教育、コンサルテーション、関係機関の調整、他職種との協働、社会的資源の活用、患者会活動の支援の実際について理解を深める。
		小児看護学演習Ⅲ☆	臓器移植を受ける子ども、救急処置を受ける子ども、集中治療を受ける子ども、在宅医療を受ける子ども、虐待を受けた子どもなど、特殊な状況にある子どもの看護に関して、学生の専門性を考慮してテーマを設定し、集中的に病態の理解から支援とその評価について学ぶ。
		小児看護学実習Ⅰ☆	小児の診断治療実習 小児に特有な疾患の診断治療過程を見学実習し、10例以上についてレポートにまとめる。
		小児看護学実習Ⅱ☆	専門看護師実習1 専門看護師の役割、機能に関して、専門看護師の活動に同行、見学し理解を深める。専門看護師の役割機能に関する学びをレポートする。
		小児看護学実習Ⅲ	専門看護師実習2 複雑な健康上の課題を持つ小児と家族に対して直接的ケア 5事例以上、相談・調整・倫理調整・教育 各2事例以上について経験し、レポートにまとめる。
		小児看護学課題研究	小児看護学特論および演習で習得した知識と技術、および小児看護学実習で得た看護実践に関する問題意識や知見を元に、文献検討を通して臨床での看護実践に関する研究課題について知見を得る。
		小児看護学特別研究	小児看護学特論および演習で習得した知見や問題意識を元に、看護上の課題について研究的にとり組み、研究論文を作成する。研究的プロセスを踏むことにより、研究能力を修得する。
		助産選択科目	
助産学特論Ⅱ (助産診断・技術学)	助産過程の展開に必要な診断の技法及び助産実践に必要な基本的な技術を学ぶ。さらに、性と性殖の健康問題について相談・教育・援助活動ができる基礎的能力を修得する。		
助産学特論Ⅲ (地域母子保健)	地域の母子保健を推進するための基本的な理解と社会資源の活用や保健・医療・福祉機関との調整ができる能力を修得する。		
助産学特論Ⅳ (助産管理)	専門職者としての助産所管理・運営能力や、施設・地域でのリーダーシップが発揮できるように、助産マネジメントの理論や知識を修得する。		
助産学演習Ⅰ (基礎助産学)	助産師の機能と役割を理解し母子保健活動に必要な、生命倫理、助産の変遷、母子保健と諸制度を学ぶとともに母子の健康に影響を及ぼす環境因子、性と性殖に関連する疾患・異常や妊娠・分娩・産褥・新生児の異常についての基礎的能力を修得する。		
助産学演習Ⅱ (助産診断・技術学)	助産学領域で実践されている特定の援助技術について、従来の研究成果を比較分析し、助産についてのエビデンスを検討する。さらに、周産期の女性と胎児・新生児のwell-being、分娩開始および進行の診断方法や分娩助産技術を学び、事例学習を通じて基礎的な助産過程を展開する。さらに、実習終了後に体験した事例の援助技術を検証し、よりよい助産援助技術の開発に向けた研究的思考過程を学ぶ。		
助産学実習	Evidence-based Practice (EBP) の知識を生かして、妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児のケアに必要な診断を行い健康教育や分娩助産を実践する。		

東京女子医科大学大学院看護学研究科

修士論文作成要項

【平成 23 年度入学生用】



## 修士論文

### (1) 手続き

修士論文コースの院生は修士論文、実践看護コースの院生は課題研究論文を提出する。

ここでは修士論文の研究計画書の提出、審査及び最終試験、修士論文の発表会の日時、提出書類、提出先等の手続きについて説明する。

なお、人を研究対象とする場合は、本学の倫理委員会において研究実施の許可を得なければ研究を開始することができない。審査は2段階で行われるので注意すること。第一段階は倫理審査に必要な書類を作成し、看護学研究科倫理審査委員会に提出し、口頭審査により合否の判定を受ける。第2段階は倫理審査委員会の審査結果票と倫理審査に必要な書類を本学の倫理委員会に申請し、倫理委員会の審査を受ける。

申請資格:博士前期課程に2年以上在学し、所定の単位を取得した者、または修得見込みの者は修士(看護学)学位論文審査の申請をすることができる。

### (2) 作成要項

#### 《修士論文作成様式》

① 用紙サイズ A4 判

② 書き方 ・縦置き横書き

・40字 × 38行

・10.5ポイント 明朝体

・マージン 上 25mm 下 25mm 右 25mm 左 25mm

\*原稿は現代仮名遣いを用い、簡潔に記述する。

\*外来語はカタカナで、外国人名、日本語になっていない術語などは原則として活字体の原綴りで書く。

③ 論文形態 左綴じの片面印刷とし、指定の表紙をつける。

#### 《修士論文の構成》

##### ① 構成概要

表紙

要旨 (1200字以内とする) 資料参照

目次

表目次

図目次

本文

第1章 序論

第2章 文献の検討

第3章 研究の方法と対象

第4章 結果

第5章 考察

第6章 結論

謝辞

引用文献

付録・資料

##### ② 頁と見出し

- i. 頁は、下中央につける。本文の最初の頁より1ページとし、引用文献の最後のページを最終ページとする。
- ii. 付録・資料の頁は、下中央につける。本文と区別するために i ii iii とつける。
- iii. 見出しをつける

I.

1.

1)

(1)

①

③図、表及び写真

- i. 図、表及び写真は、それぞれに図1、表1、写真 1 などの一連番号を付し、表題をつける。
- ii. 図、表及び写真は、本文の該当する箇所に(図1)と明示する。
- iii. 本文中に挿入する図、表及び写真を本文と別頁にする場合はページ番号をつけずに本文の該当する頁のあとにつづる。

④文献の記載様式

文献の記載方法は下記に従う。

- i. 文献については、本文中に著者名、発行年次を括弧表示する。
- ii. 文献は著者名のアルファベット順に列記する。外国人名は姓名の順とする。但し、共著者は3名まで表記する。
- iii. 記載方法は下記の例示のごとくにする。
  - i) 雑誌掲載論文の場合・・・著者名(発行年次):論文の表題, 掲載雑誌名, 号もしくは巻(号), 最初のページ数-最後のページ数.
  - ii) 単行本の場合・・・①著者名(発行年次):書名(版数), 出版社名, 発行地.  
②著者名(発行年次):論文の表題, 編者名, 書名(版数), ページ数, 出版社名, 発行地.
  - iii) 翻訳書の場合・・・原著者名(原書の発行年次)/訳者名(翻訳書の発行年次):翻訳書の書名(版数), 出版社名, 発行地.

《看護系特別研究計画書作成様式》

① 用紙サイズ A4 判

② 書き方 ・縦置き横書き

・40 字 × 38 行

・10.5 ポイント 明朝体

・マージン 上 25mm 下 25mm 右 25mm 左 25mm

\*原稿は現代仮名遣いを用い、簡潔に記述する。

\*外来語はカタカナで、外国人名、日本語になっていない術語などは原則として活字体の原綴りで書く。

\* 研究に係る費用は個人負担とする

《看護系特別研究計画書の構成》

1. 研究課題名
2. 研究動機
3. 研究の目的
4. 本研究の意義

5. 文献検討

6. 研究の対象と方法

- (1) 研究デザイン
- (2) 対象
  - ① 条件
  - ② データ収集施設
- (3) データ収集方法
  - ① データ収集開始までの手続き
    - a. データ収集施設への依頼
    - b. 対象者の選定
    - c. 対象者の決定
  - ② データ収集
    - a. 期間
    - b. データ収集方法
- (4) データ分析方法  
(信頼性・妥当性を含む)

7. 倫理的配慮

倫理委員会にかける必要のある場合は、東京女子医科大学倫理委員会を通し許可を得た資料を添付する。

8. 引用文献

(3) 研究計画書申請 資料参照

- ・提出期限 平成24年5月9日(水) 13時まで。**(期限厳守)**
- ・提出書類 ①修士論文研究計画書審査申請書[様式修士1] 1部  
②特別研究計画書 14部  
\*A4判 横書き ワードプロセッサ印刷
- ・提出先 看護学部学務課
- ・研究計画の発表会**(修士論文コース)** 平成24年5月16日(水)
- ・再提出 平成24年5月30日(水)
- ・研究科委員会による特別研究計画書の審査 平成24年6月 1日(金)

(4) 学位(修士)申請 資料参照

- ・提出期限 平成25年1月28日(月) 13時まで。**(期限厳守)**  
**注) 上記の期限を過ぎた申請についてはいかなる理由があろうとも一切受理しない。**
- ・提出書類 ①学位(修士)申請書[様式修士2] 1部  
②修士論文**(要旨は《修士論文の構成》参照)** 1部  
③修士論文の要旨(1200字以内:両面印刷) 1部  
\*A4判 横書き ワードプロセッサ印刷、  
④単位認定書(成績証明書) 1部  
⑤審査手数料 5万円
- ・提出先 看護学部学務課
- ・審査委員会による論文審査と最終試験日 平成25年2月13日(水)
- ・学生への通知 平成25年3月 4日(月)

(5)再審査 主査より論文の再審査の通知を受けた者は、論文を再提出する。

・再審査論文締切日 平成25年2月20日(水) 13時まで。

・提出書類 ①修士論文 4部

②学位論文要旨(上記同様) 14部

(6)研究発表会 平成25年3月13日(水)



2012 年度 東京女子医科大学大学院 看護学研究科

修士論文

タイトル

学籍番号

氏名

提出日 年 月 日

↑

3cm

↓

12ポイント

東京女子医科大学大学院看護学研究科

修士論文要旨

字体	明朝体
サイズ	10.5ポイント
一頁	24行
一行	35文字
文字数	1200字以内

研究課題名  
11ポイント

[Redacted]

[Redacted]

東京女子医科大学大学院

看護学研究科看護学専攻

河田 若子

I. はじめに

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

←3.2cm→

←3.2cm→

II. 方法

1. 調査対象

[Redacted]

[Redacted]

2. 調査内容

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

[Redacted]

↑

3cm

↓

### Ⅲ. 結果

[Redacted text block]

### Ⅳ. 考察

[Redacted text block]

様式修士1

## 修士論文研究計画書審査申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長 殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

\_\_\_\_\_ 年 月 日 生

指導教授 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規定にもとづき、必要書類を添えて修士論文研究計画書の審査を申請いたします。

必要書類

研究計画書 14 部

## 学位(修士)申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長

殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

\_\_\_\_\_ 年 月 日 生

指導教授 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規定にもとづき、必要書類を添えて学位(修士)論文の審査を申請いたします。

### 必要書類

学位(修士)申請書[様式修士2]	1 部
学位(修士)論文	1 部
学位論文の要旨(1200字以内)	1 部
単位認定書	1 部
審査手数料	5 万円

東京女子医科大学大学院看護学研究科

課題研究論文作成要項

【平成 23 年度入学生用】



## 課題研究論文

### (1) 手続き

修士論文コースの院生は修士論文、実践看護コースの院生は課題研究論文を提出する。

ここでは課題研究論文の研究計画書の提出、審査及び最終試験、課題研究論文の発表会の日時、提出書類、提出先等の手続きについて説明する。

なお、人を研究対象とする場合は、本学の倫理委員会において研究実施の許可を得なければ研究を開始することができない。審査は2段階で行われるので注意すること。第一段階は倫理審査に必要な書類を作成し、看護学研究科倫理審査委員会に提出し、口頭審査により合否の判定を受ける。第2段階は倫理審査委員会の審査結果票と倫理審査に必要な書類を本学の倫理委員会に申請し、倫理委員会の審査を受ける。

申請資格:博士前期課程に2年以上在学し、所定の単位を取得した者、または修得見込みの者は課題研究論文審査の申請をすることができる。

### (2) 作成要項

#### 《課題研究論文作成様式》

① 用紙サイズ A4判

② 書き方 ・縦置き横書き

・40字 × 38行

・10.5ポイント 明朝体

・マージン 上 25mm 下 25mm 右 25mm 左 25mm

\*原稿は現代仮名遣いを用い、簡潔に記述する。

\*外来語はカタカナで、外国人名、日本語になっていない術語などは原則として活字体の原綴りで書く。

③ 論文形態 左綴じの片面印刷とし、指定の表紙をつける。

#### 《課題研究論文の構成》

##### ① 構成概要

表紙

要旨 (1200字以内とする) 資料参照

目次

表目次

図目次

本文

第1章 序論

第2章 文献の検討

第3章 研究の方法と対象

第4章 結果

第5章 考察

第6章 結論

謝辞

引用文献

付録・資料

##### ② 頁と見出し

- i. 頁は、下中央につける。本文の最初の頁より1ページとし、引用文献の最後のページを最終ページとする。
- ii. 付録・資料の頁は、下中央につける。本文と区別するために i ii iii とつける。
- iii. 見出しをつける

I.

1.

1)

(1)

①

③図、表及び写真

- i. 図、表及び写真は、それぞれに図1、表1、写真 1 などの一連番号を付し、表題をつける。
- ii. 図、表及び写真は、本文の該当する箇所に(図1)と明示する。
- iii. 本文中に挿入する図、表及び写真を本文と別頁にする場合はページ番号をつけずに本文の該当する頁のあとにつづる。

④文献の記載様式

文献の記載方法は下記に従う。

- i. 文献については、本文中に著者名、発行年次を括弧表示する。
- ii. 文献は著者名のアルファベット順に列記する。外国人名は姓名の順とする。但し、共著者は3名まで表記する。
- iii. 記載方法は下記の例示のごとくにする。
  - i) 雑誌掲載論文の場合・・・著者名(発行年次):論文の表題, 掲載雑誌名, 号もしくは巻(号), 最初のページ数-最後のページ数.
  - ii) 単行本の場合・・・①著者名(発行年次):書名(版数), 出版社名, 発行地.  
②著者名(発行年次):論文の表題, 編者名, 書名(版数), ページ数, 出版社名, 発行地.
  - iii) 翻訳書の場合・・・原著者名(原書の発行年次)/訳者名(翻訳書の発行年次):翻訳書の書名(版数), 出版社名, 発行地.

《課題研究計画書作成様式》

① 用紙サイズ A4 判

② 書き方 ・縦置き横書き

・40 字 × 38 行

・10.5 ポイント 明朝体

・マージン 上 25mm 下 25mm 右 25mm 左 25mm

\*原稿は現代仮名遣いを用い、簡潔に記述する。

\*外来語はカタカナで、外国人名、日本語になっていない術語などは原則として活字体の原綴りで書く。

\*研究にかかる費用は個人負担とする

《課題研究計画書の構成》

1. 研究課題名
2. 研究動機
3. 研究の目的
4. 本研究の意義
5. 文献検討

6. 研究の対象と方法
- (1) 研究デザイン
  - (2) 対象
    - ① 条件
    - ② データ収集施設
  - (3) データ収集方法
    - ① データ収集開始までの手続き
      - a. データ収集施設への依頼
      - b. 対象者の選定
      - c. 対象者の決定
    - ② データ収集
      - a. 期間
      - b. データ収集方法
  - (4) データ分析方法  
(信頼性・妥当性を含む)

7. 倫理的配慮

倫理委員会にかける必要のある場合は、東京女子医科大学倫理委員会を通し許可を得た資料を添付する。

8. 引用文献

(3) 研究計画書申請

- ・提出期限 平成24年4月2日(月)以降随時提出可とする。  
ただし、平成24年6月29日(金)13時を最終とする。(期限厳守)
- ・提出書類
 

①課題研究論文審査申請書[様式修士1]		1 部
②課題研究計画書		14 部

\*A4判 横書き ワードプロセッサ印刷
- ・提出先 看護学部学務課
- ・研究科委員会による課題研究計画書の審査 提出後の定例研究科委員会開催日  
ただし、平成24年7月6日(金)を最終とする。
- ・研究計画の発表会(実践看護コース) 7月中に実施する(予定) \*発表は任意とする

(4) 学位(修士)申請

- ・提出期限 平成25年1月28日(月) 13時まで。(期限厳守)  
注)上記の期限を過ぎた申請についてはいかなる理由があろうとも一切受理しない。
- ・提出書類
 

①学位(修士)申請書[様式修士2]		1 部
②課題研究論文(要旨は《課題研究論文の構成》参照)		1 部
③課題研究論文の要旨(1200字以内:両面印刷)		1 部

\*A4判 横書き ワードプロセッサ印刷

④単位認定書(成績証明書)		1 部
⑤審査手数料		5 万円
- ・提出先 看護学部学務課
- ・審査委員会による論文審査と最終試験日 平成25年2月 5日(火)
- ・学生への通知 平成25年3月 4日(月)

- (5)再審査 主査より論文の再審査の通知を受けた者、論文を再提出する。
- ・再審査論文締切日 平成25年2月20日(水) 13時まで。
  - ・提出書類
    - ①課題研究論文 3部
    - ②学位論文要旨(上記同様) 14部
- (6)研究発表会 平成25年3月13日(水)



2012 年度 東京女子医科大学大学院 看護学研究科

課題研究論文

タイトル

学籍番号

氏名

提出日

年

月

日

↑

3cm

↓

12ポイント

東京女子医科大学大学院看護学研究科

課題研究論文要旨

字体	明朝体
サイズ	10.5ポイント
一頁	24行
一行	35文字
文字数	1200字以内

研究課題名  
11ポイント

[Redacted]

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科看護学専攻  
河田 若子

I. はじめに

[Redacted]

←3.2cm→

←3.2cm→

II. 方法

1. 調査対象

[Redacted]

2. 調査内容

[Redacted]

↑

3cm

↓

### Ⅲ. 結果

[Redacted text block]

### Ⅳ. 考察

[Redacted text block]

様式修士1

## 課題研究論文研究計画書審査申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長 殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

\_\_\_\_\_ 年 月 日 生

指導教授 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規定にもとづき、必要書類を添えて課題研究論文研究計画書の審査を申請いたします。

必要書類

研究計画書 14 部

## 学位(修士)申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長

殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

\_\_\_\_\_ 年 月 日 生

指導教授 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規定にもとづき、必要書類を添えて課題研究論文の審査を申請いたします。

### 必要書類

学位(修士)申請書[様式修士2]	1 部
課題研究論文	1 部
課題研究論文の要旨(1200字以内)	1 部
単位認定書	1 部
審査手数料	5 万円

## 看護学研究科専任教員

氏名	職名	科目名
山元 由美子	教授	基礎看護学特論Ⅰ、基礎看護学特論Ⅱ、基礎看護学特論Ⅲ、基礎看護学特論Ⅳ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱ、基礎看護学特別研究、看護教育論
佐藤 紀子	教授	看護職生涯発達学特論Ⅰ、看護職生涯発達学特論Ⅱ、看護職生涯発達学特論Ⅲ、看護職生涯発達学演習Ⅰ、看護職生涯発達学演習Ⅱ、看護職生涯発達学特別研究、看護理論、看護教育論、看護管理論
下平 唯子	教授	がん看護学特論Ⅰ、がん看護学特論Ⅱ、がん看護学特論Ⅲ、がん看護学特論Ⅳ、がん看護学特論Ⅴ、がん看護学演習Ⅰ、がん看護学演習Ⅱ、がん看護学演習Ⅲ、がん看護学実習Ⅰ、がん看護学実習Ⅱ、がん看護学実習Ⅲ、がん看護学実習Ⅳ、がん看護学課題研究、がん看護学特別研究、クリティカル看護学特論Ⅰ、クリティカル看護学特論Ⅱ、クリティカル看護学特論Ⅲ、クリティカル看護学特論Ⅳ、クリティカル看護学特論Ⅴ、クリティカル看護学演習Ⅰ、クリティカル看護学演習Ⅱ、クリティカル看護学実習、クリティカル看護学課題研究、クリティカル看護学特別研究、コンサルテーション論、フィジカルアセスメント
小川 久貴子	教授	ウーマンズヘルス特論Ⅰ、ウーマンズヘルス特論Ⅱ、ウーマンズヘルス特論Ⅲ、ウーマンズヘルス特論Ⅳ、ウーマンズヘルス演習Ⅰ、ウーマンズヘルス演習Ⅱ、ウーマンズヘルス実習、ウーマンズヘルス課題研究、ウーマンズヘルス特別研究、助産学特論Ⅰ、助産学特論Ⅱ、助産学特論Ⅲ、助産学特論Ⅳ、助産学演習Ⅰ、助産学演習Ⅱ、助産学実習
水野 敏子	教授	老年看護学特論Ⅰ、老年看護学特論Ⅱ、老年看護学特論Ⅲ、老年看護学特論Ⅳ、老年看護学特論Ⅴ、老年看護学演習Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学課題研究、老年看護学特別研究、看護研究、臨床薬理学
田中 美恵子	教授	精神看護学特論Ⅰ、精神看護学特論Ⅱ、精神看護学特論Ⅲ、精神看護学特論Ⅳ、精神看護学特論Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ、精神看護学演習Ⅱ、精神看護学演習Ⅲ、精神看護学実習Ⅰ、精神看護学実習Ⅱ、精神看護学実習Ⅲ、精神看護学実習Ⅳ、精神看護学課題研究、精神看護学特別研究、小児看護学演習Ⅰ、看護理論、看護研究、看護倫理
柳 修平	教授	地域看護学特論Ⅰ、地域看護学特論Ⅱ、地域看護学特論Ⅲ、地域看護学特論Ⅳ、地域看護学特論Ⅴ、地域看護学特論Ⅵ、地域看護学課題研究、地域看護学特別研究、看護倫理、看護政策論
伊藤 景一	教授	地域看護学特論Ⅰ、地域看護学特論Ⅱ、地域看護学特論Ⅲ、地域看護学特論Ⅳ、地域看護学特論Ⅴ、地域看護学演習Ⅰ、地域看護学演習Ⅱ、地域看護学実習Ⅰ、地域看護学実習Ⅱ、地域看護学実習Ⅲ、地域看護学課題研究、地域看護学特別研究、看護政策論、先端医療
日沼 千尋	教授	小児看護学特論Ⅰ、小児看護学特論Ⅱ、小児看護学特論Ⅲ、小児看護学特論Ⅳ、小児看護学演習Ⅰ、小児看護学演習Ⅱ、小児看護学演習Ⅲ、小児看護学実習Ⅰ、小児看護学実習Ⅱ、小児看護学実習Ⅲ、小児看護学課題研究、小児看護学特別研究、ウーマンズヘルス演習Ⅰ、精神看護学演習Ⅰ、臨床薬理学
荒井 純子	教授	研究方法（臨床医学の研究）、臨床薬理学、病態生理学
木村 みどり	教授	国際コミュニケーション英語演習
守屋 治代	准教授	基礎看護学特論Ⅲ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱ、看護理論、看護教育論
菊池 昭江	准教授	基礎看護学特論Ⅳ、基礎看護学演習Ⅰ、基礎看護学演習Ⅱ、看護教育論
吉田 澄恵	准教授	看護職生涯発達学特論Ⅰ、看護職生涯発達学特論Ⅱ、看護職生涯発達学特論Ⅲ、看護職生涯発達学演習Ⅰ、看護職生涯発達学演習Ⅱ、看護職生涯発達学特別研究、看護管理論
金子 真理子	准教授	がん看護学特論Ⅰ、がん看護学特論Ⅲ、がん看護学特論Ⅴ、がん看護学演習Ⅱ、がん看護学演習Ⅲ、がん看護学実習Ⅰ、がん看護学実習Ⅱ、がん看護学実習Ⅲ、がん看護学実習Ⅳ、がん看護学課題研究、がん看護学特別研究、コンサルテーション論、フィジカルアセスメント、病態生理学
中田 晴美	准教授	地域看護学特論Ⅰ、地域看護学特論Ⅱ、地域看護学特論Ⅲ、地域看護学特論Ⅴ、地域看護学特論Ⅵ、地域看護学演習Ⅰ、地域看護学演習Ⅱ、地域看護学演習Ⅲ、地域看護学実習Ⅰ、地域看護学実習Ⅱ、地域看護学実習Ⅲ、地域看護学課題研究、地域看護学特別研究
関森 みゆき	准教授	小児看護学特論Ⅱ、小児看護学特論Ⅲ、小児看護学実習Ⅰ、小児看護学実習Ⅱ、小児看護学実習Ⅲ、小児看護学課題研究、小児看護学特別研究、ウーマンズヘルス演習Ⅰ
諏訪 茂樹	准教授	社会学、小児看護学特論Ⅰ
松崎 英士	准教授	看護職生涯発達学特論Ⅱ、クリティカル看護学特論Ⅰ、小児看護学特論Ⅰ、臨床心理学
伊東 栄子	准教授	研究方法(生体・生理学的研究)

氏名	職名	科目名
神山 暢夫	准教授	研究方法(生体・生理学的研究)、ウーマンズヘルスト論Ⅱ
尾崎 恭子	准教授	研究方法(臨床医学的研究)、老年看護学特論Ⅲ、精神看護学特論Ⅳ、助産学演習Ⅰ、臨床薬理学、病態生理学
見城 道子	講師	基礎看護学特論Ⅰ、基礎看護学演習Ⅰ
加藤 京里	講師	基礎看護学特論Ⅱ、基礎看護学演習Ⅰ、看護研究
草柳 かほる	講師	看護職生涯発達学特論Ⅰ、看護職生涯発達学特論Ⅲ
原 三紀子	講師	看護職生涯発達学特論Ⅲ、フィジカルアセスメント
益田 美津美	講師	クリティカル看護学特論Ⅰ、クリティカル看護学特論Ⅴ、クリティカル看護学演習Ⅱ、クリティカル看護学実習、フィジカルアセスメント
落合 亮太	講師	クリティカル看護学特論Ⅱ、クリティカル看護学特論Ⅳ、フィジカルアセスメント
宮内 清子	講師	ウーマンズヘルスト論Ⅱ、ウーマンズヘルス演習Ⅱ、ウーマンズヘルス実習、ウーマンズヘルス課題研究、助産学特論Ⅰ、助産学特論Ⅱ、助産学特論Ⅲ、助産学演習Ⅱ、助産学実習
原田 通予	講師	ウーマンズヘルス演習Ⅱ、ウーマンズヘルス実習、助産学特論Ⅰ、助産学特論Ⅱ、助産学特論Ⅳ、助産学演習Ⅰ、助産学演習Ⅱ、助産学実習
竹内 道子	講師	ウーマンズヘルス実習、助産学特論Ⅰ、助産学特論Ⅱ、助産学演習Ⅱ、助産学実習
小山 千加代	講師	老年看護学特論Ⅱ、老年看護学演習Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ
坂井 志麻	講師	老年看護学特論Ⅱ、Ⅲ、老年看護学特論Ⅳ、Ⅴ、老年看護学演習Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ
嵐 弘美	講師	精神看護学特論Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ、精神看護学演習Ⅱ、精神看護学演習Ⅲ、精神看護学実習Ⅰ、精神看護学実習Ⅲ、フィジカルアセスメント
小山 達也	講師	精神看護学演習Ⅰ、精神看護学演習Ⅱ、精神看護学演習Ⅲ、精神看護学実習Ⅰ
服部 真理子	講師	地域看護学特論Ⅰ、地域看護学Ⅱ特論、地域看護学特論Ⅲ、地域看護学特論Ⅴ、地域看護学演習Ⅰ、地域看護学演習Ⅱ、地域看護学実習Ⅰ、地域看護学実習Ⅱ、地域看護学実習Ⅲ、地域看護学課題研究
奥野 順子	講師	小児看護学演習Ⅰ、小児看護学実習Ⅰ、小児看護学実習Ⅱ、小児看護学実習Ⅲ
青木 雅子	講師	小児看護学演習Ⅰ
山本 夕子	助教	看護職生涯発達学特論Ⅰ、看護職生涯発達学演習Ⅱ
原 美鈴	助教	看護職生涯発達学特論Ⅱ、フィジカルアセスメント
味木 由佳	助教	看護職生涯発達学演習Ⅱ
小林 礼実	助教	クリティカル看護学特論Ⅱ、クリティカル看護学特論Ⅳ、クリティカル看護学実習、フィジカルアセスメント
松岡 志帆	助教	クリティカル看護学特論Ⅱ、クリティカル看護学特論Ⅳ、クリティカル看護学実習、フィジカルアセスメント
三浦 美奈子	助教	がん看護学特論Ⅳ、フィジカルアセスメント
中北 充子	助教	ウーマンズヘルス演習Ⅱ、ウーマンズヘルス実習、助産学演習Ⅱ、助産学実習
飯塚 幸恵	助教	ウーマンズヘルス実習、助産学演習Ⅰ、助産学演習Ⅱ、助産学実習
井上 友里	助教	ウーマンズヘルス実習、助産学演習Ⅱ、助産学実習
原沢 のぞみ	助教	老年看護学特論Ⅲ、老年看護学演習Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ
井澤 玲奈	助教	老年看護学特論Ⅳ、老年看護学演習Ⅰ、老年看護学実習Ⅰ
異儀田はづき	助教	精神看護学特論Ⅴ、精神看護学演習Ⅲ、精神看護学実習Ⅰ、精神看護学実習Ⅲ
飯塚 あつ子	助教	精神看護学演習Ⅲ、精神看護学実習Ⅰ
犬飼 かおり	助教	地域看護学特論Ⅴ、地域看護学演習Ⅰ、地域看護学演習Ⅱ、地域看護学実習Ⅰ、地域看護学実習Ⅱ、地域看護学実習Ⅲ
遠藤 直子	助教	地域看護学特論Ⅴ、地域看護学演習Ⅰ、地域看護学演習Ⅱ、地域看護学実習Ⅰ、地域看護学実習Ⅱ、地域看護学実習Ⅲ

看護学研究科兼担教員

氏 名	職 名	担当科目
萩原 誠久	教 授	クリティカルケア看護学特論Ⅲ クリティカルケア看護学演習Ⅰ フィジカルアセスメント
尾崎 眞	教 授	クリティカルケア看護学演習Ⅰ
岡田 芳和	教 授	クリティカルケア看護学演習Ⅰ フィジカルアセスメント
有賀 淳	教 授	がん看護学特論Ⅱ
柴田 亮行	教 授	がん看護学特論Ⅱ
岡本 高宏	教 授	がん看護学特論Ⅱ
山口 直人	教 授	がん看護学特論Ⅱ
林 和彦	教 授	がん看護学演習Ⅰ、がん看護学演習Ⅲ
佐藤 弘	教 授	がん看護学演習Ⅱ
高木耕一郎	教 授	ウーマンズヘルス特論Ⅱ
遠藤 弘良	教 授	ウーマンズヘルス特論Ⅳ
大澤眞木子	教 授	小児看護学実習Ⅰ
杉原 茂孝	教 授	小児看護学実習Ⅰ
伊関 洋	教 授	先端医療
岡野 光夫	教 授	先端医療
齋藤加代子	教 授	先端医療
清水 達也	教 授	先端医療
村垣 善浩	教 授	先端医療
大和 雅之	教 授	先端医療
丸 義朗	教 授	臨床薬理学
玉置 淳	教 授	フィジカルアセスメント
川嶋 朗	准教授	クリティカルケア看護学特論Ⅶ ウーマンズヘルス特論Ⅲ、老年看護学特論Ⅲ
寺村 正尚	准教授	がん看護学特論Ⅱ
近藤 乾	准教授	助産学演習Ⅰ
坂井 昌人	准教授	助産学演習Ⅰ
牧野 康男	准教授	助産学演習Ⅰ
大橋 一夫	特任准教授 注1	先端医療
中村(平塚)佐千枝	准教授	臨床薬理学
齋藤 登	准教授	フィジカルアセスメント
兼村 俊範	講 師	がん看護学特論Ⅱ、がん看護学演習Ⅲ
丸山 隆志	講 師	がん看護学特論Ⅱ
松村美由起	講 師	老年看護学特論Ⅱ
稻田 健	講 師	精神看護学特論Ⅴ
高橋 一志	講 師	精神看護学特論Ⅴ
秋山 義勝	講 師	先端医療
小林 純	講 師	先端医療
中山 正道	講 師	先端医療
長瀬 健一	講 師	先端医療
岩田 隆紀	特任講師 注2	先端医療
塚原富士子	講 師	臨床薬理学
比嘉 隆	講 師	フィジカルアセスメント
成宮 孝祐	准講師	フィジカルアセスメント
奥山 隆二	助 教	がん看護学演習Ⅲ
中島 豪	助 教	がん看護学演習Ⅲ
奥津 康祐	助 教	看護倫理
家口 勝昭	助 教	臨床薬理学
出口 敦子	助 教	臨床薬理学
富田 毅	助 教	臨床薬理学

瀧田 守親	特任助教	臨床薬理学
三好麻実子	兼任講師	看護職生涯発達学演習Ⅱ
小泉 雅子	兼任講師	クリティカルケア看護学特論Ⅲ、 クリティカルケア看護学実習
遠藤奈津美	兼任講師	クリティカルケア看護学演習Ⅰ、 クリティカルケア看護学演習Ⅱ、小児看護学演習Ⅱ
大友 陽子	兼任講師	クリティカルケア看護学演習Ⅰ、小児看護学演習Ⅱ
林 千草	兼任講師	クリティカルケア看護学実習
伊東 俊雅	兼任講師	がん看護学演習Ⅰ
大堀 洋子	兼任講師	がん看護学演習Ⅰ、がん看護学実習Ⅱ、 がん看護学演習Ⅲ
末永きよみ	兼任講師	がん看護学演習Ⅰ、がん看護学演習Ⅱ がん看護学実習Ⅱ、がん看護学実習Ⅲ
三村 直美	兼任講師	がん看護学演習Ⅱ
吉川 信	兼任講師	ウーマンズヘルス演習Ⅰ、小児看護学演習Ⅱ
富川由美子	兼任講師	老年看護学特論Ⅱ
篠 聡子	兼任講師	精神看護学演習Ⅰ、精神看護学実習Ⅲ
山内 典子	兼任講師	精神看護学実習Ⅳ
安田 妙子	兼任講師	精神看護学実習Ⅲ、精神看護学実習Ⅳ
高澤みゆき	兼任講師	小児看護学特論Ⅱ、小児看護学演習Ⅱ
金子恵美子	兼任講師	小児看護学演習Ⅱ
山田咲樹子	兼任講師	小児看護学演習Ⅱ、小児看護学演習Ⅲ
木所 篤子	兼任講師	小児看護学演習Ⅲ
宮崎歌津枝	兼任講師	小児看護学演習Ⅲ
江川 知子	兼任講師	コンサルテーション論

注1 特任准教授 注2 特任講師

### 看護学研究科非常勤講師

氏名	担当科目
森川 功	看護倫理
泉 真由子	家族論
足立 智孝	人間学
坂田 成輝	保健統計学
武岡 真司	先端医療
武田 直也	先端医療
河村ナディレ	国際コミュニケーション英語演習
香川 秀太	看護職生涯発達学演習Ⅱ
佐藤 憲明	クリティカルケア看護学特論Ⅲ クリティカルケア看護学演習Ⅰ
吉村 美樹	がん看護学特論Ⅲ、がん看護学特論Ⅳ
花出 正美	がん看護学特論Ⅲ、がん看護学特論Ⅳ
新井 敏子	がん看護学特論Ⅳ、がん看護学特論Ⅴ、がん看護学演習Ⅱ
秋山 正子	がん看護学演習Ⅰ、地域看護学特論Ⅳ
近藤まゆみ	がん看護学演習Ⅰ、がん看護学演習Ⅱ
小川 朝生	がん看護学演習Ⅲ
野口真貴子	ウーマンズヘルス演習Ⅳ、助産学特論Ⅲ
太田喜久子	老年看護学特論Ⅲ
Pamela A. Minarik	精神看護学特論Ⅳ
江波戸和子	精神看護学演習Ⅱ
池戸 啓子	地域看護学特論Ⅰ、地域看護学演習Ⅰ 地域看護学実習Ⅰ、地域看護学実習Ⅲ
村嶋 幸代	地域看護学特論Ⅱ
津波古澄子	小児看護学特論Ⅰ

# 博士前期課程 講義概要

\*科目責任者に○印が記してあります

科目担当者：○田中 美恵子、佐藤 紀子、守屋 治代

講義概要：看護学の理論体系の変遷を概観し、諸理論の構造と特徴について学ぶとともに、諸理論と看護現象との関係について探求し、看護研究ならびに卓越した看護実践のための理論的基盤を養う。

到達目標：1.看護学の理論体系の変遷、理論構築のための主要概念と哲学的基盤について理解する。  
2.主要な看護理論の構造と特徴について学び、看護現象との関係について理解する。  
3.看護研究ならびに卓越した看護実践に応用するための理論的基盤を養う。

講義のすすめ方：学生によるプレゼンテーションと討議を中心に進める。討議は看護理論と看護現象との関わり、看護理論の看護実践・看護研究への応用などの観点を中心に進める。

教科書：Ann Marriner-Tomey 著：看護理論家とその業績、第3版、医学書院、2004。

参考文献：適宜紹介

成績評価の方法：プレゼンテーションの準備度、クラスへの出席・参加度、課題レポート

**課題**：看護理論家の1名の著作（本または論文）を読み次の観点からまとめる。

「まず、その看護理論の特徴についてまとめ、次にその看護理論が、看護研究および看護実践に対してどのように役立つ可能性を持つか、またはどのような弱点や限界があるかについて、自分の専攻領域の看護現象に当てはめながら考えをまとめる。」

- ・ A4版（24字×40行） 5枚程度
- ・ 学生氏名、専攻領域、選んだ理論家とその著作について、レポートの最初に明記すること。

提出期限：**2012年10月12日（金）13時。** 学務課前ボックスまで。

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	4/17	火	10:35～12:00	田中美恵子	イントロダクション：看護理論の分析
2コマ	4/24	火	10:35～12:00	田中美恵子	ペプロウ看護論と看護実践との関わり
3コマ	5/1	火	10:35～12:00	佐藤 紀子	ウィーデンバック看護論と看護実践との関わり
4コマ	5/8	火	10:35～12:00	佐藤 紀子	オレム看護論と看護実践との関わり
5コマ	5/15	火	10:35～12:00	佐藤 紀子	ヘンダーソン看護論と看護実践との関わり
6コマ	5/22	火	10:35～12:00	佐藤 紀子	ロイ看護論と看護実践との関わり
7コマ	5/29	火	10:35～12:00	田中美恵子	トラベルビー看護論と看護実践との関わり
8コマ	6/5	火	10:35～12:00	守屋 治代	ナイチンゲール看護論と看護実践との関わり
9コマ	6/12	火	10:35～12:00	守屋 治代	薄井看護論と看護実践との関わり
10コマ	6/19	火	10:35～12:00	守屋 治代	ロジャーズ看護論と看護実践との関わり
11コマ	6/26	火	10:35～12:00	守屋 治代	M. ニューマン看護論と看護実践との関わり
12コマ	7/3	火	10:35～12:00	佐藤 紀子	ベナー看護論と看護実践との関わり
13コマ	7/10	火	10:35～12:00	田中美恵子	B. ニューマン看護論と看護実践との関わり
14コマ	9/4	火	10:35～12:00	守屋 治代	ワトソン看護論と看護実践との関わり
15コマ	9/11	火	10:35～12:00	田中美恵子	レイニンガー看護論と看護実践との関わり

科目名 看護研究

(2単位 22コマ)

科目担当者：○水野 敏子、田中 美恵子、加藤 京里

講義概要：専門知識や技術の開発など、看護の向上をはかるために必要な研究の方法について理解することを目的として、看護学における研究の役割や研究プロセス、研究成果の臨床への活用について学ぶ。

到達目標： 1.エビデンスに基づいた実践のための研究について理解する。  
2.看護学で用いられている量的研究について学び、研究プロセス、重要概念を理解する。  
3.看護学で用いられている実験研究について学び、研究プロセス、重要概念を理解する。  
4.看護学で用いられている質的研究について学び、研究プロセス、重要概念を理解する。

講義のすすめ方：プレゼンテーションと討論によってすすめる

参考文献：・ポーリット&ベック (2010)：看護研究 原理と方法、第2版 医学書院 (量的研究テキスト)  
・ホロウェイ&ウィーラー、ナースのための質的研究入門(第2版)、医学書院、2006 (質的研究部分教科書) 他 適時紹介

成績評価の方法：プレゼンテーションの準備と発表、講義への参加度による評価、レポートによる評価

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	4/13	金	10:35~12:00	水野 敏子	オリエンテーション・看護研究の基礎 (1章)
2コマ	4/20	金	9:00~12:00	水野 敏子	文献検討 (図書館)
3コマ					
4コマ	4/27	金	10:35~12:00	水野 敏子	研究の重要概念とプロセス概観 (2・3章)
5コマ	5/11	金		水野 敏子	研究問題～仮説、文献レビュー (4・5章)
6コマ	5/18	金		水野 敏子	理論枠組みと研究倫理 (6・7章)
7コマ	5/25	金		水野 敏子	研究デザイン (8・9章)
8コマ	6/1	金	9:00~10:25	水野 敏子	標本抽出のデザインとデータ収集 (13・14章)
9コマ	6/1	金	10:35~12:00	水野 敏子	研究データの質と分析 (18・22章)
10コマ	6/8	金	10:35~12:00	水野 敏子	エビデンスの高い研究の理解 (ガイドライン作成過程を参考)
11コマ	6/15	金	9:30~10:55	加藤 京里	実験研究の方法
12コマ	6/15	金	11:05~12:30	加藤 京里	生理学的基盤をもつ看護研究の展望と課題
13コマ	6/29	金	10:35~12:00	田中美恵子	質的研究の特質、研究プロセスにおける最初の段階と倫理的問題 (教科書第1,2章)
14コマ	7/6	金		田中美恵子	面接 (第5章)、参加観察 (第6章)
15コマ	7/20	金		田中美恵子	記述民俗学 (第9章)
16コマ	7/27	金		田中美恵子	グランデッド・セオリー (第10章)
17コマ	9/7	金		田中美恵子	現象学 (第11章)
18コマ	9/14	金		田中美恵子	アクションリサーチ、ナラティブリサーチ (第12,13章)
19コマ	9/21	金		田中美恵子	データ分析とまとめ、真実性と質の確保 (第15,16章)、質的研究の実践への応用 (まとめ)
20コマ	10/12	金		田中美恵子	エビデンスに基づいた実践のためのクリティーク
21コマ	10/19	金		水野 敏子	エビデンスに基づいた実践のためのクリティーク
22コマ	10/26	金		加藤 京里	エビデンスに基づいた実践のためのクリティーク

\* 11、12コマについては時間帯が通常とは異なりますのでご注意ください。

科目名 看護倫理

(2単位 17コマ)

科目担当者：○田中 美恵子、柳 修平、奥津 康祐、森川 功

**講義概要：**本講義では、倫理理論、基本倫理原則を理解したうえで、看護の実践場面を倫理的な観点から具体的に検討するための基盤となる能力を養うことを主眼とする。  
 (森川) まず代表的な倫理理論を紹介した上で、具体的な事案の倫理性を分析するために用いる基本倫理原則について論じる。その後は、例えば安楽死のような一般的論題を設定し、その論題についての解説を行った上で、映像を数多く用いて具体的な事案を提示し、履修者間でディスカッションをしてもらい、まとめの解説を加えることを繰り返す。  
 (奥津) 人格権、人の尊厳、自己決定、幸福追求権、精神的自由、平等、公平等、倫理に関わる法的な考え方を学修し、看護における法と倫理の関係を理解する。  
 (柳) 臨床研究や疫学研究における倫理課題を学修し、研究者として倫理規範に基づいた研究デザインを作成することを理解する。  
 (田中) Jonsen, A. R. の臨床倫理の4分割表を用いて、看護実践場面の倫理的観点からの事例検討を行う。

**到達目標：** 倫理議論における概念的対立をきちんと理解し、事案における倫理的な問いの種類を区別した上で、事案を基本倫理原則に照らして分析し、倫理的是非について第三者の立場から述べるができるようになること。

**講義のすすめ方：**講義およびディスカッション。論題として何を採りあげるかについては履修者の希望に応じる。

**参考文献：**木村利人『自分のいのちは自分で決める』(2000年、集英社)

森川 功『生命倫理の基本原則とインフォームド・コンセント』(2002年、じほう)

デーヴィス, アン・J. 『看護倫理を教える・学ぶ—倫理教育の視点と方法』(2008年、日本看護協会出版会)

赤林 朗：入門・医療倫理 I, II、(2007年、勁草書房)

**成績評価の方法：**講義中の質疑応答、ディスカッションにおける貢献度などを総合して評価する。

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	10/5	金	16:10~17:35	森川 功	倫理と道徳、数々の事件、倫理理論
2コマ	10/12	金	16:10~17:35	森川 功	基本倫理原則 (1)
3コマ	10/19	金	16:10~17:35	森川 功	基本倫理原則 (2)
4コマ	10/26	金	16:10~17:35	森川 功	インフォームド・コンセント、SOLとQOL
5コマ	11/2	金	16:10~17:35	森川 功	論題 (1) (解説とディスカッション)
6コマ	11/9	金	16:10~17:35	森川 功	論題 (1) (ディスカッションの続きとまとめの解説)
7コマ	11/16	金	16:10~17:35	森川 功	論題 (2) (解説とディスカッション)
8コマ	11/30	金	16:10~17:35	森川 功	論題 (2) (ディスカッションの続きとまとめの解説)
9コマ	12/7	金	16:10~17:35	森川 功	論題 (3) (解説とディスカッション)
10コマ	12/14	金	16:10~17:35	森川 功	論題 (3) (ディスカッションの続きとまとめの解説)
11コマ	12/21	金	16:10~17:35	森川 功	論題 (4) (解説とディスカッション)
12コマ	1/11	金	16:10~17:35	森川 功	論題 (4) (ディスカッションの続きとまとめの解説)
13コマ	1/18	金	16:10~17:35	森川 功	論題 (5) (解説とディスカッション)
14コマ	1/25	金	16:10~17:35	森川 功	論題 (5) (ディスカッションの続きとまとめの解説)
15コマ	12/21	金	10:35~12:00	柳 修平	研究における倫理の視点
16コマ	1/11	金	10:35~12:00	奥津 康祐	看護における法と倫理
17コマ	1/25	金	10:35~12:00	田中美恵子	臨床倫理4分割表を用いた看護実践倫理の事例検討

**\*上記スケジュールは受講生との相談の上、変更となることがありますので、履修者は初回講義に必ず出席してください。**

科目担当者：○佐藤 紀子、山元 由美子、守屋 治代、菊池 昭江

講義概要：看護学の教育の特徴から看護教育に関する基本的知識・技術を理解する。また、看護学教育を生涯教育の観点からとらえ、さまざまな状況において教育的機能を発揮するための要件を考察する。

到達目標：1. 看護基礎教育と看護継続教育の概要、教育制度、認定制度等について理解する。  
2. 看護教育に関するさまざまなパラダイムを理解する。  
3. 看護職者のキャリア開発の必要性と看護継続教育の関連について理解する。

講義のすすめ方：オムニバス方式で行う。講義の他、指定された文献等を講読し、院生がプレゼンテーションを行い、その内容の共有化を図りながら学習を深化・拡大する。

参考文献：杉森みど里・舟島なをみ著：看護教育学、第4版、医学書院、2004.

E.オリビア・ベビス著(安酸史子監訳)：ケアリングカリキュラム - 看護教育の新しいパラダイム -、医学書院、1999.

佐藤紀子著：看護師の臨床の『知』 - 看護職生涯発達学の視点から -、医学書院、2007.  
その他、別途指示する

成績評価の方法：レポートおよび講義への参加度、出席などの総合で評価する。

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～3 コマ	10/4	木	13:00～17:30	佐藤 紀子	ガイダンス、看護教育、キャリア形成
4・5 コマ	10/11	木	13:00～16:00	山元由美子	看護基礎教育・継続教育の概要と展望
6・7 コマ	10/18	木	13:00～16:00	守屋 治代	ホリスティック看護論と看護専門職
8・9 コマ	11/1	木	13:00～16:00	菊池 昭江	エンパワメントと看護教育
10・11 コマ	11/8	木	13:00～16:00	佐藤 紀子	ケアリングと看護教育
12～15 コマ	1/6	土	9:00～16:00	佐藤 紀子 山元由美子 菊池 昭江 守屋 治代	生涯教育から考える看護基礎教育と継続教育

科目担当者：○柳 修平、伊藤 景一

講義概要：看護に関する政策決定とは、どのような過程で行われるのかを理解する。またその過程に関わる関連団体の力学的な相互関係についても管理的視点から分析することにより、看護職能のもつ社会的機能と貢献について学習する。

到達目標：世界主要国の医療・看護政策の動向を検索し概要を説明することができる。

政策研究のための統計分析方法を挙げることができる。

医療・看護政策の評価方法について事例を挙げて説明することができる。

各自の専門分野における看護実践活動の質向上の視点で事例を提案することができる。

講義のすすめ方：基本的な資料の輪読と各自が選択したテーマのプレゼンテーションを基にディスカッションを行う。

参考文献：『政策科学入門[第2版]』（宮川公男、東京経済新報社）。ケーススタディから学ぶ医療政策：エビデンスからポリシーメーカーキングへ（津谷喜一郎、渡邊裕司編著）。アメリカの医療政策と日本：科学・文化・経済のインターフェイス（広井良典著、勁草書房）。保健医療政策の将来（V.R.フックス著；江見康一、二木立、権丈善一訳、勁草書房）。(図書館所蔵、その他は講義で適時紹介する)

成績評価の方法：プレゼンテーション 20% 参加度 40% 最終レポート 40%

## 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	6/9	土	10:35～12:00	柳 修平 伊藤 景一	オリエンテーション
2コマ	6/9	土	13:00～14:25	柳 修平 伊藤 景一	ケア提供を支援する看護情報① リファレンス・サーチ
3コマ	6/23	土	10:35～12:00	柳 修平 伊藤 景一	ケア提供を支援する看護情報② エビデンスの活用
4コマ	6/23	土	13:00～14:25	柳 修平 伊藤 景一	ケア提供を支援する看護情報③ マネジメント
5コマ	7/14	土	10:35～12:00	柳 修平 伊藤 景一	医療制度体系とその変遷
6コマ	7/14	土	13:00～14:25	柳 修平 伊藤 景一	看護管理と看護政策の理論と技法
7コマ	7/28	土	10:35～12:00	柳 修平 伊藤 景一	欧米の医療政策 ①
8コマ	7/28	土	13:00～14:25	柳 修平 伊藤 景一	欧米の医療政策 ②
9コマ	9/1	土	10:35～12:00	柳 修平 伊藤 景一	専門職の特性とヘルスケアマネジメント
10コマ	9/1	土	13:00～14:25	柳 修平 伊藤 景一	看護政策に関する海外文献の抄読プレゼンテーション ①
11コマ	9/29	土	10:35～12:00	柳 修平 伊藤 景一	看護政策に関する海外文献の抄読プレゼンテーション ②
12コマ	9/29	土	13:00～14:25	柳 修平 伊藤 景一	看護政策に関する海外文献の抄読プレゼンテーション ③
13コマ	10/6	土	10:35～12:00	柳 修平 伊藤 景一	看護政策に関する海外文献の抄読プレゼンテーション ④
14コマ	10/6	土	13:00～14:25	伊藤 景一	政策決定プロセスの事例
15コマ	10/20	土	10:35～12:00	柳 修平	まとめ

科目担当者：○下平 唯子、金子 眞理子、江川 知子

講義概要：看護におけるコンサルテーションの基本的概念を理解し、実践するための役割機能および評価の観点を学習する。また、組織変革におけるコンサルタントとしての役割と機能について探求する。

到達目標：1. コンサルテーションの基本的概念やコンサルタントの役割機能について説明できる。  
2. 事例分析や模擬コンサルテーションを通してコンサルタントの実践的能力を探求できる。  
3. 組織におけるコンサルテーションの現状と課題を整理することで、組織変革の方向性を検討することができる。

講義のすすめ方：講義、演習、学生によるプレゼンテーションと討議

参考文献：

- ・ Patricia R. Underwood 著、勝原裕美子訳(1995)：コンサルテーションの概要－コンサルタントの立場から、インターナショナルナーシングレビュー、18(5):4-12.
- ・ Schein Edgar H. 著、稲葉元吉他訳(1999)：プロセス・コンサルテーション、白桃書房.
- ・ Lippitt G. & Lippitt K. (1986)：The Consulting Process in Action. La Jolla, CA University Association, California.
- ・ 野末聖香編(2004)：リエゾン精神看護－患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版.

成績評価の方法：事例分析・模擬コンサルテーションへの参加度、プレゼンテーションの準備度、レポート

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2 コマ	11/15	木	13:00～16:00	下平 唯子	コンサルテーションの基本的概念 コンサルテーションのタイプとプロセス
3・4 コマ	11/22	木	13:00～16:00	下平 唯子	コンサルタントの役割機能 コンサルテーションの事例分析①
5・6 コマ	11/29	木	13:00～16:00	下平 唯子	コンサルテーションの事例分析②
7・8 コマ	12/ 6	木	13:00～16:00	下平 唯子	領域別困難事例分析
9・10 コマ	12/13	木	13:00～16:00	下平 唯子	模擬コンサルテーション
11・12 コマ	12/20	木	13:00～16:00	金子眞理子	コンサルテーションにおける リエゾン精神看護専門看護師の役割
13・14 コマ	1/10	木	13:00～16:00	江川 知子	組織変革におけるコンサルテーション
15 コマ	1/31	木	13:00～14:25	下平 唯子	まとめ

科目担当者：○佐藤 紀子、吉田 澄恵  
(遠藤 敏子、高柴 律子)

講義概要：組織論および組織行動論などの学習を通して、看護管理の可能性と展望についての理解を深める。また、看護実践・看護管理・看護研究の連携の重要性を認識し、実践場面における変革につながる戦略的思考について学修を深める。

到達目標：1. 看護管理学の基盤となる組織論・組織行動論について理解する。  
2. 看護管理学における研究について理解する。  
3. 看護管理者と専門看護師の連携・協働の可能性について理解する。

講義のすすめ方：オムニバス方式で行う。講義の他、指定された文献等を講読し、院生がプレゼンテーションを行い、その内容の共有化を図りながら学習を深化・拡大する。

参考文献：中西睦子編集：看護サービス管理 第3版 医学書院 2002  
ステファン・P・ロビンズ（高木晴夫監訳）組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、1997  
佐藤紀子：変革期の婦長学、医学書院、1997  
高橋伸夫：虚妄の成果主義、日経BP社、2004  
野中郁次郎：知識創造の経営、日本経済新聞社、1990

成績評価の方法：レポートおよび講義への参加度、出席などの総合で評価する  
レポート課題「看護管理論における学び」 **平成25年1月25日13時締切**

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2コマ	10/2	火	9:00～12:00	佐藤 紀子 吉田 澄恵	ガイダンス・変革理論
3・4コマ	10/16	火	9:00～12:00	吉田 澄恵	・動機づけ ・組織におけるコミュニケーション
5・6コマ	10/30	火	9:00～12:00	佐藤 紀子	・リーダーシップ ・パワー
7・8コマ	11/13	火	9:00～12:00	高柴 律子	・コンフリクト ・組織文化
9・10コマ	11/27	火	9:00～12:00	吉田 澄恵	・日本型組織の特徴と成果主義
11・12コマ	12/11	火	9:00～12:00	佐藤 紀子	・知識創造と看護
13・14コマ	12/25	火	9:00～12:00	遠藤 敏子	・看護管理における研究と実践
15コマ	1/15	火	10:35～12:00	佐藤 紀子 吉田 澄恵	・まとめ

科目担当者：○泉 真由子

講義概要：現代社会における家族の実像に迫ることができるよう基礎的な視点について学習する。

児童虐待、夫婦間暴力、子どもの非行・いじめなど、現代家族が直面している心理面の諸問題および、看護の領域で生じる具体的な問題を取りあげ、それらを家族システム理論の立場から考える。

到達目標：家族システム理論の基本的知識を習得し、実際に社会で起こっている現象をその立場からも理解できるようになる。

講義のすすめ方：講義と各テーマに沿った討論による。

参考文献：特に指示しない。必要に応じて推薦する。

成績評価の方法：出席と討論での発言を重視する。

## 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	11/10	土	9:00～10:25	泉 真由子	家族の心理的構造・心理過程
2コマ	11/10	土	10:25～12:00	泉 真由子	夫婦関係の心理
3コマ	11/10	土	13:00～14:25	泉 真由子	親子関係の心理
4コマ	11/10	土	14:35～16:00	泉 真由子	きょうだい関係の心理
5コマ	11/10	土	16:10～17:35	泉 真由子	親子孫－多世代関係の心理
6コマ	12/15	土	9:00～10:25	泉 真由子	恋愛と配偶者選択
7コマ	12/15	土	10:25～12:00	泉 真由子	父性・母性
8コマ	12/15	土	13:00～14:25	泉 真由子	児童虐待
9コマ	12/15	土	14:35～16:00	泉 真由子	ドメスティック・バイオレンス
10コマ	12/15	土	16:10～17:35	泉 真由子	子どもの問題（家庭内暴力・自殺・神経症等）
11コマ	1/19	土	9:00～10:25	泉 真由子	老年期の問題（老年夫婦の心理的危機・介護問題等）
12コマ	1/19	土	10:25～12:00	泉 真由子	総合まとめ
13コマ	1/19	土	13:00～14:25	泉 真由子	報告と討議（1）
14コマ	1/19	土	14:35～16:00	泉 真由子	報告と討議（2）
15コマ	1/19	土	16:10～17:35	泉 真由子	報告と討議（3）

科目担当者：○諏訪 茂樹

講義概要：今年度も昨年度に引き続き、臨床の場でのコミュニケーションにテーマを絞る。各種コミュニケーション・アプローチの理論と実際を学習するとともに、コミュニケーションの視点から今日の医療についても考えて行きたい。

到達目標：

1. コミュニケーションの視点から医療や職場のあり方を理解し、維持・変革していくことができる。
2. 各種コミュニケーション・アプローチを理解し、実践できる。
3. 各種コミュニケーション・アプローチを相手や場面に応じて使い分けることができる。

講義のすすめ方：講義および演習（体験学習）

教科書：1)諏訪茂樹著『看護にいかすリーダーシップ—ティーチングとコーチング、場面对応の体験学習』医学書院、2011.

参考文献：

- 1)諏訪茂樹著『対人援助とコミュニケーション—主体的に学び、感性を磨く』中央法規出版、2001.
- 2)諏訪茂樹著『対人援助のためのコーチング—利用者の自己決定とやる気をサポート』中央法規出版、2007
- 3)ジョン・ウットモア著、清川幸美訳『はじめのコーチング』ソフトバンククリエイティブ、2003.
- 4)トリシャ・グリーンハル他編著、斉藤清二他訳『ナラティブ・ベイスト・メディスン—臨床における物語と対話』金剛出版、2001.
- 5)野口裕二著『ナラティブ・アプローチ』勁草書房、2009.

成績評価の方法：出席率と提出された実践レポートによって評価する。

講義日程：

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	4/16	月	9:00~10:25	諏訪 茂樹	オリエンテーション
2コマ	4/16	月	10:35~12:00	諏訪 茂樹	コミュニケーション—人間関係—集団・組織
3コマ	4/23	月	9:00~10:25	諏訪 茂樹	コミュニケーションの理論
4コマ	4/23	月	10:35~12:00	諏訪 茂樹	コミュニケーションの実際（演習）
5コマ	5/7	月	9:00~10:25	諏訪 茂樹	リーダーシップの理論
6コマ	5/7	月	10:35~12:00	諏訪 茂樹	リーダーシップの実際（演習）
7コマ	5/14	月	9:00~10:25	諏訪 茂樹	ティーチングの理論
8コマ	5/14	月	10:35~12:00	諏訪 茂樹	ティーチングの実際（演習）
9コマ	5/21	月	9:00~10:25	諏訪 茂樹	コーチングの理論 I
10コマ	5/21	月	10:35~12:00	諏訪 茂樹	コーチングの実際（演習） I
11コマ	5/28	月	9:00~10:25	諏訪 茂樹	コーチングの理論 II
12コマ	5/28	月	10:35~12:00	諏訪 茂樹	コーチングの実際（演習） II
13コマ	6/4	月	9:00~10:25	諏訪 茂樹	ナラティブ・アプローチの理論
14コマ	6/4	月	10:35~12:00	諏訪 茂樹	ナラティブ・アプローチの実際（演習）
15コマ	6/11	月	9:00~10:25	諏訪 茂樹	まとめ、レポート提出

科目担当者：○足立 智孝

講義概要：医療・看護・福祉領域が、総合的で全体的な人間観を要請するようになり、ここに生身の人間をめぐる基本的問題、人間とは何か、人間はどのように理解されるべきか、人間の抱える苦悩とは何か、人間らしい看護のあり方、生と死をめぐる諸問題への正しい解答はあるのか等の具体的な問いに改めて取り組む「臨床人間学」の試みが期待されている。この講義では、近年注目されている「ナラティブ・アプローチ」による人間の理解について修得する。

- 到達目標：1. 医療ナラティブについて説明できる。  
2. 病者の抱える苦痛や問題について人間学的に理解することができる。  
3. 看護者としての自己を人間学的に省察できる。

講義のすすめ方：教科書、講義資料、視聴覚資料を用いてすすめる。

教科書：柳澤桂子『認められぬ病』、多田富雄『寡黙なる巨人』、V.E. フランクル『夜と霧』、トルストイ『イワン・イリイチの死』、岸本英夫『死を見つめる心』

参考文献：アーサー・クラインマン『病の語り』、ジョイス・トラベルビー『人間対人間の看護』、野口裕二『物語としてのケア』、神谷美恵子『こころの旅』

成績評価の方法：レポート（中間、学期末）・出席点・議論への参加による総合評価

## 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	10/9	火	10:35～12:00	足立 智孝	イントロダクション
2コマ	10/23	火	9:00～10:25	足立 智孝	ナラティブ・アプローチ
3コマ	10/23	火	10:35～12:00	足立 智孝	メディカル・ナラティブ
4コマ	11/6	火	9:00～10:25	足立 智孝	病者になること1（柳澤桂子の場合）
5コマ	11/6	火	10:35～12:00	足立 智孝	病者になること2（多田富雄の場合）
6コマ	11/20	火	9:00～10:25	足立 智孝	ケース・プレゼンテーション1
7コマ	11/20	火	10:35～12:00	足立 智孝	ケース・プレゼンテーション2
8コマ	12/4	火	9:00～10:25	足立 智孝	苦悩について1（福島智の場合）
9コマ	12/4	火	10:35～12:00	足立 智孝	苦悩について2（フランクルの場合）
10コマ	12/18	火	9:00～10:25	足立 智孝	死について1（トルストイの場合）
11コマ	12/18	火	10:35～12:00	足立 智孝	死について2（キューブラー＝ロスの場合）
12コマ	1/8	火	9:00～10:25	足立 智孝	死について3（岸本英夫の場合）
13コマ	1/8	火	10:35～12:00	足立 智孝	ケアについて（柏木哲夫の場合）
14コマ	1/22	火	9:00～10:25	足立 智孝	期末レポート発表1
15コマ	1/22	火	10:35～12:00	足立 智孝	期末レポート発表2

科目担当者：○坂田 成輝

講義概要：実証研究の一環として調査法を中心にデータが収集されることが多くなり、データ解析を進めていく上で統計学は欠かすことができないものとなっている。本講義では、統計学とはいかなるものかを実際のデータを解析していく中で学習してもらう。具体的には、今までに実施された幾つかの調査のデータを用いて授業中に解析を進めていき、解析結果の解釈まで踏み込みながら統計学の手法を習得してもらう。また一般的なデータ解析の統計ソフトの使い方も習得してもらう。修士論文作成に当たって、調査法によるデータ収集をするのであれば必要不可欠な科目となる。なお授業では、パーソナリティ特性に関する調査、ストレスに関する調査で実際に得られたデータを用いることにする。

講義のすすめ方：パソコンの画面をスクリーンに映しながら、実際の調査で得られたデータを解析ソフトを用いて解析していき、統計学、さらにはデータ解析のテクニックを習得してもらう。

到達目標：データ解析の意義を理解する。

参考文献：教科書を含む

鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤順編著『心理学マニュアル質問紙法』北大路書房，1998年  
古谷野亘・長田久雄著『実証研究の手引き：調査と実験の進め方・まとめ方』ワールドプランニング，1992年

成績評価の方法：授業中の様子とレポートに基づいて評価する。

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	4/19	木	16:10~17:35	坂田 成輝	オリエンテーション
2コマ	4/26	木	16:10~17:35	坂田 成輝	実証研究とその手順
3コマ	5/10	木	16:10~17:35	坂田 成輝	調査法の特徴
4~7コマ	※	木	16:10~17:35	坂田 成輝	調査法の手続き①~④
8~12コマ	※	木	16:10~17:35	坂田 成輝	調査データⅠ（パーソナリティ特性）の解析①~⑤
13~20コマ	※	木	16:10~17:35	坂田 成輝	調査データⅡ（ストレス）の解析①~⑧
21~28コマ	※	木	16:10~17:35	坂田 成輝	調査データⅢ（ストレス）の解析①~⑧
29コマ	1/10	木	16:10~17:35	坂田 成輝	まとめ
30コマ	1/17	木	16:10~17:35	坂田 成輝	まとめ

※日程表（すべて木曜日 16:10~17:35）

4コマ~	7コマ	5/17	5/24	5/31	6/7				
8コマ~	12コマ	6/14	6/21	6/28	7/5	7/12			
13コマ~	20コマ	7/19	9/6	9/13	10/4	10/11	10/18	10/25	11/1
21コマ~	28コマ	11/8	11/15	11/22	11/29	12/6	12/13	12/20	12/27

科目担当者：○松寄 英士

講義概要：心に問題を抱える人たちに対して、あるいは健康な状態を維持するために臨床心理学とそれに関連する心理学の領域が、どのような役割を担ってきているかについて、その歴史、基礎的な考え方、心理臨床におけるアセスメント、さまざまな立場の理論、また臨床心理学を取り囲む最近の幅広い心理学的視点の概要と受講者による講義に関連する自己学習内容の発表をもとにした演習を行う。

到達目標：臨床心理学の基礎となるさまざまな考え方と臨床心理学を取り囲む最近の幅広い心理学的視点を理解できる。そして、そのさまざまなアプローチの特徴を理解し、看護実践への心理学的知見を応用することの可能性について言及できる。

講義のすすめ方：前半は担当教員からの解説が中心となるが、後半からは関連するテーマに沿った受講者のプレゼンテーションを基に受講者全員で討論し、看護実践に臨床心理学、健康心理学などの心理学的知見と実践がどのように応用できるのかを考えていきたい。

参考文献：教科書は使用しない。授業時必要な資料は毎回配布する。

参考文献等については適時紹介していく。

成績評価の方法：授業への参加態度とプレゼンテーションの内容に基づいて総合的に評価する。

## 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	6/11	月	10:35~12:00	松寄 英士	心理学の歴史と臨床心理学
2コマ	6/18	月	9:00~10:25	松寄 英士	臨床心理学の基礎となる理論
3コマ	6/18	月	10:35~12:00	松寄 英士	心理臨床にとっての異常心理学
4コマ	6/25	月	9:00~10:25	松寄 英士	臨床心理学的アセスメント(1)
5コマ	6/25	月	10:35~12:00	松寄 英士	臨床心理学的アセスメント(2)
6コマ	7/2	月	9:00~10:25	松寄 英士	精神分析的アプローチ
7コマ	7/2	月	10:35~12:00	松寄 英士	認知行動療法的アプローチ
8コマ	7/9	月	9:00~10:25	松寄 英士	人間心理学的、実存主義的アプローチ
9コマ	7/9	月	10:35~12:00	松寄 英士	ナラティブアプローチ
10コマ	7/23	月	9:00~10:25	松寄 英士	臨床心理学と健康心理学
11コマ	7/23	月	10:35~12:00	松寄 英士	健康問題への近年の心理学的知見
12コマ	9/3	月	9:00~10:25	松寄 英士	プレゼンテーションと討論
13コマ	9/3	月	10:35~12:00	松寄 英士	〃
14コマ	9/10	月	9:00~10:25	松寄 英士	〃
15コマ	9/10	月	10:35~12:00	松寄 英士	〃

**\*一部講義日程が変更になる可能性があります。予めご了承ください。**

科目名 研究方法（生体・生理学的研究）

（2単位 15コマ）

科目担当者：○神山 暢夫、伊東 栄子

講義概要：＊生理学的研究方法（神山）

神経細胞の生理機能と形態の関連性

実験研究を遂行する方法論の検討

＊生化学的研究方法（伊東）

英文論文を読み、研究の目的に必要であった方法に注目し、原理を理解する。

得られた結果から述べられている考察の妥当性を検討する。

到達目標：・機能形態学および生化学的研究方法論の基本概念を理解する

・実験研究における英文論文の読解力を習得する

・実験研究を遂行するために必要な基礎的知識を習得する

講義のすすめ方：ゼミ形式（日程は応相談）

参考文献：なし

成績評価の方法：講義への出席・参加度およびレポートにより総合的に評価する

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	10/5	金	9:00～10:25	神山 暢夫	研究方法論の概要
2コマ	10/12	金	9:00～10:25	神山 暢夫	神経細胞の機能の解析 1
3コマ	10/19	金	9:00～10:25	神山 暢夫	神経細胞の機能の解析 2
4コマ	10/26	金	9:00～10:25	神山 暢夫	神経細胞の形態の解析 1
5コマ	11/2	金	9:00～10:25	神山 暢夫	神経細胞の形態の解析 2
6コマ	11/9	金	9:00～10:25	神山 暢夫	実験研究の概念 1
7コマ	11/16	金	9:00～10:25	神山 暢夫	実験研究の概念 2
8コマ	11/30	金	9:00～10:25	神山 暢夫	まとめ
9コマ	12/7	金	9:00～10:25	伊東 栄子	英文論文抄読の意義
10コマ	12/14	金	9:00～10:25	伊東 栄子	論文抄読 1
11コマ	12/21	金	9:00～10:25	伊東 栄子	論文抄読 2
12コマ	12/28	金	9:00～10:25	伊東 栄子	論文抄読 3
13コマ	1/11	金	9:00～10:25	伊東 栄子	論文抄読 4
14コマ	1/18	金	9:00～10:25	伊東 栄子	論文抄読 5
15コマ	1/25	金	9:00～10:25	伊東 栄子	まとめ

＊受講生と相談の上、上記講義日程を変更する場合がありますので予めご了承下さい。

科目担当者：○荒井 純子：内科学「食品中のトランス脂肪酸と動脈硬化の関連について」

尾崎 恭子：麻酔科学 「周術期の止血機能と血栓予防：予防ガイドライン」

講義概要：（荒井）適切な食事や栄養は疾患の予後を左右する大きな要因であり特に看護の中でも重要な部分を占める分野である。また、様々な疾患において近年動脈硬化が予後を左右する要因となっている事は明らかである。今回は食事脂質の中のトランス脂肪酸と動脈硬化性疾患との関連について検討する。  
（尾崎）深部静脈血栓症、さらにそれに起因する静脈血栓塞栓症はいったん発生すると重篤な結果を引き起こすことがあり、予防が大切である。周術期の止血機能と血栓の病態について理解し、さらに周術期肺静脈血栓塞栓症の予防の実際について検討する。

到達目標：（荒井）内科学「食品中のトランス脂肪酸と動脈硬化の関連について」

1. トランス脂肪酸とその特徴について説明できる。
2. 動脈硬化について臨床的に理解し説明できる。
3. トランス脂肪酸と動脈硬化疾患の関連について論ずる事ができる。

（尾崎）外科学「周術期の止血機能と血栓予防：予防ガイドライン」

1. 周術期の止血機能と血栓発生について理解する。
2. エビデンスに基づいたガイドラインについて理解し問題点を提示できる。
3. 周術期肺静脈血栓塞栓症の予防について説明ができる。

講義のすすめ方：（荒井）1）トランス脂肪酸とは

- 2）トランス脂肪酸と動脈硬化性疾患について
- 3）動脈硬化性疾患の予防と脂肪酸の摂取量について

（尾崎）1）周術期の止血機能と血栓の病態

- 2）予防ガイドライン
- 3）産科領域、整形外科領域における静脈血栓塞栓症の予防

参考文献：（荒井）：新しい臨床栄養学 5版 後藤昌義、滝下修一）南江堂

その他、最新資料や文献を検索することから開始する。

（尾崎）：最新資料、文献を準備することから開始する。

成績評価の方法：授業への参加、プレゼンテーションの準備、内容、レポートなどで評価する。

講義日程 （注1）教員・受講生との相談の上、上記日程を変更することがある。

（注2）履修希望者は履修登録前に科目担当者と相談すること。

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	10/5	金	19:20~20:45	荒井 純子 尾崎 恭子	オリエンテーション
2コマ	10/12	金	19:20~20:45	尾崎 恭子	静脈血栓塞栓症とは？（周術期の止血機能と血栓発生） 予防ガイドラインについて
3コマ	10/19	金	19:20~20:45	荒井 純子	トランス脂肪酸とは。
4コマ	10/26	金	19:20~20:45	尾崎 恭子	産科領域における静脈血栓塞栓症の予防について
5コマ	11/2	金	19:20~20:45	荒井 純子	トランス脂肪酸と動脈硬化性疾患
6コマ	11/9	金	19:20~20:45	荒井 純子 尾崎 恭子	履修者と相談により内容を決定する。
7コマ	11/16	金	19:20~20:45		
8コマ	11/30	金	19:20~20:45		
9コマ	12/7	金	19:20~20:45		
10コマ	12/14	金	19:20~20:45		
11コマ	12/21	金	19:20~20:45		
12コマ	12/28	金	19:20~20:45		
13コマ	1/11	金	19:20~20:45		
14コマ	1/18	金	19:20~20:45		
15コマ	1/25	金	19:20~20:45		

科目担当者：○伊藤 景一、岡野 光夫、伊関 洋、齋藤 加代子、大和 雅之、清水 達也、  
村垣 善浩、大橋 一夫、秋山 義勝、中山 正道、岩田 隆紀、小林 純、長瀬 健一  
武岡 真司、武田 直也

講義概要：近年、工学的手法やテクノロジーを医学に持ち込み、従来できなかった最先端医療が次々に実現されることとなった。本科目は幅広いテクノロジーと医学の融合によって誕生する最先端医療について解説する。特に、再生医療の発展はめざましく、薬物治療とは異なる効果が期待でき、この治療法について移植法との相違について明確にしなが現状と将来について展望する。また遺伝子診断や画像監視下手術、ロボット手術についても最近の進歩を解説し、今後、大きく変わる最先端医療全体の流れと、診断、治療と手術の将来について講義する。

到達目標：先端医療技術に関して具体的な例を挙げて説明できる。

講義のすすめ方：コンピュータを利用したプレゼンテーションと討論により行う。

参考文献：細胞の分子生物学（第5版）ブルース アルバーツ（ニュートンプレス）  
再生医療生物学（現代生物科学入門7）阿形清和他（岩波書店）  
バイオマテリアルの基礎 日本バイオマテリアル学会監修（日本医学館）  
ドラッグデリバリーシステムDDS 技術の新たな展開とその活用法 田畑泰彦編（メディカル）  
遺伝医学への招待（改訂第4版）新川詔夫・阿部京子（南光堂）  
生命倫理と医療倫理 伏木信次編（金芳堂）  
特集「先端医療と看護」臨床看護2006年7月号（第32巻第8号）（へるす出版）

成績評価の方法：レポート、講義への出欠

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	10/2	火	18:15～19:45	伊藤 景一	オリエンテーション
2コマ	10/9	火	18:15～19:45	岡野 光夫	再生医療総論、細胞シート工学総論
3コマ	10/16	火	18:15～19:45	秋山 義勝	バイオ界面の構造
4コマ	10/23	火	18:15～19:45	長瀬 健一	バイオセパレーション
5コマ	10/30	火	18:15～19:45	小林 純	バイオマテリアル研究開発の現状
6コマ	11/6	火	18:15～19:45	武田 直也	細胞工学への微細加工技術応用
7コマ	11/13	火	18:15～19:45	大和 雅之	体性幹細胞・ES細胞・iPS細胞、軟組織再生医療
8コマ	11/20	火	18:15～19:45	清水 達也	循環器分野の再生医療、心筋再生治療
9コマ	11/27	火	18:15～19:45	大橋 一夫	細胞治療による肝/膵疾患治療 up-to-date
10コマ	12/4	火	18:15～19:45	岩田 隆紀	歯科分野の再生治療
11コマ	12/11	火	18:15～19:45	伊関 洋	インテリジェント手術室、医療機器開発概論
12コマ	12/18	火	18:15～19:45	中山 正道	DDS 概論
13コマ	1/7	月	18:15～19:45	村垣 善浩	情報誘導手術、ロボット手術
14コマ	1/15	火	18:15～19:45	齋藤加代子	遺伝子医療
15コマ	1/22	火	18:15～19:45	武岡 真司	バイオマテリアル：創傷被覆材・癒着防止材・薬物担体

\*13コマ目（担当 村垣先生）につきましては、1月7日（月）となりますのでご注意ください。

科目担当者：○木村 みどり、河村 ナディレ

講義概要：【目的】 国際学会における英語による口頭発表の方法を理解する

到達目標：1.英語論文攻略のためのリーディング・スキルを身につける。

2.口頭発表のための英文アブストラクトを書くための、ライティング・スキルを身につける。

3.英語によるプレゼンテーション・スキル、コミュニケーション・スキルを身につける。

講義のすすめ方：

1. 授業は全て英語で行う。

2. やってきた課題をもとに、英語で発表したりディスカッションを行う。

3. 英語のネイティブの教師と日本人教師のチーム・ティーチングによるキメの細かい授業を行う。

4. 英文チェックは、eメールを中心とした指導に重点を置き、教室においては発表指導を中心に行う。

5. プレゼンテーションのスキルを向上させるために、必ず、同じ課題を2度発表する。指導を受けた後に再プレゼンテーションを行うことによって、自分の弱点を克服しスキルを向上させることができる。

「看護英語読解の15のポイント」メジカルビュー社 2005 教科書

「看護論文を英語で書く」 医学書院 2007 参考文献

その他、必要に応じて随時紹介する。

成績評価の方法：プレゼンテーションの上達度を成績として評価する

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	10/22	月	9:00~10:25	木村 みどり 河村ナディレ	英語による自己紹介 プレゼンの講評
2コマ	10/22	月	10:35~12:00	木村 みどり 河村ナディレ	講義：論文の Abstract を英語で発表する方法・評価について学ぶ
3コマ	10/29	月	9:00~10:25	木村 みどり 河村ナディレ	Unit 3 Abstract のプレゼン PowerPoint (PPT)と発表英文チェック
4コマ	10/29	月	10:35~12:00	木村 みどり 河村ナディレ	論文の決まり文句や表現を学ぶ (1)
5コマ	11/5	月	9:00~10:25	木村 みどり 河村ナディレ	Unit 3 再 Presentation プレゼンの講評 論文の決まり文句や表現を学ぶ (2)
6コマ	11/5	月	10:35~12:00	木村 みどり 河村ナディレ	Unit 5 Abstract プレゼン PowerPoint (PPT)と発表英文チェック
7コマ	11/12	月	9:00~10:25	木村 みどり 河村ナディレ	Unit 5 再プレゼン プレゼンの講評
8コマ	11/12	月	10:35~12:00	木村 みどり 河村ナディレ	Unit 8: プレゼン Abstract の PPT と英文チェック 評価論文の決まり文句や表現を学ぶ (2)
9コマ	11/26	月	9:00~10:25	木村 みどり 河村ナディレ	Unit 8 再プレゼン プレゼンの講評
10コマ	11/26	月	10:35~12:00	木村 みどり 河村ナディレ	Unit 10: 長い論文を要約するコツを学ぶ。(1) Unit 10 プレゼン Abstract の PPT と英文チェック
11コマ	12/3	月	9:00~10:25	木村 みどり 河村ナディレ	Unit 10 再 Presentation プレゼンへのコメント、
12コマ	12/3	月	10:35~12:00	木村 みどり 河村ナディレ	Unit 16 プレゼン Abstract の PPT と英文チェック Abstract の PPT と英文チェック(e-Learning)
13コマ	1/8	月	9:00~10:25	木村 みどり 河村ナディレ	Unit 16 再 Presentation、プレゼンの講評
14コマ	1/8	月	10:35~12:00	木村 みどり 河村ナディレ	長い論文を要約するコツを学ぶ。(2)
15コマ	1/22	月	9:00~10:25	木村 みどり 河村ナディレ	総復習

科目責任者：○丸 義朗、荒井 純子、日沼 千尋、水野 敏子、尾崎 恭子、中村(平塚) 佐千枝、塚原 富士子、家口 勝昭、出口 敦子、富田 毅、瀧田 守親  
(辻脇 邦彦)

講義概要：対象者の健康問題に応じた薬物治療を薬力学的、薬物動態学的見地から理解した上で、専門看護師として、対象者の薬物治療の有効性と安全性を最大限に高め、最良の治療や症状緩和のケアの提供に参画するための知識、技術を習得する。

到達目標：1. 病態に応じた薬物治療の概要を理解する。  
2. 対象の年齢、個人、薬物による薬物動態の相違について理解する。  
3. 対象が安全で効果的に薬物療法を継続出来るための専門看護師としての支援を理解する。

講義の進め方：講義、課された課題を事前に学習して講義に望むこと

参考文献：1) 今井 正, 宮本 英七編 (2012) : 標準薬理学 第7版. 医学書院  
2) 遠藤 仁他著 (2005) : 医系薬理学 改訂第2版. 中外医学社  
3) 遠藤 政夫他編 (2005) : 医科薬理学 第4版. 南山堂

成績評価の方法：授業への参加状況と貢献度、レポートによって評価する。

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	9/28	金	16:10~17:35	丸 義朗 日沼 千尋	オリエンテーション・臨床薬理学総論 薬物の作用機序
2コマ	10/15	月	16:10~17:35	塚原富士子	薬効の個人差と対象別（高齢者、妊婦、小児など）の薬物動態
3コマ	10/22	月	16:10~17:35	出口 敦子	循環器作動薬
4コマ	10/29	月	16:10~17:35	富田 毅	神経作用薬1（自立神経作用薬・中枢神経作用薬）
5コマ	11/ 5	月	16:10~17:35	尾崎 恭子	神経作用薬2（鎮痛薬・麻酔薬）
6コマ	11/12	月	16:10~17:35	尾崎 恭子	神経作用薬3（鎮痛薬・麻酔薬）
7コマ	11/19	月	16:10~17:35	辻脇 邦彦	神経作用薬4（向精神薬）
8コマ	11/19	月	17:35~19:10	辻脇 邦彦	神経作用薬5（向精神薬を服用する患者の薬物管理と生活調整）
9コマ	11/22	木	17:35~19:10	丸 義朗	消化器系作用薬（便秘、下痢、嘔吐に対する薬物療法）
10コマ	11/26	月	16:10~17:35	瀧田 守親	抗菌薬・抗炎症薬（炎症、感染症に対する薬物療法）
11コマ	12/ 3	月	16:10~17:35	中村(平塚) 佐千枝	抗悪性腫瘍薬1（悪性腫瘍に対する薬物療法・免疫療法）
12コマ	12/ 3	月	17:35~19:10	中村(平塚) 佐千枝	抗悪性腫瘍薬2（悪性腫瘍に対する薬物療法・免疫療法）
13コマ	12/10	月	16:10~17:35	家口 勝昭	内分泌・代謝系作用薬
14コマ	12/17	月	16:10~17:35	荒井 純子	脱水、電解質異常、栄養障害に対する薬物療法
15コマ	1/21	月	16:10~17:35	水野 敏子	薬物療法を受ける高齢者の薬物管理と生活調整

\*授業日時、講義場所等変更になることがありますので掲示等により確認してください。

科目名 フィジカルアセスメント☆ (2単位 23コマ)

科目担当者：○下平 唯子、金子 眞理子、原 三紀子、落合 亮太、嵐 弘美、益田 美津美、原 美鈴、三浦 美奈子、小林 礼実、松岡 志帆、原沢 のぞみ、岡田 芳和、萩原 誠久、玉置 淳、齋藤 登、比嘉 隆、成宮 孝祐

講義概要：複雑な健康問題をもった対象の身体・精神状況を診査し、日常生活のアセスメントを含んだ臨床判断を行うために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を習得する。

到達目標：1)フィジカルアセスメントの概念について説明できる。

2)下記のフィジカルアセスメントに必要な診査を実施できる。【呼吸器系】【循環器系】【消化器系】【脳神経系】【精神機能】を含む。

3)フィジカルアセスメントの知識と技術を用いて複雑な健康問題をもった対象の身体・精神状況を診査し、日常生活のアセスメントを含む臨床判断ができる。

講義のすすめ方：「呼吸器系」「循環器系」「消化器系」「脳神経系」「精神機能」の5つの单元ごとに講義・技術演習・臨床判断演習を行い、最後に統合演習において複雑な健康問題をもった対象のフィジカルイグザミネーションを統合し、健康問題を把握する。

- 参考文献：1) 福井次矢、奈良信雄編：内科診断学、医学書院、2008年 2) Steven McGee：マクギーの身体診断学、診断と治療社、2009年  
3) リン S. ビックリー、他著：ベイツ診察法、メディカル・サイエンス・インターナショナル、2008  
4) 古川壽亮、神庭重信編集：精神科診察診断学、医学書院、2003年 5) ナーシンググラフィカ⑩ ヘルシア出版、2004年  
6) 小野田千枝子監修：実践！フィジカル・アセスメント、金原出版、2001年 7) 横山美穂編集：ヘルシア出版、ヌーヴェルヒロカワ、2008年  
8) Carolyn Jarvis, C. : Physical Examination & Health Assessment (5th Ed.). Saunders. (2008)

成績評価の方法：出席、講義・演習参加状況、レポートから評価する。

レポート課題【専門領域における自己の臨床判断能力の現状と今後の課題】提出期限：2012年10月2日(火)17時 提出先：学務部前レポートボックス

演習場所：スキルスラボ（医療系総合教育センター所管、本院1号館3階と地下）

1. スキルスラボ利用について：授業以外の利用は原則予約制です。施設・設備が空いていれば、比較的自由に使用でき、フィジカルアセスメントに必要な技術を繰り返し修得することができます。
2. 自己学習時の連絡先：専任事務の鹿野朝香さんまで 内線（31331）
3. 使用できるシミュレータ機器：レールダル社：ハートシム×2体（ACLSシミュレータ）、高研：セーブマン×1体（ACLSシミュレータ）、COVIDIEN：ベンチレータ、京都科学：心臓病診察シミュレータ“イチロー”×2体、京都科学：呼吸音聴診シミュレータ“ラング”×2体、レールダル：SimMam 3G（高性能 ACLSシミュレータ）、レールダル：SimBaby（ACLSシミュレータ）

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	8/2	木	13:00~14:25	下平 唯子 益田美津美	<b>I. フィジカルアセスメント概論</b> ：高度実践看護におけるフィジカルアセスメントとは（知識・技能・態度を含む）健康歴・病歴聴取法・面接法、日常生活健康評価
2コマ	8/2	木	14:35~16:00	金子眞理子 益田美津美	フィジカルアセスメント演習 病歴聴取・面接法の実際、日常生活のアセスメント
3コマ	8/6	月	10:35~12:00	嵐 弘美	<b>II. 精神機能の診査とアセスメント</b> 精神機能とは、精神状態のアセスメント/日常生活のアセスメントと臨床判断
4~5コマ	8/6	月	13:00~16:00	嵐 弘美	【演習】アセスメントの実際 シミュレーションによる技術演習（精神科診断面接）
6コマ	8/27	月	9:00~10:25	岡田 芳和	<b>III 脳神経系の診査とアセスメント</b> 特徴的な症状を有する患者に対するアセスメントと臨床判断：臨床事例を通してアセスメントの視点を深める（意識障害、運動障害・脳神経障害等）
7コマ	8/27	月	10:25~12:00	原 三紀子 原沢のぞみ	脳・神経機能とは（機能局在・脳神経機能） 脳・神経障害による日常生活への影響/日常生活のアセスメントと臨床判断
8~9コマ	8/27	月	13:00~16:00	比嘉 隆 原 三紀子 原沢のぞみ	【演習】アセスメントの実際 （意識障害、認知・注意障害、運動障害・脳神経障害等）
10コマ	8月下旬			落合 亮太 松岡 志帆 小林 礼実	<b>IV 呼吸器系の診査とアセスメント</b> 解剖生理、病態などに関する基本的知識/ 基本情報を得る系統的インタビュー（病歴、自覚症状）/ 診査に必要なフィジカルエクザミネーション
11~12コマ	8月下旬				【演習】呼吸器系フィジカルイグザミネーション技術の習得
13コマ	8/28	火	午前（未定）	玉置 淳	特徴的な症状を有する臨床事例を通してアセスメントの視点を検討する（呼吸困難、他）。
14~15コマ	8/30	木	9:00~12:00	原 美鈴 三浦美奈子	<b>V. 消化器系の診査とアセスメント</b> 消化器系の診査とアセスメントの基本 ・消化器系の病歴、自覚症状の把握/・消化器系の他覚症状の把握と基本技術
16コマ			13:00~14:25	成宮 孝祐	【演習】消化器系の基本的なフィジカルイグザミネーション技術の実際
17コマ			14:35~16:00	成宮 孝祐 原 美鈴 三浦美奈子	【講義】特徴的な症状を有する患者に対するアセスメントと臨床判断（急性腹症を中心としたフィジカルアセスメント） 【演習】急性腹症の患者に対する診査技術の実際
18コマ	8月下旬			落合亮太 松岡志帆 小林礼実	<b>VI循環器系の診査とアセスメント</b> 循環器に関する解剖生理、病態などに関する基本的知識/ 基本情報を得る系統的インタビュー（病歴、自覚症状）/ 診査に必要なフィジカルエクザミネーション
19~20コマ	8月下旬				【演習】循環器系フィジカルイグザミネーション技術の習得
21コマ	9/7	金	9:00~10:25	萩原 誠久	特徴的な症状を有する臨床事例を通してアセスメントの視点を検討する。（胸痛、不整脈、高血圧、心不全等）*心研大会議室にて行います。
22コマ	9/21	金	14:35~17:35	齋藤 登	<b>VII. フィジカルアセスメントの統合</b> 客観的所見と主観的体験を含めたアセスメントと統合的臨床判断
23コマ	9/21	金			臨床所見と統合的臨床判断の実際

科目担当者：○荒井 純子、尾崎 恭子、金子 眞理子

講義概要：身体が恒常性を維持する機能の基礎知識を理解した上で、症例をもとに異常をきたす原因、経過、主な症状、治療・処置について学び、今後専門看護師に求められる対象の病態生理学的変化を解釈、判断、実践するために必要な知識と技術について教授する。

- 到達目標：1) それぞれの形態を理解し、基本的機能について述べることができる。  
 2) 機能異常をきたした疾患の病態生理学的変化を理解し、判断することができる。  
 3) 診断に必要な検査とその意味について知識をもとに説明することができる。  
 4) それぞれの病態に対する治療並びに処置について説明し、実践に繋げることができる。

講義のすすめ方：演習・チュートリアル方式

参考文献：1) Baillire Tindall. 新看護生理学テキスト、深井喜代子監修（2006）南江堂、東京  
 2) 高久史磨監修(2008): 診察診断学(7版), 医学書院, 東京

成績評価の方法：演習・チュートリアルへの参加状況と貢献度、レポートによって評価する。

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	10/5	金	17:45～19:10	荒井 純子	総論
2コマ	10/12	金	17:45～19:10	尾崎 恭子	呼吸障害の原因とメカニズム 1)
3コマ	10/19	金	17:45～19:10		呼吸障害の原因とメカニズム 2)
4コマ	10/26	金	17:45～19:10		循環障害の原因とメカニズム 1)
5コマ	11/2	金	17:45～19:10		循環障害の原因とメカニズム 2)
6コマ	11/9	金	17:45～19:10		消化・吸収機能障害の原因とメカニズム 1)
7コマ	11/16	金	17:45～19:10		消化・吸収機能障害の原因とメカニズム 2)
8コマ	11/30	金	17:45～19:10		腎機能障害の原因とメカニズム
9コマ	12/7	金	17:45～19:10		代謝・調節機能障害の原因とメカニズム 1)
10コマ	12/14	金	17:45～19:10		代謝・調節機能障害の原因とメカニズム 2)
11コマ	12/21	金	17:45～19:10		免疫機能障害の原因とメカニズム
12コマ	12/28	金	17:45～19:10		脳・神経機能障害の原因とメカニズム 1)
13コマ	1/11	金	17:45～19:10		脳・神経機能障害の原因とメカニズム 2)
14コマ	1/18	金	17:45～19:10		感覚器の機能障害の原因とメカニズム
15コマ	1/25	金	17:45～19:10		荒井 純子 金子眞理子

**\*上記スケジュールは受講生との相談の上、変更となることがあります。履修者は初回講義に必ず出席してください。**

科目担当者：○山元 由美子、見城 道子

講義概要：看護や看護技術の歴史、最新の看護技術の研究を踏まえて看護の実践や教育の場における看護技術の本質・看護技術における倫理・看護技術教育・看護技術の方法について探求する能力を養う。看護や看護技術の歴史から看護技術教育について探求する。

到達目標：1. 看護や看護技術の歴史から看護技術教育のあり方について理解する。  
2. 看護技術の要素について探求する。  
3. 看護倫理を基盤に看護技術の教育方法について検討する。

講義の進め方：文献購読、プレゼンテーション、講義など

参考図書：必要に応じ配布、指示する

成績評価：プレゼンテーションの内容、授業参加状況、レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2 コマ				山元由美子	科目ガイダンス 看護技術の歴史的考察
3・4 コマ				山元由美子	看護技術の歴史的背景から看護技術の教育のあり方
5・6 コマ				見城 道子	看護技術の構造化 原理原則の意味と看護行為の関係
7・8 コマ				山元由美子	看護技術と倫理、技術と哲学
9 コマ					
10・11 コマ				山元由美子	看護技術の教育のあり方 事例検討（プレゼンテーション）
12・13 コマ				見城 道子	看護技術の構造化 ひとつの技術を取り上げて検討する（プレゼンテーション）
14 コマ				見城 道子	看護技術の構造化 まとめ
15 コマ				山元由美子	まとめ

科目担当者：○山元 由美子、加藤 京里

講義概要：看護技術における安楽に焦点をあて、安楽の概念、安楽と安全の関連性、安全を基盤とした安楽の研究手法、対象と安楽の援助のあり方について探求する。

到達目標：1.日本文化における「安楽」の使われ方や概念について説明する。  
2.看護技術における「安楽」の研究の動向や研究方法について理解を深める。  
3.安全と安楽の観点から看護技術の援助の方法について探求する。

講義の進め方：文献購読、プレゼンテーション、講義など

参考図書：コルカバ 看護理論 Comfort、必要時

成績評価：プレゼンテーションの内容、授業参加状況、レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2 コマ				山元由美子	科目ガイダンス 日本文化および看護における「安楽」の用語の使われ方と概念
3・4 コマ				山元由美子	「安楽」の研究の動向
5・6 コマ				山元由美子	「安楽」の研究手法について
7・8 コマ				加藤 京里	「安楽」の研究手法：①生理学的方法
9・10 コマ				特別講師 (予定)	「安楽」の研究手法：②用具の開発
11・12 コマ				特別講師 (予定)	「安楽」の研究手法：③体位の工夫
13・14 コマ					
15 コマ				山元由美子	まとめ

\*特別講義日程については受講生との相談の上、日程を決定いたします。

科目担当者名：○山元 由美子、守屋 治代  
(青木 芳恵)

講義概要：看護学の主要概念を身体・心理・社会・スピリチュアルな側面を含むホリスティックな視点から捉え直す。さらに、ホリスティックな看護ケアのあり方を探求する。

- 到達目標：1. ホリスティック・ナーシングを構成する主要概念について検討する。  
2. ホリスティック・ナーシングが目指すところを言語化する。  
3. ホリスティック・ナーシングを成立させるための具体的方法を検討する。

講義のすすめ方：講義、文献講読、学生によるプレゼンテーション、体験ワーク

教科書：B.M. Dossey, L. Keegan, C.E. Guzzetta(2005): Pocket Guide for Holistic Nursing / 守田美奈子, 川原由佳里監修(2006): ホリスティック・ナーシングー全人的な癒しへの看護アプローチ, エルゼビア・ジャパン

参考文献：吉田敦彦：ホリスティック教育論、日本評論社、1999  
Jean Watson (川野、長谷川訳)：ワトソン 21世紀の看護論、医学書院、2005  
Mariah Snyder 他編集 (野島、富川監訳)：心とからだの調和を生むケア、へるす出版、1999  
他、適宜提示する

成績評価の方法：プレゼンテーション、レポート内容による

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ				山元由美子 守屋 治代	ガイダンス ホーリズムの概念
2・3コマ				守屋 治代	ホリスティック・ナーシングの主要概念
4・5コマ				守屋 治代	治癒系、自然治癒力
6・7コマ					
8～11コマ				青木 芳恵	ホリスティックな人間の捉え方の実際 エネルギーワーク、セルフケア
12・13コマ				守屋 治代	ホリスティックな看護技術の実際
14・15コマ					

科目担当者：○山元 由美子、菊池 昭江

講義概要：看護技術および看護技術教育における指導過程に焦点を当てて、指導計画、実施、評価に関する理論を学習し、様々な対象への効果的な看護技術教育のあり方を探求する。

到達目標：

1. 看護・教育における教育目標、教育評価の意義について理解を深める。
2. 看護・教育における授業設計の意義について理解を深める。
3. 看護活動における教育・指導のプロセスと指導者の役割について理解を深める。
4. 事例に沿った教育計画案を作成し、教育・指導の効果的方法について検討する。

講義のすすめ方：講義、学生によるプレゼンテーション

参考文献：適宜、紹介していく。

成績評価の方法：プレゼンテーション、レポートの内容

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ				山元由美子 菊池 昭江	ガイダンス
2コマ				菊池 昭江	看護・教育における教育目標、教育評価
3コマ					
4コマ				菊池 昭江	看護・教育における授業設計
5コマ					
6コマ				菊池 昭江	グループ討議
7コマ					事例に対する指導計画の立案
8コマ				菊池 昭江	グループ討議 事例に対する指導計画の立案
9コマ					
10コマ					
11コマ				菊池 昭江	グループ討議 ロールプレイによる指導の実施、評価
12コマ					
13コマ				菊池 昭江	まとめ
14コマ					
15コマ					

科目担当者：○山元 由美子、守屋 治代、菊池 昭江、見城 道子、加藤 京里

講義概要：看護技術にかかわる自身の事例を検討し、看護技術教育の理論化や看護実践能力を向上させる。

- 到達目標：1. 看護技術の具体的な方法を演習,VTR教材により探究する。  
 2. 看護技術に関する自身の看護実践事例を振り返り、検討材料として提示する。  
 3. 臨床場面における看護技術の現状の問題を把握し、具体的アプローチについて説明する。

参考図書：必要時提示する

成績評価の方法：プレゼンテーションの内容、授業参加状況、レポート

講義日程：

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～2コマ				山元由美子	オリエンテーション 各研究課題の提示
3～8コマ				山元由美子 見城 道子	看護実践事例の分析 VTRを用いて
9～12コマ				山元由美子 守屋 治代 菊池 昭江 見城 道子	看護実践事例の検討(自己分析)
13～16コマ				山元由美子 守屋 治代 菊池 昭江 見城 道子	看護実践事例の検討
17～26コマ				山元由美子 守屋 治代	学生の課題にもとづいた演習及び フィールドワーク
27～30コマ				菊池 昭江 見城 道子 加藤 京里	プレゼンテーションと討議

\*講義日程については受講生との相談の上、日程を決定いたします。

科目担当者：○山元 由美子、守屋 治代、菊池 昭江

講義概要：看護技術の指導案の作成・実践・評価を行ない、看護技術教育のあり方についての方向性を探る。

到達目標：1.特論Ⅰ～Ⅳにおいて検討した各自のテーマについて、看護技術の指導案を作成する  
2 作成した看護技術の指導案に基づき実践の場で実施し、評価する  
3.今までのことを踏まえ、看護技術教育のあり方について検討する

講義のすすめ方：A：学内演習及びフィールドワーク

B：施設演習、学内演習

参考文献：別途指示する

成績評価の方法：プレゼンテーションの内容、授業参加状況、レポート

講義日程：

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～5 コマ				山元由美子 守屋 治代 菊池 昭江	オリエンテーション 各自のテーマに対するプレゼンテーション (準備)
6～25 コマ				山元由美子 守屋 治代 菊池 昭江	施設演習
26～30 コマ				山元由美子 守屋 治代 菊池 昭江	各自のテーマに対するプレゼンテーション
31～60 コマ				山元由美子 守屋 治代 菊池 昭江	総合ゼミ

\* 講義日程については受講生との相談の上、日程を決定いたします。

科目担当者：○山元 由美子

講義概要：学生個々の研究テーマに沿って具体的な方法論および研究内容に関する討議を通して、個々の研究テーマを極める。その過程を通して、自立して研究論文を作成し公表できる能力を習得する。

到達目標：1.研究テーマは文献やゼミでの検討などから研究テーマを見極める  
2.研究テーマに基づき研究計画の作成する  
3.研究計画を倫理委員会に申請し、承認を得る  
4.研究計画に沿って実施、修正する  
5.研究結果を論文としてまとめる  
6.研究の成果は公表する

講義のすすめ方：プレゼンテーション、ディスカッション等

参考文献：そのつど提示する

成績評価の方法：研究過程、到達度

指導日程（実施曜日・時間帯）：教員により別途指示する。

科目担当者：○佐藤 紀子、吉田 澄恵、草柳 かほる、山本 夕子

講義概要：実践科学である看護学の特徴を踏まえ、自分と他者とが関与する場において「聴くこと」「語ること」「対話すること」「省察すること」などを通して、その過程で創造される『知』について、理論的かつ実践的に探求する。

到達目標：

1. 「聴くこと」「話すこと」「対話すること」「省察すること」を哲学的な立場から理解する。
2. 「聴くこと」「話すこと」「対話すること」「省察すること」をとおして、実践科学である看護学における『知 knowledge の創造』について理解する。
3. 看護職者の生涯を通じた発達の可能性とその課題について探求する。

講義のすすめ方：学生による発表と討議を中心に進める。必要によって講義形式をとる。

参考文献：

- ・ 鷲田清一：聴くことのかー臨床哲学試論一、TBSブリタニカ、2002
- ・ 野口裕二：物語としてのケア、医学書院、2002
- ・ ドナルド・ショーン著、柳沢昌一監訳、省察的实践とは何か、鳳書房、2007
- ・ ドナルド・ショーン著、佐藤学訳：専門家の知恵、ゆみる出版、2001
- ・ 佐藤紀子：看護師の臨床の『知』－看護職生涯発達学の視点から－医学書院、2007

成績評価の方法：発表の準備度、討議への参加度、レポート

レポート課題「聴くこと、語ること、省察すること」 **締切平成 24年 9月 18日**

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～3コマ	4/16	月	13:00～17:30	佐藤 紀子 吉田 澄恵 草柳かほる 山本 夕子	看護職の生涯発達①②看護職と生涯発達
4・5コマ	5/7	月	13:00～16:00		看護職の生涯発達③④聴くこと／語ること
6・7コマ	5/21	月	13:00～16:00		看護職の生涯発達⑤⑥聴くこと／語ること
8・9コマ	6/4	月	13:00～16:00		看護職の生涯発達⑦⑧聴くこと／語ること
10・11コマ	6/18	月	13:00～16:00		看護職の生涯発達⑨⑩省察すること
12・13コマ	7/2	月	13:00～16:00		看護職の生涯発達⑪⑫省察すること
14・15コマ	9/14	金	13:00～16:00		看護職の生涯発達⑬⑭⑮省察すること 『知』の創造

科目担当者：○佐藤 紀子、吉田 澄恵、松寄 英士、原 美鈴

講義概要：質の高いケアの提供者を育成するという看護学の観点から、看護基礎教育と継続教育の有機  
 的かつ相補的統合を視野に入れながら、学習理論を基盤にして「成人教育（アンドラゴジー）」  
 「教育課程」「教育方法」「教育評価」「教育研究」に関する理論を学修し、さらに新規で独創  
 的な教育計画の開発・実施・評価の方法を探求する。

到達目標：

1. 看護基礎教育ならびに看護継続教育の基盤となる学習理論について理解する。
2. 看護基礎教育と看護継続教育の有機かつ相補的な統合の意義と可能性について理解する。
3. 看護基礎教育ならびに看護継続教育における新規で独創的な教育計画の開発・実施・評価の方法を  
探求する。

講義のすすめ方：学生による発表と討議を中心に進める。必要によって講義形式をとる。

参考文献：

- ・ Malcolm S.Knowles 著、堀薫夫訳：成人教育の現実的実践－ペタゴジーからアンドラゴジーへ、  
鳳書房、2002
- ・ Patricia Cranton 著、入江直子訳：おとなの学びを拓く、鳳書房、2002
- ・ ジーン・レイブ著、佐伯胖訳：状況に埋め込まれた学習－正統的周辺参加－、産業図書、1993
- ・ マリー・ミラー著、深谷計子訳：看護にいかすクリティカルシンキング、医学書院、2002
- ・ 杉森みど里、舟島なをみ著：看護教育学第4版、医学書院、2004
- ・ 小山真理子編集：看護教育のカリキュラム、医学書院、2000

成績評価の方法：発表の準備度、討議への参加度、レポート

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～3コマ	4/25	水	10:35～12:00 13:00～16:00	佐藤 紀子 吉田 澄恵	看護職生涯発達支援の教育論①②③
4・5コマ	5/11	金	13:00～16:00	原 美鈴	看護職生涯発達支援の教育論④⑤新人教育
6・7コマ	6/1	金	13:00～16:00	原 美鈴	看護職生涯発達支援の教育論⑥⑦新人教育
8・9コマ	6/8	金	13:00～16:00	松寄 英士	看護職生涯発達支援の教育論⑧⑨
10・11コマ	6/22	金	13:00～16:00	松寄 英士	看護職生涯発達支援の教育論⑩⑪
12・13コマ	7/6	金	13:00～16:00	松寄 英士	看護職生涯発達支援の教育論⑫⑬
14・15コマ	9/7	金	13:00～16:00	松寄 英士	看護職生涯発達支援の教育論⑭⑮

科目担当者：○佐藤 紀子、吉田 澄恵、原 三紀子、草柳 かほる  
（平林 明美）

講義概要：生涯発達理論を基盤とした個々の看護師の生涯発達を軸とし、「組織論」「変革理論」「キャリアデザイン／キャリアカウンセリング」等に関する理論の学修を通し、人を育てる組織の創造とその活用方法について探求する。さらに、看護職生涯発達学研究の方向性と方法について探究する。

到達目標：

1. 「組織論」「変革理論」「キャリアデザイン／キャリアカウンセリング」等の理論について理解する。
2. 「安全管理」に関する理論を学修し、そのうえで事故に遭遇した看護師の支援について理解する。
3. 人を育てる組織の創造とその活用方法について探求する。

講義のすすめ方：学生による発表と討議を中心に進める。必要によって講義形式をとる。一部外部特別講師による講義を含む。

参考文献：

- ・ P.Benner 著、井部俊子監訳：ベナー看護論新訳版、医学書院、2005
- ・ P.Benner 著、難波卓志訳：現象学的人間論と看護、医学書院、1999
- ・ P.Benner 著、井上智子監訳：看護ケアの臨床知、医学書院、2005
- ・ 高橋伸夫著、虚妄の成果主義、日経BP社、2004.
- ・ 佐藤紀子：変革期の婦長学、医学書院、1998
- ・ 岡本祐子：アイデンティティ 生涯発達の射程、ミネルバ書房、2002
- ・ エドガー シャイン著、二村敏子訳：キャリアダイナミックス、白桃書房、1999
- ・ ステファン・P・ロビンス著、高木晴夫訳：組織行動のマネジメント、ダイヤモンド社、1997
- ・ ユーリア・エンゲストローム著、山住勝広他訳、拡張による学習、新曜社、2007

成績評価の方法：発表の準備度、討議への参加度、レポート

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～3 コマ	6/25	月	13:00～17:30	佐藤 紀子 吉田 澄恵	個としての看護職と組織①②③
4・5 コマ	7/ 4	水	13:00～16:00	原 三紀子	個としての看護職と組織④⑤
6・7 コマ	7/23	月	13:00～16:00	草柳かほる	個としての看護職と組織⑥⑦
8・9 コマ	9/ 5	水	13:00～16:00	原 三紀子	個としての看護職と組織⑧⑨
10・11 コマ	9/10	金	13:00～16:00	草柳かほる	個としての看護職と組織⑩⑪
12・13 コマ	10/ 3	水	13:00～16:00	平林 明美	個としての看護職と組織⑫⑬
14・15 コマ	10/31	水	13:00～16:00	平林 明美	個としての看護職と組織⑭⑮

科目担当者：○吉田 澄恵、佐藤 紀子  
(佐藤 円、本多 康生)

講義概要：学内での演習を通して「聴くこと」「語ること」「省察すること」「異文化の理解」「フィールドワークの手法」を学修し、その後学生が選択したフィールドにおいて、インタビューを通して看護の『知』の創造のプロセスを実践的に探求する。

到達目標：1. 自身の課題に添って対象者を選択し、「聴くこと」「語ること」「省察すること」を実践的に理解する。  
2. 「聴くこと」の力、「語ること」によって形成される固有の世界を実践的に理解する。  
3. 異文化の理解について文化人類学の立場から理解する。  
4. フィールドワークの手法について、社会学の研究活動から理解する。  
5. フィールドワーク

講義のすすめ方：学内演習およびフィールドワーク、プレゼンテーション

参考文献：別途提示する

成績評価の方法：演習への参加度、フィールドワークの成果とプレゼンテーション

レポート：「知の創造－演習を通しての学び－」 締切 平成24年10月30日

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～4 コマ	6/13	水	9:00～16:00	吉田 澄恵 佐藤 紀子	学内演習「聴くこと」「語ること」「省察すること」
5～8 コマ	6/20	水	9:00～16:00	吉田 澄恵 佐藤 紀子	学内演習「聴くこと」「語ること」「省察すること」
9～11 コマ	6/27	水	13:00～17:30	吉田 澄恵 佐藤 紀子	学内演習「聴くこと」「語ること」「省察すること」
12～13 コマ	6/29	金	13:00～16:00	佐藤 円	異なる人種・民族の共生の可能性
14～17 コマ	7/4	水	9:00～16:00	吉田 澄恵 佐藤 紀子	学生の課題に基づいたフィールドワーク
18～19 コマ	7/11	水	9:00～12:00	本多 康生	社会学研究におけるフィールドワーク
20～21 コマ	7/11	水	13:00～16:00	吉田 澄恵 佐藤 紀子	学生の課題に基づいたフィールドワーク
22～25 コマ	7/18	水	9:00～16:00	吉田 澄恵 佐藤 紀子	学生の課題に基づいたフィールドワーク
26～29 コマ	7/25	水	9:00～16:00	吉田 澄恵 佐藤 紀子	学生の課題に基づいたフィールドワーク
30～33 コマ	9/12	水	9:00～16:00	吉田 澄恵 佐藤 紀子	学生の課題に基づいたフィールドワーク
34～37 コマ	9/19	水	9:00～16:00	吉田 澄恵 佐藤 紀子	学生の課題に基づいたフィールドワーク
38～41 コマ	9/26	水	9:00～16:00	吉田 澄恵 佐藤 紀子	学生の課題に基づいたフィールドワーク
41～45 コマ	10/17	水	9:00～16:00	吉田 澄恵 佐藤 紀子	プレゼンテーションと討議

科目名 看護職生涯発達学演習Ⅱ（看護職生涯発達支援プログラムの開発）（3単位 45コマ）

科目担当者：○吉田 澄恵、佐藤 紀子、山本 夕子、味木 由佳、三好 麻実子、香川 秀太

講義概要：学生が選択したテーマについて、その対象者の特性を踏まえた教育プログラムを作成し、実施、評価の過程を学修する。

到達目標：

1. 特定の状況にあると考えられる看護職者に焦点を当て、教育プログラムを作成することができる。
2. 作成したプログラムに基づき、研修を実践し評価することができる。
3. 以上の演習を通して「看護職の生涯発達支援プログラム」についてその可能性を述べることができる。
4. 看護職生涯発達学における質的研究の手法について実践的に理解する。

講義のすすめ方：学内演習およびフィールドワーク

参考文献：別途提示する

成績評価の方法：演習への参加度、フィールドワークの成果とプレゼンテーション

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～4 コマ	10/24	水	9:00～16:00	吉田 澄恵	看護職生涯発達学教育プログラムの作成
5～8 コマ	11/31	水	9:00～16:00	佐藤 紀子	看護職生涯発達学教育プログラムの作成
9～12 コマ	11/ 7	水	9:00～16:00	吉田 澄恵 佐藤 紀子 山本 夕子 味木 由佳 三好麻実子	看護職生涯発達学教育研究①
13～16 コマ	11/14	水	9:00～16:00	吉田 澄恵	フィールドワーク①
17～20 コマ	11/21	水	9:00～16:00	佐藤 紀子	フィールドワーク②
21～25 コマ	11/28	水	9:00～17:35		フィールドワーク③
26～29 コマ	12/12	水	9:00～16:00		フィールドワーク④
30～31 コマ	12/17	月	13:00～16:00	香川 秀太	看護職生涯発達学教育研究②
32～35 コマ	1/ 9	水	9:00～16:00	吉田 澄恵 佐藤 紀子	フィールドワーク⑤
36～37 コマ	1/14	月	13:00～16:00	香川 秀太	看護職生涯発達学教育研究③
38～41 コマ	1/23	水	9:00～16:00	佐藤 紀子 吉田 澄恵	フィールドワーク⑥
42～43 コマ	2/ 1	月	13:00～16:00	香川 秀太	看護職生涯発達学教育研究④
44～45 コマ	2/ 6	水	13:00～16:00	佐藤 紀子 吉田 澄恵	プレゼンテーションと討議

科目名 看護職生涯発達学特別研究

(8単位)

科目担当者：○佐藤 紀子、吉田 澄恵

講義概要：看護職生涯発達学特論および演習で学修した知見から特定のテーマを選択し、その研究過程を通して看護職生涯発達学に寄与する基礎的研究能力を養う。

到達目標：

1. 関心のある領域について自身の考えを論理的に記述し、先行研究をクリティークし、研究テーマを焦点化することができる。
2. 研究目的を記述し、目的を達成するための方法論を選択し、その根拠を記述することができる。
3. 研究計画書を書式に添い作成し、倫理委員会ならびに研究科委員会に提出し、審査を受ける。
4. 研究計画書に添い実施データ収集し、分析し、結果・考察を論理的に記述し、論文を完成させる。

講義のすすめ方：定期的なゼミおよび個人面接によって進める

参考文献：指定せず。

成績評価の方法：研究の過程での取り組みの状況および特別研究の達成度

日程（実施曜日・時間帯）

1年次：毎週火曜日 1限 (9:00～10:30) (1コマ) 通年

2年次：毎週火曜日 3～5限 (13:00～17:35) (3コマ) 通年

科目担当者：○下平 唯子、松寄、英士、益田 美津美

講義概要：クリティカルケア期にある患者および家族が体験する身体的および心理的变化について、人間の内的世界および人間存在の意味から考察し、強度のストレス状況下における心身の変化についての的確にアセスメントができ、必要な看護支援について学ぶ。

- 到達目標：1. 人間の内的世界、人間存在の意味、および自己概念について理解し、必要な支援のあり方について説明できる。  
 2. クリティカル期における心理的反応について理解し、必要な支援のあり方について説明できる。  
 3. クリティカル期における治療環境の特殊性について理解し、必要な支援のあり方について説明できる。  
 4. クリティカル期における患者および家族の体験（知覚および認知）について理解し、必要な支援のあり方について説明できる。  
 5. クリティカル期の集中治療下での自己概念の変化について理解し、必要な支援のあり方について説明できる。  
 6. クリティカル期における患者および家族のストレスとコーピングについて理解し、必要な支援のあり方について説明できる。

講義のすすめ方：講義、院生によるプレゼンテーション

参考文献：森二三男編：心理学 第2版 一基礎と応用、医歯薬出版、2002.

Hudak, Carolyn M. *et. al* (1998) : Critical Care Nursing; A Holistic Approach, p.3-66. Lippincott.

Urden, Linda D. *et. al* (2000) : Priorities in Critical Care Nursing, 4<sup>th</sup> ed., p.3-29, 33-101, Mosby.

他、別途提示

成績評価の方法：プレゼンテーション、参加度、レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2コマ	4/17	火	13:00～16:00	下平 唯子	クリティカルケア看護学概要
3～5コマ	4/24	火	13:00～17:35	下平 唯子	人間の内的世界、人間存在の意味、自己概念
6・7コマ	5/8	火	13:00～16:00	松寄 英士	クリティカル期における心理的反応①
8・9コマ	5/15	火	13:00～16:00	益田美津美	クリティカル期における医療環境の特殊性による患者および家族の体験（知覚・認知）
10・11コマ	5/22	火	13:00～16:00	松寄 英士	クリティカル期における心理的反応②
12・13コマ	6/12	火	13:00～16:00	益田美津美	クリティカル期の集中治療管理下での自己概念の変化
14・15コマ	6/19	火	13:00～16:00	下平 唯子	患者および家族のストレスとコーピング

科目名 クリティカルケア看護学特論Ⅱ（フィジカルアセスメント） （2単位 15コマ）

科目担当者：○下平 唯子、落合 亮太、小林 礼実、松岡 志帆

講義概要：クリティカルケア期における生理学的変化を理解し、人間の体位、姿勢、活動、および情動反応による生理・心理学的変化について、正常な状態と対比して異常な状態をアセスメントすることができ、根拠に基づいた看護介入のための基礎的知識を学ぶ。

- 到達目標：1. 人間の生体リズムと自律神経系、ホルモン調節機能、および免疫系の関連について理解し、集中治療を必要とする患者への影響について説明できる。  
 2. クリティカルケア期の体位・姿勢の変化で示される生理的变化に対する看護介入を理解する。  
 3. 日常生活行動(食事、排泄、洗髪、入浴など)で示される生理的变化と看護介入について説明できる。  
 4. 運動療法時における生理的变化および情動の変化に基づいた看護介入について説明できる。  
 5. 人間の行動についての行動科学および行動療法の理論について説明できる。  
 6. 危機的状況下における人間の反応と看護介入について説明できる。

講義のすすめ方：講義、院生によるプレゼンテーション

参考文献：

- 大塚邦明：病気になるための時間医学—生体時計の神秘を科学する、ミシマ社、2007。  
 寺町優子：心臓ナーシング、医学書院、1997。  
 寺町優子、井上智子、深谷智恵子編：クリティカルケア看護—理論と臨床への応用、日本看護協会出版会、2010。  
 坂野雄二：認知行動療法、日本評論社、1995。  
 Woods, S. L. et al. : Cardiac Nursing, J. B. Lippincott co., 2005.  
 Hudak, C. M. & Gallo, B. M. : Critical care Nursing, 2000.

成績評価の方法：プレゼンテーション、レポート、参加度

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2 コマ	4/12	木	13:00～16:00	下平 唯子	生体リズムと自律神経系、ホルモン調節機能、および免疫系の関連が集中治療を必要とする患者に及ぼす影響
3・4 コマ	4/26	木	13:00～16:00	下平 唯子	クリティカルケア期の体位・姿勢の変化で示される生理的变化に対する看護介入
5～7 コマ	5/10	木	13:00～17:35	落合 亮太	日常生活行動(食事、排泄、洗髪、入浴など)で示される生理的变化と看護介入
8～10 コマ	5/24	木	13:00～17:35	小林 礼実	運動療法時における生理的变化および情動の変化に基づいた看護介入
11・12 コマ	5/31	木	13:00～16:00	松岡 志帆	人間の行動についての行動科学および行動療法の理論
13～15 コマ	6/ 7	木	13:00～17:35	下平 唯子	危機的状況下における人間の反応と看護介入

科目担当者：○下平 唯子、萩原 誠久、小泉 雅子、佐藤 憲明

講義概要：クリティカル期における患者の呼吸、循環、代謝の変化に示された病態生理のアセスメントをすることができ、治療環境に応じた統合的な医学的知識を踏まえ、看護介入のための基礎的知識を学ぶ。

- 到達目標：1. 呼吸不全の病態生理を理解し、看護介入への適用について説明できる。  
 2. 循環不全の病態生理を理解し、看護介入への適用について説明できる。  
 3. 手術または外傷による生体侵襲の病態生理を理解し、看護介入への適用について説明できる。  
 4. 循環・水分・電解質を中心とする代謝異常の病態生理を理解し、看護介入への適用について説明できる。  
 5. 危機的状況下における脳神経異常の病態生理を理解し、看護介入への適用について説明できる。  
 6. 急性および慢性腎不全の病態生理を理解し、看護介入への適用について説明できる。

講義のすすめ方：講義、院生によるプレゼンテーション

参考文献：別途提示

成績評価の方法：プレゼンテーション、参加度、レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2コマ	6/5	火	13:00～17:35	佐藤 憲明	呼吸不全の病態生理と看護介入
3～5コマ	6/26	火	13:00～17:35	小泉 雅子	循環不全の病態生理と看護介入
6～8コマ	7/3	火	13:00～16:00	下平 唯子	手術または外傷による生体侵襲の病態生理と看護介入
9・10コマ	7/10	火	13:00～16:00	萩原 誠久	循環・水分・電解質を中心とする代謝異常の病態生理
11～13コマ	7/17	火	13:00～17:35	佐藤 憲明	危機的状況下における脳神経異常の病態生理と看護介入
14・15コマ	7/24	火	13:00～16:00	下平 唯子	急性および慢性腎不全の病態生理と看護介入

科目名 クリティカルケア看護学特論Ⅳ（危機理論・援助論）

（2単位 15コマ）

（選択、ただし CNS コースは必修）

科目担当者：○下平 唯子、落合 亮太、小林 礼実、松岡 志帆

講義概要：危機的状況下および拘束状態にある心身統一体としての患者とその家族に対する援助的かわりについての理論を学ぶ。

- 到達目標：1. 危機に関する様々な理論について説明できる。  
2. 家族のアセスメントと看護支援について説明できる。  
3. 援助関係に関する様々な理論について説明できる。  
4. 家族に対する看護介入に関する事例を検討し、評価できる。

講義のすすめ方：講義、グループワークなど

参考文献：渡辺裕子、鈴木和子：家族看護学 理論と実践 第2版，日本看護協会出版会，1999  
他、別途提示

成績評価の方法：レポート、プレゼンテーション、参加度

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～4コマ	7/14	土	10:35～17:35	中村由美子	家族アセスメントと支援
5～7コマ	12/4	火	13:00～17:35	下平 唯子	危機に関する諸理論
8～10コマ	12/25	火	13:00～17:35	下平 唯子	援助関係に関する諸理論
11～13コマ	1/11	金	13:00～17:35	落合 亮太 小林 礼実 松岡 志帆	家族への看護介入に関する事例検討
14・15コマ	2/12	火	13:00～16:00	下平 唯子	まとめ

科目名 クリティカルケア看護学特論Ⅴ（緩和ケア）

（2単位 15コマ）

（選択，ただしCNSコースは必修）

科目担当者：○下平 唯子、益田 美津美、川嶋 朗

講義概要：クリティカルケア期における患者および家族の危機的状況下に対し、様々な看護理論を理解し、治療環境を整えながら苦痛を緩和し、人間としての尊厳を保持し、チームによる心理的・社会的支援ができるための諸理論および看護介入を学ぶ。

到達目標：1. クリティカルケア期における患者へのケアリングの理論および看護介入について説明できる。  
2. ペインコントロールの方法と効果判定について説明できる。  
3. クリティカルケア期における患者および家族へのソーシャルサポートについて説明できる。  
4. クリティカルケア領域における代替療法について説明できる。  
5. クリティカルケアにおける緩和ケアについて説明できる。

講義のすすめ方：講義、グループワークなど

参考文献：

相良・ローゼマイヤー・みはる監訳：ベナー 解釈的現象学：健康と病気における身体性・ケアリング、倫理、医歯薬出版、2006.

Fry, S.T. & Johnstone, M. 片田範子・山本あい子訳：看護実践の倫理（第2版）倫理的意思決定のためのガイド、日本看護協会出版会、2005.

寺町優子、井上智子、深谷智恵子編：クリティカルケア看護—理論と臨床への応用、日本看護協会出版会、2010.

岡崎寿美子：看護診断にもとづく痛みのケア 第2版，医歯薬出版株式会社，2002  
他、別途提示

成績評価の方法：プレゼンテーション、参加度、レポート

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2コマ	9/18	火	13:00～16:00	益田美津美	クリティカルケア期における患者へのケアリング：理論
3・4コマ	10/5	金	13:00～16:00	益田美津美	クリティカルケア期における患者へのケアリング：看護介入
5・6コマ	10/16	火	13:00～16:00	下平 唯子	ペインコントロールの方法と効果判定
7・8コマ	10/23	火	13:00～16:00	益田美津美	クリティカルケア期における患者および家族へのソーシャルサポート
9～11コマ	11/20	火	13:00～17:35	川嶋 朗	クリティカルケア領域における代替療法 *ウーマンズヘルス特論Ⅲと合同講義
12～14コマ	12/11	火	13:00～17:35	下平 唯子	クリティカルケアにおける緩和ケア
15コマ	12/14	金	13:00～14:35	下平 唯子	まとめ

科目名 クリティカルケア看護学演習Ⅰ（治療管理）  
 （選択、ただし CNS コースは必修）

（2単位 30コマ）

科目担当者：○下平 唯子、岡田 芳和、尾崎 眞、萩原 誠久、遠藤 奈津美、大友 陽子、佐藤 憲明

講義概要：救命救急または集中治療をすすめる状況において必要な医学、薬学、および医療機器に関する知識を論理的に学び、医療機器を装着する患者および家族に対する心理的状況を把握し専門看護師として実践できる基礎的知識を学ぶ。また、治療環境を管理・調整し、専門職種間のコーディネートに必要な基礎的知識を学ぶ。

- 到達目標：1. 最新の救急医療、救急処置、救急患者の看護管理および看護介入について説明できる。  
 2. 急性および慢性腎不全の治療に必要な血液浄化法（HD、HF、HDF、CHDF、DFPP、PEX、CAPD など）について説明できる。  
 3. 最新の不整脈治療（抗不整脈剤、カテーテルアブレーション、ICD、PM など）について説明できる。  
 4. 最新の心不全および多臓器不全の治療（薬剤およびEVAHEARTを含む）について説明できる。  
 5. 治療環境のコーディネート、専門職種間の協働方法について説明できる。  
 6. 臓器移植におけるコーディネートについて説明できる。  
 7. クリティカルケア領域における感染対策（MRSA、アシネトバクターなど）について説明できる。  
 8. 呼吸不全の治療、人工呼吸器装着患者の管理、気管内挿管術について説明できる。  
 9. 脳神経領域における最新治療（γナイフ、血管内治療など）について説明できる。  
 10. 創傷管理（褥瘡・術後の創傷・下腿潰瘍）について説明できる。  
 11. ICUまたはCCUにおける治療環境の管理・調整について説明できる。

講義のすすめ方：講義、プレゼンテーション、演習、グループワークなど

参考文献：寺町優子、井上智子、深谷智恵子編：クリティカルケア看護—理論と臨床への応用、日本看護協会出版会、2010. その他、別途提示

成績評価の方法：プレゼンテーション、参加度、レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～3 コマ	6/28	木	13:00～17:35	佐藤 憲明	最新の救急医療、救急処置、救急患者の看護管理および看護介入
4～6 コマ	7/12	木	13:00～17:35	下平 唯子	急性・慢性腎不全の血液浄化法
7～9 コマ	7/26	木	13:00～17:35	萩原 誠久	不整脈の最新治療
10～12 コマ	9/ 7	金	13:00～17:35	萩原 誠久	心不全および多臓器不全の最新治療
13・14 コマ	10/18	木	10:00～12:30	大友 陽子	治療環境のコーディネート、専門職種間の協働方法 *小児看護学演習Ⅱと合同講義
15・16 コマ	10/11	木	13:30～16:30	相野田祐輔	クリティカルケア領域における感染対策
17～19 コマ	10/25	木	9:00～12:00	遠藤奈津美	臓器移植におけるコーディネート *小児看護学演習Ⅱと合同講義
20～22 コマ	10/30	火	13:00～16:00	尾崎 眞	呼吸不全の治療、人工呼吸器装着患者の管理、気管内挿管術（講義）
23・24 コマ	11/ 6	火	13:00～16:00	尾崎 眞	呼吸不全の治療、人工呼吸器装着患者の管理、気管内挿管術（演習）
25 コマ	11/13	火	9:00～10:25	岡田 芳和	脳神経領域における最新治療（その1）
26 コマ	11/20	火	9:00～10:25	岡田 芳和	脳神経領域における最新治療（その2）
27～28 コマ	11/27	火	13:00～16:00	下平 唯子	創傷管理
29～30 コマ	11/29	金	13:00～16:00	下平 唯子	クリティカルケア領域（ICU/CCU）におけるフィールドワーク

科目担当者：○下平 唯子、益田 美津美、遠藤 奈津美  
（松石 和也）

授業概要：クリティカル期における患者および家族の治療の選択と自由の問題について、価値観の相違による葛藤状況を適切に認識し、患者および家族の人権擁護の立場で倫理的問題解決ができるための理論的基礎を学ぶ。とりわけ、心臓移植および腎移植に関する医療の実際および倫理的課題を取り上げて教授する。

- 到達目標：1. 倫理原則を列挙し、看護者の倫理綱領と関係づけることができ、クリティカル期にある患者および家族の倫理的課題を類別し、看護支援のあり方について説明できる。  
2. 日本と欧米の脳死判定法および移植医療システムを比較し、倫理的課題を列挙し、看護師の役割について説明できる。  
3. 心臓および腎移植におけるレシピエント移植コーディネーターの機能および役割を説明できる。  
4. 日本の法律および判例からみた患者の権利について理解し、よりよいインフォームド・コンセントのあり方について考察する。  
5. 植込み型補助人工心臓（EVAHEART）装着中で心臓移植を受けるために待機中の患者の看護の実際を説明できる。  
6. 生体ドナーに関する倫理的課題を説明できる。  
7. 移植医療サービスにおける専門看護師の役割を説明でき。  
8. 拘束状況下にある自己決定困難な患者に対する看護介入と看護倫理との関連性について説明できる。  
9. DNR および代理意思決定における看護師としての擁護について説明できる。

講義のすすめ方：講義、演習、グループワークなど

参考文献：坂川雅子訳：看護倫理 1、みすず書房、2006.

坂川雅子訳：看護倫理 2、みすず書房、2006.

立木教夫、永安幸正監訳：生命医学倫理のフォロントピア、行人社、1999.

坂本百大、青木清、山田卓生編：21世紀のグローバル・バイオエシックス 生命倫理、北樹出版、2005.

寺町優子、井上智子、深谷智恵子編：クリティカルケア看護—理論と臨床への応用、日本看護協会出版会、2010.

小海正勝：看護と法律、南山堂、2004. その他、別途提示

成績評価の方法：プレゼンテーション、参加度、レポート

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～3 コマ	9/4	火	13:00～17:35	下平 唯子	患者および家族の倫理的課題を解決するための理論的基礎
4～6 コマ	9/7	金	13:00～17:35	下平 唯子	脳死臓器移植と臓器医療システムにおける倫理的課題と看護師の役割
7～9 コマ	9/25	火	13:00～17:35	遠藤奈津美	レシピエント移植コーディネーターの機能と役割（心臓移植）
10～12 コマ	9/28	金	13:00～17:35	下平 唯子	レシピエント移植コーディネーターの機能と役割（腎移植）
13～15 コマ	10/2	火	13:00～17:35	松石 和也	法律および判例からみた患者の権利とインフォームド・コンセント
16～18 コマ	10/12	金	13:00～17:35	遠藤奈津美	臓器移植前の待機中の患者に対する医療の実際
19～21 コマ	11/2	金	13:00～17:35	益田美津美	生体ドナーに関する倫理的課題
22～24 コマ	11/9	金	13:00～17:35	下平 唯子	移植医療サービスにおける専門看護師の役割
25～27 コマ	11/16	金	13:00～17:35	益田美津美	拘束状況下にある自己決定困難な患者に対する看護介入と看護倫理との関連性
28～30 コマ	12/7	金	13:00～17:35	益田美津美	DNR および代理意思決定における看護師としての擁護

科目担当者：○下平 唯子、益田 美津美、小林 礼実、松岡 志帆、小泉 雅子、林 千草

実習概要：クリティカルケア看護学領域における看護活動を展開するために必要な能力を習得する。

**【クリティカルケア看護学実習Ⅰ】**

目的：クリティカルケア期にある対象者の1事例を担当し、クリティカルケア看護学の理論を駆使し、看護実践を通して、個人・家族に対する的確で、有効且つ卓越した看護実践能力を獲得する。

内容：ICU/CCU または病棟実習、学内カンファレンス

期間：2週間以上

**【クリティカルケア看護学実習Ⅱ】**

目的：クリティカルケア看護領域において、看護職者を含むケア提供者に対してコンサルテーションを行い、専門看護師としての役割を習得する。

内容：実習施設においてコンサルテーションを実施する。

期間：2週間以上

**【クリティカルケア看護学実習Ⅲ】**

目的：クリティカルケア看護領域において、対象者に必要なケアが円滑に提供されるために、保健医療福祉に携わる人々とのコーディネーションを行い、専門看護師の役割を習得する。

内容：実習施設においてコーディネーションを実施する。

期間：2週間以上

**【クリティカルケア看護学実習Ⅳ】**

目的：CNSの活動を参加観察し、CNSの業務およびその役割を学ぶ。

内容：東京女子医科大学病院における見学実習

期間：1日間

**【クリティカルケア看護学実習Ⅴ】院生の専門領域として必要とされる場合のオプション**

目的：クリティカルケア領域に関連が深い、救急医療システムにおけるプレホスピタルケアシステム又は臓器移植システムなどを学び、看護の役割を理解する。

内容：東京消防庁、臓器移植ネットワーク、その他における見学実習

期間：1~2日間

- 到達目標：1. クリティカルケア期にある対象者を受け持ち、効果的な情報収集を行い、的確なアセスメントを行い、必要な看護を見出し、クリティカルケア看護に関連する理論を活用し、対象者に対する看護を提供し、評価できる。
2. クリティカルケア期にある対象者のケア提供者（看護職者を含む）に対して、悩み及び相談を受ける場面を意図的に持ち、コンサルタントとしての役割を学び、可能な部分はコンサルティに還元できる。
3. クリティカルケア看護領域において、対象者に必要なケアが円滑に提供されるために、保健医療福祉に携わる人々とのコーディネーションを行い、専門看護師としての役割を説明できる。
4. クリティカルケア領域におけるCNSの業務を参加観察し、役割を説明できる。
5. 必要時、クリティカルケア看護に関連の深い、他の医療システム（救急医療または臓器移植）を理解し、看護師の役割を説明できる。

実習場所：東京女子医科大学病院、東京消防庁、臓器移植ネットワーク、他

成績評価の方法：実践の評価、カンファレンスの参加度、レポートなど

実習日程

期間 平成24年5月14日～ 同年6月22日まで（6週間） 1限～4限

科目名 クリティカルケア看護学課題研究

(2単位)

科目担当者：○下平 唯子

講義概要：クリティカルケア看護学領域において、特定の課題を研究的視点から探究し、課題に即した研究方法を学ぶ。

- 到達目標：1. クリティカルケア看護領域の研究の動向と今後の課題について概説できる。  
2. 自ら取り組むべき課題研究テーマを見出し、研究計画書を作成できる。  
3. 対象者への倫理的配慮に基づいたデータ収集が実施できる。  
4. 適切な研究分析アプローチを行い、データ分析と結果に基づいた考察ができる。  
5. 看護への示唆を導き、臨床適用について検討できる。  
6. 課題研究における研究の限界を認識し、自己評価できる。  
7. 論文の作成・発表を通して、自らの研究内容を伝え看護上の提言ができる。

講義のすすめ方：臨床実践に基づいた研究活動に対するグループ討議、および個人面接によって進める。

参考文献：別途提示

成績評価の方法：取り組みの過程と課題研究の達成度

指導日程 毎週水曜日 3限（13：00～14：25）1コマ 通年

科目担当者：○下平 唯子

講義概要：クリティカルケア看護学の領域において、特定のテーマを選択し、研究を行なう過程を通して自立して研究活動ができ、研究論文を作成し公表できる能力を修得する。

- 到達目標：1. クリティカルケア看護領域の研究の動向と今後の課題について概説できる。  
2. 自ら取り組むべき研究テーマを見出し、研究計画書を作成できる。  
3. 対象者への倫理的配慮に基づいたデータ収集が実施できる。  
4. 適切な研究分析アプローチを行い、データ分析と結果に基づいた考察ができる。  
5. 看護への示唆を導き、臨床適用について検討できる。  
6. 特別研究における研究の限界を認識し、自己評価できる。  
7. 論文の作成・発表を通して、自らの研究内容を伝え看護上の提言ができる。

講義のすすめ方：研究活動に対するグループ討議、および個人面接によって進める。

参考文献：別途提示

成績評価の方法：取り組みの過程と研究達成度

指導日程 毎週水曜日 3・4限（13:00～16:00）2コマ 通年  
毎週土曜日 1・2限（9:00～12:00）2コマ 通年

科目担当者：○下平 唯子、金子 眞理子

講義概要：専門的ながん看護の基盤となる基礎的概念と主要理論、ならびにその活用について探求する。

到達目標：

1. がんを病む人にとっての“病い”や慢性疾患の病みの軌跡の概念を理解し、必要な支援のあり方について説明できる。
2. 危機理論を用いた対象理解とその活用方法について説明できる。
3. 援助理論を用いた対象理解とその活用方法について説明できる。
4. サイコオンコロジーの主要概念および看護への活用について説明できる。
5. QOLの概念について理解し、QOLのアセスメントと看護の役割について説明できる。
6. 不確かさの概念について理解し、看護実践への活用方法について説明できる。
7. 上記を通し、専門的ながん看護の基礎的概念と主要理論ならびにその活用について説明できる。

授業のすすめ方：文献講読、学生によるプレゼンテーションと討論

参考文献：アーサー・クライマン：病いの語り、慢性の病をめぐる臨床人類学、誠信書房、1996  
 アーサー・W・フランク：傷ついた物語の語り手：身体・病い・倫理、ゆみる出版、2002  
 黒江ゆり子訳：慢性疾患の病みの軌跡、医学書院  
 野口裕二：物語としてのケア；ナラティブ・アプローチの世界へ、医学書院、2002  
 Rita Charon, 斎藤清二他訳：ナラティブ・メディスン、医学書院、2011  
 Benner/ルーバル：現象学的人間論と看護、医学書院、1999  
 日本サイコオンコロジー学会教育委員会監修：緩和ケアチームのための精神腫瘍学入門

成績評価の方法：授業への参加状況、プレゼンテーション、レポート

レポート課題【がんとともに生きる人々への包括的支援に向けた課題】

**提出期限：2012年9月3日 13時** 学務課前レポートボックス

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2コマ	4/16	月	14:35～17:35	下平 唯子 金子眞理子	がん看護学概論
3・4コマ	4/23	月	13:00～16:00	下平 唯子	病いの概念、慢性疾患の病みの軌跡
5・6コマ	5/8	火	13:00～16:00	下平 唯子	危機理論を用いた対象理解とその活用方法
7・8コマ	5/22	火	13:00～16:00	金子眞理子	がん患者の苦悩・不確かさ
9・10コマ	6/5	火	13:00～16:00	下平 唯子	援助理論を用いた対象理解とその活用方法
11・12コマ	6/12	火	13:00～16:00	下平 唯子	がん患者・家族の QOL
13・14コマ	6/25	月	13:00～16:00	金子眞理子	サイコオンコロジーにおける主要概念と看護への活用：支持的支援、認知行動療法、ライフレビューインタビュー・ディグニティセラピーの理論と実際
15コマ	9/18	火	14:35～16:00	下平 唯子 金子眞理子	まとめ：がんとともに生きる人々の包括的理解と援助

科目名 がん看護学特論Ⅱ（病態生理と診断・治療）

（2単位 15コマ）

科目担当者：○下平 唯子、柴田 亮行、山口 直人、岡本 高宏、有賀 淳、寺村 正尚、  
兼村 俊範、丸山 隆志

講義概要：がんの分子生物学、遺伝学を含む病態生理学全般を学び、最新の診断・治療に関する基礎的知識を修得し、がん看護に関連した専門的な知識を深める。

- 到達目標：1. がんの概念やがん疾患の動向について概説できる。  
2. がんの病態生理について理解し、診断と治療過程の概要について説明できる。  
3. がん免疫療法の概要について説明できる。  
4. がん治療に関する基礎的知識を基に、診断・治療過程における看護師の役割について提言できる。

授業のすすめ方：講義

参考文献：笹野公伸他編：シンプル病理学 改訂6版、南江堂、2010

久保長生：脳腫瘍のすべてがわかる本、講談社、2005

有賀 淳：ここまで進んだガン免疫療法、講談社、2004

有賀 淳：進化したガン免疫療法、朝日新聞社、2005

有賀 淳：ガン免疫療法の最新治療がわかる本、講談社、2009

がんのベーシックサイエンス 4版（日本語版3版）、メディカルサイエンス・インターナショナル、2006

その他、随時紹介する

成績評価の方法：出席状況、レポート【がんの診断・治療過程におけるがん看護専門看護師の役割】

レポート提出期限：7/20（金）17時、学務課前レポートボックス

授業日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2コマ	4/17	火	13:00～16:00	柴田 亮行	がんの概念、分子生物学的・遺伝学的視点を含む腫瘍学
3・4コマ	4/24	火	13:00～16:00	山口 直人	がんの疫学、発がんリスクと予防
5・6コマ	5/11	金	13:00～16:00	寺村 正尚	造血器腫瘍の病態生理と診断・治療
7・8コマ	5/17	木	13:00～16:00	丸山 隆志	脳神経系腫瘍の病態生理と診断・治療
9・10コマ	6/8	金	13:00～16:00	兼村 俊範	呼吸器系腫瘍の病態生理と診断・治療
11・12コマ	6/11	月	13:00～16:00	岡本 高宏	乳腺・内分泌系腫瘍の病態生理と診断・治療
13・14コマ	6/18	月	13:00～16:00	有賀 淳	進化したがん免疫療法
15コマ	9/18	火	13:00～14:25	下平 唯子	まとめ（治療過程における看護の役割）

科目名 がん看護学特論Ⅲ（治療過程・症状緩和のための援助論） （2単位 15コマ）

科目担当者：○下平 唯子、金子 眞理子、花出 正美、吉村 美樹  
（松石 和也）

講義概要：がん患者の複雑な健康問題に対して包括的な支援を提供できるよう看護援助の方法を修得する。診断、治療の原理と最新情報を学び、それに伴う患者や家族の反応に対処できるように身体管理・看護ケアの概要を修得する。

到達目標：1. 診断および治療過程における患者および家族の特性や体験を理解し、援助のあり方について説明できる。  
2. 症状マネジメントの考えについて理解し、援助のあり方について説明できる。  
3. がんの病状変化に伴う代表的な身体症状について、病態に基づいたアセスメントと援助のあり方について説明できる。  
4. がんの病状変化に伴う精神症状（不安、適応障害、抑うつ、不眠、せん妄等）について、病態に基づいたアセスメントと援助のあり方について説明できる。  
5. 診断・治療過程におけるインフォームドコンセントおよび患者の権利や自己決定について説明できる。

授業のすすめ方：講義、文献講読、学生によるプレゼンテーションと討論

参考文献 小海正勝：看護と法律、南山堂、2004

田村恵子編集：がん患者の症状マネジメント、Gakken、2002

武田悦子：がん看護へのことづて、すぴか書房、2011

内富庸介、小川朝生編：精神腫瘍学、医学書院、2011.

日本サイコオンコロジー学会教育委員会監修：緩和ケアチームのための精神腫瘍学入門  
その他随時紹介する

成績評価の方法：授業への参加状況、プレゼンテーション内容、レポート

レポート【治療過程にある患者・家族への支援および症状緩和の為の援助における自己の課題について】

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2 コマ	5/29	火	13:00～16:00	吉村 美樹	受診・診断検査、病名・予後告知に臨む患者・家族の理解と援助
3・4 コマ	6/19	火	13:00～16:00	吉村 美樹	治療選択に臨む患者・家族の理解と援助
5・6 コマ	9/7	金	13:00～16:00	金子眞理子	精神症状の理解とマネジメント：精神症状の捉え方、不安、適応障害、抑うつ
7・8 コマ	9/10	月	13:00～16:00	金子眞理子	精神症状のマネジメント：不眠、せん妄
9・10 コマ	9/25	火	14:35～17:35	花出 正美	身体症状緩和のためのマネジメント 疼痛・呼吸困難他
11・12 コマ	10/2	火	13:00～16:00	松石 和也	治療過程におけるインフォームドコンセント、および患者の権利と自己決定
13・14 コマ	10/16	火	14:35～17:35	花出 正美	身体症状緩和のためのマネジメント 悪心・嘔吐、便秘他
15 コマ	11/20	火	13:00～14:25	下平 唯子	まとめ

科目担当者：○下平 唯子、三浦 美奈子、新井 敏子、花出 正美、吉村 美樹

講義概要：がん治療によってもたらされる身体の器質的・機能的な変化に対して、身体・心理・社会的な働きかけを行い、機能の改善方法を提供し、生活の再構築を目指して患者が自らQOL、セルフケア能力を高めることができるような援助を考究する。

- 到達目標：1. がんリハビリテーションの概念やその重要性について説明できる。  
 2. がん患者への心理支援の重要性と支援のあり方について説明できる。  
 3. “がんサバイバー”について理解し、必要な支援の在り方について説明できる。  
 4. 治療や病状の変化に伴って生じる障がいとその影響（自己概念、ボディイメージ、セクシャリティなど）について理解し、機能の改善方法および生活の再構築を支えるための課題と援助のあり方について説明できる。  
 5. セルフケア能力を高めるための支援について提言できる。

授業のすすめ方：講義、文献講読、プレゼンテーションと討論

参考文献 辻哲也 編：がんのリハビリテーションマニュアル、医学書院、2011  
 近藤まゆみ/嶺岸秀子編著：がんサバイバーシップ、医歯薬出版、2006  
 その他随時紹介する

成績評価の方法：授業への参加状況 プレゼンテーション、レポート、  
 レポート【がんサバイバーの生活の再構築に向けた援助の課題について】

**提出日：2013年1月21日（月）13時** 学務課前レポートボックス

授業日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2コマ	9/3	月	13:00～16:00	下平 唯子	がんリハビリテーションとはセルフケアの概念と理論の活用
3・4コマ	9/4	火	13:00～16:00	吉村 美樹	生活の再構築に向けた、がん患者への心理的支援
5・6コマ	10/12	金	13:00～16:00	三浦美奈子	がんサバイバーへの支援
7・8コマ	11/6	火	14:35～17:35	花出 正美	ボディイメージ・自己概念の変容および生活の再構築を支える援助
9・10コマ	12/4	火	14:35～17:35	花出 正美	患者と家族のQOLを高めるための援助
11・12コマ	12/14	金	13:00～16:00	新井 敏子	セクシャリティに関する課題と援助
13・14コマ	1/15	火	13:00～16:00	下平 唯子	セルフケア能力を高めるための支援
15コマ	1/22	火	13:00～14:25	下平 唯子	まとめ

科目担当者：下平 唯子、金子 眞理子、新井 敏子  
(斉藤 博、加藤 雅志、岩崎 基)

講義概要： がんおよびがん再発の予防・早期発見をめざし、知識、情報、技術を統合し、自己検診や生活の調整、管理ができるような支援・教育方法のため知識・技術を修得する。社会に対するがん予防・早期発見のための啓発のため知識・技術を修得する。治療過程における意思決定の支援のための知識、技術を修得する。

到達目標： 1. がんおよびがん再発の予防・早期発見のための自己検診や生活の調整、管理ができるような支援ができる。  
2. 社会に対するがん予防・早期発見のための啓発ができる。  
3. 治療の意思決定の支援に必要な知識、技術について説明できる。

授業のすすめ方：講義、演習、討論

参考文献：斉藤博，がん検診は誤解だらけ―何を選んでどう受ける，NHK 出版生活人新書，2009 随時紹介する。

成績評価の方法：講義・演習への参加状況 レポート

レポート【がんの早期発見、再発予防におけるがん看護専門看護師の役割】

レポート提出期限：2012年10月26日(金)17時まで、学務課前ボックス

#### 授業日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～2コマ	7/3	火	13:00～16:00	岩崎 基	がん予防の疫学、概要と政策※
3～4コマ	7/4	水	14:00～17:00	加藤 雅志	がん対策基本法全般の概要と政策※
5～6コマ	7/9	火	14:30～17:30	斉藤 博	がん検診、早期発見の概要と政策※
7～8コマ	7月中		13:00～16:00	斉藤 博	がん検診、早期発見の概要と政策※
9～10コマ	9/14	金	13:00～16:00	新井 敏子	がん予防・早期発見・再発予防のための啓発活動
11～12コマ	10/5	金	13:00～16:00	新井 敏子	セカンドオピニオン、がん患者カウンセリングの現状と課題
13～14コマ	TBA		13:00～16:00	金子眞理子	がん予防・早期発見、再発予防のための啓発活動の実際 **
15コマ	10/29	月	13:00～14:25	下平 唯子 金子眞理子	まとめ(予防・早期発見における専門看護師の役割について)

※ 国立がん研究センターがん予防・検診研究センターで受講します。

\*\* 東京女子医科大学病院がんセンターがん患者相談室 がん患者サロン

科目担当者：○下平 唯子、林 和彦、伊東 俊雅、大堀 洋子、三村 直美、近藤 まゆみ、  
秋山 正子

講義概要：がん薬物療法の有害事象の予防・早期発見・早期対処を行い、治療の継続および治療中の生活の質を高めるために必要な看護について学ぶ。セルフケア能力向上のための方略について探索する。

到達目標：

1. がん薬物療法における薬物動態と薬理作用の基礎について概説できる。
2. 使用される薬剤の特性について理解し、有害事象の発生機序と予防について説明できる。
3. 鎮痛薬の薬物動態および薬理作用の基礎について概説できる。
4. 化学療法の実施における患者・家族および医療者の安全を守る方法について説明できる。
5. 化学療法を受ける患者の自己決定を支える支援のあり方について説明できる。
6. 病棟および外来で化学療法を受けている患者の生活支援の在り方を説明できる。

授業のすすめ方：講義、病棟演習、プレゼンテーションと討論

参考文献：アメリカがん協会編：抗がん剤ガイド、ブレーン出版、2005

大西和子他編：がん看護学-がんの治療と看護、ヌーベルヒロカワ、2011

濱口恵子他編：がん患者の在宅療養サポートブック、日本看護協会出版会、2007

成績評価の方法：授業・演習への参加状況

事例レポート【がん薬物療法を受けている患者の症状アセスメントと看護介入計画】

授業日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	5/15	火	13:00~14:25	下平 唯子	がん薬物療法看護とは
2・3コマ	5/18	金	13:00~16:00	伊東 俊雅	がん薬物療法（ホルモン剤を含む）における薬物動態と薬理作用の基礎
4・5コマ	6/1	金	13:00~16:00	伊東 俊雅	抗がん剤の有害事象のアセスメントとアプローチ
6・7コマ	6/15	金	13:00~16:00	伊東 俊雅	疼痛緩和の薬物動態と薬理作用 副作用予防・緩和のためのアプローチ
8・9コマ	6/26	火	13:00~16:00	三村 直美	外来における化学療法看護 オリエンテーション
10~13コマ	6/28	木	9:00~16:00	下平 唯子	外来演習：外来における化学療法看護 外来薬剤部との連携、抗がん剤の取り扱い
14~15コマ	6/29	金	13:00~16:00	近藤まゆみ	がん薬物療法を受けるがん患者の自己決定の支援と看護
16コマ	7/10	火	13:00~14:25	大堀 洋子	シームレス医療における在宅医療支援・推進室の役割と課題
17~18コマ	7/13	金	13:00~16:00	秋山 正子	在宅でがん薬物療法を受けている人のQOL向上のための課題
19~20コマ	10/23	火	9:00~12:00	林 和彦 下平 唯子	演習：薬物療法を受けるがん患者の情報収集とアセスメント
21~23コマ	10/29	月	13:00~17:35	下平 唯子	がん薬物療法を受けている患者の症状アセスメントと看護介入、発表と討論

科目名 がん看護学演習Ⅱ（緩和ケア）

（2単位 23コマ）

科目担当者：○下平 唯子、金子 真理子、佐藤 弘、吉川 信、三村 直美、新井 敏子、  
近藤 まゆみ

講義概要：がんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を包括的に理解し、エビデンスに基づいて適切なキュアとケアを統合して提供する能力を修得する。薬物療法、理学療法的介入、心理的支援等包括的な介入についてリソースを活用し展開する能力を修得する。End of Life Care や家族のグリーフワークについて知識と技術を習得する。

到達目標：

1. 西洋医学的な視点に東洋医学の視点を加え対象者の特性を総合的に理解し、身体・心理・実存的な援助のあり方について説明できる。
2. 緩和ケアの概念について理解し、適切なキュアとケアを統合し、トータルペイン緩和の為の支援を検討することができる。
3. 緩和ケアチームをはじめ、理学療法的介入、心理的支援等包括的介入のためのリソースの活用と展開方法について説明できる。
4. 最期の時をその人らしく生きるための患者・家族への支援や遺族ケアの必要性について説明できる。

授業のすすめ方：講義、演習、プレゼンテーションと討論

参考文献：バーナード・ラウン：治せる医師・治せない医師、築地書館、1998  
三井洋司：不老不死のサイエンス、新潮新書、2006  
東原正明・近藤まゆみ：緩和ケア、医学書院、2003  
垣添忠生：妻を看取る日、新潮社、2009  
小澤竹俊：苦しみの中でも幸せは見つかる、扶養社、2004

成績評価の方法：講義・演習への参加状況 プレゼンテーション、レポート

レポート【緩和ケア実践に向けた自己の課題】

授業日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2 コマ	6/4	月	13:00~16:00	下平 唯子	CNS の歴史、役割と活動、緩和ケアの歴史と概念、各国の緩和ケアの現状
3・4 コマ	6/21	木	9:00~12:00	佐藤 弘	漢方医学総論（漢方医学の特徴）* 概論（がん治療における漢方の取り組み）
5・6 コマ	7/2	月	13:00~16:00	三村 直美	トータルペイン、 患者・家族の社会的・霊的側面の理解とケア
7~8 コマ	7/6	金	13:30~16:30	吉川 信	鍼灸の理論とツボ療法の実際 *
9~10 コマ	9/11	火	13:00~16:00	三村 直美	緩和ケアチームの役割と機能
11~12 コマ	10/15	月	13:00~16:00	三村 直美	エンド・オブ・ライフケア、遺族ケア
13~14 コマ	10/22	月	13:00~16:00	金子真理子	緩和ケアにおける心理的支援/コミュニケーションスキル
15~16 コマ	11/2	金	13:00~16:00	近藤まゆみ	緩和ケアにおける CNS の調整・倫理調整 役割について
17~18 コマ	11/5	月	13:00~16:00	金子真理子	がんに関わる看護師のストレスの理解と 支援・リエゾン精神専門看護師との連携
19~20 コマ	12/7	金	13:00~16:00	近藤まゆみ	緩和ケアにおける CNS のコンサルテーション活動について
21~22 コマ	1/18	金	13:00~16:00	近藤まゆみ	緩和ケアにおける困難事例分析
23 コマ	1/25	金	13:00~14:25	下平 唯子	まとめ

\*については、東洋医学研究所クリニックで講義・演習を行います。

科目名 がん看護学演習Ⅲ（緩和医療における身体・メンタルケアアセスメント）☆ （2単位 23コマ）

科目担当者：○下平 唯子、金子 眞理子、林 和彦、兼村 俊範、奥山 隆二、中島 豪、末永 きよみ、小川 朝生

講義概要：がん治療過程で特有な身体症状および精神心理的苦痛に関する専門的知識を深め、エビデンスに基づいた確かな臨床判断を行うことができる。対象者のQOLの維持・向上に向け看護実践に必要なアセスメント・援助技法を修得する。

- 到達目標：1. がん治療過程で特有な身体症状および精神心理的苦痛/辛さについてエビデンスをもとに説明できる。  
2. 身体・精神症状および精神心理的苦痛を全人的視点からアセスメントし、適切なケア技術およびケアの内容について臨床判断できる。  
3. がん看護専門看護師における精神心理ケアの役割と課題について説明できる。

授業のすすめ方：講義、演習、討論

参考文献：Holland J.C., Breitbart W.S., Jacobsen P.B., Lederberg M.S., Loscalzo M.J., McCorkle R., Eds, Psycho-Oncology, 2ed. Oxford University Press, New York, 2010.

Chochinov H.M. & Breitbart W. (Eds), Handbook of Psychiatry in Palliative Medicine, Oxford University Press. New York. 236-264.

内富庸介, 小川朝生編：精神腫瘍学, 医学書院, 2011.

内富庸介, 小川朝生, 大西秀樹編, サイコオンコロジーを学びたいあなたへーがん患者の心のケア, こんなときどうする? 一歩進んだケアにつながる 16 事例, 文光堂, 2011.

日本サイコオンコロジー学会教育委員会監修：緩和ケアチームのための精神腫瘍学入門

明智龍男：がんところどころのケア, サイコオンコロジーの実践から, NHK ブックス, 2003.

祖父江正代・近藤まゆみ編：がん患者の褥瘡ケア, 日本看護協会出版, 2009

松原康美 編：がん患者の創傷管理, 照林社, 2007

成績評価の方法：講義・演習への参加状況 レポート

レポート【緩和ケアにおける自己のヘルスケアアセスメント能力の現状と今後の課題】

**提出期限：2012年12月20日（木）13時まで**、学務課前レポートボックス

授業日程

\*については、東京女子医科大学本院で演習を行います。

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～3 コマ	10/19	金	13:00～17:35	小川 朝生	1. 精神心理・社会的問題とがん罹患・生存率に関する疫学 2. 精神腫瘍学の研究、ガイドライン 3. がんに関連する医療倫理と法・制度 4. 精神腫瘍学と連携システム・教育・研修の現状 がん患者にみられる精神症状と病態、治療の判断と効果的介入：不眠、適応障害、うつ病、せん妄、認知症、自殺念慮
4～6 コマ	10/26	金	13:00～17:35	小川 朝生	薬剤による精神神経症状の理解とケア：抗精神病薬、ステロイド、オピオイド、ベンゾジアゼピン系抗不安薬・睡眠薬による精神神経症状、cancer brain 終末期における全人的支援・鎮静
7～8 コマ	11/9	金	13:00～16:00	小川 朝生	がん患者と家族に対する精神心理的ケア がん患者の子どもの場合、高齢の親の場合の支援・遺族ケア
9～10 コマ	11/12	月	13:00～16:00	奥山 隆二 中島 豪	身体症状の発現機序とフィジカルアセスメント 1) 消化器症状について 2) 骨転移による症状
11～12 コマ	11/16	金	13:00～16:00	下平 唯子	4) 身のおきどころのない倦怠感
13～14 コマ	11/30	金	13:00～16:00	兼村 俊範	身体症状の発現機序とフィジカルアセスメント 3) 呼吸器症状について
15～16 コマ	12/11	火	13:00～16:00	末永きよみ	がん患者の創傷管理
17～18 コマ	12/12	水	9:00～12:00	末永きよみ	演習：創傷のフィジカルアセスメント・臨床判断 *
19～21 コマ	12/17	月	13:00～17:35	林 和彦 下平 唯子	演習：緩和ケアを必要とする人のフィジカルアセスメントと臨床判断の実際 *
22～23 コマ	12/21	金	13:00～16:00	下平 唯子 金子眞理子	まとめ：緩和医療における身体・メンタルケアアセスメントと専門看護師の役割

科目名 がん看護学実習 I

(1 単位)

科目担当者：○下平 唯子、金子 真理子

実習概要：がん看護専門看護師として活動するために必要な【ケアとキュアを融合した高度な看護実践能力】を、実習を通して修得する。

目的：がん看護専門看護師としての役割や機能を発揮するために必要な知識、技術、態度について体験的に学習し、専門看護師の役割を担うための自己の今後の課題を明らかにする。

到達目標：1. がん看護専門看護師に求められている役割と機能の概要について説明できる。  
2. 専門看護師の役割を担うための自己の課題を明確にできる。

実習内容：1. がん看護専門看護師に同行し、がん専門看護師としての諸活動が行われている場への主体的な参加を通し、その役割と機能を理解する  
2. がん看護専門看護師に必要な知識・技術・態度について見学・体験を通して学習する。  
3. 毎日実習終了後、がん専門看護師とカンファレンスを行い、1・2の内容について検討し、課題を見いだす。

実習日程：2013年2月4日（月）から2月8日（金）の5日間 1限～4限

実習場所と指導者：北里大学病院（CNS 近藤まゆみ）、武蔵野赤十字病院（CNS 加藤 恵）

レポート：【がん看護実習における自己の課題】（実習前）  
【がん看護専門看護師の同行実習より学んだもの】（実習後）

成績評価の方法：1. 実習への参加状況・態度、  
2. 実習 I における課題の達成度とレポート

連絡先：がん看護学実習 科目責任者：下平 唯子  
東京女子医科大学看護学部 03-3357-4889（研究室直通）  
メール：shimodaira.yuiko@twmu.ac.jp

科目担当者：○下平 唯子、金子 眞理子、大堀 洋子、三村 直美CNS

実習概要：がん看護専門看護師として活動するために必要な【ケアとキュアを融合した高度な看護実践能力】を、実習を通して修得する。

目的：がん看護専門看護師に必要とされている【ケアとキュアを融合した高度な看護実践能力】を養い、「実践」「教育」「相談」「調整」「研究」「倫理的調整」の役割の基礎を果たせるように実践を通して修得し自己の課題とその解決方法を明確にする。

到達目標：1. 実習病棟のシステムや医療職者間のダイナミックスを把握し、医療職者との協力的援助関係を築くことができる。  
2. 臨床において、「実践」「相談」「教育」「調整」「倫理的調整」「研究」を行い、自己の実践的基礎能力について評価できる。  
3. 病棟と在宅療養の連携のための在宅支援推進室の役割や医療チームの在り方やについて説明できる。  
4. 実践的基礎能力の評価を基に、自己の課題および解決方法を明確にできる。

実習内容：1. 実践：がん専門分野の中のサブスペシャリティの領域において、最低2名の患者を受け持ち、個人・家族または集団に対して看護過程をふみながらケアとキュアを融合した高度な看護を実践する。  
2. 相談：がん専門分野において実践を行う中で、看護チームのメンバーからのコンサルテーションを受ける場面を意図的に持ち、既習の理論を用いその内容を分析し、可能な部分はコンサルティに還元する。  
3. 調整：がん専門分野において、特に受け持ち患者のケアが円滑に提供されるために、医師・薬剤師・看護メンバーなどの保健医療福祉に携わる人々間のコーディネーションについて考究する。  
4. 教育：がん専門分野における教育的機能を果たすために、がん専門分野のサブスペシャリティの領域において受け持った患者について、病棟実習中は可能な限り看護師に実践のモデルを提示する。また、患者のケースをまとめ、行った看護について発表する機会を持ち、看護師に分析のモデルを提示し省察の機会を提供する。機会があればサブスペシャリティについて看護師とともに勉強会等を開催する。  
5. 研究：がん専門分野において、専門的知識・技術の向上や開発を図るために実践の場における課題を見だし、がん看護分野で必要とされる臨床研究について考究する。また、病棟が取り組んでいる実践報告・症例報告および研究に対して、助言・アドバイスを行い研究遂行に貢献する。  
6. 倫理的調整：がん専門分野において倫理的な感受性を高め、倫理的葛藤が生じている場面について、その調整方法について考える。可能であれば指導者と共にその場の倫理的調整を行う。

実習日程：2013年6月から10月まで 25日間 1限～4限

実習場所と指導者：東京女子医科大学病院（下平唯子、金子眞理子、CNS 三村直美、大堀洋子）

レポート：【がん看護病棟実習における自己の課題】

受け持ち患者に関するケースレポート：2例

実践・相談・教育・調整の場面のレポート 各1例

【がん看護学実習Ⅱを通して学んだこと】

成績評価の方法：1. 実習への参加状況・態度、  
2. 実習Ⅱにおける課題の達成度とレポート

連絡先：がん看護学実習 科目責任者：下平 唯子  
東京女子医科大学看護学部 03-3357-4889（研究室直通）  
メール：shimodaira.yuiko@twmu.ac.jp

科目名 がん看護学実習Ⅲ（緩和ケア病棟）☆

（2単位）

科目担当者：○下平 唯子、金子 眞理子、三村 直美CNS

実習概要：がん看護専門看護師として活動するために必要な【ケアとキュアを融合した高度な看護実践能力】を、実習を通して修得する。

目的：緩和ケア病棟における包括的ケアの特徴について理解し、リソースを活用し展開する能力を修得する。また、End of Life Care や家族のグリーフワークの実際を学ぶ。

到達目標：1. あらゆる苦痛症状や苦悩を包括的に理解し、対象者の特性をトータルペインの視点でとらえることができる。  
2. 対象者に対して、適切なキュアとケアを統合し、トータルペイン緩和の為の介入ができる。  
3. 最期の時をその人らしく生きるための支援や遺族ケアの在り方について説明できる。

実習内容：1. 終末期にある対象者あるいは緩和ケアを必要としている対象者を受け持ち、ケアとキュアを融合した心理的な支援などの包括的な介入を実施する。  
2. 多職種や緩和ケアチームとの連携、チーム医療の実践に一員として参加する。  
3. 機会があればデスカンファレンスや遺族へのグリーフケアの実際について学ぶ。

実習日程：2013年5月中旬から10日間 1限～4限

指導者場所と指導者：緩和ケア医療病棟（富田佳代子）

レポート：【緩和ケア実習における自己の課題】（実習前）  
担当したケースレポート 1例  
【緩和ケア実習を通して学んだもの】

成績評価の方法：1. 実習への参加状況・態度、  
2. 実習Ⅲにおける課題の達成度とレポート

連絡先：がん看護学実習 科目責任者：下平 唯子  
東京女子医科大学看護学部 03-3357-4889（研究室直通）  
メール：shimodaira.yuiko@twmu.ac.jp

科目担当者：○下平 唯子、金子 真理子

実習概要：がん看護専門看護師として活動するために必要な【ケアとキュアを融合した高度な看護実践能力】を、実習を通して修得する。

目的：在宅療養中のがん患者・家族に必要とされている実践能力の基礎を、訪問看護実習を通して修得する。また在宅を視点とした医療連携チームとの連携のあり方について、自己の課題とその解決方法を明確にする。

到達目標：1. 在宅療養中のがん患者・家族の生活の様子を理解し、看護の役割が説明できる。  
2. 在宅ホスピスにおける生活の様子を理解し、看護の役割が説明できる。  
3. 医療連携チームの一員として、がん看護専門看護師としての役割や課題を明確にできる。  
4. 地域あるいは行政に対する訪問看護ステーションの提言を通して、地域におけるがん看護専門看護師としての役割を認識できる。  
5. 【暮らしの保健室】利用者のニーズを理解し、がん看護専門看護師としての役割と専門性について考究できる。

実習内容：1. 訪問への同行・訪問看護実践を通して、療養中のがん患者・家族の置かれている問題に気づき、自己の課題を追求する。  
2. 在宅ホスピスにおける看護実践を通して、ホスピスのあり方やがん看護専門看護師として果たすべき役割について追求する。  
3. 地域連携・医療連携の場における他職種へのアプローチ方法について学ぶ。  
4. 訪問看護ステーション主催のシンポジウムや勉強会への参画を通して、地域におけるがん看護専門看護師のあり方を検討する。  
5. 【暮らしの保健室】におけるがん看護専門看護師の役割について学ぶ。  
・暮らしの保健室利用者のニーズを把握し、地域における保健室の役割や期待されているものを理解する。  
・暮らしの保健室におけるがん看護専門看護師の役割と専門性について考究する。

実習日程：2013年2月の第3週目から3月までの2週間（10日間）1限から4限

実習場所：株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション、

実習指導者：秋山正子、服部絵美（市谷）、中島朋子（東久留米）

レポート：【在宅訪問看護実習における自己の課題】

『在宅ホスピス』および『暮らしの保健室』での学び  
訪問看護事例のケースレポート 1例

#### 注意事項

服装：白衣は必要ありません。療養の場であるご家庭を訪問するので、ジーンズ・スカートは不可、訪問にふさわしい動きやすい服装、靴下着用のこと

成績評価の方法：1. 実習への参加状況・態度、  
2. 実習Ⅳにおける課題の達成度とレポート

連絡先：がん看護学実習 科目責任者：下平 唯子

東京女子医科大学看護学部 03-3357-4889（研究室直通）

メール：shimodaira.yuiko@twmu.ac.jp

科目担当者：○下平 唯子、金子 真理子

講義概要：講義、演習、実習で学習した知識と技術をもとに、研究的視点からがん看護におけるテーマを見出し、看護研究の過程を踏んでがん看護の実践に寄与する臨床研究能力を養う。

到達目標：

1. がん看護研究の動向と今後の課題について概説できる。
2. 自ら取り組むべき課題研究テーマを見出し、研究計画書を作成できる。
3. 対象者への倫理的配慮に基づいたデータ収集が実施できる。
4. 各種の研究分析アプローチを行い、データ分析と結果に基づいた考察ができる。
5. 看護への示唆を導き、臨床適用について検討できる。
6. 課題研究における研究の限界を認識し、自己評価できる。
7. 論文の作成・発表を通して、自らの研究内容を伝え看護上の提言ができる。

研究のすすめ方：ゼミ形式と個人面接による。

参考文献：適宜提示する。

成績評価の方法：課題への取り組み方および論文内容により総合的に判断する。

指導日程：毎週水曜日 3限（13:00～14:25）（1コマ）通年

指導概要

がん看護研究の動向と課題

文献検討、研究課題の探求と設定

研究計画書の作成、倫理審査申請

データ収集と分析

結果の記述、論理的考察、論文作成

論文審査

論文発表

科目担当者：○下平 唯子、金子 真理子

概要：がん看護学特論および演習で得た知見をもとに、がん看護学領域における課題を追求し研究テーマを見出す。研究のプロセスを通してがん看護実践やがん看護教育の発展に寄与する基礎的研究能力を養う

#### 到達目標

1. がん看護研究の動向と今後の課題について概説できる。
2. 自ら取り組むべき研究テーマを見出し、研究計画書を作成できる。
3. 対象者への倫理的配慮に基づいたデータ収集を行い、理論的飽和に近づける。
4. 各種の研究分析アプローチを行い、科学的なデータ分析ができる。
5. 信頼性と妥当性のある結果を導き、論理一貫性のある考察ができる。
6. 看護への示唆を導き、臨床適用について検討できる。
7. 特別研究における研究の限界を認識し、自己評価できる。
8. 論文の作成・発表を通して、自らの研究内容を伝え看護・教育上の提言ができる。

研究のすすめ方：ゼミ形式と個人面接による。

参考文献：適宜提示する。

成績評価の方法：研究への取り組み方および論文内容により総合的に判断する。

指導日程：毎週水曜日 3・4限（13:00～16:00）（2コマ）通年

毎週木曜日 1・2限（9:00～12:00）（2コマ）通年

#### 指導概要

がん看護研究の動向と課題

文献検討、研究テーマの探求と設定

研究計画書の作成、倫理審査申請

データ収集と分析

結果の記述、論理的考察、論文作成

論文審査

論文発表

科目担当者：○小川 久貴子

講義概要：女性のライフサイクルの様々な段階における女性の健康に影響を与える身体的・心理的・社会的要因に焦点を当て、各段階の特徴的課題について考える。

- 到達目標：1. 助産の意思決定における知識の役割を説明できる。  
 2. 根拠を意思決定に活かすことを説明できる。  
 3. 意思決定のモデルを説明できる。  
 4. 臨床意思決定のプロセスを説明できる。  
 5. 倫理的な意思決定を説明できる。  
 6. 女性のための意思決定援助を説明できる。

講義のすすめ方：課題に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。

参考文献：久米美代子、飯島治之編「ウーマンズヘルス」、医歯薬出版、2011.

モーリーン・D・レイノー他、堀内成子監修、「助産師の意思決定」、エルゼビア・ジャパン、2006.

成績評価の方法：クラス発表と課題レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～3 コマ	4/16	月	13:00～17:35	小川久貴子	助産の意思決定における知識の役割をふまえ、オリエンテーションをする。 課題提示
4～6 コマ	4/23	月	13:00～17:35	小川久貴子	助産師として、根拠を意思決定に活かすことについて理解し、課題を探究する。
7～9 コマ	4/30	月	13:00～17:35	小川久貴子	助産における意思決定のモデルと臨床意思決定のプロセスについて理解し、課題を探究する。
10～12 コマ	5/ 7	月	13:00～17:35	小川久貴子	助産における倫理的な意思決定について理解し、課題を探究する。
13～15 コマ	6/ 4	月	13:00～17:35	小川久貴子	専門職として、女性のための意思決定援助について理解し、課題を探究する。

科目担当者：○小川 久貴子、宮内 清子、高木 耕一郎

講義概要：女性の生涯の健康を考えるうえで、一連の発達過程の中での多面的な変化、およびその対処への理解を深める基礎的な能力について学ぶ。

- 到達目標：1. 女性のライフサイクルの各段階において女性の健康に影響を与える身体的・心理的・社会的要因を理解することが出来る。
2. ライフサイクルの各段階における健康問題についての理解を深める。
3. ライフサイクルを通じての健康の重要性が理解できる。

- 講義のすすめ方：1. 女性のライフステージ別に健康問題を学習する。
2. レポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。

参考文献：久米美代子、飯島治之 編：「ウーマンズヘルス」、医歯薬出版、2011.

成績評価の方法：レポート内容、講義への参加状況

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2 コマ	4/18	水	9:00～12:00	小川久貴子	機能形態学的な視点からみた女性の特徴
3・4 コマ	4/25	水	9:00～12:00		
5・6 コマ	5/2	水	9:00～12:00		女性のライフステージとその特徴（思春期）
7・8 コマ	5/9	水	9:00～12:00		
9・10 コマ	5/16	水	9:00～12:00	高木耕一郎	女性のライフステージとその特徴（成熟期）
11 コマ	9/12	水	9:00～10:25	宮内 清子	女性のライフステージとその特徴（更年期）
12・13 コマ	9/19	水	9:00～12:00		
14・15 コマ	9/26	水	9:00～12:00	小川久貴子	まとめ

科目担当者：○小川 久貴子、川嶋 朗  
(岡野 浩哉)

講義概要：女性のライフサイクルの各段階での生き方や健康問題について探求し、女性を対象にした看護介入を行うための技法に関する基礎を学ぶ。

- 到達目標：1. 女性を対象とした自然医療が理解でき看護介入を考えられる  
2. 女性の各ライフステージにおこる心の問題を理解でき看護介入を考えられる  
3. 世界の女性を対象とした看護介入方法を学ぶ

- 講義のすすめ方：1. 女性の健康問題に対しての実際を学ぶ。  
2. 学習した内容に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。

参考文献：適宜提示する。

成績評価の方法：クラス発表と課題レポート

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	11/6	火	13:00～14:25	小川久貴子	オリエンテーション
2～4コマ	11/13	火	13:00～17:35	小川久貴子	課題学習
5～7コマ	11/20	火	13:00～17:35	川嶋 朗	自然医療 (講義と演習)
8～10コマ	11/27	火	13:00～17:35		
11～13コマ	11/29	木	13:00～17:35	岡野 浩哉	各ライフステージにおけるこころの問題 (12/11 課題学習)
14～15コマ	12/11	火	13:00～16:00		

科目担当者：○小川 久貴子、遠藤 弘良、野口 真貴子

講義概要：国際保健、国際開発、国際保健政策の観点からウーマンズヘルスを学び、これにかかわる国際協力活動について検討する。

到達目標： ・グローバルヘルスにおける女性の健康について理解できる  
 ・国際保健に関わる諸機関（国際機関・NGO等）の役割が理解できる  
 ・開発途上国のウーマンズヘルスを中心とした課題をあげ、支援計画の立案ができる

講義のすすめ方： ・国際保健と国際開発、国際政策、NGOについて学習する。  
 ・世界の女性の健康問題を分析し、その健康問題に対してのプロジェクトを立案する。  
 ・学習した内容に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。

参考文献：デビッド・ワーナー他著、「いのち・開発・NGO」、信評社  
 日本国際保健医療学会編、「第2版 国際保健医療学」、杏林社  
 開発教育推進セミナー編、「改訂新版 新しい開発教育のすすめ方」、古今書院  
 梅内拓生監修、「バッシュ 国際保健学講座」、じほう

成績評価の方法：プレゼンテーション、課題レポート、講義への参加状況

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	9/7	金	13:00～14:25	野口真貴子	オリエンテーション 国連ミレニアム開発目標
2・3コマ	9/14	金	13:00～16:00	小川久貴子	課題学習
4・5コマ	9/21	金	13:00～16:00		
6・7コマ	9/28	金	13:00～16:00		
8・9コマ	10/5	金	13:00～16:00		
10・11コマ	10/12	金	13:00～16:00	遠藤 弘良	特別講義「世界の母子保健」
12・13コマ	10/19	金	13:00～16:00		国際保健政策・国際保健医療（課題学習）
14・15コマ	10/26	金	13:00～16:00	野口真貴子	プレゼン・ディスカッション （開発国のウーマンズヘルス問題） まとめ

科目担当者：○小川 久貴子、日沼 千尋、関森 みゆき、相野田 祐介、富川 由美子

講義概要：女性看護学領域の研究の動向（国内・外）と健康に対する課題を理解し、各自の研究課題をみだし、研究的アプローチを修得する。

- 到達目標：1. 女性看護学領域の学会に参加し、研究の動向と健康に対する課題を記述できる。  
2. 母子保健領域の倫理的問題や感染症対策および子育て支援などの現状と課題を理解する  
3. 論理的、効果的にプレゼンテーション・ディスカッションができる。

講義の進め方：・第11回日本ウーマンズヘルス学会学術集会に参加する。  
・学習した内容に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。

参考文献：適宜提示する。

成績評価の方法：プレゼンテーション、参加状況、課題レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～5コマ	6/2	土	9:00～17:35	小川久貴子	第11回日本ウーマンズヘルス学会学術集会の抄録などのクリティーク
6～10コマ	7/14	土	9:00～17:35		第11回日本ウーマンズヘルス学会学術集会に参加し、「ウーマンズヘルスについて学んだこと」を課題レポート
11・12コマ	10/10	水	9:00～12:00	関森みゆき	新生児・未熟児医療における倫理的諸課題と対応*
13・14コマ	10/11	木	13:30～16:30	相野田祐介	臨床に多い感染症とその対策**
15・16コマ	10/17	水	9:00～12:00	日沼 千尋	母子保健制度・子育て支援策①*** 現状と課題・制度の活用（課題）
17・18コマ	10/24	水	13:00～16:00	日沼 千尋	母子保健制度・子育て支援策①*** 現状と課題・制度の活用（講義）
19・20コマ	11/1	木	9:00～12:00	富川由美子	社会資源の活用と医療相談活動（虐待）**
21～26コマ	11/7	水	9:00～19:10	小川久貴子	女性看護学領域の研究動向や健康に対する課題をふまえ、各自の研究課題を見出す（課題）
27～30コマ	11/14	水	9:00～16:00		プレゼン、まとめ

\*小児看護学特論Ⅲ、\*\*小児看護学演習Ⅱ、\*\*\*小児看護学特論Ⅳと合同講義

科目担当者：○小川 久貴子、原田 通予、宮内 清子、中北 充子  
(恵美須 文枝)

講義概要：ウーマンズヘルスに関わる国内外の質の高い研究論文をもとに、さまざまな研究デザインや研究の基礎となる学術的理論（社会学、教育学、文化人類学、心理学分野など）を系統的に理解する。さらに、それぞれの研究論文の様式や表現方法、論理的構成を理解し、各自の研究課題に応用できるように学習する。

到達目標：1. ウーマンズヘルスにかかわる既存の研究の検討を通して、各自の研究課題を深められる  
2. 論理的、効果的にプレゼンテーション、ディスカッションができる  
3. 書式、表現、論理構成などが的確なレポートを作成できる

講義のすすめ方：・ウーマンズヘルスに関わる国内外の質の高い研究論文を講読する。  
・学習した内容に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。

参考文献：課題ごとに別途提示する。

成績評価の方法：クラス発表と課題レポート、参加状況

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2コマ	2012年 5/23	水	13:00～16:00	小川久貴子 宮内 清子	オリエンテーション 論文の読み方、ディスカッションの仕方 (講義)
3・4コマ	5/30	水	13:00～16:00		
5・6コマ	10/15	月	13:00～16:00	小川久貴子 宮内 清子 原田 通予 中北 充子	課題学習
7・8コマ	10/22	月	13:00～16:00	恵美須文枝	特別講義
9・10コマ	10/29	月	13:00～16:00	小川久貴子 宮内 清子 原田 通予 中北 充子	課題学習
11・12コマ	11/ 5	月	13:00～16:00		
13・14コマ	11/12	月	13:00～16:00		
15・16コマ	11/19	月	13:00～16:00		
17・18コマ	11/26	月	13:00～16:00		
19・20コマ	12/ 3	月	13:00～16:00		研究計画書のプレゼンテーション、 ディスカッション
21・22コマ	12/10	月	13:00～16:00		
23・24コマ	12/17	月	13:00～16:00		
25・26コマ	2013年 1/21	月	13:00～16:00		
27・28コマ	1/28	月	13:00～16:00		
29・30コマ	2/ 4	月	13:00～16:00		

科目名 ウーマンズヘルス実習

(6単位 8週)

科目担当者：○小川 久貴子、竹内 道子、原田 通予、宮内 清子、飯塚 幸恵、中北 充子、  
井上 友里

実習概要：妊婦・産婦・褥婦・新生児に関する水準の高い助産診断・技術の実践を行う。さらに、ハイリスク事例のケアを実践する。また、実践者に必要な役割としての教育と相談および調整能力を培い、さらに地域における助産ケアの構築について、医療連携を踏まえて実践する能力を獲得する。

到達目標：1. 妊婦・産婦・褥婦・新生児の的確な助産診断と介助及びケアの実践力を高める。  
2. 妊娠期から産後1ヶ月まで継続して個人指導を行うことで、教育・相談・調整能力を高められる。  
3. ハイリスク新生児のケアの実践ができる。  
4. 地域における医療連携を包括したウーマンズヘルスの視点から、よりよい助産のあり方を構築する。

成績評価の方法：実習の出欠態度、提出物

実習期間：1. 助産所実習：2012年2月12日（日）～3月11日（日）  
2. 病院実習：2012年4月9日（月）～9月14日（金）

実習方法：実習要項参照

科目名           ウーマンズヘルス課題研究

(2単位)

科目担当者：○小川 久貴子、宮内 清子

講義概要：特論及び演習で学び得た知識と技術を基に、直接的看護介入や助産診断技術に関する研究テーマを導き出し、一連の研究プロセスを通じた、専門的看護・助産援助の質の向上に寄与する臨床研究能力を養う。

- 到達目標：1. 各自の研究テーマを見出し、文献検討を行い、テーマに関する研究動向を把握する。  
2. 倫理的配慮の伴った研究計画書を立案し、一連の研究プロセスを通して臨床研究能力を獲得する。  
3. 研究成果を考察して新しい知見を見出し、学位論文を作成できる。  
4. 研究成果を的確に制限時間内にプレゼンテーションすることができる。

参考文献：課題研究ごとに、別途提示する。

成績評価の方法：修士論文審査に準ずる

指導日程

実施曜日：毎週土曜日 通年 1コマ

時間帯   ：2限（10:35～12:00）

科目担当者名：○小川 久貴子

講義概要：特論及び演習で学び得た知識を基に、ウーマンズヘルス領域における各自のテーマを導き出し、一連の研究プロセスを通してウーマンズヘルスに寄与する基礎的研究能力を養う。

到達目標：1. 各自の研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究テーマに適した研究方法を選択する。  
2. 倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成できる。  
3. 研究計画書にそって具体的に調査活動を行う。  
4. 得られた成果を考察して新しい知見を見出し、学位論文を作成できる。  
5. 研究成果を的確に制限時間内にプレゼンテーションすることができる。

参考文献：研究ごとに、別途提示する。

成績評価の方法：修士論文審査に準ずる

指導日程

実施曜日：金曜日、土曜日 各2コマ 通年

時間帯：金曜日4・5限(14:35～17:35)、土曜日3・4限(13:00～16:00)

科目担当者：○水野 敏子

講義概要：老年看護で用いる理論、概念について学ぶとともに、老年看護における倫理的課題について探究し、高齢者とその家族を対象にした看護を実践するための理論的基盤を養う。

- 到達目標：1. 老年看護学における重要概念を説明できる。  
2. 老年看護学において有効と考えられる理論を説明できる。  
3. 老年看護実践における倫理的課題について説明できる。

講義のすすめ方：文献購読、院生によるプレゼンテーションと討論によって授業を進める。

参考文献：

鷺田清一(2004):老いの空白、弘文堂

E. O. コックス他 (1994):高齢者のエンパワーメントの基礎、相川書房

和気純子(1998):高齢者を介護する家族エンパワーアップアプローチの展開に向けて、東京、川島書房

藤田綾子(2009):高齢者と適応、ナカニシヤ出版

ポールトウルニエ(1975):老いの意味 うるわしい老年のために、ヨルダン社

伊藤光晴(1986):老いのパラダイム、岩波書店

E. H. エリクソン(1997):老年期生き生きしたかわりあい、みすず書房

南博文他(1995):老いることの意味:中年・老年期(講座 生涯発達心理学)、金子書房

天田城介(2004):、老い衰えゆく自己の/と自由、ハーベスト社

Ebersole, P. & Hess P.(2004): Toward Health Aging: Human Needs and Nursing Rspnse, 7th edition, Mosby

成績評価の方法：授業への参加状況、プレゼンテーションの準備と発表、討論の内容により評価  
講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	4/12	木	13:00~14:25	水野 敏子	オリエンテーション
2・3コマ	4/19	木	13:00~16:00	水野 敏子	理論や参考図書から、老いを生きる人を理解する。
4・5コマ	4/26	木	13:00~16:00	水野 敏子	高齢者の健康について探求する。
6・7コマ	5/10	木	13:00~16:00	水野 敏子	高齢者の無力化、エンパワーメント、高齢者にとっての健康などについてグローバルな視点から文献を読み、討論する。
8・9コマ	5/17	木	13:00~16:00	水野 敏子	老年看護学で用いられている理論を一つ選び、その有効性と範囲、理論枠組みなどを、具体例を通して理解する。
10・11コマ	5/24	木	9:00~12:00	水野 敏子	
12・13コマ	5/31	木	13:00~16:00	水野 敏子	老年看護実践において遭遇する倫理的課題について理解する。老年差別や虐待、身体拘束、自己決定、公平性の問題等について取り上げる。
14・15コマ	6/7	木	13:00~16:00	水野 敏子	

科目担当者：○水野 敏子、小山 千加代、坂井 志麻、松村 美由起、篠 聡子  
(高橋 龍太郎)

講義概要：高齢者の健康生活上のニーズを知るために必要な、健康と生活機能、家族、介護、環境等の評価方法について探求する。

- 到達目標：1. 高齢者の総合的機能評価の考え方について説明できる。  
2. 高齢者の行動、感覚の機能評価について説明できる。  
3. 高齢者の身体的、精神的機能評価について説明できる。  
4. 高齢者の摂食・嚥下機能および栄養状態の評価について説明できる。  
5. 家屋構造や地域環境等の人的・物理的環境が高齢者の行動や心理に与える影響について、諸理論を用いて説明できる。  
6. 介護する家族を援助するための評価について、家族看護に関する理論を踏まえて説明できる。

講義のすすめ方：アセスメントの中心概念、目的、有効性、注意点、限界、課題などについて学生がプレゼンテーションし、それに基づき討論する。また、東京都健康長寿医療センターにおける老年患者の外来診察の見学を行う。

参考文献：必要に応じて紹介する。

成績評価の方法：プレゼンテーションの準備、内容、レポートなどで評価する。

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	6/14	木	9:00~12:00	小山千加代	オリエンテーション：高齢者の健康生活評価についての考え方や目標を理解する。 高齢者のADL(日常生活動作)のアセスメントの意義や注意点、方法について学ぶ
2コマ					
3コマ	6/14	木	13:00~16:00	小山千加代	高齢者の慢性疼痛のアセスメントの方法や注意点、援助との関連について学ぶ
4コマ					
5コマ	6/21	木	13:00~16:00	坂井 志麻 篠 聡子	高齢者の摂食・嚥下機能のアセスメントの方法、水準、視点と援助への関連について、最新の研究結果を活用しながら理解する。
6コマ					
7コマ	6/28	木	13:00~14:25	坂井 志麻	高齢者に関する栄養評価の方法とリスクについて理解できる。
8コマ	7/5	木	13:00~16:00	高橋龍太郎	高齢者総合的機能評価のねらい、意義について学ぶ
9コマ					
10コマ	7/10	火	9:00~12:00	松村美由起	認知機能のアセスメントの方法と注意点、援助について最新の研究結果を踏まえて理解する
11コマ					
12コマ	7/12	木	9:00~12:00	小山千加代	家屋構造や地域環境、環境と行動・心理・健康に関する諸理論の理解を踏まえ、高齢者の健康生活への人的・物理的環境の影響について理解する。
13コマ					
14コマ	7/26	木	9:00~12:00	小山千加代	家族に関連する諸理論を踏まえ、家族が問題対処能力を高めながら、問題解決できるように援助するためのアセスメント方法を学修する。
15コマ					

科目担当者：○水野 敏子、尾崎 恭子、坂井 志麻、原沢 のぞみ、川嶋 朗、太田 喜久子  
(川崎 千鶴子、西村 かおる)

講義概要：高齢者の健康レベルに応じた生活の質を維持、向上するための看護について探求すると共に高齢者に多く見られる健康事象について現状を分析し、看護の開発や評価の方法を探る。

到達目標：1. 高齢者に特徴的な看護ニーズについて最近の研究や実践動向を踏まえて説明できる。  
2. 高齢者に特徴的な看護について理論を用いて説明できる。

講義のすすめ方：講義の他に理論・介入方法・評価・課題等についてプレゼンテーションし討議する。  
エキスパートナースと共に援助場面に実際に参加し、方法、課題を理解する。

参考文献：西村かおる (2009)：コンチネンスケアに強くなる排泄ケアブック、学研  
福井準之助・小松浩子・西村かおる (2001)：尿失禁ケアハンドブック、医薬ジャーナル社  
中島紀恵子、太田喜久子・他(2007)：認知症高齢者の看護、医歯薬出版  
Mildred O. Hogstel(ed.) (2001)：Gerontology: nursing care of the older adult(1st.),  
Chapter 15 care issues, pp289-316, Delmar, Albany  
Charlotte Eliopoulos(ed.) (2001)：Gerontological nursing(5th), Unit IV -31 Acute  
conditions, pp378-395, Lippincott, Philadelphia

成績評価の方法：プレゼンテーションの準備、内容、レポート等で評価する。

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2 コマ	9/6	木	9:00～12:00	水野 敏子	高齢者に特徴的にみられる看護ニーズ(転倒)について、理論、介入、評価方法等を最近の研究から理解する。
3・4 コマ	9/13	木	9:00～12:00	川崎千鶴子	高齢者に特徴的にみられる看護ニーズ(感染と管理)について、理論、介入、評価方法等を最近の研究から理解する。
5～7 コマ	9/18	火	9:00～14:25	水野 敏子 西村かおる	高齢者に特徴的にみられる看護ニーズ(排泄)へのアセスメント、介入、評価について実際の看護介入場面に参加しながら体験的に理解する。
8・9 コマ	9/26	水	13:00～16:00	川嶋 朗	代替医療と老年の健康:高齢者に効果的な代替医療の原理や介入・評価方法について理解する。
10 コマ	10/4	木	13:00～14:25	尾崎 恭子	急性期における高齢者の健康状態の評価と治療、麻酔の効果や影響について探求する。
11 コマ	10/4	木	14:35～16:00	坂井 志麻 原沢のぞみ	急性期における高齢者への理論、看護と評価について探求する。
12～14 コマ	10/11	木	10:35～16:00	太田喜久子	認知機能障害のある高齢者の看護に関する理論と実際について最新の研究結果を踏まえ探求する。 譫妄を生じる高齢者への看護に関する理論と実際について探求する。
15 コマ	10/18	木	10:35～12:00	原沢のぞみ	せん妄を生じている高齢者への看護と評価事例検討から

科目担当者：○水野 敏子、坂井 志麻、井澤 玲奈  
(井上 郁、小栗 智美)

講義概要：個人に最適なサービス調整や他職種との連携を促進し、健康から終末期に至るまでのサポートの在り方について理解し、切れ目のない支援を行うための展開能力を養う。  
さらに高齢者への保健医療福祉政策やサポート構築のプロセスを学び、ケアシステム開発能力を養う。

到達目標：1. 保健福祉政策の現状をグローバルな視点から分析し、今後の方向性を提案できる。  
2. サポートシステムやケアマネジメントの理論と方法を理解し、活用と発展について事実に基づいて提案できる。  
3. 国内外の老年看護の CNS の機能と役割、課題について理解し、今後の発展について具体的に述べることができる。

講義のすすめ方：講義とプレゼンテーション

参考文献：開講時に紹介する。

成績評価の方法：プレゼンテーションの準備と発表方法、内容、レポートにより評価する。

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2 コマ	10/25	木	9:00～12:00	水野 敏子	老人福祉法・老人保健法・介護保険・老人医療政策等を含む老年保健医療福祉政策を理解する。
3 コマ	11/ 1	木	10:35～12:00		老年保健医療福祉政策について看護の視点から課題と今後の方向性について探求する。
4・5 コマ	11/ 8	木	9:00～12:00		サポートシステム・ケアマネジメントの理論と方法を理解し、その活用と発展方法について探求する。
6・7 コマ	11/15	木	9:00～12:00	小栗 智美	国内外の老年看護の CNS の機能と役割獲得過程や実践内容・今後の動向について学修し、CNS の機能について探求する。
8・9 コマ	11/22	木	9:00～12:00	坂井 志麻	ケアの継続性と退院計画の展開方法を理解する。
10・11 コマ	11/29	木	9:00～12:00	井澤 玲奈	世界の保健医療福祉政策と制度・ケアシステムを理解し、看護者として、日本における政策やケアシステムの今後について探求する。
12・13 コマ	12/ 6	木	9:00～12:00	井上 郁	わが国の老年看護の政策について展望する。
14・15 コマ	12/13	木	9:00～12:00	水野 敏子	ケアシステムの構築や改善を推進するプロセスを学び、ケア改善への提案を実際に行うことを通して、開発能力を養う。

科目担当者：○水野 敏子、坂井 志麻  
(高橋 龍太郎)

講義概要：老年期に多くみられる症候について、フィジカルアセスメントや検査方法を学び、ハイリスク状況を査定する能力を修得することによって、高齢者にとってより安全、安心な生活を継続するためのケアとケアを融合した看護を実践する能力を養う。

- 到達目標： 1. 老年期に多くみられる症候についてリスクの程度を判断し、適切に対応できる。  
2. リスクアセスメントに必要な検査・治療方法ならびその判断ができる  
3. 急変時・症状出現時における初期対応ができる。  
4. 生活を整える視点から治療方法の妥当性を判断し、生活を整えることができる。

講義の進め方： 講義と身体のアセスメント、検査技術の演習を組み合わせる

参考文献：大内 尉義 (編集) (2010) :新老年学 第3版、東京大学出版会。  
日野原重明 (2001) :看護のための最新医学講座 老人の医療、中山書店。  
Lynn S. Bickley (訳: 山内豊明) (2008) : ベイツ診察法ポケットガイド第2版, メディカル・サイエンス・インターナショナル。  
E. Capezuti, D. Zwicker, M. Mezey, & T. Fulmer (2012) : Evidence-Based Geriatric Nursing Protocols for Best Practice 4th ed., NY: Springer Publishing

成績評価の方法： 授業への参加状況と、貢献度、レポートによって評価する。

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	10/24	水	10:35~12:00	水野 敏子 坂井 志麻	オリエンテーション
2・3コマ	10/31	水	9:00~12:00	高橋龍太郎	高齢者における病態と一般的な特徴 電解質異常、高齢者の腫瘍、臓器相関(複合性疾患)、多臓器不全
4・5コマ	11/7	水	9:00~12:00		高齢者の薬物療法 老年者の薬物動態と薬物力学、処方上の留意点、薬効評価、服薬と指導
6・7コマ	11/14	水	9:00~12:00		免疫機能障害のメカニズムと治療 高齢者の感染防御と感染症、感染症と病原体
8・9コマ	11/21	水	9:00~12:00		高齢者の皮膚疾患 帯状疱疹、薬疹、掻痒症、他
10・11コマ	11/28	水	9:00~12:00		感覚器の機能障害の原因とメカニズム 味覚・視覚・聴覚障害
12・13コマ	12/5	水	9:00~12:00		高齢者の精神機能への対応 認知症の評価と治療 老年期うつ病の評価と治療、 向精神薬の使用
14・15コマ	12/12	水	9:00~12:00		終末期医療 疼痛・緩和ケア

科目担当者：○小山 千加代、原沢 のぞみ、井澤 玲奈  
(高橋 龍太郎)

講義概要：治療を要して入院した急性期にある認知症高齢者への看護実践をとおして、患者や家族への相談援助、医療チームとの連携等について学ぶ。そして、研究的視点を持って事例を詳細に検討し、老年看護の特徴および専門性について探求する。

到達目標

1. 老年看護学領域の研究から質の高いアセスメント、実践、評価の方法について文献購読し、エビデンスに基づいた看護実践の方法を理解する。
2. 認知症および老年期に特徴的な疾患・障害を有する高齢者の看護実践に必要なフィジカル・アセスメント (PA: Physical Assessment) を系統的・実践的に修得し、高齢者の心身状態を的確に把握する PA のあり方を理解する。
3. 研究的視点を持って事例を詳細に検討し、老年看護の特徴および専門性について探求する。
4. 臨床実習での看護実践を理論を用いて振り返り、学生間で討議し、看護理論の実践への応用について考察する。
5. 老年看護における専門性について自己の考えを明確にする。

演習の進め方：1. 各自の臨床経験から入院中の認知症高齢者の典型または困難な事例の検討を行う。  
2. 高齢者高度専門医療施設における高齢者の看護を理解する。  
3. テーマに応じた後期高齢者 1 名を受け持つ。  
4. 各自の事例を詳細に検討し、行った看護を評価する。  
5. 受け持ち患者の看護について、理論を用いて整理、内省、考察して、レポートを提出する。

参考文献：適宜紹介する。

成績評価の方法：事例検討記録、演習への参加度、レポートによる評価

演習日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	演習概要
1 コマ	6/13	水	9:00~10:25	小山千加代 高橋龍太郎 原沢のぞみ 井澤 玲奈	オリエンテーションおよび認知症高齢患者に対する心身機能のアセスメント方法について学修し、入院患者と家族への援助について考える。
2~3 コマ	6/20	水	9:00~12:00		学内演習：高齢者の看護事例をもとに、最新の治療や卓越した看護を学ぶ。患者を取り巻く医療チームとの連携や調整を考える。研究的視点を持ってケースの検討や社会全体への働きかけへの糸口をつかむ。
4~5 コマ	6/27	水	9:00~12:00		
6~9 コマ	7/18	水	9:00~16:00		
10~13 コマ	7/19	木	9:00~16:00		病棟実習：病棟において、医師、看護師と共に直接的ケアを行い、患者や家族とのコミュニケーションを通じて再度、看護場面で生じる認知症への対応、複雑な出来事との関係を系統的に整理し、患者の主体性、QOL や人権を尊重し、専門職としての看護の実践基盤を振り返る機会とする。
14~15 コマ	7/25	水	13:00~16:00	小山千加代	実習での看護実践場面を看護理論を使って振り返り、学生間で討議する。そして、老年看護における専門性について自己の考えを明確にする。

科目担当者：○水野 敏子、坂井 志麻

講義概要：在宅で療養する複雑な健康問題をもつ高齢者とその家族が、質の高い生活を送ることができるよう、適切な看護判断と看護実践を展開する能力を習得する。

- 到達目標：1. 複雑な問題や多様なニーズをもつ在宅で療養している高齢者を包括的にアセスメントできる。  
 2. 在宅で療養生活を送っている高齢者、特に終末期や退院直後の患者等、複雑な看護ニーズを有する患者やその家族に対し、看護師がどのようにアセスメント、介入しているのか理解することを通して、QOLの高い生活を継続するための援助について説明できる。  
 3. 在宅における高齢者の保健医療福祉政策を踏まえ、チームアプローチの中で果たすべき看護の専門性について説明できる。  
 4. 在宅で療養する高齢者の倫理的課題に関心をもち、尊厳ある生活に向けた看護援助の方策について述べることができる。

演習のすすめ方：在宅ケアに関連する内容について文献購読、討論を行う。訪問看護ステーションで演習を行い、各自のテーマに基づき高齢者を対象とした在宅ケアの実際について、事例検討をする。

参考文献：適宜紹介する。

成績評価の方法：演習への参加度、課題レポートにより評価する。

#### 演習日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	9/5	水	9:00～10:25	水野 敏子 坂井 志麻	在宅療養高齢者への終末期ケアに関する研究の動向
2・3コマ	9/12	水	9:00～12:00	水野 敏子 坂井 志麻	在宅療養高齢者への退院調整に関する研究の動向
4・5コマ	9/19	水	9:00～12:00	水野 敏子 坂井 志麻	在宅療養高齢者のケアに関わる倫理的問題
6・7コマ	10/3	水	9:00～12:00	水野 敏子 坂井 志麻	在宅終末期の高齢者等のケアについて (1)
8・9コマ	10/3	水	13:00～16:00	水野 敏子 坂井 志麻	在宅終末期の高齢者等のケアについて (2)
10・11コマ	10/10	水	9:00～12:00	水野 敏子 坂井 志麻	複雑な問題を抱える事例について (1) 退院事例等
12・13コマ	10/10	水	13:00～16:00	水野 敏子 坂井 志麻	複雑な問題を抱える事例について (2) 退院事例
14・15コマ	10/17	水	9:00～12:00	水野 敏子 坂井 志麻	高齢者の在宅ケアの課題と今後の老年看護の方向性についての検討

科目名 老年看護学実習 I

(6単位 6週)

科目担当者：○水野 敏子、小山 千加代、坂井 志麻、原沢 のぞみ、井澤 玲奈  
(高橋 龍太郎)

実習概要：急性期医療機関における高齢者や在宅で療養している高齢者に対して、研究的視点を持ちながら最新の知識と技術を用いた看護実践能力を修得する。また看護スタッフの相談・教育能力や、患者を取り巻く医療チームとの調整能力を開発するなど、現場の改革者としての独自の行動を発展させる能力を修得する。

到達目標：1. 健康障害をもつ高齢者とその家族について、身体・精神・生活等を総合的に評価できる。

2. 高齢者にとっての検査・治療・薬物の影響を査定することができる。

3. 高齢者とその家族に対する的確な看護判断に基づき、最新の知識・技術を用いて看護援助を実施し、評価することができる。

4. 看護スタッフおよび他の機関や保健医療福祉関係者との連携を図ることができる。

5. 十分な情報提供と説明を実施して、高齢者自身の適切な意思決定を援助することができる。

6. 高度実践看護師としての教育・相談・調整・倫理調整についての機能を説明できる。

7. 老年看護の理論や質の高い最新の研究を理解して実践に活用できる。

8. 実施した看護を踏まえ老年看護についての専門的な知識と技術を体系的に整理できる。

実習の展開：2つの専門領域について合計6週間以上の実習を行う。自分の専門性を選択し各領域は2週間から4週間の範囲で実習を行う。

### 病院実習

	内容	備考
<b>1週目～3週目</b> 9月10日(月)～9月28日(金) (15日間) 9:00～16:00 (I限～IV限) (主に施設内)	1. 病棟管理者よりオリエンテーションを受け、病院見学などを通して、施設の概要を知る 2. スタッフと共に援助を行う *学習経験や自己の目的にしたがって実習内容を検討する ・急性期にある認知症等高齢者を入院から退院まで受け持ち、スタッフと共に援助する。 ・医療チームの一員として、連携して援助する。 3. 看護計画を立案し病棟指導者の指導を受ける。 4. 自己の看護実践を病棟指導者や指導教員と共に検討する	必要ならば 夜間実習も 行う 2～4週間 実習を選択
<b>2週目～3週目</b> 9月18日(火)～9月28日(金) (9日間) 9:00～16:00 (I限～IV限) (主に施設内)	1. 専門看護師の機能や実践方法などの実際について説明を受ける 2. 専門看護師と共に、実践をおこなう	
<b>4週目</b> 10月1日(月)～10月5日(金) (5日間) 9:00～16:00 (I限～IV限) (主に学内)	(まとめ) 自己の看護実践や専門看護師の実践を考察する (担当教員と共に検討)	

### 訪問看護ステーション実習

	内容	備考
<b>1週目～3週目</b> 3月25日(月)～4月12日(木) (15日間) 9:00～16:00 (I限～IV限)	1. 管理者よりオリエンテーションを受け施設の概要を知る 2. スタッフと共に援助を行う ・在宅で療養している複雑な看護問題を持つ老高齢者(終末期、退院直後等)とその家族を受け持ち、スタッフと共に援助する。 ・倫理的問題について検討する。 ・ケアマネージメントや他職種との調整をスタッフと共にこなす。 4. 看護計画を立案しステーションの指導者と教員の指導を受ける。 5. 自己の看護実践をカンファレンスや指導教員と共に検討する	援助内容によっては 夜間も 行う 2～4週間 実習を選択
<b>2週目</b> 4月1日(月)～4月5日(金) (5日間) 9:00～16:00 (I限～IV限) (主にステーション内)	1. 施設管理者から管理実践の実際や、専門看護師としての実践について説明を受ける 2. 専門看護師、管理者と共に、専門看護師役割実践をおこなう 3. スタッフの相談・教育場面に参加する。	
<b>4週目</b> 4月15日(月)～4月19日(金) (5日間) 9:00～16:00 (I限～IV限) (主に学内)	(まとめ) 自己の看護実践や専門看護師としての活動の検討 (担当教員と共に検討)	

\*一事例2週間から4週間受け持ち、合計2～4事例受け持つ。

成績評価の方法・提出物

ケースレポート3例以上を作成する(必ず認知症老年看護に関するものを含む)。調整・教育・相談レポート作成。

科目担当者：○坂井 志麻  
(高橋 龍太郎)

実習概要：施設や在宅、および病院等いずれの場においても共通し、高齢者に生じやすい症状や治療に予測的に対応できるようになるために、病態生理、薬物療法を踏まえ、フィジカルアセスメントによりリスクの程度を判断し、キュアとケアを統合した看護実践を導くための能力を修得する。

到達目標： 1. 医師の診療から高齢者に必要な診察技術、診断技術を理解する。  
2. リスクの程度を判断し、対処方法、治療・検査上注意することを理解し、看護を導くことができる。

実習内容： 1. 特定範囲内の診察や検査、処方を指導の下で実施する。  
2. 病態、リスク、判断した内容と関連付けた看護アセスメント、対処についてケースレポートを3～5例、作成する。

### 実習の展開

	内容	備考
平成 25 年 8 月 1 週目 (5 日間) 9:00～16:00 (I 限～IV 限)	高齢者の救急疾患におけるフィジカルアセスメントと初期治療について理解する (心血管系、脳血管系、呼吸器系、)	救急外来
平成 25 年 8 月 2 週目 (5 日間) 9:00～16:00 (I 限～IV 限)	高齢者の骨・運動系疾患、消化器疾患の診断と治療について理解する	外科病棟
平成 25 年 8 月 3 週目 (5 日間) 9:00～16:00 (I 限～IV 限)	認知症高齢者の評価と薬物療法について理解する	精神科病棟
平成 25 年 8 月 4 週目 (5 日間) 9:00～16:00 (I 限～IV 限)	高齢者の終末期医療と疼痛・緩和ケアについて理解する	緩和ケア病棟、外来

### 成績評価の方法・提出物

実習内容の到達度と 3～5 事例のケースレポートにより評価する。

科目担当者：○水野 敏子

講義概要： 高齢者やその家族に関する研究課題を設定し、文献研究を行い論文を作成する。

- 到達目標：1. 高齢者やその家族に関するアセスメント、ケアマネージメント、実践技術他に関する文献研究を行い論文を作成できる。
2. 文献研究のプロセスを学び、エビデンスの明確な研究とはどのようなものかについて説明できる。
  3. 質の高い文献、実践可能な文献とは何かについて討論により理解する。
  4. 研究結果の実践への応用について説明できる。

講義のすすめ方：定期的に話し合いながら以下の内容について検討していく。

文献研究とは何か、その方法について理解する。

研究課題とテーマ

研究意義の明確化

文献の検討

研究方法と対象、範囲

結果

考察

論文作成

論文発表準備

指導日程：平成24年4月11日より平成25年1月28日までの間

(ただし8/2～8/23、12/27～1/3は除く)

隔週月曜日 14：35～16：00 16：10～17：35 の4・5限 2コマ

以上を原則とするが、内容によって調整する

科目担当者：○水野 敏子

講義概要：研究課題に基づき研究計画書を作成して研究を進め、修士学位論文を作成する。

- 到達目標：1. 老年看護学における理論開発、アセスメント方法の開発、評価、実践方法に関する研究を行い、論文を作成する。
2. 研究プロセスを学び、老年看護学における質の高い研究とはどのようなものかについて説明できる。
3. 研究結果の実践への応用について説明できる。

講義のすすめ方：定期的に話し合いながら以下の内容について検討していく

研究課題とテーマ

文献検索の結果から研究の意義の明確化

研究デザインと方法

研究対象とフィールド依頼

倫理的配慮

計画書の作成（4月下旬まで）

倫理委員会案作成

計画発表会準備

データ収集

結果分析

結果の表示

考察

論文作成

論文発表準備

指導日程：平成24年4月12日より平成25年1月28日までの間

(ただし8/2～8/23、1/3は除く)

毎週火曜日 14:35～16:00 16:10～17:35 の4・5限 2コマ

毎週土曜日 9:00～12:00 の1・2限 2コマ

以上を原則とするが、内容によって調整する

科目担当者：○田中 美恵子

講義概要：精神保健医療・看護の歴史、法制度の変遷、国際的な動向などを、文献を通して踏まえ、現行の精神保健医療制度を批判的観点から把握するとともに、わが国における精神保健問題の現況を把握し、今後の精神保健医療において看護職が果たすべき役割について展望する。

- 到達目標：1.近代精神医学の成立から現代の精神医学に至る精神医療史を学び、歴史に胚胎する諸問題を批判的観点から理解する。  
 2.古代から現代に至るまでの日本の精神医療史を学び、歴史に胚胎する諸問題を批判的観点から理解する。  
 3.現代日本の精神医療保健福祉制度について学び、今後求められる制度と看護の役割についての見解を持つ。  
 4.世界の精神保健医療福祉制度の動向について学び、日本の諸制度の向かうべき方向性についての展望を獲得する。

講義のすすめ方：学生による発表と討議を中心に進める。内容によって講義形式をとる。一部外部特別講師による講義を含む。

教科書：小俣和一郎：近代精神医学の成立、人文書院、2002.  
 八木剛平・田辺英：日本精神病治療史、金原出版、2002.

参考文献：岡田靖雄：日本精神科医療史、医学書院、2002.  
 他、適宜紹介

成績評価の方法：発表の準備度・内容、討議への参加度、レポート

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2 コマ	4/19	木	9:00～12:00	田中美恵子	歴史・法制度論①②近代精神医学史
3・4 コマ	4/26	木	9:00～12:00	田中美恵子	歴史・法制度論③④病院精神医学の成立
5・6 コマ	5/10	木	9:00～12:00	田中美恵子	歴史・法制度論⑤⑥大学精神病院の成立
7・8 コマ	5/17	木	9:00～12:00	田中美恵子	歴史・法制度論⑦⑧戦争と精神医学
9・10 コマ	5/24	木	9:00～12:00	田中美恵子	歴史・法制度論⑨⑩古代日本精神医療史
11・12 コマ	5/31	木	9:00～12:00	田中美恵子	歴史・法制度論⑪⑫近代日本精神医療史
13・14 コマ	6/7	木	9:00～12:00	田中美恵子	歴史・法制度論⑬⑭精神保健医療福祉制度
15 コマ	6/14	木	10:35～12:00	田中美恵子	歴史・法制度論⑮ 世界の精神保健福祉

科目担当者：○田中 美恵子

講義概要：精神分析理論、精神病理学理論、対人関係論等、精神看護学を構成する基礎的理論を学び、対象をアセスメントし、関係を形成し、看護介入を行うための理論的基盤を養う。

到達目標：1.精神分析の基礎理論について学び、重要概念を理解する。  
2.対象関係論について学び、重要概念を理解する。  
3.力動的精神医学について学び、DSM と精神分析概念を併用したアセスメント・介入技術について理解する。

講義のすすめ方：学生による発表と討議を中心に進める。内容によって講義形式をとる。

教科書：土居健郎：精神分析と精神病理、第2版、医学書院、1970.

G.O.ギャバード：精神力動的精神医学①理論編、岩崎学術出版、1998.

参考文献：C.ブレナー：精神分析の理論、誠信書房、1986.

G.O.ギャバード：精神力動的精神医学②臨床編：Ⅰ軸障害、岩崎出版、1998.

G.O.ギャバード：精神力動的精神医学③臨床編：Ⅱ軸障害、岩崎学術出版、1998.

小此木啓吾他編：精神分析セミナーⅠ～Ⅴ、岩崎学術出版社、1981～1988.

小此木啓吾：精神分析の成り立ちと発展、弘文堂、1985.

小此木啓吾：精神分析の基礎理論、弘文堂、1985.

前田重治：図説 臨床精神分析学 誠信書房、1985.

成績評価の方法：発表の準備度・内容、討議への参加度、レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2 コマ	6/21	木	9:00～12:00	田中美恵子	精神看護理論①②精神分析理論（局在論）
3・4 コマ	6/28	木	9:00～12:00	田中美恵子	精神看護理論③④精神分析理論（構造論）
5・6 コマ	7/5	木	9:00～12:00	田中美恵子	精神看護理論⑤⑥精神分析理論（精神的発達）
7・8 コマ	7/12	木	9:00～12:00	田中美恵子	精神看護理論⑦⑧精神分析理論（防衛機制）
9・10 コマ	7/19	木	9:00～12:00	田中美恵子	精神看護理論⑨⑩対象関係論
11・12 コマ	7/26	木	9:00～12:00	田中美恵子	精神看護理論⑪⑫力動精神医学（Ⅰ軸障害）
13・14 コマ	9/6	木	9:00～12:00	田中美恵子	精神看護理論⑬⑭力動精神医学（Ⅱ軸障害）
15 コマ	9/13	木	10:35～12:00	田中美恵子	精神看護理論⑮ 事例検討

科目担当者：○田中 美恵子

（Douglas Olsen（特別講師））

講義概要：精神看護倫理の基礎理論、当事者論等を学び、精神保健医療サービスのユーザーの権利を保護し、当事者のリカバリーを支援する看護活動展開のための理論的基盤を養う。さらに当事者の側から求められる精神保健医療・看護について、リカバリーモデルおよびストレングスモデルを基盤に洞察する。

到達目標：1.精神看護倫理の基礎理論を学び、実践を倫理的観点からみるための基礎を養う。

2.国内外の当事者運動の歴史と動向を文献を通して理解する。

3.当事者の手記、当事者の視点に焦点を当てた研究等を読み、当事者体験を理解する。

4.リカバリーモデル・ストレングスモデルなど、当事者中心のモデルについて理解する。

講義のすすめ方：学生による発表と討議を中心に進める。内容によって講義形式をとる。

参考文献：別途指示する。

成績評価の方法：発表の準備度・内容、討議への参加度、レポート

## 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2コマ	5/10	木	13:00～16:00	田中美恵子	精神看護倫理①② 倫理理論の基礎
3・4コマ	5/17	木	13:00～16:00	田中美恵子	精神看護倫理③④ 臨床倫理
5・6コマ	5/24	木	13:00～16:00	田中美恵子 Douglas Olsen	精神看護倫理⑤⑥ 原則論と関係論
7・8コマ	5/31	木	13:00～16:00	田中美恵子	精神看護倫理⑦⑧事例検討
9・10コマ	6/7	木	13:00～16:00	田中美恵子	精神看護倫理⑨⑩事例検討
11・12コマ	6/14	木	13:00～16:00	田中美恵子	当事者論①②リカバリーモデル
13・14コマ	6/21	木	13:00～16:00	田中美恵子	当事者論③④ストレングスモデル
15コマ	6/28	木	13:00～14:25	田中美恵子	当事者論⑤⑥当事者の手記・体験記

科目担当者：○田中 美恵子、尾崎 恭子、山内 典子、Pamela Minarik

講義概要：心身一元論の立場より、ホリスティック・アプローチを基本とするリエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、活動の実際などについて、実践的レベルで探求する。

- 到達目標：1. 精神看護学の一専門領域としてのリエゾン精神看護の位置づけ・目的・機能を理解する。  
 2. 身体疾患をもつ患者の精神の特徴およびアセスメントの方法について理解する。  
 3. せん妄、抑うつ、不安の3つの精神状態について説明できる。  
 4. 直接ケアおよびコンサルテーションのプロセスや方法、役割について説明できる。  
 5. 看護師のメンタルヘルスの特徴およびリエゾン精神専門看護師が行う支援について理解する。

講義のすすめ方：学生による発表と討議を中心に進める。内容によって講義形式をとる。

教科書：野末聖香編著：リエゾン精神看護－患者ケアをナース支援のために、医歯薬出版、2004.

参考文献：適宜紹介。

成績評価の方法：発表の準備度・内容、討議への参加度、レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～4コマ	6/11	月	9:00～16:00	Minarik 田中美恵子	リエゾン精神看護①,②,③,④（概論：目的・機能、コンサルテーションのタイプ）
5～8コマ	6/12	火	9:00～16:00	Minarik 田中美恵子	リエゾン精神看護⑤,⑥,⑦,⑧（各論：せん妄・抑うつ・不安とアセスメント）
9・10コマ	9/6	木	13:00～16:00	山内 典子	リエゾン精神看護⑨,⑩ （ケースコンサルテーション）
11・12コマ	9/13	木	13:00～16:00	山内 典子	リエゾン精神看護⑪,⑫ （看護師への支援）
13・14コマ	9/20	木	13:00～16:00	山内 典子	リエゾン精神看護⑬,⑭ （管理的コンサルテーション）
15コマ	9/27	木	13:00～14:35	尾崎 恭子	リエゾン精神看護⑮（術後せん妄）

科目担当者：○田中 美恵子、異儀田 はづき、嵐 弘美、稲田 健、高橋 一志  
 （辻脇 邦彦）

講義概要：精神科薬物治療論について学び、診断と処方 of 理論的関連を理解するとともに、精神科薬物療法の効果（作用・副作用）をアセスメントし、看護援助につなげる能力を養う。また、身体疾患治療薬の精神症状への作用について学び、リエゾン領域での薬物治療における精神症状のアセスメント能力を養う。さらに、服薬心理教育等、薬物療法を受けている患者への看護援助について学ぶ。

- 到達目標： 1.精神科薬物治療の基礎理論について理解する。  
 2.外来診断面接見学とディスカッションを通して、医師による診断と処方の理論的根拠を理解する。  
 3.精神科薬物療法の効果（作用・副作用）をアセスメントできる能力を養う。  
 4.服薬心理教育の方法を理解し、実践するための基礎能力を養う。  
 5.身体疾患治療薬の精神機能への作用について理解する。

講義のすすめ方：講義形式をとる。内容によって演習形式を行う。

教科書：後日指定する。

参考文献：適宜紹介。

成績評価の方法：発表の準備度・内容、討議への参加度、レポート

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～2 コマ	8/ 8	水	15:00～18:00	稲田 健	精神科薬物治療総論(1)統合失調症の薬物治療
3～4 コマ	8/ 9	木	15:00～18:00	高橋 一志	精神科薬物治療総論(2)感情障害の薬物治療
5～8 コマ	8/21	火	9:00～16:00	稲田 健	外来診断面接見学実習：診断と処方の実際
9～12 コマ	8/23	木	9:00～16:00	高橋 一志	外来診断面接見学実習：診断と処方の実際
13・14 コマ	9/ 5	水	9:00～12:00	辻脇 邦彦	薬物の作用・副作用のアセスメントと看護援助
15・16 コマ	9/12	水	9:00～12:00	辻脇 邦彦	薬物の作用・副作用のアセスメントと看護援助
17・18 コマ	9/19	水	13:00～16:00	異儀田はづき	服薬心理教育
19 コマ	9/26	水	13:00～14:35	田中美恵子 嵐 弘美	身体疾患治療薬と精神症状

科目担当者：○田中 美恵子、日沼 千尋、小山 達也、嵐 弘美、山内典子

講義概要：精神状態のアセスメントならびに個対個の関係の展開、集団における関係について、実践的な演習を通して学習し、対象理解と自己理解を深め、看護介入の基本となる精神状態のアセスメントの技術と対人関係的技術を習得する。

到達目標：1.精神状態のアセスメントのための理論を学び、実践への応用のための技術を習得する。  
2.子どもの精神状態をアセスメントするための理論と技術を習得する。  
3.治療的な対人関係を形成するための理論を学び、実践へ応用するための技術を習得する。  
4.集団力動理論を理解し、集団特有の心理を理解し、集団療法的介入を行うための技術の基礎を学ぶ。

講義のすすめ方：学生による発表と討議を中心に、演習やロールプレイを加え、演習形式で進める。

教科書：別途指示する。

参考文献：土居健郎：方法としての面接、医学書院、1977.

神田橋條治：追補 精神科診断面接のコツ、岩崎学術出版、1990.

神田橋條治：精神療法面接のコツ、岩崎学術出版、1990.

土居健郎：精神療法と精神分析、金子書房、1961.

G.W.スチュアートほか：新臨床看護学大系、精神看護学 I、医学書院、1986.

成績評価の方法：発表の準備度・内容、演習への参加度、レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～3 コマ	5/9	水	13:00～17:35	田中美恵子	精神状態のアセスメント① (MSE)
4～6 コマ	5/16	水	13:00～17:35	田中美恵子	精神状態のアセスメント② (MSE)
7～9 コマ	5/30	水	13:00～17:35	田中美恵子	精神状態のアセスメント③ (診断面接技術)
10～12 コマ	6/13	水	13:00～17:35	山内 典子	精神状態のアセスメント④ (大脳生理学)
13～15 コマ	6/20	水	13:00～17:35	田中美恵子 日沼 千尋	子どもの精神障害のアセスメント
16～18 コマ	6/27	水	13:00～17:35	田中美恵子 日沼 千尋	子どもの精神障害のアセスメント②
19～21 コマ	7/ 4	水	13:00～17:35	小山 達也 嵐 弘美	対人関係の技法① (対人関係理論)
22～24 コマ	7/18	水	13:00～17:35	小山 達也 嵐 弘美	対人関係の技法② (対人関係演習)
25～27 コマ	7/25	水	13:00～17:35	田中美恵子	集団精神療法① (集団力動理論)
28～30 コマ	8/ 1	水	13:00～17:35	田中美恵子	集団精神療法② (集団療法演習)

科目担当者：○田中 美恵子、小山 達也、嵐 弘美、江波戸 和子  
（石川 博康、岡田 佳詠、北野 進、田上 美千佳）

講義概要：心理教育、家族心理教育、認知行動療法、薬物療法への援助など精神看護における教育治療的介入技法を演習を通して学習するとともに、身体合併症看護、自殺予防、衝動行為への対処、早期介入、リハビリテーション精神看護など、精神看護の多様な実践について焦点化して学び、新しい援助方法開発の可能性を探求する。

到達目標：1.心理教育、家族心理教育の理論を学び、専門看護師として実践に応用するための基礎を培う。  
2.認知行動療法の理論を学び、専門看護師として実践に応用するための基礎を培う。  
3.薬物療法への援助のための基礎的な知識を習得する。  
4.身体合併症看護、自殺予防、衝動行為への対処、早期介入、リハビリテーション看護など、精神看護の多様な実践における介入技術について学ぶ。

講義のすすめ方：ビデオ教材を用いた演習やロールプレイを加え、演習形式で進める。内容によって講義形式をとる。一部特別講師の講義を含む。

教科書：特に指定せず。

参考文献：適宜紹介

成績評価の方法：演習への参加度、レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～3 コマ	10/3	水	13:00～17:35	嵐 弘美	身体表現性障害への看護
4～6 コマ	10/10	水	13:00～17:35	小山 達也	自殺予防の看護援助
7～9 コマ	10/17	水	13:00～17:35	岡田 佳詠	うつ病の認知行動療法
10～12 コマ	10/24	水	13:00～17:35	北野 進	統合失調症の認知行動療法
13～15 コマ	10/31	水	13:00～17:35	田上美千佳	心理教育・家族心理教育
16～18 コマ	11/7	水	13:00～17:35	小山 達也	惨事ストレス・PTSD への介入
19～21 コマ	11/14	水	13:00～17:35	石川 博康	早期介入
22～24 コマ	11/28	水	13:00～17:35	江波戸和子	医療現場における暴力とその対応について
25～27 コマ	12/12	水	13:00～17:35	田中美恵子	退院促進・訪問看護
28～30 コマ	12/19	水	13:00～17:35	田中美恵子	まとめ：治療的介入技術と CNS の役割

科目担当者：○田中 美恵子、小山 達也、嵐 弘美、異儀田 はづき、飯塚 あつ子

講義概要：特定の精神保健問題について、さらに専門的な知識と技術を獲得するために、学生は以下の領域からいずれかを選択し、その領域の看護援助方法論について、文献学習とフィールドワークを通して探求する。

（領域）救急・急性期看護、慢性・長期入院看護、薬物依存症看護、児童・思春期看護、うつ病看護、身体合併症看護、精神訪問看護・地域精神看護、リエゾン精神看護

到達目標：1.精神看護の実践の中で、学生個々が関心領域を選択する。  
2.各自の関心領域について文献学習を行い、その領域における実践上の課題を探求する。  
3.各自の関心領域に沿って、フィールドを選択し、フィールドワークを行いながら、その領域における看護援助方法の特徴と課題を探求する。

講義のすすめ方：文献学習とフィールドワークによって行う。フィールドワークの進めかたの詳細については個別に相談する。また、フィールドワークの経過および結果について個別に面談をする。

教科書：特に指定せず。

参考文献：適宜紹介

成績評価の方法：文献学習の達成度、フィールドワークのレポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～2コマ	12/12	水	9:00～12:00	田中美恵子 小山 達也 嵐 弘美 異儀田はづき 飯塚あつ子	学内演習① 関心テーマの発表
3～4コマ	12/19	水	9:00～12:00	田中美恵子 小山 達也 嵐 弘美 異儀田はづき 飯塚あつ子	学内演習② 関心テーマの発表
5～6コマ	12/26	水	9:00～12:00	田中美恵子	フィールドワークと個別面談①
7～11コマ	1/9	水	9:00～17:35	田中美恵子	フィールドワークと個別面談②
12～16コマ	1/23	水	9:00～17:35	田中美恵子	フィールドワークと個別面談③
17～21コマ	1/30	水	9:00～17:35	田中美恵子	フィールドワークと個別面談④
22～26コマ	2/6	水	9:00～17:35	田中美恵子	フィールドワークと個別面談⑤
27～30コマ	2/13	水	9:00～16:00	田中美恵子	フィールドワークと個別面談⑥

科目名 精神看護学実習Ⅰ（高度実践看護役割機能の実習） （2単位：1年次、2週×1回）

科目担当者：○田中 美恵子、小山 達也、嵐 弘美、異儀田 はづき、飯塚 あつ子

実習概要：

〔実習目的〕

基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、CNSの役割と機能を学習し、専門看護師としての実践能力の基礎を養う。

〔到達目標〕

- (1)精神科医療施設におけるCNSの役割と機能について参加観察を通して学習する。
- (2)各自の関心テーマに基づいて、独自に実習の焦点を定め、それに基づいて実習中に参加観察を行う。(1)(2)と併用しても可

実習のすすめ方

- (1)CNSの役割と機能について、病院CNSからオリエンテーションを受け、CNSの活動に同行し、相談・調整・教育などのCNSの役割と機能について参加観察を通して学習する。
- (2)1日の終わりに、CNSとカンファレンスを実施し、その活動の意図について検討する。
- (3)最終カンファレンスにおいて、CNSの役割と機能について学習したところを発表し、ディスカッションを通して、学びを共有する。その際、学生は交代で司会を実施する。その他、各自の実習の焦点に合わせ、学びを発表し、実習全体の学びを相互に共有する。

実習場所 医療法人社団碧水会長谷川病院

実習期間 2013年3月4日（月）～3月15日（金）まで（8日間） 1限～4限  
\*但し、水曜日を除く。

成績評価の方法、提出物

出席状況、実習参加度、カンファレンス参加度、レポートによって評価する。

\*詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。

科目名 精神看護学実習Ⅱ（直接ケア実習）

（4単位：2年次、4週×1回）

科目担当者：○田中 美恵子

実習概要：

〔実習目的〕実習Ⅰに同じ。

〔到達目標〕

精神科医療施設において、直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、提供した看護介入を評価することで、より専門的な高度看護実践能力を習得する。

実習のすすめ方

- (1)患者を2名程度受け持ち、精神症状の査定、精神力動の査定、精神療法的関係づくりを通して、直接的看護介入を実施する。
- (2)病棟において定期的にカンファレンスを実施し、病棟スタッフからケアに対する評価を得るとともに、看護チーム、医療チームとの調整・連携を行う。
- (3)提供した看護介入に対し、教員または臨床指導者（CNS）からスーパービジョンを受け、看護介入の意味を精神療法的な観点を踏まえ考察する。
- (4)実習病棟または病院において参加観察を行い、病棟内力動を査定しながら、病棟カンファレンス等の場を通して病棟内力動に介入する。
- (5)学内において、事例のケースプレゼンテーションを行い、教員および他の学生とのディスカッションを通して、評価を行う。その際、学生は交代で司会を実施し、事例検討の進行について体験的に学習する。

実習場所

学生は自分の関心領域に応じて、以下の実習施設から臨床実習の場を選ぶことができる。

東京女子医科大学病院、青溪会駒木野病院、東京都立松沢病院

実習期間 原則として、4月～5月の間の4週間（4日/週×4週間：16日間）1限～4限

\*各学生の必要に応じて実習期間を設定する。

成績評価の方法、提出物

出席状況、実習参加度、カンファレンス参加度、レポートによって評価する。

\*詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。

科目担当者：○田中 美恵子

実習概要：

〔実習目的〕 実習Ⅰに同じ。

〔到達目標〕

学生各自が選択する、救急急性期、慢性期、依存症、リエゾン等の精神看護の専門領域において直接的看護介入を実施し、スーパービジョンを受けることで、ケース理解を深め、提供した看護介入を評価することで、より専門的な高度看護実践能力を習得する。

\*なお、リエゾン領域の実習を希望する者は次ページのリエゾン実習の要項を参照のこと。

実習のすすめ方

- (1)患者を2名程度受け持ち、精神症状の査定、精神力動の査定、精神療法的関係づくりを通して、直接的看護介入を実施する。
- (2)病棟において定期的にカンファレンスを実施し、病棟スタッフからケアに対する評価を得るとともに、看護チーム、医療チームとの調整・連携を行う。
- (3)提供した看護介入に対し、教員または臨床指導者（CNS）からスーパービジョンを受け、看護介入の意味を精神療法的な観点を踏まえ考察する。
- (4)学内において、事例のケースプレゼンテーションを行い、教員および他の学生とのディスカッションを通して、評価を行う。その際、学生は交代で司会を実施し、事例検討の進行について体験的に学習する。

実習場所

学生は自分の関心領域に応じて、以下の実習施設から臨床実習の場を選ぶことができる。  
東京女子医科大学病院、青溪会駒木野病院、東京都立松沢病院

実習期間 原則として、6月の2週間（4日/週×2週間：8日間）1限～4限

\*各学生の必要に応じて実習期間を設定する。

成績評価の方法、提出物

出席状況、実習参加度、カンファレンス参加度、レポートによって評価する。

\*詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。

科目名 精神看護学実習Ⅲ☆ (サブスペシャリティ実習:リエゾン精神看護学実習) (2単位:2年次、2週×1回)

科目担当者:○田中 美恵子、嵐 弘美、異儀田 はづき、山内 典子、安田 妙子  
(福嶋 佳重、西川 律子)

実習概要:

【実習目的】実習Ⅰに同じ。

【実習目標】

1. リエゾン領域のCNSの活動について参加観察を通して、リエゾン精神看護における対象および場の特徴、CNSの役割と機能を学習する。
2. コンサルテーションのケースに対して、スーパービジョンを受けながらケース理解を深め、看護介入方法等について検討し、さらに活動の評価を行うことを通して、より専門的な看護実践能力を習得する。

【実習のすすめ方】

1. リエゾン精神看護の実際について、リエゾン領域のCNSの活動に同行し、リエゾン精神看護における対象および場の特徴を理解するとともに、実践・コンサルテーション・調整・倫理調整・教育などのCNSの役割と機能について参加観察を通して学習する。また、1日の終わりに、CNSおよび担当教員とカンファレンスを実施し、その活動の意図や方法について検討する。
2. コンサルテーションのケースに対して、専門的知識を用いてケース理解を深めるとともに、対応を必要とする課題・課題へのアプローチ方法および方略等について検討し、CNSおよび担当教員からスーパービジョンを受ける。CNSのコンサルテーションの実施場面を参加観察し、コンサルタントの反応も聞きながら活動の評価を行う。

【実習場所】

東京女子医科大学病院、日本医科大学附属病院、または横浜市立病院

【実習期間】 原則として、9月の2週間 (4日/週×2週間:8日間) 1限~4限

\*各学生の必要に応じて実習期間を設定する。

【成績評価の方法、提出物】

出席状況、実習およびカンファレンス参加度、レポートによって評価する。

\* 詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。

科目担当者：○田中 美恵子、山内 典子、安田 妙子

実習概要：

〔実習目的〕

基盤分野、ならびに精神看護学特論Ⅰ～Ⅴ、精神看護学演習Ⅰ～Ⅲの学習をもとに、施設内において相談・調整・倫理調整などの間接ケアを実際に体験し、専門看護師としての間接ケア能力を養う。

〔到達目標〕

- (1)医療施設において、CNS の実施している相談・調整・倫理調整などの場面に同行し、その実際について学習する。
- (2)医療施設において、相談・調整・倫理調整などについて、CNS の指導を受けながら、実施し、スーパービジョンを受ける。

実習のすすめ方

- (1)CNS の役割と機能について、病院 CNS からオリエンテーションを受け、CNS の活動に同行し、相談・調整・倫理調整などの場面に同行し、その実際について学習する。また1日の終わりに、CNS とカンファレンスを実施し、その活動の意図について検討する。
- (2)CNS の指導を受けながら、相談・調整・倫理調整を実際に行い、教員および臨床指導者(CNS)よりスーパービジョンを受ける。相談（コンサルテーション）については、2例程度を目標とする。
- (3)学内カンファレンスにおいて、自分が行った間接ケアについて発表し、教員および他の学生とのディスカッションを通して、評価を行う。

実習場所 学生は、以下の実習施設から臨床実習の場を選ぶことができる。

東京女子医科大学病院、青溪会駒木野病院、東京都立松沢病院

実習期間 原則として、10月～12月の間の2週間（3日/週、学内1日×2週間）

\*各学生の必要に応じて実習期間を設定する。

成績評価の方法、提出物

出席状況、実習参加度、カンファレンス参加度、レポートによって評価する。

\*詳細は後日、オリエンテーション時に説明する。

科目名 精神看護学課題研究

(2単位 30コマ)

科目担当者：○田中 美恵子

講義概要：精神看護学特論および演習で得た知識と技術をもとに、精神看護における直接的看護介入ならびに間接的看護介入に関する問題群の中から、各自が関心を有するテーマを定め、系統的な文献の検討を行うことで、精神看護学の実践に役立つエビデンスを明らかにし、総説論文としてまとめる。

到達目標：1.各自のテーマを発見し、系統的な文献検討を行い、テーマに関する研究動向を把握する。  
2.関心テーマにおける研究的なエビデンスを把握し、総説論文としてまとめる。

講義のすすめ方：各自の文献検討と個人面接によって進める。

参考文献：指定せず。

成績評価の方法：研究の進め方、課題研究の達成度。

指導日程 毎週木曜日 6限(17:45～19:10) 1コマ 通年

科目名 精神看護学特別研究

(8単位 120コマ)

科目担当者：○田中 美恵子

講義概要：精神看護学特論および演習で得た知見をもとに、精神看護領域における各自の問題意識を精錬し、研究テーマを発見するとともに方法論的吟味を行い、一連の研究プロセスを通して精神看護学の学的発展に寄与する基礎的研究能力を養う。

到達目標：1.各自の研究テーマを発見し、文献検討を行い、テーマに関する最新の研究動向を把握する。  
2.研究課題に適した方法を決定し、その方法論について理解を深める。  
3.倫理的配慮の伴った研究計画を立案し、一連の研究プロセスを通して、基礎的研究能力を獲得する。

講義のすすめ方：フィールドワークを通じた研究活動と個人面接によって進める。

参考文献：指定せず。

成績評価の方法：研究の進め方、特別研究の達成度。

指導日程 毎週木曜日 4・5限 (14:35～17:35) 2コマ 通年  
毎週土曜日 3・4限 (13:00～16:00) 2コマ 通年

科目名 地域看護学特論 I (地域看護の各分野における専門性の追求) (2単位 15コマ)

科目担当者：○柳 修平、伊藤 景一、中田 晴美、服部 真理子、池戸 啓子

講義概要：行政看護(公衆衛生看護)・産業看護・在宅看護の各分野における看護専門職として個人・家族・集団に対する専門的な看護ケアの本質論、地域看護活動における看護倫理、地域看護の主要な概念、および介入方法の変遷と近年の動向、ケアの質の管理、運営方法等の開発に関わる能力を養う。

到達目標：1.行政看護(公衆衛生看護)・産業看護・在宅看護の各分野における専門的な看護ケアの概要について説明することができる。  
2.健康課題に対する看護ケアの現状と課題について分析し、新たな介入方法のあり方について提案することができる。  
3.看護専門職としてのケアの質の管理方法、運営方法および評価方式を挙げることができる。

講義のすすめ方：講義および文献の講読を通し、各領域における看護の専門性と最近の動向を明らかにし、その結果をプレゼンテーションする。

参考文献：Porche,D: Public & Community Health Nursing Practice,Sage,2004  
Stanhope,M:Public Health Nursing: Population-Centered Health Care in the Community, 8ed., Mosby,2011  
Levy,B.: Occupational and Environmental Health: Recognizing and Preventing Disease and Injury,6ed., Oxford University Press,2011  
Rice, R.: Home Care Nursing Practice: Concepts and Application, 4ed., Mosby, 2005  
その他、適宜紹介する。

成績評価の方法：出席・参加態度・課題発表

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	4/12	木	13:00~14:25	柳 修平	地域看護の専門性と最近の動向
2コマ	4/12	木	14:35~16:00	柳 修平	地域看護活動における看護倫理と倫理的判断
3コマ	4/19	木	13:00~14:25	柳 修平	産業保健看護の専門性と最近の動向
4コマ	4/19	木	14:35~16:00	柳 修平	産業保健看護研究の動向
5コマ	4/26	木	13:00~14:25	池戸 啓子	地方自治体の保健システムと看護の役割①
6コマ	4/26	木	14:35~16:00	池戸 啓子	地方自治体の保健システムと看護の役割②
7コマ	5/10	木	13:00~14:25	池戸 啓子	地域保健事業計画と看護技術①
8コマ	5/10	木	14:35~16:00	池戸 啓子	地域保健事業計画と看護技術②
9コマ	5/17	木	13:00~14:25	伊藤 景一	在宅ケア看護の専門性と最近の動向
10コマ	5/17	木	14:35~16:00	伊藤 景一	在宅ケア看護研究の動向
11コマ	5/24	木	13:00~14:25	中田 晴美	行政看護の専門性と最近の動向
12コマ	5/24	木	14:35~16:00	中田 晴美	行政看護研究の動向
13コマ	5/31	木	13:00~14:25	中田 晴美	地方自治体の保健福祉政策と看護の戦略
14コマ	5/31	木	14:35~16:00	服部真理子	地方自治体の保健福祉政策と看護の戦略
15コマ	6/7	木	13:00~14:25	柳 修平	まとめ

科目担当者：○柳 修平、伊藤 景一、中田 晴美、服部 真理子、村嶋 幸代

講義概要：コミュニティとしての組織・集団の成員における生涯健康とQOLの向上をめざし、地域看護領域で広く用いられている健康政策の技法を学ぶ。特に、行政看護活動の事業化および政策化のプロセス、および地域と職域を結んだ関連機関とのネットワーク等を構築するための基礎的能力を養う。

到達目標：1.政策論的思考をどのように地域看護活動に応用すればよいのか、その基本を説明できる。  
2.地域看護活動を対象別に捉え、政策論的手法を導入する際の応用および注意点を説明できる。  
3.職域と地域を結ぶネットワークおよびマネジメントを看護職者の視点で展開できる基本知識と応用力の基盤をつけられる。

講義のすすめ方：講義および文献の講読を通し、地域・職域における看護活動の政策化について明らかにし、その結果をプレゼンテーションする。

参考文献：Mason, D.J., et al.: Policy & Politics in Nursing and Health Care, 6ed., Saunders, 2011  
Harris, M.: Handbook of Home Health Care Administration, 5ed., Jones & Bartlett Learning, 2009  
その他、適宜紹介する。

成績評価の方法：出席、参加態度、課題発表

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	6/7	木	14:35～16:00	柳 修平	オリエンテーション
2コマ	6/14	木	13:00～14:25	柳 修平	地域看護管理政策論に関する概要
3コマ	6/14	木	14:35～16:00	柳 修平	コミュニティ政策論の系譜
4コマ	6/21	木	13:00～14:25	服部真理子	母子保健政策の動向に関する文献講読
5コマ	6/21	木	14:35～16:00	服部真理子	母子保健政策の現代的課題
6コマ	6/28	木	13:00～14:25	中田 晴美	高齢者保健政策の動向に関する文献講読
7コマ	6/28	木	14:35～16:00	中田 晴美	高齢者保健政策の現代的課題
8コマ	7/5	木	13:00～14:25	伊藤 景一	難病・障害者保健政策の動向に関する文献講読
9コマ	7/5	木	14:35～16:00	伊藤 景一	難病・障害者保健政策の現代的課題
10コマ	8/2	木	13:00～14:25	村嶋 幸代	公衆衛生看護における政策形成プロセス
11コマ	8/2	木	14:35～16:00	村嶋 幸代	公衆衛生看護における政策評価
12コマ	8/9	木	13:00～14:25	村嶋 幸代	文献講読
13コマ	8/9	木	14:35～16:00	村嶋 幸代	文献講読・レジメ作成
14コマ	9/13	木	13:00～14:25	伊藤 景一	職域・地域連携の構築と評価
15コマ	9/13	木	14:35～16:00	柳 修平	プレゼンテーション及び総合ディスカッション

科目担当者：○柳 修平、伊藤 景一、中田 晴美、服部 真理子

講義概要：地域・職域で生活を共有する人々の健康およびQOLの向上のための主要な活動であるヘルスプロモーション・健康教育について、その理念を理解し、健康教育の具体的なプログラムの開発・評価に関わる能力を養う。

到達目標：

1. ヘルスプロモーション・健康教育についての理念や理論を理解し、述べることができる。
2. 国内外や地域・職域看護領域におけるヘルスプロモーション活動の実践活動を理解し、述べるができる。
3. ヘルスプロモーションの理念にもとづく健康教育の具体的なプログラムの開発、実施と評価の過程を理解し、述べるができる。

講義のすすめ方：講義および文献の講読を通し、各領域における看護の専門性と最近の動向を明らかにし、その結果をプレゼンテーションする。

参考文献：Fertman, C.I., et al.: Health Promotion Programs: From Theory to Practice, Jossey-Bass, 2010  
 Doyle, E.I., et al.: Process of Community health Education and Promotion, 2ed., Waveland Pr Inc, 2009  
 Lowenstein, A., et al.: Teaching Strategies For Health Education And Health Promotion: Working With Patients, Families, And Communities, Jones & Bartlett Learning, 2008  
 その他、適宜紹介する。

成績評価の方法：出席・参加態度・課題発表

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	10/1	月	13:00～14:25	中田 晴美	ヘルスプロモーションにおけるQOLの概念①
2コマ	10/1	月	14:35～16:00	中田 晴美	ヘルスプロモーションにおけるQOLの概念②
3コマ	10/15	月	13:00～14:25	伊藤 景一	ヘルスプロモーションにおけるQOL測定を試み①
4コマ	10/15	月	14:35～16:00	伊藤 景一	ヘルスプロモーションにおけるQOL測定を試み②
5コマ	10/22	月	13:00～14:25	中田 晴美	Pender のヘルスプロモーション看護論①
6コマ	10/22	月	14:35～16:00	中田 晴美	Pender のヘルスプロモーション看護論②
7コマ	10/29	月	13:00～14:25	服部真理子	Precede-Proceed Model①
8コマ	10/29	月	14:35～16:00	服部真理子	Precede-Proceed Model②
9コマ	11/5	月	13:00～14:25	中田 晴美	WHOにおけるヘルスプロモーションの変遷
10コマ	11/5	月	14:35～16:00	服部真理子	欧米各国におけるヘルスプロモーション施策
11コマ	11/12	月	13:00～14:25	柳 修平	国際保健とヘルスプロモーションの事例
12コマ	11/12	月	14:35～16:00	柳 修平	国際保健協力活動のヘルスプロモーション評価
13コマ	11/19	月	13:00～14:25	伊藤 景一	地域看護におけるヘルスプロモーション活動①
14コマ	11/19	月	14:35～16:00	伊藤 景一	地域看護におけるヘルスプロモーション活動②
15コマ	11/26	月	13:00～14:25	柳 修平	まとめ

科目名 地域看護学特論Ⅳ（在宅ケアシステムと在宅ケア看護学の専門性） （2単位 15コマ）

科目担当者：○伊藤 景一、柳 修平、秋山 正子

講義概要：地域ケアシステムの構成要素および構築プロセスを分析する。また地域における各種ケアシステムおよび社会資源の現状と課題をアセスメントし、その発展の方向性を探求する。さらに、在宅ケアシステムの構成要素と構築プロセスを分析し、現状と課題の査定、発展の方向性を探求し、効果的なケアシステム開発の能力を養う。

- 到達目標：1. 地域ケアシステムを構築していく段階を説明することができる。  
 2. 効果的な在宅ケアマネジメント技術の方法の基礎を習得できる。  
 3. 社会資源の活用と新たな資源の開発の方向性を説明することができる。

講義のすすめ方：講義および文献の講読を通し、地域ケアシステムおよび、在宅ケア看護の専門性と最近の動向を明らかにし、その結果をプレゼンテーションする。

参考文献：Rice, R.: Home Care Nursing Practice: Concepts and Application, 4ed., Mosby, 2005  
 その他、適宜紹介する。

成績評価の方法：出席・参加態度・課題発表

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	10/4	木	9:00～10:25	伊藤 景一	地域の「保健力」を育てる：概念と測定の試み
2コマ	10/4	木	10:35～12:00	伊藤 景一	地域の「保健力」を育てる：概念と測定の試み
3コマ	10/11	木	9:00～10:25	伊藤 景一	在宅ケアの質評価と利用者アウトカム、QOL
4コマ	10/11	木	10:35～12:00	伊藤 景一	文献講読及びプレゼンテーション
5コマ	10/18	木	9:00～10:25	伊藤 景一	在宅ケアの質の評価とアウトカムリサーチ
6コマ	10/18	木	10:35～12:00	伊藤 景一	文献講読及びプレゼンテーション
7コマ	10/25	木	9:00～10:25	秋山 正子	地域医療システムの訪問看護サポート体制①
8コマ	10/25	木	10:35～12:00	秋山 正子	地域医療システムの訪問看護サポート体制②
9コマ	11/8	木	9:00～10:25	柳 修平	訪問看護と医療の連携-退院時の調整-
10コマ	11/8	木	10:35～12:00	柳 修平	文献講読及びプレゼンテーション
11コマ	11/15	木	9:00～10:25	秋山 正子	終末期を支える看護師の役割-ケアの実際①
12コマ	11/15	木	10:35～12:00	秋山 正子	終末期を支える看護師の役割-ケアの実際②
13コマ	11/22	木	9:00～10:25	柳 修平	地域ケアシステムと日米英の国際比較分析
14コマ	11/22	木	10:35～12:00	柳 修平	文献講読及びプレゼンテーション
15コマ	12/6	木	9:00～10:25	伊藤 景一	地域ケアシステムに関する総合ディスカッション

科目担当者：○柳 修平、伊藤 景一、中田 晴美、服部 真理子、犬飼 かおり、遠藤 直子

講義概要：地域看護学をめぐる最新の課題を明確にし、活動を発展させ貢献しうる量的・質的研究方法論の実際を学ぶ。その中で、データ収集技法、面接技法、調査と測定の方法、および介入研究の方法を修得する。

到達目標：1. 地域看護学領域における研究の動向を説明できる。  
2. 地域看護学領域における研究方法の種類とプロセスの概要を説明できる。  
3. 各自の研究テーマに結びつく課題と研究方法を明確にできる。  
4. 各自の研究テーマに関連する内容のプレゼンテーションを主体的に行うことができ、自らの研究を推進していく基礎能力を習得できる。

講義のすすめ方：前半では講義を通し、地域における各研究手法を学び、その後、学生がそれぞれの研究手法を用いた研究のレビューを発表する。また、後半においては、研究計画書作成のための準備として、自分の研究において中心となる概念やモデルのレビューや研究手法の検討を行った後、各自研究計画書を作成し、プレゼンテーションを行う。

参考文献：Harris, M.J.: Evaluating Public and Community Health Programs, Jossey-Bass, 2010  
Abramson, J., et al.: Research Methods in Community Medicine: Surveys, Epidemiological Research, Programme Evaluation, Clinical Trials [Kindle Edition], Wiley; 6ed., 2011  
その他、適宜紹介する。

成績評価の方法：出席・参加態度・課題発表

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	12/10	月	13:00~14:25	柳 修平	オリエンテーション
2コマ	12/10	月	14:35~16:00	柳 修平	地域ケアにおける疫学的研究法①
3コマ	12/13	木	9:00~10:25	柳 修平	地域ケアにおける疫学的研究法②
4コマ	12/13	木	10:35~12:00	伊藤 景一	地域ケアにおけるアウトカムリサーチ①
5コマ	12/17	月	13:00~14:25	伊藤 景一	地域ケアにおけるアウトカムリサーチ②
6コマ	12/17	月	14:35~16:00	伊藤 景一	質的研究と量的研究のエビデンスの統合
7コマ	12/20	木	9:00~10:25	服部真理子	地域ケアにおける調査研究法①
8コマ	12/20	木	10:35~12:00	服部真理子	地域ケアにおける調査研究法②
9コマ	1/7	月	13:00~14:25	中田 晴美	地域ケアにおける介入研究と準実験研究①
10コマ	1/7	月	14:35~16:00	中田 晴美	地域ケアにおける介入研究と準実験研究①
11コマ	1/10	木	9:00~10:25	遠藤 直子	グラウンデッドセオリーアプローチ①
12コマ	1/10	木	10:35~12:00	遠藤 直子	グラウンデッドセオリーアプローチ②
13コマ	1/17	木	9:00~10:25	犬飼かおり	地域ケアにおける質的記述的研究法
14コマ	1/17	木	10:35~12:00	柳 修平	地域ケア研究に活用する多変量解析法
15コマ	1/21	月	13:00~14:25	柳 修平	まとめ

科目担当者：○柳 修平、伊藤 景一、中田 晴美

講義概要：保健師活動における地域アセスメントおよび地域看護診断の基礎となる疫学・高度保健統計学的手法を習得し、地域ケアにおける情報リテラシー、すなわち体験やメディアを通じて得られる大量の情報の中から必要なものを探し出し、地域の健康課題に即して加工し、意思決定を下したり、アウトカムを記述しエビデンスを得るための知識と技能を養う。

到達目標：

- 1.地域ケアに関する課題に関して問題設定と文献検索を通して批判的吟味ができる。
- 2.疫学の基本知識を用いて、問題の設定とその解明の過程を説明することができる。
- 3.研究プロトコルの立案を提示することができる。

講義のすすめ方：講義とグループワークおよびディスカッションを通して、配布された演習用マテリアルに提供される課題を明確にし、その結果を深化させる形式で行う。

参考文献：Atman, DG: 医学研究における実用統計学、サイエンス社、1999  
 縣俊彦編：EBMのための臨床疫学、中外医学社、2003  
 Rothman, KJ: ロスマンの疫学、篠原出版、2004

成績評価の方法：提出課題への取り組みとプレゼンテーションの内容を評価する。

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	3/4	月	13:00~14:25	柳 修平	ガイダンス
2コマ	3/4	月	14:35~16:00	柳 修平	地域アウトカム評価に用いる統計的手法①
3コマ	3/7	木	9:00~10:25	柳 修平	地域アウトカム評価に用いる統計的手法②
4コマ	3/7	木	10:35~12:00	伊藤 景一	地域アウトカム評価に用いる統計的手法③
5コマ	3/11	月	13:00~14:25	伊藤 景一	地域アウトカム評価に用いる統計的手法④
6コマ	3/11	月	14:35~16:00	中田 晴美	地域情報リテラシーの現状
7コマ	3/14	木	9:00~10:25	中田 晴美	地域情報リテラシーの課題
8コマ	3/14	木	10:35~12:00	柳 修平	系統的レビューとメタアナリシス
9コマ	3/18	月	13:00~14:25	伊藤 景一	地域のアウトカム評価の現状
10コマ	3/18	月	14:35~16:00	伊藤 景一	地域のアウトカム評価の課題
11コマ	3/21	木	9:00~10:25	柳 修平	社会疫学と社会経済的因子の取り扱い
12コマ	3/21	木	10:35~12:00	柳 修平	内生性を考慮した因果関係の推論
13コマ	3/25	月	13:00~14:25	伊藤 景一	住民由来アウトカム・QOL 尺度を用いた臨床評価
14コマ	3/25	月	14:35~16:00	中田 晴美	地域のアウトカム評価の予防保健活動への活用
15コマ	3/28	木	9:00~10:25	柳 修平	まとめ

科目名 地域看護学演習 I (地域看護の各分野における実践企画演習) (2単位 30コマ)

科目担当者：○伊藤 景一、中田 晴美、服部 真理子、犬飼 かおり、遠藤 直子、池戸 啓子

講義概要：地域看護分野（CNS コースは行政看護分野）において、各自の関心あるトピックスを選択し、それぞれの分野における現状のアセスメント、課題の明確化、その課題を解決するための活動計画の立案、またそれらの活動をマネジメントしていくために看護が果たすべき役割について検討する。

到達目標：

1. 地域看護活動の各分野（CNS コースは行政看護分野）について関心あるトピックスを選択し、その現状を理解し、課題を明確化することができる。
2. 課題解決のための具体的な活動計画（企画・実施・評価）について立案することができる。
3. 継続的に活動をマネジメントし、質の高い活動を維持していくための方略と、看護が果たすべき役割について提案することができる。

講義のすすめ方：行政・産業・在宅の各分野（CNS は行政看護分野）において、各自興味あるトピックスを選択し、それぞれの分野における現状を学内での文献およびディスカッションを通じた演習および、フィールドにおける演習を通してアセスメントする。  
そのアセスメントから、現時点における課題の明確化、その解決のための活動計画の立案、活動のマネジメント方略および看護の果たすべき役割について、各自レポートにまとめ、さらにプレゼンテーションを行うことで学びを深める。

参考文献：必要に応じて紹介する。

成績評価の方法：出席・参加態度・課題発表・レポート

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義内容
1～4 コマ	5/9	水	10:35～17:35	伊藤 景一 中田 晴美 服部真理子 犬飼かおり 遠藤 直子 池戸 啓子	文献検索および情報収集の実践的方法
5～8 コマ	5/23	水	10:35～17:35		地域看護活動（以下、CNSコースは行政看護活動）の現状を文献・ディスカッションを通じたアセスメント
9～12 コマ	5/30	水	10:35～17:35		地域看護活動の選択したトピックスに関する文献・ディスカッションによる検討
13～16 コマ	6/13	水	10:35～17:35		地域看護活動の選択したトピックスに関する活動を行っているフィールドの見学および実践の看護職とのディスカッション
17～20 コマ	6/20	水	10:35～17:35		選択した地域看護実践例に対するアセスメントに基づく課題の明確化
21～24 コマ	6/27	水	10:35～17:35		地域看護実践例における課題解決のための活動計画（企画・実施・評価）の立案、活動のマネジメント方略と看護の果たすべき役割についての検討
25～28 コマ	7/4	水	10:35～17:35		地域看護実践例の課題解決・更なる改善のための活動計画・活動マネジメント方略と看護の役割についてのまとめ
29～30 コマ	7/11	水	10:35～17:35		まとめ（プレゼンテーションの自己評価・他者評価を経た、活動計画・活動マネジメントの再考察）

\*担当者は学生の選択領域に応じ、適時、専門分野の教員が担当するものとする。

科目担当者：○中田 晴美、伊藤 景一、服部 真理子、犬飼 かおり、遠藤 直子

講義概要：行政看護分野において、実際に行われている活動の評価を行うことを通し、行政看護専門看護師に求められる機能を明確にする。具体的には、行政看護分野のフィールドにおける活動全般について見学し、対象集団の包括的な健康状態、行政保健組織の位置づけ、既存の研究成果などから学びを深め、行政看護実践者やその関連職種者とのディスカッションなどを通して活動全般の批判的評価を試みる。諸活動の成果と専門看護師に求められる機能との関連を考察し、将来的に質の高い実践力をつけるために必要な専門的能力の基礎を養う。

到達目標：

1. 専門看護師に求められる6つの能力を実際の行政看護活動の中で具体化していく方法について説明することができる。
2. 今後の活動の具体的な展開方法について提案することができる。

講義のすすめ方：行政看護分野のフィールドにおける活動全般について見学し、対象集団の心身の健康状態、行政保健組織の位置づけ、既存の研究成果などから学びを深め、行政看護実践者やその関連職種者とのディスカッションなどを通して活動全般の批判的評価を試みる。諸活動の成果と専門看護師に求められる機能との関連を考察し、将来的に質の高い実践力をつけるために必要な専門的能力についてディスカッションする。その結果、今後の活動の展開方法について各自レポートにまとめ、プレゼンテーションを行う。

参考文献：必要に応じて提示する。

成績評価の方法：出席・参加態度・課題発表・レポート

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義内容
1～4コマ	10/3	水	10:35～17:35	中田 晴美 伊藤 景一 服部真理子 犬飼かおり 遠藤 直子	行政看護活動のフィールドにおける組織的活動の進め方や研究成果について、集団の健康度を高める働きかけの観点から理解を深め、活動全般の批判的評価を試みる
5～8コマ	10/10	水	10:35～17:35		行政看護活動のフィールドにおける総括管理活動（事業・業務管理、組織運営管理、予算管理、人材育成・人事管理、情報管理を含む）の成果の検討
9～12コマ	10/17	水	10:35～17:35		行政看護活動のフィールドにおける事例管理・地区管理活動の成果の検討
13～16コマ	10/24	水	10:35～17:35		行政看護活動のフィールドにおける健康づくり・健康教育活動の成果の検討
17～20コマ	10/31	水	10:35～17:35		行政看護活動のフィールドにおける健康危機管理活動の成果の検討
21～24コマ	11/7	水	10:35～17:35		質の高い行政看護実践のあり方についての検討
25～28コマ	11/14	水	10:35～17:35		行政看護活動のフィールドにおける活動全体の成果のCNSの機能との関連での再評価と、今後の活動の具体的な展開方法についての検討
29～30コマ	11/28	水	10:35～17:35		行政看護活動全体にCNSの機能を活用した具体的な展開方法論についての検討（プレゼンテーション）

科目担当者：○中田 晴美、伊藤 景一、服部 真理子、犬飼 かおり、遠藤 直子、池戸 啓子  
(山崎 貞子)

実習概要 (目的)：行政看護分野において、都市と地方の双方におけるフィールドワークを企画・実行し、看護実践活動を通して、行政看護領域の専門的な活動方法論および専門看護師に求められる 6 つの能力の具体化について探索する。さらに、学際他職種が連携した活動を行うのに必要なコーディネート能力とリーダーシップ能力の基盤を養う。

到達目標：

1. 行政看護活動における個人・家族・集団への専門的な看護ケアを実践し、事例としてまとめることができる。
2. 行政看護活動の場における課題の明確化 (コミュニティヘルスアセスメント)、解決のための活動 (企画・実施・評価、事業化および政策化を含む) の実際を学び、その過程を実践することができる。
3. 行政看護活動の場における関連法規・制度、地域ケアシステムの形成および運営、評価について記述することができる。
4. 行政看護活動に関わる保健・医療・福祉組織並びにその関連職種との調整・協働の実際を学び、その内容や必要性を記述することができる。

方法：地域看護学特論 I～VI、地域看護学演習 I、II を活かし、下記内容が体験できるよう保健所・市町村保健センターにて、行政看護活動に関する計画・実施・評価の一連の過程について、直接的に関わりながら実習する。

実習内容：

1. 行政看護分野に重点をおき、実習目的と実習内容に基づき実習計画を立てて実習する。
2. 実習目的および実習目標を達成するために、実習前に学生は実習計画書を作成し、担当教員に提出する。その後、担当教員と実習担当者が打合わせし、実習内容を大学と実習施設で確認する。
3. 実習先の実習担当者と担当教員は実習前、実習期間中、実習終了後に実習に関する打ち合わせを行い、効果効率的に実習を行えるよう配慮する。
4. 実習内容の実施確認は実習記録を用いて行い、実習担当者が捺印した後、担当教員が捺印する。
5. 行政看護活動における個人・家族・集団を対象としたアセスメントを行い、対象に合わせた専門的な看護ケア (健康教育等含む)、ケアに関わる関連職種との連携調整の実践及び評価を行い、レポートを作成する。
6. 行政看護活動の場において、地域・組織が抱える課題をアセスメントし、課題解決のための計画 (企画・運営・評価) を立案し、レポートを作成する。
7. 事例を通して保健・医療・福祉の地域ケアシステムとそこにおける看護職としてのコーディネーション機能および教育的関わりについて学び、レポートを作成する。
8. 実習の体験を通して課題のレポートを作成する。実習課題の達成状況に応じて、実習時間および課題が異なることがある。

実習日程：2013年3月1日～2013年8月31日までのうち、特別区保健所・保健センターにて3週間 (1週5日間、計15日間)、市町村保健センターにて1週間 (1週5日間、計5日) の合計4週間 (20日間) の実習を行う。但し、上記の設定時間数に限らず、専門看護師となるに必要な実践能力を高め、看護活動を創意工夫して変革でき社会組織的に発展させうる能力が養われていると確認される時点まで、実習期間の延長を行うものとする。

成績評価の方法・提出物

- ① 実習計画書、② 実習内容実施確認表、③ 実習内容の 5, 6, 7 の能力に関して A4 判各 1 枚/ケースのレポートを各 2 ケース、以上の記録について、実習担当者と指導教員は確認と指導を行う。

出席・実習態度・実習記録・レポートを総合的に評価する。

科目担当者：○中田 晴美、伊藤 景一、服部 真理子、犬飼 かおり、遠藤 直子  
(岡田 睦美)

実習概要 (目的)：産業看護の場における直接的な看護活動を通して、その専門性を学ぶとともに、地域看護専門職種間と協働の実際を学び、産業看護分野との連携を実践により理解する。

到達目標：

1. 産業看護活動における個人・家族・集団への専門的な看護ケアの実践し、事例としてまとめることができる。
2. 産業看護活動の場における課題の明確化、解決のための活動（企画・実施・評価、事業化および政策化を含む）の実際を学び、その過程を実践することができる。
3. 産業看護活動の場における関連法規・制度、地域ケアシステムの形成および運営、評価について記述することができる。
4. 産業看護活動に関わる保健・医療・福祉組織並びにその関連職種との調整・協働の実際を学び、その内容や必要性を記述することができる。

方法：地域看護学特論Ⅰ～Ⅵ、地域看護学演習Ⅰ、Ⅱ、地域看護学実習Ⅰを活かし下記内容が体験できるよう、事業場における産業看護活動について計画・実施・評価の一連の過程について、直接的に関わりながら実習する。

実習内容：

1. 実習目的と実習内容に基づき実習計画を立てて実習する。
2. 実習目的および実習目標を達成するために、実習前に学生は実習計画書を作成し、担当教員に提出する。その後、担当教員と実習担当者が打合わせし、実習内容を大学と実習施設で確認する。
3. 実習先の実習担当者と担当教員は実習前、実習期間中、実習終了後に実習に関する打ち合わせを行い、効果効率的に実習を行えるよう配慮する。
4. 実習内容の実施確認は実習記録を用いて行い、実習担当者が捺印した後、担当教員が捺印する。
5. 産業看護活動における個人・家族・集団を対象としたアセスメントを行い、対象に合わせた専門的な看護ケア（健康教育等含む）、ケアに関わる関連職種、特に地域看護専門職種との連携調整の実践及び評価を行い、レポートを作成する。
6. 産業看護活動の場において地域・組織が抱える課題をアセスメントし、課題解決のための計画（企画・運営・評価）を立案し、レポートを作成する。
7. 事例を通して保健・医療・福祉の地域ケアシステム、産業看護職としてのコーディネーション機能および教育的関わりについて学び、レポートを作成する。
8. 実習の体験を通して課題のレポートを作成する。実習課題の達成状況に応じて、実習時間および課題が異なることがある。

実習日程：2013年3月1日～2013年8月31日までのうちの、2週間（1週5日間、計10日間）各1限～4限。但し、上記の設定時間数に限らず、専門看護師となるに必要な実践能力を高め、看護活動を創意工夫して変革でき社会組織的に発展させうる能力が養われていると確認される時点まで、実習期間の延長を行うものとする。

実習場所：富士通株式会社産業保健指導センター

成績評価の方法・提出物

- ① 実習計画書、②実習内容実施確認表、③実習内容の5,6,7の能力に関してA4判各1枚/ケースのレポートを各2ケース、以上の記録について、実習担当者と指導教員は確認と指導を行う。

出席・実習態度・実習記録・レポートを総合的に評価する。

科目担当者：○中田 晴美、伊藤 景一、服部 真理子、犬飼 かおり、遠藤 直子、池戸 啓子

実習概要（目的）：Population-centered approach を基盤として、行政看護分野において、他職種へのヘルスケア専門職との協働による行政看護事業の政策プロセスの実際を実践的に学習し、保健・医療・福祉を含めた包括的な地域ケアシステムの中での行政看護のリーダーシップを学習する。さらに、地域特性と新しい公衆衛生看護学のエビデンスの知見を踏まえて、行政看護事業のアウトカムの評価と改善の方法を実践的に学習する。

到達目標：

1. 行政看護領域におけるヘルスケア専門職との協働による行政看護事業の政策プロセスについて実践を踏まえてまとめることができる。
2. 保健・医療・福祉を含めた包括的な地域ケアシステムにおける行政看護のリーダーシップについて、実践を踏まえてまとめることができる。
3. 地域特性のアセスメントと公衆衛生看護学のエビデンスの知見を取り入れ、行政看護事業のアウトカム評価を実践し、科学的・創造的な視点から新たな政策を提言することができる。

方法：地域看護学特論Ⅰ～Ⅵ、地域看護学演習Ⅰ・Ⅱ、地域看護学実習Ⅰ・Ⅱを活かし、下記内容が体験できるよう、行政看護活動における一連の過程について、直接的に関わりながら実習する。

実習内容：

1. 実習目的と実習内容に基づき実習計画を立てて実習する。行政看護分野において学習する。
2. 実習目的および実習目標を達成するために、実習前に学生は実習計画書を作成し、担当教員に提出する。その後、担当教員と実習担当者が打合わせし、実習内容を大学と実習施設で確認する。
3. 実習先の実習担当者と担当教員は実習前、実習期間中、実習終了後に実習に関する打ち合わせを行い、効果効率的に実習を行えるよう配慮する。
4. 実習内容の実施確認は実習記録を用いて行い、実習担当者が捺印した後、担当教員が捺印する。
5. 他職種によるヘルスケア専門職との協働による行政看護事業の政策プロセスについて、実践を踏まえてレポートを作成する。
6. 保健・医療・福祉を含めた包括的な地域ケアシステムにおける行政看護のリーダーシップについて、実践を踏まえてレポートを作成する。
7. 地域特性のアセスメントと公衆衛生看護学のエビデンスの知見を取り入れた行政看護事業のアウトカム評価の実践および新たな政策提言についての内容をレポートにして報告する。
8. 実習課題の達成状況に応じて、実習時間および課題が異なることがある。

実習日程：2013年9月1日～2013年10月30日までのうちの、4週間（1週5日間、計20日間）各1限～4限。但し、上記の設定時間数に限らず、専門看護師となるに必要な実践能力を高め、看護活動を創意工夫して変革でき社会組織的に発展させうる能力が養われていると確認される時点まで、実習期間の延長を行うものとする。

実習場所

新宿区保健所予防課

成績評価の方法・提出物

- ① 実習計画書、② 実習内容実施確認表、③ 実習内容の5, 6, 7の実践内容に関してA4判の各レポートを作成する。以上の記録について、実習担当者と指導教員は確認と指導を行う。

出席・実習態度・実習記録・レポートを総合的に評価する。

科目担当者：○柳 修平、伊藤 景一、中田 晴美、服部 真理子

講義概要：地域看護学特論および演習で得られた知見をもとに、地域看護領域の実践的課題を発見し、課題研究論文を作成する。課題研究論文の作成指導の内容は、研究課題の設定の妥当性・意義、研究方法についての比較考量、研究プロセスおよび論文作成技法についての指導である。

到達目標：

1. 豊富な文献検討と演習および実習の経験に基づいて、課題研究テーマを自ら導き出すことができる。
2. 研究課題に合致する対象者の選択と適切な方法論を説明することができ、研究実施計画書を作成・発表することができる。
3. 課題研究を実施し、課題研究にふさわしい内容の研究論文を提出することができる。
4. 課題研究論文の概要をプレゼンテーションすることができる。
5. 研究に必要な倫理課題を説明でき、自らの成長を促すことができる。

講義のすすめ方：フィールドワークを通じた研究活動および個人指導

参考文献：適宜紹介

成績評価の方法：研究の進め方、課題研究の達成度

指導日程

**【前期】**

4月から7月の期間中、7週の火曜日、3・4限（14:35～17:35）（2コマ）

**【後期】**

10月から1月の期間中、8週の火曜日、3・4限（14:35～17:35）（2コマ）

科目担当者：○柳 修平、伊藤 景一、中田 晴美

講義概要：地域看護学特論および演習で得られた知見をもとに、地域看護領域の課題を発見し、修士論文を作成する。修士論文の作成指導の内容は、研究課題の設定の妥当性・意義、研究方法についての比較考量、研究プロセスおよび論文作成技法についての指導である。

到達目標：

- 1.豊富な文献検討と演習および実習の経験に基づいて、特別研究テーマを自ら導き出すことができる。
- 2.研究課題に合致する対象者の選択と適切な方法論を説明することができ、研究実施計画書を作成・発表することができる。
- 3.特別研究を実施し、特別研究にふさわしい内容の研究論文を提出することができる。
- 4.特別研究論文の概要をプレゼンテーションすることができる。
- 5.研究に必要な倫理課題を説明でき、自らの成長を促すことができる。

講義のすすめ方：フィールドワークを通じた研究活動および個人指導

講義のすすめ方：研究活動に対するグループ討議および個人指導

参考文献：適宜紹介

成績評価の方法：研究の進め方、特別研究の達成度

指導日程

**【前期】**

4月から7月の期間中、15週の水曜日、1～4限（9:00～16:00）（4コマ）

**【後期】**

10月から1月の期間中、15週の水曜日、1～4限（9:00～16:00）（4コマ）

科目担当者：○日沼 千尋、諏訪 茂樹、松寄 英士、津波古 澄子

講義概要：小児看護の対象理解のため、親子を巡る現代社会の特徴を踏まえ、子どもと家族の成長・発達および援助理論について、心理・社会的な側面から理解を深める。

到達目標：

- 1) 現代社会における親子関係および家族の発達に関して、家族システム論の立場から考察する。
- 2) 発達心理学の理論を概観した上で、ポジティブ心理学における子どもの理解について述べる事ができる。
- 3) 子どもの心身のアセスメントの実際と、ストレスおよびコーピング理論について述べる事ができる。

講義のすすめ方：講義および討議形式ですすめる

レポート課題：①家族のコミュニケーションについてレポート作成し発表する（4.5コマ）

課題の詳細は諏訪准教授の指示を受ける。

②発達理論の概要をレポート作成し発表する（8.9コマ）

（発達の定義、発達の原則、主な愛着理論、自我の発達理論、認知発達理論など）

③子どものストレスに関する理論および先行研究を概観してレポートする。

（ストレス理論の概要、子どものストレス認知、反応、対処行動、小児看護におけるストレス研究）。レポートはワードプロセッサで作成し、A4版5枚以内にまとめ、

**5月18日（金）までにメール添付で日沼に提出する。**

指定文献：随時紹介する

参考文献：L.W.ピーターソン, M.E.ハートマン著, 津波古澄子訳：危機にある子を見つける, 講談社, 2001  
その他随時紹介する

成績評価の方法：授業への参加度およびレポートの内容

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	4/13	金	13:00~16:00	日沼 千尋	オリエンテーション・課題提示
2・3コマ	4/17	火	14:35~17:35	諏訪 茂樹	家族システムと子どもの発達1
4・5コマ	4/24	火	14:35~17:35	諏訪 茂樹	家族システムと子どもの発達2
6・7コマ	5/8	火	13:00~16:00	松寄 英士 日沼 千尋	発達心理学の基本1（課題学習）
8・9コマ	5/15	火	13:00~16:00	松寄 英士	発達心理学の基本2（発表）
10・11コマ	5/22	火	13:00~16:00	松寄 英士	発達心理学の基本3（子どもの強靱性）
12・13コマ	5/29	火	13:00~16:00	津波古澄子	子どもの心身のアセスメント1 *
14・15コマ	6/5	火	13:00~16:00	津波古澄子	子どもの心身のアセスメント2 *

\* 講義日程が変更になる可能性がありますのでご注意ください。

科目担当者：○日沼 千尋、関森 みゆき、高澤 みゆき

講義概要：看護の対象である子どもの心身の発達を査定するために、発達診断と評価について、目的、意義、方法、看護への応用の理論や技法の理解を深める。

到達目標：

- ① それぞれの発達段階における子どもの基本的な成長・発達について述べる事ができる。
- ② 子どもの発達評価・発達診断の方法を述べる事ができる。

講義のすすめ方：講義および学生による発表と討議、見学、演習により進める。

10～15 コマ（高澤）は参加観察および演習をおこなうので、看護衣を準備する。  
事前に講師に連絡し集合場所について指示を受ける。  
参加観察にあたっては、被検者のプライバシーを尊重する。

課題：①発達検査及び診断の概要(さまざまな方法の目的・具体的方法・適応など)をレポートにまとめ  
7月6日（金）までに担当教員（高澤）に提出し、講義（7月10日）で内容を発表する。

②最終講義の終了後1週間以内に、「発達診断に関する学びと看護への活用」についてレポートに  
まとめて科目責任者に提出する。

参考文献・教科書：日本小児保険協会：DENVERⅡデンバー発達判定法。日本小児医事出版社2003。  
その他 随時紹介する

成績評価の方法：1) 課題レポートで評価する。

2) 授業での報告内容、参加態度、貢献度等で評価する。

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	4/13	金	13:00～16:00	日沼 千尋	オリエンテーション・課題提示
2・3コマ	6/12	火	13:00～16:00	関森みゆき	新生児・乳児の成長・発達
4・5コマ	6/19	火	13:00～16:00	関森みゆき	幼児・学童の成長・発達
6・7コマ	6/26	火	13:00～16:00	日沼 千尋	子どもの発達評価・診断1（課題学習）
8・9コマ	7/3	火	13:00～16:00	関森みゆき	親子関係の発達・評価
10・11コマ	7/10	火	13:00～16:00	高澤みゆき	子どもの発達評価・診断2（発表）
12・13コマ	7/17	火	13:00～16:00	高澤みゆき	臨床における発達診断・家族診断1 (心理面接、遠城寺式、K式乳幼児発達検査他)
14・15コマ	7/25	水	9:00～12:00	高澤みゆき	臨床における発達診断・家族診断2 * (心理面接、遠城寺式、K式乳幼児発達検査他)

\* 講義日程が変更になる可能性がありますのでご注意ください。

科目担当者：○日沼 千尋、関森 みゆき  
(松石 和也)

講義概要：臨床において、子どもの最善の利益を保障するための倫理的判断に基づき、子どもと家族に適切に援助する能力を修得することを目的に、小児医療および小児看護において発生しやすい倫理的諸課題について、その現状と、状況に応じた対応について学習する。

到達目標：① 小児看護実践および研究において起こり得る倫理的諸課題について述べる事ができる。  
② ①に基づいて子どもの人権を擁護する活動について検討し、述べる事ができる。

講義のすすめ方：講義および学生による発表、討議を中心に進める。

参考文献・教科書：

田村正徳，玉井真理子：新生児医療現場の生命倫理，メディカ出版，2005.

杉本健郎：子どもの脳死・移植，クリエイツかもがわ，2003

成績評価の方法：授業での報告内容、参加態度、貢献度等で評価する。

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2 コマ	10/2	火	13:00～16:00	松石 和也	小児医療、小児看護における子どもの権利とその位置づけ、インフォームド・アセント、アドボケイト*
3・4 コマ	10/10	水	9:00～12:00	関森みゆき	新生児・未熟児医療における倫理的諸課題と対応（報告）**
5 コマ	11/6	火	13:00～14:25	日沼 千尋	小児看護実践における倫理的諸課題と対応—入院環境1（看護体制・面会・付き添い・保育・教育）（課題学習）
6・7 コマ	11/13	火	13:00～16:00	日沼 千尋	小児看護実践における倫理的諸課題と対応—入院環境2（看護体制・面会・付き添い・保育・教育）（報告）
8・9 コマ	11/20	火	13:00～16:00	日沼 千尋	小児救急医療・臓器移植・虐待を巡る倫理的諸課題とその対応1.（課題学習）
10・11 コマ	11/27	火	13:00～16:00	日沼 千尋	小児救急医療・臓器移植・虐待を巡る倫理的諸課題とその対応2.（報告）
12・13 コマ	12/11	火	13:00～16:00	日沼 千尋	小児看護実践と研究における倫理1（課題学習）
14・15 コマ	12/18	火	13:00～16:00	日沼 千尋	小児看護実践と研究における倫理2（報告）

\* クリティカルケア看護学演習Ⅱと合同講義

\*\* ウーマンズヘルス看護学演習Ⅰとの合同講義

科目担当者：○日沼 千尋

講義概要：子どもと家族を取り巻く小児保健・医療・福祉・教育制度に関して歴史と現状をふまえ、施設および地域における子どもと家族への具体的援助方法および制度の活用について理解を深める。

- 到達目標：① 小児医療・保健、および小児看護の歴史について述べることができる。  
 ② 母子保健制度・子育て支援策の現状と課題について述べるができる。  
 ③ 小児の医療保障制度の現状と課題について述べるができる。  
 ④ 小児医療、看護体制における課題－小児救急医療、入院環境、病児の保育・学習の保障、マンパワー－について述べるができる。  
 ⑤ 小児看護実践に活用できる小児保健、福祉制度、教育制度について述べるができる。

講義のすすめ方：学生による発表、討議を中心に進める。

参考文献：随時紹介する。

成績評価の方法：授業での報告内容、参加態度、貢献度等で判断する。

## 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2 コマ	9/4	火	13:00～16:00	日沼 千尋	小児保健・医療・看護の歴史① (課題学習)
3・4 コマ	9/11	火	13:00～16:00	日沼 千尋	小児保健・医療・看護の歴史② (報告)
5・6 コマ	9/18	火	13:00～16:00	日沼 千尋	小児の医療保障制度① 現状と課題・制度の活用 (課題学習)
7・8 コマ	9/25	火	13:00～16:00	日沼 千尋	小児の医療保障制度② 現状と課題・制度の活用 (報告)
9・10 コマ	10/9	火	13:00～16:00	日沼 千尋	小児医療・看護・福祉・教育制度における 課題①－医療的ケアが必要な子どもの学校 における看護の現状と課題 (課題学習)
11 コマ	10/17	水	9:00～10:25	日沼 千尋	母子保健制度・子育て支援策① 現状と課題・制度の活用 (課題学習) *
12・13 コマ	10/24	水	13:00～16:00	日沼 千尋	母子保健制度・子育て支援策② 現状と課題・制度の活用 (報告) *
14・15 コマ	10/30	火	13:00～16:00	日沼 千尋	小児医療・小児看護制度における課題② 医療的ケアが必要な子どもの学校における 看護の現状と課題 (報告)

\* ウーマンズヘルス看護学演習Ⅰとの合同講義

科目担当者：○日沼 千尋、田中 美恵子、青木 雅子、奥野 順子  
(中村 由美子)

講義概要：子どものフィジカルアセスメント（呼吸器系・循環器系・代謝系・脳神経系・感覚器系など）  
および子どもと家族の包括的なアセスメント方法を実践的に学ぶ。

- 到達目標：① 子どものフィジカルアセスメントの視点を述べることができる。  
② 精神症状がある子どものアセスメントの視点を述べることができる。  
③ 子どもの家族のアセスメントの視点を述べることができる。  
④ 子どものアセスメントの視点に添って、系統的・総合的なアセスメントができる。

講義のすすめ方：演習および見学、学生による発表、討議を中心に進める。  
アセスメント実習は実習要項（別紙）を参照のこと。

参考文献・教科書：随時紹介する。

- 成績評価の方法：1) 課題レポートで評価する。  
2) 授業での報告内容、参加態度、貢献度等で評価する。

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	4/13	金	13:00～16:00	日沼 千尋	オリエンテーション
2・3コマ	5/9	水	13:00～16:00	日沼 千尋	小児のフィジカルアセスメントの視点 (課題学習)
4～6コマ	6/6	水	13:00～17:35	日沼 千尋	小児のフィジカルアセスメントの視点 (報告)
7～9コマ	6/13	水	13:00～17:35	日沼 千尋	小児のフィジカルアセスメント(発達外来) (演習)
10～12コマ	6/20	水	13:00～17:35	日沼 千尋 田中美恵子	精神・神経症状のある子どものアセスメント1
13～15コマ	6/27	水	13:00～17:35	日沼 千尋 田中美恵子	精神・神経症状のある子どものアセスメント2
16～18コマ	7/4	水	13:00～17:35	青木 雅子	急性状況にある子どものアセスメント1 (病棟実習)
19～23コマ	7/14	土	9:00～17:35	中村由美子	子どもと家族のアセスメントと支援* (家族への介入と評価)
24～26コマ	7/18	水	13:00～17:35	奥野 順子	慢性状況にある子どものアセスメント1 (病棟実習)
27～30コマ	7/25	水	9:00～16:00	青木 雅子 奥野 順子	急性状況/慢性状況にある子どものアセスメント2 (報告)

\*クリティカルケア看護学特論Ⅳと合同講義

科目担当者：○日沼 千尋、相野田 祐介、遠藤 奈津美、大友 陽子、金子 恵美子、高澤 みゆき、  
富川 由美子、山田 咲樹子

講義概要：専門看護師の役割として、複雑な健康問題を抱える子どもと家族への看護実践、教育、コンサルテーション、関係機関の調整、他職種との協働、社会的資源の活用、患者会活動の支援の実際について理解を深める。

- 到達目標：① 小児看護実践において連携する多職種の活動の実際について述べる事ができる。  
② 子どもと家族を支える患者会活動の実際を経験し、小児看護における活動支援を考察することができる。  
③ 自己の問題意識に関してフィールドワークを通して探求し、報告することができる。

講義のすすめ方：フィールドワークおよび見学、学生による発表、討議を中心に進める。  
子どもの主体性を育てる看護（プリパレーション・相談活動）は、外来または病棟においてプリパレーションの計画、実践、評価の一連の活動を主体的に行う。

参考文献・教科書：随時紹介する

成績評価の方法：授業での報告内容、参加態度、貢献度等で評価する。

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2 コマ	5/16	水	13:00～16:00	日沼 千尋	子どもと家族の主体性を育てる看護—プリパレーション1 (現状分析・課題の検討)
3・4 コマ	5/23	水	13:00～16:00	日沼 千尋	子どもと家族の主体性を育てる看護—プリパレーション2 (指導案の作成 関係部署との調整)
5・6 コマ	5/30	水	13:00～16:00	日沼 千尋	子どもと家族の主体性を育てる看護—プリパレーション3(外来・病棟における実践・評価)
7～14 コマ	未定		9:00～16:00	日沼 千尋	健康障害を持つ子どもと家族の抱える諸問題とその支援① フィールドワーク(サマーキャンプ)
15・16 コマ	9/13	木	9:00～12:00	日沼 千尋	障害を持つ子どもと家族の抱える諸問題とその支援② フィールドワーク報告・まとめ
17・18 コマ	9/20	木	9:00～12:00	山田咲樹子	専門看護師の役割・機能について
19・20 コマ	12/ 1	土	13:00～16:00	高澤みゆき	健康障害を持つ子どもと家族の抱える諸問題とその支援③—ひまわりの会
21・22 コマ	10/ 4	木	9:00～12:00	金子恵美子	小児看護における事故とリスクマネジメント
23・24 コマ	10/11	木	13:30～16:30	相野田祐介	臨床に多い感染症とその対策*★
25・26 コマ	10/18	木	10:00～12:30	大友 陽子	小児看護における感染対策と専門職種間の協働★
27・28 コマ	10/25	木	9:00～12:00	遠藤奈津美	小児の臓器移植におけるコーディネーター★
29・30 コマ	11/ 1	木	9:00～12:00	富川由美子	社会資源の活用と医療相談活動の実際(虐待他) *

\* ウーマンズヘルス看護学演習Ⅰとの合同講義

★ クリティカルケア看護学演習Ⅰとの合同講義

科目担当者：○日沼 千尋、木所 篤子、宮崎 歌津枝、山田 咲樹子

講義概要：臓器移植を受ける子ども、救急処置を受ける子ども、集中治療を受ける子ども、在宅医療を受ける子ども、虐待を受けた子どもなど、特殊な状況にある子どもの看護に関して、学生の専門性を考慮してテーマを設定し、集中的に病態の理解から支援とその評価について学ぶ。

- 到達目標：① 特殊な状況にある子どもの現状を、病態の側面から分析することができる。  
 ② 特殊な状況にある子どもと家族の現状を、小児保健・医療・福祉・教育の側面から分析することができる。  
 ③ 分析結果より、必要な看護実践の内容・方法を検討することができる。  
 ④ 実践内容について、適切に評価し、報告することができる。  
 ⑤ 自己の問題意識に関してフィールドワークや文献レビューを通して探求することができる。

講義のすすめ方：フィールドワークおよび見学、文献レビュー、学生による発表、討議を中心に進める。  
 看護の計画、実践、評価の一連の活動を主体的に行う。

参考文献・教科書：随時紹介する

成績評価の方法：授業での報告内容、参加態度、貢献度等で評価する。

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	9/27	木	9:00～10:25	日沼 千尋	オリエンテーション
2～5コマ	11/7	水	9:00～16:00	宮崎歌津枝 木所 篤子	特殊状況にある子どもと家族の状況に関する情報収集1 フィールドワーク
6・7コマ	11/8	木	9:00～12:00	日沼 千尋	特殊状況にある子どもと家族の状況に関する分析 (課題学習)
8～11コマ	11/14	水	9:00～16:00	宮崎歌津枝 木所 篤子	特殊状況にある子どもと家族の包括的アセスメント フィールドワーク
12・13コマ	11/15	木	9:00～12:00	日沼 千尋	特殊状況にある子どもと家族の包括的アセスメント (課題学習)
14・15コマ	11/22	木	9:00～12:00	日沼 千尋 山田咲樹子	アセスメント結果の報告
16～19コマ	11/28	水	9:00～16:00	日沼 千尋	特殊状況にある子どもと家族への看護実践1 フィールドワーク
20・21コマ	11/29	木	9:00～12:00	日沼 千尋	実践の評価・修正 (課題学習)
22～25コマ	12/5	水	9:00～16:00	日沼 千尋	特殊状況にある子どもと家族への看護実践 2 フィールドワーク
27・28コマ	12/13	木	9:00～12:00	日沼 千尋	特殊状況にある子どもと家族の課題に関する 文献レビュー (課題学習)
29・30コマ	12/20	木	9:00～12:00	日沼 千尋 山田咲樹子	特殊状況にある子どもと家族への看護実践 評価 (報告)

科目担当者：○日沼 千尋、関森 みゆき、奥野 順子、大澤 眞木子、杉原 茂孝

### 1. 実習目的

小児の診断治療実習

小児期に特有な疾患の診断および治療方法を学び、健康障害のある子どもへの看護実践において必要な（医学的）臨床判断能力を修得する。

### 2. 到達目標：

- ① 小児期に特有な疾患の病態生理と診断、治療方法について述べることができる。
- ② 診断のために必要な検査法および結果の判断について述べるができる。
- ③ 小児の薬物治療法について述べるができる。
- ④ 子どもの健康に関する履歴を系統的に聴取することができる。
- ⑤ 小児に特有な疾患の診断治療過程を見学実習し、10例以上についてレポート報告ができる。

### 3. 実習方法

実習期間：2年次 5月～6月

実習日程

期間 25年 5月 9日～ 25年 6月 1日まで（この内約 14日間） 1限～5限  
実習期間は、到達目標が達成するまで継続するものとする。

実習施設：東京女子医科大学病院、八千代医療センター、東医療センター

### 4. 実習内容

- 1) 主に外来診察室において、健康障害のある子どもへの医学診断および治療までの医学的アセスメント過程を見学し、10例以上についてレポート報告する。
- 2) 子どもの年齢、疾患を考慮して、幅広い事例を選択して見学する。
- 3) 医師や他職種との討議、カンファレンスに参加し、スーパービジョンを受ける。
- 4) 上記の実習に関して実習の場、状況の開拓および計画は指導教員に指導を受け、自ら自律して行う。

### 5. 指導体制

実習中は担当教員のスーパービジョンを週1回程度受ける。スーパービジョンは実習施設と大学内の両方で行われる。

実習施設においては適宜カンファレンスを行い、実習指導者、小児看護専門看護師、小児看護師や他の医療専門職からの助言・フィードバックを積極的に受ける。

### 6. 評価

実習内容、レポート、学習態度

詳細は別途提示する。

科目担当者：○日沼 千尋、関森 みゆき、奥野 順子

1. 実習目的

特論Ⅰ～Ⅳ、演習Ⅰ・Ⅱおよび実習Ⅰでの学びを踏まえ、小児看護専門看護師の役割、機能に関して、実践的に理解を深める。

2. 到達目標：

- ① 小児看護専門看護師の役割、機能について、述べることができる。
- ② 小児看護専門看護師の役割機能に関する学びをレポートにまとめ、報告することができる。

3. 実習方法

実習期間：2月～3月

実習日程

期間 25年 2月4日～ 25年 2月 28日まで（この内約 14日間） 1限～5限  
実習期間は、実習目標が達成するまで継続するものとする。

実習施設：神奈川県立こども医療センター

東京女子医科大学病院、八千代医療センター、東医療センター他

4. 実習内容

- 1) 小児看護専門看護師が実施する複雑な状況や健康障害をもつ子どもと家族のアセスメント、各領域の専門性を考慮した看護援助の実践方法、評価までの過程を見学・参加実習をする。
- 2) 複雑な状況や健康障害のある子どもと家族への直接的ケアの実施および、子ども、家族、看護職、他の医療・福祉専門職間での連携や調整について、見学・参加実習をする。
- 3) 子ども、家族、小児看護の看護職に対して行った教育的関わりに関して、見学・参加実習をする。
- 4) 小児看護の看護職および小児看護領域に関わる専門職に行ったコンサルテーションに関して、見学・参加実習をする。
- 5) 上記の実習に関して実習の場、状況の開拓および計画は指導教員に指導を受け、自ら自律して行う。

5. 指導体制

実習中は担当教員のスーパービジョンを週1回程度受ける。スーパービジョンは実習施設のベッドサイドと大学内の両方で行われる。

実習施設においては適宜カンファレンスを行い、小児看護専門看護師、実習指導者、小児看護師や他の医療専門職からの助言・フィードバックを積極的に受ける。

6. 評価

実習内容、レポート、学習態度

詳細は別途提示する。

科目担当者：○日沼 千尋、関森 みゆき、奥野 順子

### 1. 実習目的

複雑な健康上の課題のある小児と家族に対して、より健康でQOLの高い生活を維持・増進できるように援助する小児看護専門看護師として、実践する能力を修得する。

### 2. 到達目標：

- ① 複雑な健康上の課題を持つ小児と家族に対して、小児看護専門看護師の実践として「直接的ケア」を行い 5例以上についてレポート報告ができる。
- ② 複雑な健康上の課題を持つ小児と家族に対して、小児看護専門看護師の役割・機能の「相談」・「調整」・「倫理調整」・「教育」に関して実践し、それぞれについて2事例以上をレポート報告ができる。

### 3. 実習方法

実習期間：6月～8月

実習日程

期間 25年 6月 17日～ 25年 8月 30日まで（この内約 40日間） 1限～5限  
実習期間は、到達目標が達成するまで継続するものとする。

実習施設：神奈川県立こども医療センター

東京女子医科大学病院、八千代医療センター、東医療センター

### 4. 実習内容

- 1) 複雑な状況や健康障害をもつ子どもと家族のアセスメントを行い、各領域の専門性を考慮して看護援助を実践し、評価をする。看護を実践した事例に関して5例以上をレポートとして報告する。
- 2) 子ども、家族、看護職、他の医療・福祉専門職種での連携や調整を主体的に行った事例にして、その過程と調整の結果及び評価についてレポートを作成する。評価は調整に関わった他の職種からも受ける。
- 3) 子ども、家族、小児看護の看護職に対して行った教育的関わりに関して、その目的、方法、結果について評価しレポートを作成する。
- 4) 小児看護の看護職および小児看護領域に関わる専門職に行ったコンサルテーションに関して、その経緯、内容、評価についてレポートを作成する。  
レポート作成の際は指定された項目に添って記述する。
- 5) 上記の4項目の実習とその評価に関して各2事例以上レポートにまとめる。  
事例数および、実習時間は各自の修得状況によって異なることがある。
- 6) 上記の実習に関して実習の場、状況の開拓および計画は指導教員に指導を受け、自ら自律して行う。

### 5. 指導体制

実習中は担当教員のスーパービジョンを週1回程度受ける。スーパービジョンは実習施設のベッドサイドと大学内の両方で行われる。

実習施設においては適宜カンファレンスを行い、小児看護専門看護師、実習指導者、小児看護師や他の医療専門職からの助言・フィードバックを積極的に受ける。

### 6. 評価

実習内容、レポート、学習態度

詳細は教員の指導のもと、学生自身が実習計画を立案する。

科目名 小児看護学課題研究

(2単位 30コマ)

科目担当者：○日沼 千尋、関森 みゆき

講義概要：小児看護学特論および演習で習得した知識と技術、および小児看護学実習で得た看護実践に関する問題意識や知見を元に、臨床での看護実践上の課題について、研究的にとり組み研究論文を作成する。研究的プロセスを踏むことにより、研究能力を修得する。

- 到達目標：① 自己の問題意識に基づき、小児看護実践に関する研究課題を設定し、十分な文献検討のうえで研究計画書を作成する事ができる。
- ② 研究計画を倫理委員会に提出し、倫理委員会の承認を得る事ができる。
  - ③ 研究計画に基づき、確実に研究を実施する事ができる。
  - ④ 研究結果を修士論文としてまとめ、提出する事ができる。

講義の進め方：グループディスカッションおよび個人指導により進める。

成績評価の方法：研究の進め方および課題研究の達成度

指導日程

原則として毎週木曜日の1・2限(9:00～12:00)または水曜日の3・4限(13:00～16:00)(通年)を研究指導に当てる

科目名 小児看護学特別研究

(8単位 120コマ)

科目担当者：○日沼 千尋、関森 みゆき

講義概要：小児看護学特論および演習で修得した知見や問題意識を元に、小児看護に関する研究課題について、研究的にとり組み研究論文を作成する。研究的プロセスを踏むことにより、研究能力を修得する。

- 到達目標：① 自己の問題意識に基づき、小児看護に関する研究課題を設定し、十分な文献検討のうえで研究計画書を作成する事ができる。
- ② 研究計画を倫理委員会に提出し、倫理委員会の承認を得る事ができる。
  - ③ 研究計画に基づき、確実に研究を実施する事ができる。
  - ④ 研究結果を修士論文としてまとめ、提出する事ができる。

講義の進め方：グループディスカッションおよび個人指導により進める。

成績評価の方法：研究の進め方および特別研究の達成度

指導日程

原則として毎週木曜日の1・2限（9:00～12:00）および水曜日の3・4限（13:00～16:00）を研究指導に当てる

科目担当者：○小川 久貴子、竹内 道子、原田 通予、宮内 清子、飯塚 幸恵、中北 充子

講義概要：助産実践の基盤となる概念および理論をふまえ、女性の生涯の健康を視野に入れ、性と生殖に関する女性の健康問題を診断し、解決するための相談・教育・実践技術の基本的能力を養う。

到達目標：事例に基づいた助産診断から、助産ケアや健康教育の計画立案ができる。

講義のすすめ方：学習した内容に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。

参考文献：

- 助産師基礎教育テキスト,第1巻「助産概論」,山本あい子,日本看護協会出版会,2009.  
 助産師基礎教育テキスト,第2巻「女性の健康とケア」,吉沢豊予子,日本看護協会出版会,2009.  
 助産師基礎教育テキスト,第3巻「周産期における医療の質と安全」,成田伸,日本看護協会出版会,2009.  
 助産師基礎教育テキスト,第4巻「妊娠期の診断とケア」,森恵美,日本看護協会出版会,2009.  
 助産師基礎教育テキスト,第5巻「分娩期の診断とケア」,町浦美智子,日本看護協会出版会,2009.  
 助産師基礎教育テキスト,第6巻「産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア」,横尾京子,日本看護協会出版会,2009.  
 助産師基礎教育テキスト,第7巻「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」,遠藤俊子,日本看護協会出版,2009.  
 北川真理子編集,生田克夫医学監修,「今日の助産 改訂第2版」,南江堂,2004.  
 日本家族協会編,「新・受胎調剤指導用テキスト:受胎調剤実地指導員認定講習指導指針」,日本家族計画協会,2004.

成績評価の方法：レポート、講義への参加状況

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	4/17	火	13:00~14:25	小川久貴子	助産診断とは、 事例展開学習のオリエンテーション
2コマ	4/17	火	14:35~16:00	竹内 道子	妊娠期の助産ケア・健康教育 (日常生活上のケア、出産準備・親準備教育、等)
3~5コマ	4/24	火	13:00~17:35		
6~8コマ	5/1	火	13:00~17:35		
9~12コマ	5/8	火	13:00~19:10	原田 通予	分娩期の助産ケア (分娩進行に伴う産婦と家族のケア、等)
13~15コマ	5/15	火	13:00~17:35		
16~18コマ	5/22	火	13:00~17:35		
19~20コマ	5/29	火	13:00~16:00		
21~23コマ	6/5	火	13:00~17:35	中北 充子	産褥期の助産ケア・健康教育 (育児指導、母乳指導、家族計画指導、等)
24~27コマ	6/12	火	13:00~19:10	竹内 道子	
28~30コマ	6/19	火	13:00~17:35	宮内 清子 飯塚 幸恵	新生児期の助産ケア (成長・発達を促すケア、等)

科目担当者：○小川 久貴子、竹内 道子、原田 通予、宮内 清子、飯塚 幸恵、中北 充子

講義概要：周産期の女性と胎児の well-being、および成長・発達を診断するために必要な解剖・生理学をふまえ、分娩開始および進行の診断方法を学び、事例学習を通じて基礎的な助産過程を展開する。

到達目標：妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における助産診断および助産過程が習得できる。

講義のすすめ方：各期の事例学習に関する助産診断をレポートしてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して主体的に学習を深める。

参考文献：

- 助産師基礎教育テキスト,第4巻「妊娠期の診断とケア」,森恵美,日本看護協会出版会,2009.
- 助産師基礎教育テキスト,第5巻「分娩期の診断とケア」,町浦美智子,日本看護協会出版会,2009.
- 助産師基礎教育テキスト,第6巻「産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア」,横尾京子,日本看護協会出版会,2009.
- 助産師基礎教育テキスト,第7巻「ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」,遠藤俊子,日本看護協会出版,2009.
- 北川眞理子編集,生田克夫医学監修,「今日の助産 改訂第2版」,南江堂,2004.
- 仁志田博司著,「新生児学入門」,第3版,医学書院2004.

成績評価の方法：レポート、講義への参加状況

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2コマ	4/19	木	9:00～12:00	小川久貴子 竹内 道子	妊娠期の助産診断：妊娠確定診断、妊娠時期診断、妊娠経過診断、健康生活診断、等（課題学習とプレゼンテーション）
3・4コマ	4/19	木	13:00～16:00		
5・6コマ	4/26	木	9:00～12:00		
7・8コマ	4/26	木	13:00～16:00		
9・10コマ	5/10	木	9:00～12:00		
11・12コマ	5/10	木	13:00～16:00		
13・14コマ	5/17	木	9:00～12:00	原田 通予	分娩期の助産診断：分娩開始診断、分娩時期診断、分娩経過診断、健康生活診断（課題学習とプレゼンテーション）
15・16コマ	5/17	木	13:00～16:00		
17・18コマ	5/24	木	9:00～12:00		
19・20コマ	5/24	木	13:00～16:00		
21・22コマ	5/31	木	9:00～12:00		
23・24コマ	5/31	木	13:00～16:00		
25・26コマ	6/7	木	9:00～12:00	中北 充子 竹内 道子	産褥期の助産診断：産褥期経過診断、健康生活診断（課題学習とプレゼンテーション）
27・28コマ	6/7	木	13:00～16:00		
29・30コマ	6/14	木	9:00～12:00		
31・32コマ	6/14	木	13:00～16:00		
33・34コマ	6/21	木	9:00～12:00	宮内 清子 飯塚 幸恵	新生児期の助産診断：胎内環境診断、成長・発達診断、胎外生活適応の診断、健康生活診断（課題学習とプレゼンテーション）
35・36コマ	6/21	木	13:00～16:00		
37・38コマ	6/21	木	16:10～19:10		

科目担当者：○小川 久貴子、宮内 清子、野口 真貴子

講義概要：地域における母子保健を推進するために必要な基本的な知識と社会資源の活用し、保健、医療、福祉機関との調整ができる能力を獲得する。さらに国際的観点から、地域母子保健での現状と課題を理解する。

- 到達目標：1. 地域母子保健における助産師の役割が理解できる。  
2. 日本における地域母子保健の特徴を理解し、現行の地域母子保健事業について説明できる。  
3. 世界における地域母子保健の現状を理解し、地域母子保健のありかたについて考えられる。

- 講義のすすめ方：1. 日本の地域母子保健事業について学習する。  
2. 地域母子保健に関する英語文献を講読する。  
3. 学習した内容に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。

参考文献：助産学基礎教育テキスト,第1巻「助産概論」,山本あい子編集,日本看護協会出版会,2009  
助産学基礎教育テキスト,第3巻「周産期における医療の質と安全」,成田伸編集,日本看護協会出版会,2009  
The State of the World's Children 2009: Maternal and Newborn Health, UNICEF, 2008

成績評価の方法：講義への出欠、レポート、プレゼンテーション、ディスカッションの内容から総合的に評価する

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2コマ	9/7	金	14:35～17:35	野口真貴子	公衆衛生と地域母子保健（課題学習） 世界の地域母子保健（課題学習）
3・4コマ	11/9	金	13:00～16:00	宮内 清子	日本の地域母子保健（課題学習）
5・6コマ	11/16	金	14:35～17:35		
7・8コマ	11/30	金	13:00～16:00	小川久貴子 宮内 清子	プレゼンテーション、ディスカッション

科目担当者：○小川 久貴子、原田 通予  
（武田 智子）

講義概要：専門職者としての助産所管理・運営能力や、施設・地域でのリーダーシップが発揮できるように、助産マネジメントの理論や知識を学ぶ。

到達目標：・病院・助産所等における助産師の役割、法的な責務等が理解できる。  
・周産期における医療事故の実態から助産業務の安全とその改善点を理解できる。  
・助産所における開設方法や経営管理、および産科嘱託医と緊急搬送体制を理解し、助産業務の安全対策を考えられる。

講義の進め方：・助産業務や助産マネジメントの理論について学習する。  
・院内助産システム（助産師外来の運営や、母子の安全性・快適性を主題にした分娩・産褥管理のあり方など）や、そのシステム内での助産師の役割、法的な責務等が理解できる。  
・学習した内容に関するレポート、プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通じて深める。

参考文献：助産師基礎教育テキスト,第3巻「周産期における医療の質と安全」,成田伸,日本看護協会出版会,2009.  
看護六法、新日本法規  
助産師業務要覧 増補版 日本看護協会

成績評価の方法：プレゼンテーションと討論の参加状況、課題レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2コマ	10/2	火	13:00～16:00	小川久貴子	講義（病院の助産業務管理、院内助産システム）
3・4コマ	10/2	火	16:10～19:10	原田 通予	講義（助産所の助産業務管理）
5・6コマ	10/9	火	13:00～16:00		課題学習
7・8コマ	10/9	火	16:10～19:10		
9・10コマ	10/16	火	13:00～16:00	武田 智子	講義（助産所における経営管理と安全対策、日本助産師会の活動等）
11・12コマ	10/16	火	16:10～19:10		
13・14コマ	10/23	火	13:00～16:00	原田 通予	プレゼン・ディスカッション
15コマ	10/23	火	16:10～17:35		フリースタイル分娩

科目担当者：○小川 久貴子、尾崎 恭子、原田 通予、飯塚 幸恵、牧野 康男、坂井 昌人、  
近藤 乾

講義概要：妊娠・分娩・産褥・新生児の正常と異常についての基礎的能力を学ぶ。

到達目標：1. 妊娠・分娩・産褥・新生児の生理機能と異常の発生機序・症状・治療ケアについて学ぶ。  
2. 妊娠・分娩・産褥の超音波診断の基礎を理解できる。  
3. 会陰部の切開・縫合の基礎を理解できる。

講義のすすめ方：1. 正常と異常な妊娠・分娩・産褥・新生児について学習する。  
2. プレゼンテーション、ディスカッションなどの主体的な学習を通して深める。

参考図書：櫻木範明監修、「産科手術、必須術式の完全マスター(OGS NOW No.4)」,  
メジカルビュー社,2010.

池ノ内克乙,他編「New エッセンシャル産科学・婦人科学」,医歯薬出版,2004.

梁 栄治著,「助産師と研修医のための 産科超音波検査」,診断と治療社,2010.

田村正徳監修,「新生児蘇生法テキスト」,メジカルビュー社,2011.

成績評価の方法：試験・課題レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～3 コマ	4/18	水	13:00～17:35	小川久貴子	オリエンテーション
4～6 コマ	4/25	水	13:00～17:35	飯塚 幸恵	課題学習
7～9 コマ	5/2	水	13:00～17:35		
10～12 コマ	5/9	水	13:00～17:35	坂井 昌人	妊娠・分娩・産褥期の超音波診断
13～15 コマ	5/14	月	13:00～17:35	尾崎 恭子	無痛分娩・帝王切開術
16～18 コマ	5/21	月	13:00～17:35	牧野 康男	妊娠期・分娩期・産褥期の異常 (28日課題学習)
19～21 コマ	5/28	月	13:00～17:35		
25・26 コマ	6/6	水	13:00～16:00	近藤 乾	新生児の蘇生
27・28 コマ	6/13	水	13:00～16:00	原田 通予 飯塚 幸恵	産科器具について留意点
29・30 コマ	6/20	水	13:00～16:00	牧野 康男	会陰部の切開・縫合

**\*臨床講義として超音波診断および会陰部の切開・縫合を学ぶ**

科目担当者：○小川 久貴子、竹内 道子、原田 通予、宮内 清子、飯塚 幸恵、中北 充子、井上 友里

講義概要：助産学領域で実践されている援助技術について既存研究と比較し、助産のエビデンスを検討する。さらに、分娩介助技法を学び、事例学習を通じて基礎的な助産過程を展開する。

- 到達目標：1. 分娩介助に関わる技法について最新の知見を文献で明らかにする。  
2. 安全・安楽で主体性を尊重した正常分娩の介助を習得できる。  
3. 出生直後の新生児の看護を習得できる。  
4. 受胎調節を理解でき、学習できる。  
5. 対象集団の必要な健康教育を理解し、企画と教材開発ができる。

- 講義のすすめ方：1. 分娩介助に関わる技術について学習し、演習によって習得する。  
2. 健康教育の集団指導について学習する。  
3. 受胎調節について学習する。

成績評価の方法：実技試験、参加状況、レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
<b>1年次：</b> 1～3コマ	2012年 6/8	金	13:00～17:35	原田 通予 竹内 道子	分娩介助技法（講義・演習）
4～6コマ	6/15	金	13:00～17:35	宮内 清子	
7～9コマ	6/18	月	13:00～17:35	飯塚 幸恵	
10～12コマ	6/22	金	13:00～17:35	中北 充子 井上 友里	分娩介助演習
13～15コマ	6/25	月	13:00～17:35		
16～18コマ	6/26	火	13:00～17:35		
19～21コマ	6/28	木	10:35～16:00		
22～24コマ	6/29	金	13:00～17:35		
25～27コマ	7/3	火	13:00～17:35		
28～30コマ	7/4	水	10:35～16:00		
31～33コマ	7/5	木	10:35～16:00		
34～36コマ	7/6	金	13:00～17:35	小川久貴子 井上 友里	受胎調節の基礎・指導（講義）
<b>2年次：</b> 37～39コマ	2013年 9/5	木	10:35～16:00	竹内 道子 飯塚 幸恵	健康教育
40～42コマ	9/12	水	10:35～16:00	中北 充子	
43～45コマ	9/19	木	13:00～17:35	原田 通予 飯塚 幸恵	グリーフケア

※健康教育は ウーマンズヘルス実習で実施する。

科目名 助産学実習

(11単位 12週)

科目担当者：○小川 久貴子、竹内 道子、原田 通予、宮内 清子、飯塚 幸恵、中北 充子、  
井上 友里

実習概要： Evidence-based Practice (EBP) の知識を生かして、妊婦・産婦・褥婦および胎児・新生児のケアに必要な診断を行い健康教育や分娩介助を実践し、個人的な助産過程を展開する。

- 到達目標： 1. 産婦の助産診断が行え、それに基づいて助産ケアが実践できる。  
2. 正常経過をたどる産婦の分娩介助ができる。  
3. 正常経過をたどる産婦の間接介助ができる。  
4. 異常分娩時の助産師の役割及び、救急処置及び産科手術の介補が理解できる。  
5. 褥婦の助産診断が行え、それに基づいた健康教育ができる。  
6. 新生児の助産診断が行え、それに基づいた健康教育が母親に対してできる。  
7. 実習を通して、女性のライフサイクルの視点からよりよい助産のあり方を探究できる。

成績評価の方法：実習の出欠状況と態度、提出物

実習期間：2012年7月17日～ 2012年9月1日まで（12週間の内、7週間が病院実習）

実習方法：実習要項参照



# 博士後期課程（博士）

## 平成24年度学事暦(博士後期課程)

	事項	日程
前 期	入学式	4月 9日(月)
	オリエンテーション(1年次のみ) * 博士前期課程合同	4月 13日(金)
	前期授業開始	4月 16日(月)
	履修願届提出	4月 20日(金) 17時まで
	博士後期課程学位論文の研究計画書の提出(1回目)	5月 9日(水) 13時まで
	審査委員会の構成委員の決定(研究計画書)(1回目)	6月 8日(金)
	研究科委員会による博士後期課程学位論文の研究計画書の審査(1回目)	7月 6日(金)
	研究計画書発表会(1回目提出者)	7月 18日(水)
	大学院博士前期・後期課程入学試験(1期)	8月 7日(火)
	博士後期課程学位論文の研究計画書の提出(2回目)	9月 12日(水) 13時まで
	履修願変更期間(後期に実施する科目のみ有効)	9月 24日(月)~28日(金) 17時まで
	前期授業終了	9月 29日(金)
後 期	後期授業開始	10月 1日(月)
	審査委員会の構成委員の決定(研究計画書)(2回目)	10月 5日(金)
	研究科委員会による博士後期課程学位論文の研究計画書の審査(2回目)	11月 2日(金)
	博士後期課程学位論文の研究計画書の提出(3回目)	11月 14日(水) 13時まで
	審査委員会の構成委員の決定(研究計画書)(3回目)	12月 14日(金)
	研究科委員会による博士後期課程学位論文の研究計画書の審査(3回目)	1月 11日(金)
	大学院博士前期・後期課程入学試験(2期)	1月 16日(水)
	学位申請書(博士学位論文)提出日	1月 28日(月) 13時まで
	審査委員会の構成委員の決定(博士学位論文)	2月 1日(金)
	審査委員会による論文審査と最終試験日	2月 12日(火)~16日(土) の期間中に実施する。
	学位論文主査による最終試験結果提出日	2月 25日(月)
	研究科委員会による学位授与の可否決定	3月 1日(金)
	学生への学位授与の可否通知	3月 4日(月)
	研究計画発表会(2・3回目提出者)	3月 21日(木)
	博士学位論文の発表会	3月 21日(木)
学位授与式-修了式	3月 22日(金)	



## 東京女子医科大学大学院看護学研究科博士後期課程の教育理念

### I. 設置の趣旨

東京女子医科大学は、吉岡彌生によって明治 33 年に創立され、「至誠」と「愛」の建学の精神を継承し、自由と進取な校風で医学、看護学の発展のために邁進してきた。

近年、高度情報化時代におけるわが国の保健医療情勢は、医学・医療が高度かつ急速に進歩し、高齢・少子化が進み、人々のインフォームドコンセントを求める気風も増し、複雑な様相を呈する段階に至った。それゆえ、本学大学院は、国民の多様な健康問題に対応できるための高度な能力、豊かな学識、および高度な研究能力を身につけた人材を育成することが急務であると考へ大学院看護学研究科博士後期課程の設置を目指した。すなわち、現代社会では、臓器移植、遺伝子医学および先端生殖医療などの進歩および高度な医療技術の発展、並びに脳死、尊厳死、安楽死や新たな方法による出産などから、複雑な人間関係のさまざまな葛藤が生じている。そのために看護の領域において、高度な学識および自立して看護を探究できる能力を有し、柔軟に問題を解決し国民の健康ニーズに貢献し、保健医療福祉の事象に先進的に対応できる卓越した看護領域の人材を必要としている。また、さまざまな形態の医療機関、ケア施設、臨地における看護の活動の場において、縦横かつ創造的に状況を変化させ得る高度な能力が必要とされている。また、看護の学問を着実に向上させ、現状を打開させるために、自立して研究活動ができる研究者の能力を必要としている。さらに、国際的な感覚を有し、学際的な研究や国際的な視野に立った研究を進展させ、看護学領域における学術・研究を飛躍的に進歩させ得る事が重要である。本大学院博士後期課程は、これらの社会からのニーズを高いレベルで満たすことができる人材を輩出し、新しい看護学の確立をめざそうとしている。

### II. 教育研究上の理念・目的

本大学院博士後期課程は、看護基礎科学（食看護学、看護管理学、看護職生涯発達学）および実践看護学（クリティカルケア看護学・がん看護学、ウーマンズヘルス、老年看護学、解釈的精神看護学、地域看護学、小児看護学）の 2 分野において、創立者の「至誠と愛」の理念に基づき、看護を深く探究し、人間性を高め、自立して看護を探究できる人材を育成する。また、高度な看護学の研究を自立して行うことができる研究者を育成する。さらに、国際感覚を身に付け、あらゆる人々の健康に関するニーズを視野に入れ、創造的な科学的理論および看護技術を提示できる研究者の育成を行うことをめざしている。

#### 教育目的

本大学院博士後期課程は、建学の精神にのっとり、看護学に関する高度な理論および実践学を研究し、その深奥を究めて、人々の健康に寄与すると共に、看護学を進展させ社会に貢献する卓越した人材を育成する。

#### 修了後の資格

所定の授業科目を履修して必要な単位を取得し、博士論文を提出して認定されたものには博士（看護学）の学位が与えられる。



## 授業科目および教員一覧

	授 業 科 目 名	科 目 担 当 者
共通選択科目	心理学特論	久田 満
	統計学特論	坂田 成輝
	哲学特論	丹木 博一
	倫理学特論	森川 功
	研究方法特論	伊東 栄子、神山 暢夫
看護基礎科学	食看護学特論	*今年度開講なし
	看護管理学特論	*今年度開講なし
	看護管理学演習	*今年度開講なし
	看護職生涯発達学特論	佐藤 紀子 吉田 澄恵 笠原 清志
実践看護学	クリティカルケア看護学 ・がん看護学特論	下平 唯子 金子真理子
	ウーマンズヘルス特論	小川久貴子
	老年看護学特論	水野 敏子、小山千加代
	解釈的精神看護学特論	田中美恵子
	解釈的精神看護学演習	田中美恵子
	地域看護学特論	柳 修平 伊藤 景一 中田 晴美 山口 直人
	小児看護学特論	日沼 千尋 関森みゆき

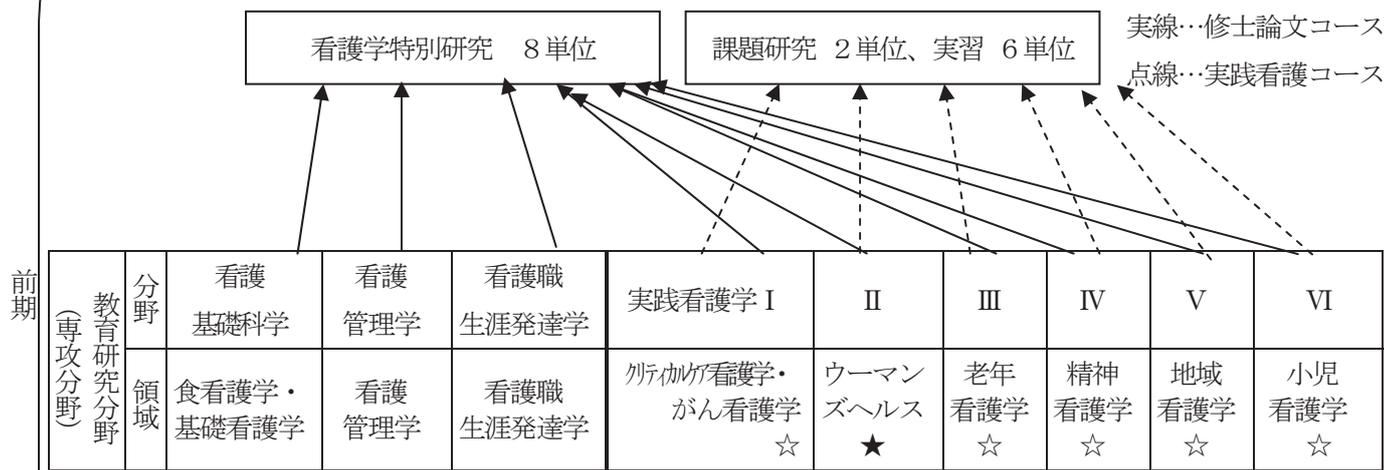
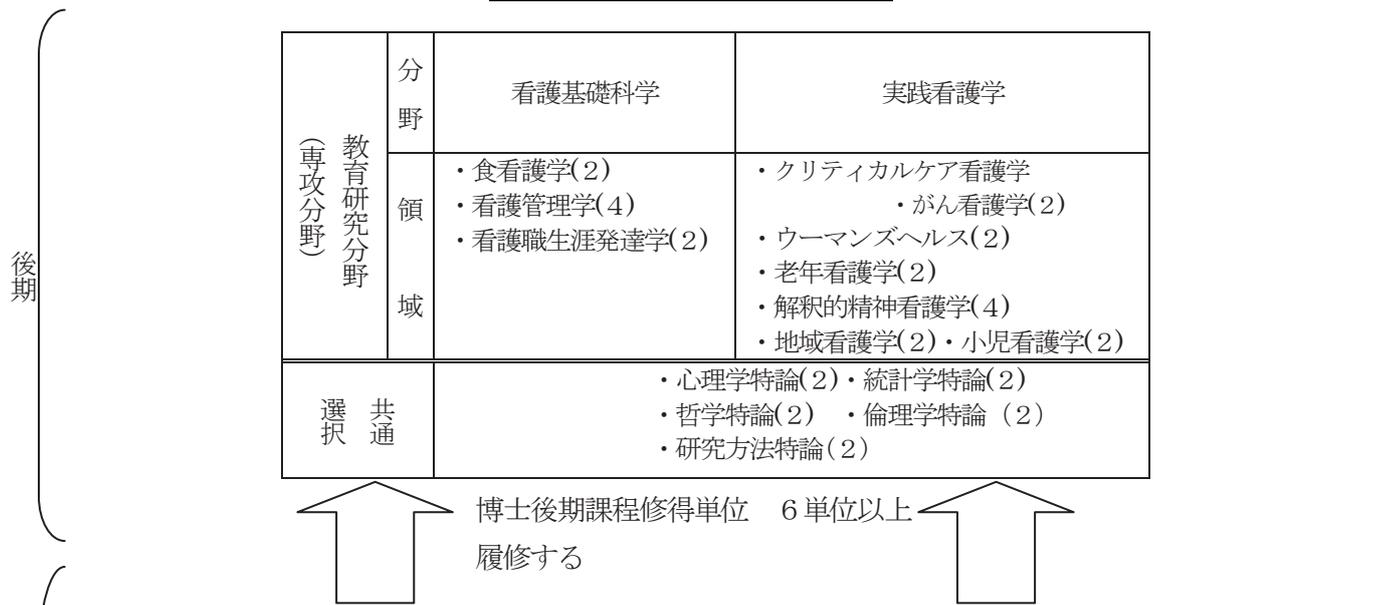
## 論文指導教員一覧

分野名	担当教員
看護基礎科学	佐藤 紀子
実践看護学	久米美代子 水野 敏子 田中美恵子 柳 修平 伊藤 景一



# 教育課程の構造（博士後期課程）

看護学研究科 看護学専攻



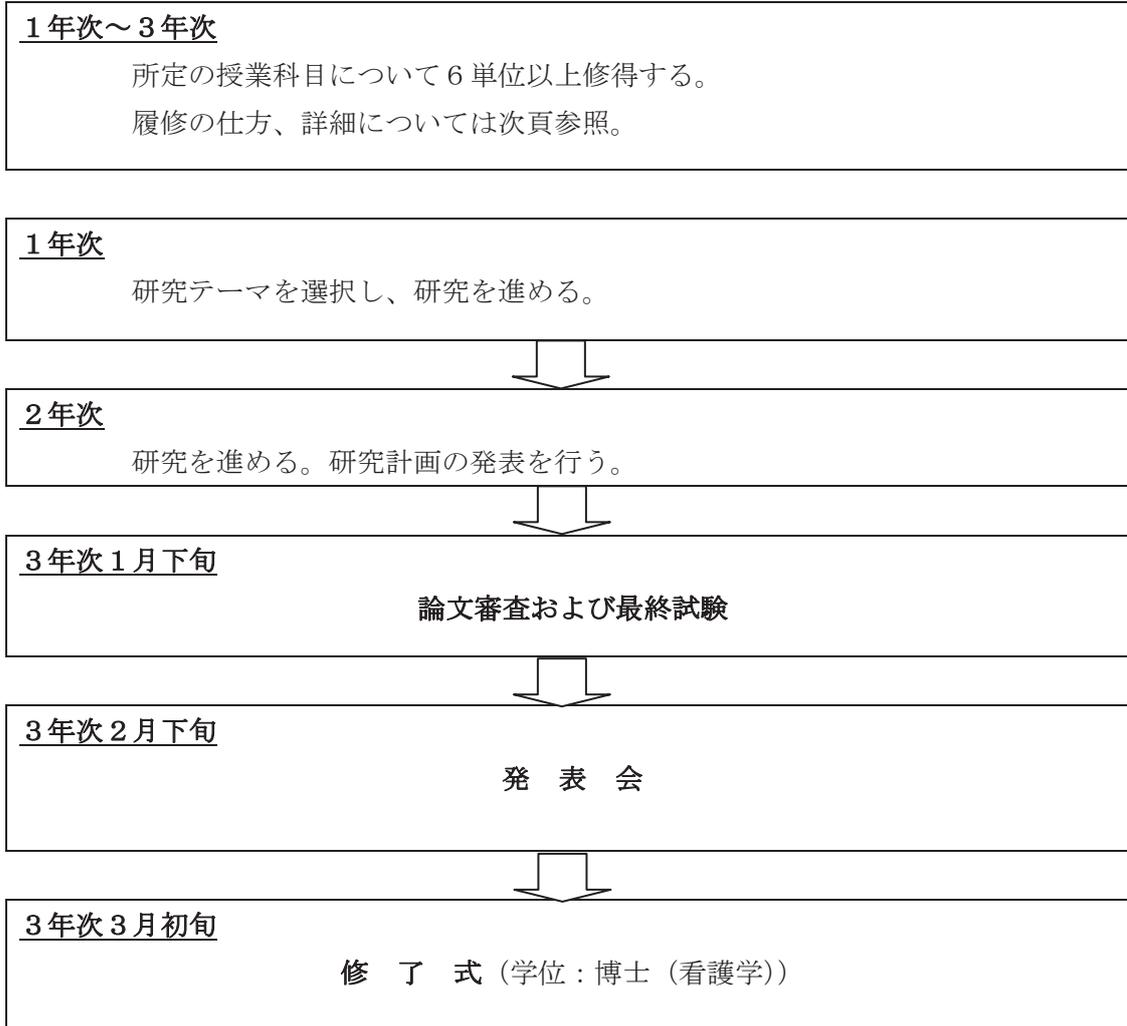
★助産師国家試験受験資格取得希望者のための選択必修科目を設置  
☆日本看護系大学協議会専門看護師教育課程（38単位）修了のための自由選択科目を設置

基盤科目	共通必修科目 (4)	看護理論 (2) 看護研究 (2)
	共通選択科目 修士論文コースは6単位以上 実践看護コースは4単位以上 (但し、4単位は*印の科目から選択する。) 実践看護学分野II (ウーマンズヘルス) 実践看護コースは6単位以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>*看護教育論(2) *看護政策論(2) *コンサルテーション論(2)</li> <li>*看護倫理(2) *看護管理論(2) 家族論(2) 社会学(2)</li> <li>人間学(2) 保健統計学(2) 臨床心理学(2)</li> <li>研究方法 (生体・生理学的研究、臨床医学的研究各2) (2)</li> <li>先端医療 (2) 国際コミュニケーション英語演習 (2)</li> </ul>
	自由選択科目 (6) ☆	病態生理学 (2) フィジカルアセスメント (2) 臨床薬理学 (2)

( ) 内の数字は単位を表す

注) 博士前期課程の詳細については、教育課程の構造 (博士前期課程) のページを参照のこと。

## 博士後期課程の流れ



### 修了の要件

- ・ 3年以上在学し、所定の授業科目について6単位以上を修得する。
- ・ 博士後期論文審査および最終試験に合格する。

## 履修について

食看護学、看護職生涯発達学、クリティカルケア看護学・がん看護学、ウーマンズヘルス、老年看護学、地域看護学、小児看護学では、共通選択科目、および専門領域科目の特論から4単位以上を選択履修し、加えて各自専攻する専門領域科目の特論を2単位履修する計6単位以上を修得する。

また看護管理学、解釈的精神看護学では、共通選択科目、および専門領域科目の特論から2単位以上を選択履修し、加えて各自専攻する専門領域科目の特論を2単位、演習を2単位とする計6単位以上を修得する。

### 修了要件

- ・3年以上在学し、授業科目について6単位以上を修得すること。
- ・学位論文の審査及び最終試験に合格すること。

大学院学則 8 条および 9 条関係「履修方法に関する内規」

1. 学生は入学後原則として、1 ヶ月以内に、研究指導教授の指導および承認を得て、学科目の選択を決定しなければならない。
2. 学生は、毎学年始め研究指導教授の指導および承認を得て、当該学年に履修しようとする学科目を定め、所定の様式により届け出なければならない。
3. 学科目の単位は、半年間 15 週を標準として、毎週時間数講義 1 時間、演習 2 時間、実習 3 時間が各々 1 単位に相当する。
4. 学科目、単位数については別表の通りとする。
5. 学生は下表に従って学科を履修しなければならない。

<博士前期課程>

《修士論文コース》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	6
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	12
看護学特別研究	8
修了最低修得単位数	計 30 単位

《実践看護コース》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	4
*但し、看護倫理、看護教育論、看護政策論、コンサルテーション論、看護管理論の中から 4 単位以上選択すること 自由選択科目 <sup>注)</sup>	(6)
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	14
*但し、うち 2 単位は、他の専攻分野でも特論に限り選択することができる。 自由選択科目 <sup>注)</sup>	(2)
実習	
選択必修科目	6
自由選択科目 <sup>注)</sup>	(4)
課題研究	2
修了最低修得単位数	計 30 単位
日本看護系大学協議会専門看護師教育課程 (38 単位) 修了のための自由選択科目	12
	計 42 単位

注) 日本看護系大学協議会専門看護師教育課程 (38 単位) 修了を希望する者は、自由選択科目を履修することとする。

《実践看護学分野Ⅱ（ウーマンズヘルス）修士論文コース 選択者》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	6
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	12
看護学特別研究	8
修了最低修得単位数	計 30 単位
助産師国家試験受験資格取得希望者のための選択必修科目	28
	計 58 単位

《実践看護学分野Ⅱ（ウーマンズヘルス）実践看護コース 選択者》

科 目	修了最低修得単位数
基盤	
共通必修科目	4
共通選択科目	6
専攻	
主分野の科目	
選択必修科目	12
実習	
選択必修科目	6
課題研究	2
修了最低修得単位数	計 30 単位
助産師国家試験受験資格取得希望者のための選択必修科目	28
	計 58 単位

<博士後期課程>

科 目	修了最低修得単位数
専攻主領域の科目	2 単位 但し、看護管理学、解釈的精神看護学は4単位とする。
共通選択科目または他の専攻領域の科目	4 単位 但し、看護管理学、解釈的精神看護学は2単位とする。
修了最低修得単位数	計 6 単位

- 1) 学科目の内容は、年度始めに発行される博士前期課程講義要項ならびに博士後期課程講義要項に示されている。各科目の内容は、看護学研究科委員会の議を経て変更することができる。
- 2) 博士前期課程の各開講区分中、共通必修科目、共通選択科目、選択必修科目、看護学課題研究および看護学特別研究を置く。
- 3) 2) のほかに、助産師国家試験受験資格取得希望者のための選択必修科目、日本看護系大学協議会専門看護師教育課程（38 単位）修了のための自由選択科目を置く。ただし、これらの科目は本研究科の履修単位として認定されるが、修了要件となる共通必修科目、共通選択科目および選択必修科目として読み替えることはできない。
- 4) 博士後期課程の各開講区分中、共通選択科目および専攻主分野の科目を置く。
- 5) 博士前期課程においては主分野以外、博士後期課程においては主領域以外の特論を選択するときには、研究指導教授の許可を得て、希望する専攻分野あるいは主領域の教授に所定の様式による依頼書を提出し、その許可を得て、当該科目の教員の指導・評価を受けるものとする。但し、実践看護学分野Ⅱ（ウーマンズヘルス）選択者は除くものとする。
- 6) 4 項に示した科目は、看護学研究科委員会の承認を得た後、定員枠内で大学院学生以外の看護師等の受講を有料で認める。料金はその都度決める。
6. 修士論文、課題研究論文および博士論文について、研究指導教授以外の大学教員から研究の指導を希望する学生は、研究指導教授の許可を得て、指導を希望する大学院教員に所定の様式の依頼書を提出し、その許可を得て指導を受けるものとする。
7. 学位論文の審査及び試験方法については、別に定める「学位規程」及び細則による。

附則 この内規は、平成 24 年 4 月 1 日より施行する。

大学院看護学研究科博士後期課程授業科目、単位数および学年配置

授業科目名			単位数	配当年次				
				1 年 次	2 年 次	3 年 次		
看護学専攻	共通選択科目	心理学特論	2	○				
		統計学特論	2	○				
		哲学特論	2	○				
		倫理学特論	2	○				
		研究方法特論	2	○				
	専門領域科目	看護基礎科学	食看護学特論	2	○	○	○	
			看護管理学	看護管理学特論	2	○	○	○
				看護管理学演習	2	○	○	○
		看護職生涯発達学特論	2	○	○	○		
		実践看護学	クリティカルケア看護学・がん看護学特論	2	○	○	○	
			ウーマンズヘルスト論	2	○	○	○	
			老年看護学特論	2	○	○	○	
			解釈的精神看護学	解釈的精神看護学特論	2	○	○	○
				解釈的精神看護学演習	2	○	○	○
			地域看護学特論	2	○	○	○	
			小児看護学特論	2	○	○	○	

[修了要件]

食看護学、看護職生涯発達学、クリティカルケア看護学・がん看護学、ウーマンズヘルス、老年看護学、地域看護学、小児看護学では、共通選択科目、および専門領域科目の特論から4単位以上を選択履修、加えて各自専攻する専門領域科目の特論を2単位とする計6単位以上を修得する。

また看護管理学、解釈的精神看護学では、共通選択科目、および専門領域科目の特論から2単位以上を選択履修、加えて各自専攻する専門領域科目の特論を2単位、演習を2単位とする計6単位以上を修得する。さらに、それぞれ学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。

大学院看護学研究科博士後期課程における授業科目及び履修例

単位数	授業科目の名称	看護基礎科学				実践看護学								
		食看護学	看護管理学	看護職 生涯発達学	クリティカルケア看護学 ・がん看護学	ウーマンズヘルス	老年看護学	解釈的 精神看護学	地域看護学	小児看護学				
2	心理学特論				○									
2	統計学特論	○	○			○	○		○					○
2	哲学特論			○			○		○					
2	倫理学特論	○												
2	研究方法特論			○	○		○							○
2	食看護学特論	○												
2	看護管理学		○											
2				○										
2	看護職生涯発達学特論			○										
2	クリティカルケア看護学 ・がん看護学特論				○									
2	ウーマンズヘルス特論								○					
2	老年看護学特論								○					
2	解釈的精神看護学											○		
2												○		
2	地域看護学特論												○	
2	小児看護学特論													○

共通選択科目

看護基礎科学

実践看護学

専門領域科目

## 講 義 要 目

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容	
共 通 選 択 科 目	心理学特論	心理学的諸理論に基づく対象（個人，家族，集団，地域など）に関する確かなアセスメント能力の体系的な学習ならびに看護実践，とくに対象の心理的側面への効果的介入（カウンセリングや心理療法を含む）に必要な高度なレベルの諸技法の習得を目指す。	
	統計学特論	看護研究を行う上で有用な統計手法について、理論的背景と具体的な活用方法、結果の解釈の仕方と注意点等について、具体的な研究例を通して学修する。 具体的講義内容：多変量解析の概要と基礎的考え方 重回帰分析・パス解析・共分散分析・ロジスティック回帰分析統計的決定理論 主成分分析と因子分析・尺度開発時に用いる統計と考え方	
	哲学特論	近代哲学および現代哲学における主要な理論や基本概念について学び、近代から現代に至る認識観、人間観の変遷について探求する。またそれをもって人間存在のあり方や他者関係の捉え方について考えを深め、看護実践、看護研究を展開するうえでの哲学的基盤を養う。	
	倫理学特論	代表的な倫理理論および基本倫理原則について学び、医療、看護における具体的な事案に関し、基本倫理原則に照らして検討する。特に、パーソン論、SOL（生命の神聖さ）とQOL（生の質）との概念的対立が、周産期医療、終末期医療、安楽死といった事項における倫理議論の推論にどのような影響を与え得るかについて検討する。	
	研究方法特論	人間の成長発達に応じた身体の変化や動作、人間の生体反応等について、基本理論や、測定・分析方法を最近の研究の動向を踏まえて探求する。	
専 門 領 域 科 目	看護基礎科学	食看護学特論	「食」がもたらす事象を追究する研究方法の開発を新たな課題とし、現代社会が抱える「食」に関するあらゆる問題に対応できるように研究を創造的に発展させることをねらいとする。食看護学が全ての人々の食を基盤とする営みのQOLの向上に積極的に貢献する事を基本とする。
		看護管理学特論	さまざまな専門領域から構成されているヘルスケアサービス提供機関において、資源活用を効率的・効果的に行なうための理論や、組織体制および組織行動に関する研究方法について探究する。
		看護管理学演習	ヘルスケアサービスの提供の結果であるアウトカム評価に関して、その方法論を批判的に分析し、また研究開発方法について探究する。
		看護職生涯発達学特論	「人間生涯発達」「キャリア開発」「組織論」「看護管理学」「専門看護師等の上級看護師の教育」「継続教育」等の学問領域で蓄積された理論を基に、看護職の生涯発達の有り様や可能性について探求する。この科目は、オムニバス方式で実施する。
実 践 看 護 学	実践看護学	クリティカルケア看護学・がん看護学特論	クリティカルケア看護学・がん看護学領域の看護理論および実践を研究的に探求し、文献レビューを通じ、多様な研究論文の特徴、特異性を理解し、具体的な研究方法を学び、独立して研究を行う能力を獲得する。
		ウーマンズヘルス特論	ウーマンズヘルスとは何か、女性の病気の原因には何があるのか、男性と異なるどのような要因が内在しているか、またはその予防は何かなどを学び、ウーマンズヘルス領域に関連する看護を研究的に探求し、生涯を通じたウーマンズヘルスを目的とした研究を自立して行える能力を養う。

授 業 科 目 名		講 義 等 の 内 容	
専 門 領 域 科 目	実 践 看 護 学	老年看護学特論	老年看護学における理論や最近の研究の動向を学び、多様な研究デザインの研究論文のクリティークを通して、クリティークの能力を養うと共に、老年看護における課題を明確にし、変化する社会情勢の中で、看護活動の質の向上に寄与しうる看護の方向性を探求し、その研究方法について学ぶ。
		解釈的精神看護学特論	看護は「生・老・病・死」という人間の体験と深く関与しつつ、人々との相互作用を通して実践されるものであり、看護現象の本質には、常に心、並びに心身関連の問題が内在している。本科目では、看護現象における心、並びに心身関連の問題を解釈的スタンスから探求する方法について学び、精神看護学領域の問題について、解釈的スタンスから自立して研究を行える基礎的能力を養うことを主眼とする。
		解釈的精神看護学演習	解釈的 <b>approach</b> に基づく質的研究データの収集方法（面接法、参加観察法）、分析／解釈の方法（ <b>narrative approach, grounded theory approach</b> ）、発表方法（論文、口頭）の基礎を習得し、精神看護学領域の研究に応用する手法を演習する。
		地域看護学特論	地域保健領域に関連する看護を研究的に探求し、個人・家族・集団のヘルスプロモーションを目的とした研究方法について学ぶ。
		小児看護学特論	小児看護学領域における多様な課題に関する理論と研究成果を基盤として、小児看護実践の質の向上に寄与しうる研究課題および方法について探求する。

## 博士後期課程学位論文作成の過程

ここでは、博士後期課程学位論文の研究計画書の申請および審査、博士後期課程学位論文の申請および最終試験等の手続きについて説明する。

### 1. 博士後期課程学位論文の研究計画書の申請および審査

#### (1) 研究計画書の申請資格

博士後期課程に1年以上在学し、6単位以上を修得した者は、博士学位論文の研究計画書の審査を看護学研究科委員会に申請することができる。

#### (2) 計画書の提出期限 (期限厳守)

原則として毎年7月、9月、11月（学事暦参照）

**注) 上記の期限を過ぎた提出についてはいかなる理由があろうとも一切受理しない。**

#### (3) 提出書類

- |                               |     |
|-------------------------------|-----|
| ① 博士後期課程学位論文研究計画書審査申請書〔様式博士1〕 | 1部  |
| ② 博士後期課程学位論文研究計画書             | 14部 |

\* 黒表紙を付け綴じたものを3部、クリップ止めしたものを11部提出する。

\* A4版、横書き、ワードプロセッサ印刷

- |                          |     |
|--------------------------|-----|
| ③ 東京女子医科大学倫理委員会審査結果通知書写し | 14部 |
|--------------------------|-----|

\* 人を対象とする研究の場合は、計画書の提出前に、東京女子医科大学研究倫理委員会の審査を受け、研究実施に対する承認を得ておくものとする。

\* 動物を対象とする場合も、上に準じて、東京女子医科大学動物実験倫理委員会の審査を受け、研究実施に対する承認を得ておくものとする。

#### (4) 提出先 看護学部学務課

#### (5) 研究計画書の審査

研究計画書を提出した者は、看護学研究科委員会の審査を受けるものとする。研究計画書の審査に合格した者は、博士後期課程学位論文のための研究に着手することができる。研究計画書の審査は、別に定める「博士後期課程学位論文研究計画書審査内規」による。

#### (6) 研究計画発表会

研究計画書の審査に合格した者は、研究計画発表会において計画を発表するものとする。

### 2. 学位（博士）の申請および審査

#### (1) 学位（博士）の申請資格

博士後期課程の第3学年に在学し、6単位以上を修得し、博士後期課程学位論文の研究計画書の審査に合格した後、研究に着手した者は、博士後期課程学位論文を提出し、看護学研究科委員会に博士（看護学）の学位を申請することができる。

(2)博士学位論文および学位申請の提出期限 (期限厳守)

原則として毎年1月下旬(学事暦参照)

注) 上記の期限を過ぎた提出についてはいかなる理由があろうとも一切受理しない。

(3)提出書類等

- |                         |     |
|-------------------------|-----|
| ① 学位(博士)申請書〔様式博士2〕      | 1部  |
| ② 博士後期課程学位論文(黒表紙を付け綴じる) | 1部  |
| ③ 博士学位論文要旨(和文および英文)     | 各1部 |
| * A4版、横書き、ワードプロセッサ印刷    |     |
| * なお、この論文要旨は印刷公表される。    |     |
| ④ 単位認定書                 | 1部  |
| ⑤ 履歴書(書式自由)             | 1部  |
| ⑥ 論文目録                  | 1部  |
| ⑦ 参考論文のある場合             | 各5部 |
| ⑧ 審査手数料                 | 5万円 |

(4)提出先

看護学部学務課

なお、学務課で受け取った後は受領証を発行する。

(5)学位審査

学位の審査および最終試験の方法、その他学位に関する必要な事項は、別に定める「学位規程」および「学位審査内規」に別に定める。

(6)博士学位論文の発表

看護学研究会委員会において、学位(博士)論文の審査および最終試験に合格した者は、博士(看護学)の学位を授与される。論文審査ならびに最終試験の合格の発表の後に、研究発表会で発表を行うものとする。

(7)博士学位論文の公表

博士の学位を授与された者は、博士の学位を授与された日から、1年以内に、その論文を印刷公表するものとする。但し、学位の授与を受ける前に、すでに印刷公表した時はこの限りではない。

3. 博士後期課程学位論文研究計画書作成要領

(1)研究計画書作成様式

- |         |                    |
|---------|--------------------|
| ① 用紙サイズ | A4判                |
| ② 書き方   | ・縦置き横書き<br>・10ポイント |

- ・幅210mm×長さ297mm
- ・行数36
- ・行送り18pt

\* 研究にかかる費用は個人負担とする

## (2)研究計画書の構成

1. 研究課題名
2. 問題の背景
3. 研究の目的
4. 本研究の意義
5. 文献検討
6. 研究の対象と方法
  - (1) 研究デザイン
  - (2) 対象
    - ① 条件
    - ② データ収集施設
  - (3) データ収集方法
    - ① データ収集開始までの手続き
      - a. データ収集施設への依頼
      - b. 対象者の選定
      - c. 対象者の決定
    - ② データ収集
      - a. 期間
      - b. データ収集方法
  - (4) データ分析方法  
(信頼性・妥当性を含む)
7. 倫理的配慮

人を対象とする研究の場合は、計画書提出前に東京女子医科大学倫理委員会の審査を受け、許可を得た資料を添付する。動物を対象とする場合は、東京女子医科大学動物実験倫理委員会の審査を受け、許可を得た資料を添付する。
8. 引用文献

## 4. 博士後期課程学位論文作成要領

### (1)論文作成様式

- ① 用紙サイズ A4 判
- ② 書き方 ・縦置き横書き

・36字 × 40行

・マージン 上 25mm 下 25mm 右 25mm 左 25mm

\*原稿は現代仮名遣いを用い、簡潔に記述する。

\*外来語はカタカナで、外国人名、日本語になっていない術語などは原則として活字体の原綴りで書く。

③ 論文形態 左綴じの片面印刷とし、指定の表紙を貼付した黒表紙をつける。

## (2)論文の構成

### ①構成概要

表紙

和文要旨(4頁:4000字程度)

英文要旨(250words程度)

目次

表目次

図目次

本文(原則として以下の内容を含むものとする。)

第1章 序論

第2章 文献の検討

第3章 研究の方法と対象

第4章 結果

第5章 考察

第6章 結論

謝辞

引用文献

付録・資料

### ②頁と見出し

i. 頁は、下中央につける。本文の最初の頁より1ページとし、引用文献の最後のページを最終ページとする。

ii. 付録・資料の頁は、下中央につける。本文と区別するために i ii iii とつける。

iii. 見出しのつけ方(原則として)

I.

1.

1)

(1)

①

### ③図、表及び写真

i. 図、表及び写真は、それぞれに図1、表1、写真1などの一連番号を付し、表題をつける。

- ii. 図、表及び写真は、本文の該当する箇所に(図1)と明示する。
- iii. 本文中に挿入する図、表及び写真を本文と別頁にする場合はページ番号をつけずに本文の該当する頁のあとにつづる。

#### ④文献の記載様式

文献の記載方法は下記に従う。

- i. 文献については、本文中に著者名、発行年次を括弧表示する。
- ii. 文献は著者名のアルファベット順に列記する。外国人名は姓名の順とする。  
但し、共著名は3名まで表記する。
- iii. 記載方法は下記の例示のごとくにする。
  - i) 雑誌掲載論文の場合・・・著者名(発行年次):論文の表題, 掲載雑誌名, 号もしくは巻(号), 最初のページ数-最後のページ数.
  - ii) 単行本の場合・・・①著者名(発行年次):書名(版数), 出版社名, 発行地  
②著者名(発行年次):論文の表題, 編者名, 書名(版数), ページ数, 出版社名, 発行年数
  - iii) 翻訳書の場合・・・原著者名(原書の発行年次)/訳者名(翻訳書の発行年次):翻訳書の書名(版数), 出版社名, 発行地.

2012 年度 東京女子医科大学大学院 看護学研究科

博士後期課程学位論文

タイトル

学籍番号

氏名

提出日 年 月 日

↑

3cm

↓

12ポイント

東京女子医科大学大学院看護学研究科

博士後期課程学位論文要旨

字体 明朝体

サイズ 10.5ポイント

一頁 24行

一行 35文字

文字数 4000字程度

11ポイント

東京女子医科大学大学院

看護学研究科看護学専攻

河田 若子

## I. はじめに

[Redacted text block]

←3.2cm→

←3.2cm→

## II. 方法

### 1. 調査対象

[Redacted text block]

### 2. 調査内容

[Redacted text block]

↑

3cm

↓

### Ⅲ. 結果

[Redacted text block]

### Ⅳ. 考察

[Redacted text block]

様式博士1

## 博士後期課程学位論文研究計画書審査申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長 殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

\_\_\_\_\_ 年 月 日 生

指導教授 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規定にもとづき、必要書類を添えて博士後期課程学位論文研究計画書の審査を申請いたします。

必要書類

研究計画書 14 部

様式博士2-1(甲)

## 学位(博士)申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長

殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

学生氏名 \_\_\_\_\_ 印

\_\_\_\_\_ 年 月 日 生

指導教授 \_\_\_\_\_ 印

本学学位規定にもとづき、必要書類を添えて学位(博士)論文の審査を申請いたします。

### 必要書類

学位(博士)申請書 [様式博士 2]	1 部
博士後期課程学位論文	1 部
学位論文の要旨(和文および英文)	各 1 部
単位認定書	1 部
履歴書(書式自由)	1 部
論文目録	1 部
参考論文のある場合	各 5 部
審査手数料	5 万円

## 看護学研究科教員一覧

### 専任教員

氏名	職名	科目名
佐藤 紀子	教授	看護職生涯発達学特論
下平 唯子	教授	クリティカルケア看護学・がん看護学特論
小川 久貴子	教授	ウーマンズヘルス特論
水野 敏子	教授	老年看護学特論
田中 美恵子	教授	解釈的精神看護学特論、解釈的精神看護学演習
柳 修平	教授	地域看護学特論
伊藤 景一	教授	地域看護学特論
日沼 千尋	教授	小児看護学特論
吉田 澄恵	准教授	看護職生涯発達学特論
金子 眞理子	准教授	クリティカルケア看護学・がん看護学特論
中田 晴美	准教授	地域看護学特論
関森 みゆき	准教授	小児看護学特論
伊東 栄子	准教授	研究方法特論
神山 暢夫	准教授	研究方法特論
小山 千加代	講師	老年看護学特論

### 兼任教員

氏名	職名	科目名
山口 直人	教授	地域看護学特論

### 非常勤講師

氏名	科目名
笠原 清志	看護職生涯発達学特論
久田 満	心理学特論
坂田 成輝	統計学特論
丹木 博一	哲学特論
森川 功	倫理学特論



博士後期課程  
講義概要

科目担当者：久田 満

講義概要：大規模災害時におけるいわゆる「心のケア」について学ぶことを目的に、下記の文献を輪読する。先の東日本大震災では初期対応の段階は終息しつつあるものの、被災地にはPTSD、喪失体験、失業、家族やコミュニティの崩壊、放射能汚染など、いまだに対応の困難な心理的問題が山積している。災害支援経験の有無は問わないが、受講者の積極的な関与を期待している。

到達目標：大規模災害時における被災者の心理が理解でき、看護実践に活かすことができる。また、今後の災害を想定して、具体的予防策が提言できる。

使用文献：ラファエル,B(石丸訳) 災害の襲うときーカタストロフィの精神医学.みすず書房.1998年.

講義のすすめ方：

初回の授業時に受講者間で分担箇所を決めて、以降はその部分を発表し全員で討論する。上記の使用文献はこちらで用意するので購入する必要はないが、あらかじめ図書館などで目を通しておいて欲しい。

参考文献：必要な参考文献は、適時紹介する。

成績評価の方法：

授業への参加態度(25%)とプレゼンテーション内容(25%)、最終レポート(50%)に基づいて総合的に評価する。

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	4/20	金	14:35~16:00	久田 満	オリエンテーションおよび分担者決め
2コマ	4/27	金	14:35~16:00	久田 満	災害の本質
3コマ	4/27	金	16:10~17:35	久田 満	災害の予期
4コマ	5/11	金	14:35~16:00	久田 満	衝撃と余波
5コマ	5/11	金	16:10~17:35	久田 満	死と生存
6コマ	5/18	金	14:35~16:00	久田 満	喪失と悲嘆
7コマ	5/18	金	16:10~17:35	久田 満	立ち退き・仮住まい・再定着
8コマ	5/25	金	14:35~16:00	久田 満	子供・老人・家族
9コマ	5/25	金	16:10~17:35	久田 満	精神衛生と適応
10コマ	6/1	金	14:35~16:00	久田 満	被害者と救援者
11コマ	6/1	金	16:10~17:35	久田 満	被災社会の精神衛生
12コマ	6/8	金	14:35~16:00	久田 満	災害と政治
13コマ	6/8	金	16:10~17:35	久田 満	レポート作成に向けてのガイダンス
14コマ	6/15	金	14:35~16:00	久田 満	まとめと討論(1)
15コマ	6/15	金	16:10~17:35	久田 満	まとめと討論(2)

\*受講生との相談の上、講義日程・教室を変更することがありますので予めご了承ください。

科目担当者：坂田 成輝

講義概要：看護研究を進めていく上で有益となるデータ解析法と統計手法について、具体的な活用例を挙げながら習得し、加えて解析結果についての解釈や論文へのまとめ方などについてもレベルをあげる。

到達目標：データ解析の意義について理解を深める。

講義のすすめ方：これまで各自が試みたデータ解析を振り返り、各自の問題点や能力レベルを確認する。その上で論文作成を念頭に、各自、データを収集し、その解析、結果の解釈を進めていきながら、研究能力の向上をめざす。

参考文献：

鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤順編著『心理学マニュアル質問紙法』北大路書房, 1998年  
古谷野亘・長田久雄著『実証研究の手引き：調査と実験の進め方・まとめ方』ワールドプランニング, 1992年

成績評価の方法：授業中の様子とレポートに基づいて評価する。

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～4コマ	4/19～	木	14:35～16:00	坂田 成輝	データ解析の基礎①～④
5～8コマ	5/24～	木	14:35～16:00	坂田 成輝	多変量解析①～④
9～12コマ	6/21～	木	14:35～16:00	坂田 成輝	データ収集の計画①～④
13～15コマ	7/19～	木	14:35～16:00	坂田 成輝	データ収集と入力①～③
16～19コマ	10/4～	木	14:35～16:00	坂田 成輝	データ解析の実践：基礎編①～④
20～23コマ	11/1～	木	14:35～16:00	坂田 成輝	データ解析の実践：応用編①～④
24～26コマ	11/29～	木	14:35～16:00	坂田 成輝	解析結果の解釈①～④
27～30コマ	12/20～	木	14:35～16:00	坂田 成輝	論文へのまとめ①～④

※日程表（すべて木曜日 14:35～16:00）

1コマ～ 4コマ	4/19	4/26	5/10	5/17
5コマ～ 8コマ	5/24	5/31	6/7	6/14
9コマ～ 12コマ	6/21	6/28	7/5	7/12
13コマ～ 15コマ	7/19	9/6	9/13	
16コマ～ 19コマ	10/4	10/11	10/18	10/25
20コマ～ 23コマ	11/1	11/8	11/15	11/22
24コマ～ 26コマ	11/29	12/6	12/13	
27コマ～ 30コマ	12/20	12/27	1/10	1/17

\*受講生との相談の上、講義日程を変更する場合がありますので予めご了承下さい。

科目担当者：丹木 博一

講義概要：病態の意味を、特に現象学的方法に基づいて哲学的に考察する。西洋近代の人間観が現代において批判されていることの意味を再確認するところから出発し、人間の身体性に関する理解を深めながら、病態の人間論的意味について哲学的に検討を加える。講義に際しては、受講者が自らの看護研究の思想的基盤を見つめ直す機会となるようにしたい。

到達目標：①西洋近代の人間観の基本を踏まえた上で、現象学が切り開いた新たな思惟の意味を理解する。②現代フランスの現象学者マルク・リシールの身体論の基本的な特徴を把握する。③現象学的方法を看護研究に活かすことができる。

講義のすすめ方：最初は講義形式をとるが、中盤はゼミ形式の文献講読の形で授業を進め、最後に授業内容を踏まえた研究発表をしてもらい互いにディスカッションを行う。テキストには以下の著作を用いる。マルク・リシール（2001）：身体—内面性についての試論—，ナカニシヤ出版

参考文献：田畑邦治・田中美恵子編，哲学——看護と人間に向かう哲学，ヌーベルヒロカワ，2003。  
基本的資料はプリントにして配布する。他の参考文献についても適宜指摘する。

成績評価の方法：授業時のレポート及び研究発表

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	4/16	月	14:35～16:00	丹木 博一	哲学的思考のリアリティーについて
2コマ	4/23	月	14:35～16:00	丹木 博一	西洋近代の人間観（デカルトとパスカル）
3コマ	5/7	月	14:35～16:00	丹木 博一	現象学の提示する人間観
4コマ	5/14	月	14:35～16:00	丹木 博一	病態についての哲学的考察（文献講読）①
5コマ	5/21	月	14:35～16:00	丹木 博一	病態についての哲学的考察（文献講読）②
6コマ	5/28	月	14:35～16:00	丹木 博一	病態についての哲学的考察（文献講読）③
7コマ	6/4	月	14:35～16:00	丹木 博一	病態についての哲学的考察（文献講読）④
8コマ	6/11	月	14:35～16:00	丹木 博一	病態についての哲学的考察（文献講読）⑤
9コマ	6/18	月	14:35～16:00	丹木 博一	病態についての哲学的考察（文献講読）⑥
10コマ	6/25	月	14:35～16:00	丹木 博一	病態についての哲学的考察（文献講読）⑦
11コマ	7/2	月	14:35～16:00	丹木 博一	病態についての哲学的考察（文献講読）⑧
12コマ	7/9	月	14:35～16:00	丹木 博一	病態についての哲学的考察（文献講読）⑨
13コマ	7/23	月	14:35～16:00	丹木 博一	病態についての哲学的考察（文献講読）⑩
14コマ	9/3	月	14:35～16:00	丹木 博一	臨床の場で出会う問題を哲学的に検討する①
15コマ	9/10	月	14:35～16:00	丹木 博一	臨床の場で出会う問題を哲学的に検討する②

科目担当者：森川 功

講義概要：代表的な倫理理論および基本倫理原則について学び、医療および看護における具体的な事案を基本倫理原則に照らして検討する。特に、SOL（生命の神聖さ）と QOL（生の質）との概念的な対立が周産期医療、終末期医療、安楽死といった事項における倫理議論の推論にどのような影響を与え得るのかについて検討する。

到達目標：倫理的ジレンマの状況において自分ならばどのように行動するのかについて、基本倫理原則を用いて考え、きちんとした推論を経て結論に至ることができるようになること。

講義のすすめ方：講義およびディスカッション。論題として何を採りあげるかについては履修者の希望に応じる。なお、SOLとQOLに関しては、履修者に前もって英語文献を読んでもらい、それについての解説をしてもらうこともあり得る。

参考文献：木村利人『自分のいのちは自分で決める』（2000年、集英社）

森川 功『生命倫理の基本原則とインフォームド・コンセント』（2002年、じほう）

成績評価の方法：講義中の質疑応答、ディスカッションにおける貢献度などを総合して評価する。

## 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	8/31	金	13:00～17:35	森川 功	倫理と道德、数々の事件、倫理理論
2コマ					基本倫理原則 (1)
3コマ					基本倫理原則 (2)
4コマ	9/7	金	13:00～17:35	森川 功	インフォームド・コンセント
5コマ					SOL（生命の神聖さ）と QOL（生の質）
6コマ					論題 (1)（解説とディスカッション）
7コマ	9/14	金	13:00～17:35	森川 功	論題 (1)（ディスカッションの続きとまとめの解説）
8コマ					論題 (2)（解説とディスカッション）
9コマ					論題 (2)（ディスカッションの続きとまとめの解説）
10コマ	9/21	金	13:00～17:35	森川 功	論題 (3)（解説とディスカッション）
11コマ					論題 (3)（ディスカッションの続きとまとめの解説）
12コマ					論題 (4)（解説とディスカッション）
13コマ	9/28	金	13:00～17:35	森川 功	論題 (4)（ディスカッションの続きとまとめの解説）
14コマ					論題 (5)（解説とディスカッション）
15コマ					論題 (5)（ディスカッションの続きとまとめの解説）

**\*上記スケジュールは受講生との相談の上、変更となることがありますので、履修者は初回講義に必ず出席してください。**

科目担当者：伊東 栄子、神山 暢夫

講義概要：学生自身が興味をもった事象から仮説を構築し、それを解明する、証明するための科学的データを得る実験方法の原理や手技を学ぶ。さらに、得られたデータを客観的に分析することによって、科学者としての研究能力を身につける。

- 到達目標：1. 研究対象の事象に対する仮説を明確に述べられる。  
 2. 文献検索により、みずからの研究に対応する必要な文献が得られる。  
 3. 科学的データを得るための実験方法の原理を明確に記述できる。  
 4. 仮説に基づいて得られると予測されるデータから、グラフや図を表記できる。  
 5. 実際に得られた実験データを客観的に分析し、結論を導くことができる。

講義のすすめ方：ゼミ形式、実験室や総合研究所における演習

参考文献：適宜紹介する。

成績評価の方法：出席ならびにレポートにより評価する。

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	7/31	火	10:35～12:00	伊東 栄子	研究方法論の概要
2コマ	8/1	水	13:00～14:25	神山 暢夫	研究対象の事象から仮説の予測1
3コマ	8/1	水	14:35～16:00	神山 暢夫	研究対象の事象から仮説の予測2
4コマ	8/2	木	10:35～12:00	神山 暢夫	文献検索1
5コマ	8/2	木	13:00～14:25	神山 暢夫	文献検索2
6コマ	8/8	水	14:35～16:00	神山 暢夫	文献に基づく仮説の構築1
7コマ	8/8	水	14:35～16:00	神山 暢夫	文献に基づく仮説の構築2
8コマ	8/16	木	10:35～12:00	神山 暢夫	文献に基づく仮説の構築3
9コマ	8/16	木	13:00～14:25	伊東 栄子	仮説に基づき予測される図の作成
10コマ	8/17	金	13:00～14:25	伊東 栄子	実験方法の原理1
11コマ	8/17	金	14:35～16:00	伊東 栄子	実験方法の原理2
12コマ	8/22	水	10:35～12:00	伊東 栄子	測定1
13コマ	8/22	水	13:00～14:25	伊東 栄子	測定2
14コマ	8/23	木	10:35～12:00	伊東 栄子	データ分析
15コマ	8/30	木	10:35～12:00	伊東 栄子 神山 暢夫	得られたデータの分析から得られた結論

**\*履修希望者は履修登録を行う前に伊東 (ito.eiko@twmu.ac.jp) までメールにて履修希望の旨連絡をしてください。**

**\*上記スケジュールは受講生との相談の上、変更となることがあります。**

科目担当者：佐藤 紀子、吉田 澄恵、笠原 清志

講義概要：「人間生涯発達」「キャリア発達」「組織論」「看護管理学」「専門看護師等の上級看護師の教育」「継続教育」等の学問領域で蓄積された理論をもとに、看護職の生涯発達の有り様やその可能性について探求する。

到達目標：1. 看護職生涯発達学の基盤となる知識を体系的に理解する。  
2. 場の特徴を理解し、状況依存型の知について組織論の視点から理解する。  
3. あらゆる場で仕事をする看護職についての理解を深め、生涯を通じた支援について論究する。

講義のすすめ方：学生の関心領域に関する理論・文献のクリティークを、学生のプレゼンテーションを軸としながら行う。

テキスト：指定せず

成績評価の方法：プレゼンテーションの内容、討論への参加状況、により評価する。

講義日程：

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2コマ	4/23	月	9:00～12:00	佐藤 紀子 吉田 澄恵	「生涯発達」に関連する著作・論文のクリティーク
3・4コマ	5/21	月	9:00～12:00	佐藤 紀子 吉田 澄恵	「生涯発達」に関連する著作・論文のクリティーク
5・6コマ	6/25	月	9:00～12:00	佐藤 紀子 吉田 澄恵	「生涯発達」に関連する著作・論文のクリティーク
7・8コマ	7/23	月	9:00～12:00	佐藤 紀子 吉田 澄恵	「身体性・熟練」に関連する著作・論文のクリティーク
9・10コマ	9/24	月	9:00～12:00	佐藤 紀子 吉田 澄恵	「身体性・熟練」に関連する著作・論文のクリティーク
11・12コマ	10/22	月	9:00～12:00	笠原 清志	「組織と個人」に関連する著作・論文のクリティーク
13・14コマ	11/26	月	9:00～12:00	笠原 清志	「組織と個人」に関連する著作・論文のクリティーク
15コマ	12/17	月	9:00～10:25	笠原 清志	「組織と個人」に関連する著作・論文のクリティーク

\*学生と相談の上、決定する。

科目担当者：下平 唯子、金子 眞理子

講義概要：クリティカルケア看護学・がん看護学領域の看護理論および実践を研究的に探究し、文献レビューを通し、多様な研究論文の特徴、特異性を理解し、具体的な研究方法を学び、独立して研究を行う能力を獲得する。

到達目標：1. 症状を含めた病いの体験とその意味を現象学的に理解し、説明することができる。  
2. 概念分析の重要性や必要性を理解し、演習を通して自らの研究に適用させることができる。  
3. クリティカルケア・がん看護学領域の研究の動向を分析し、自らの研究の位置づけを明らかにし、研究テーマを考究することができる。

講義のすすめ方：学生は文献のレビューを行い、それを提示して、教員とグループワークを重ねる。

参考文献：アーサー・クラインマン：病いの語り、慢性の病をめぐる臨床人類学、誠信書房、1996  
黒江ゆり子訳：慢性疾患の病みの軌跡、医学書院、  
ベナー／ルーベル（難波卓志訳）：現象学的人間論と看護、医学書院、1999  
Lorraine Walker & Kay Avant : Strategies for theory construction in Nursing, 2005  
Beth Rodgers & Kathleen Knafel : Concept development in Nursing, 2000  
Walker & Avant (中木高夫他訳)：看護における理論構築の方法、医学書院、2008

成績評価の方法：学習への参加度、プレゼンテーションおよびレポートを評価する。

## 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ		水		下平 唯子	オリエンテーション
2・3コマ		水		下平 唯子	症状・病いとは、症状・病いの体験とその意味
4・5コマ		水		下平 唯子	症状・病いとは、症状・病いの体験とその意味
6・7コマ		水		下平 唯子 金子眞理子	クリティカルケア看護学・がん看護学に関する概念の分析
8・9コマ		水		下平 唯子 金子眞理子	クリティカルケア看護学・がん看護学に関する概念の分析
10・11コマ		水		下平 唯子 金子眞理子	クリティカルケア看護学・がん看護学に関する概念の分析
12・13コマ		水		下平 唯子 金子眞理子	クリティカルケア看護学・がん看護学研究の動向
14・15コマ		水		下平 唯子 金子眞理子	クリティカルケア看護学・がん看護学研究の動向

\*講義日程については、学生と相談のうえ決定する。

科目担当者：小川 久貴子

講義概要：ウーマンズヘルスにおける理論や国内外の研究動向を学び、多様な研究方法を理解し生涯を通じた女性の健康に貢献できることを目的とした研究方法を開発することを学ぶ

到達目標：

1. 意思決定のモデルを説明できる。
2. 女性のための意思決定援助を説明できる。
3. ウーマンズヘルス関連の理論と研究を学ぶ。
4. ウーマンズヘルスと援助理論をまなぶ。

講義のすすめ方：講義ならびにプレゼンテーション等にて行う。

参考文献：久米美代子、飯島治之編「ウーマンズヘルス」、医歯薬出版、2007

モーリーン・D・レイノー他、堀内成子監修、「助産師の意思決定」、エルゼビア・ジャパン、2006.

成績評価の方法：クラス発表と課題レポート

講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	5/11	金	13:00～14:25	小川久貴子	オリエンテーション
2コマ	5/18	金	10:35～12:00	小川久貴子	意思決定のモデル
3コマ	5/25	金	10:35～12:00	小川久貴子	意思決定のモデル
4コマ	6/ 8	金	10:35～12:00	小川久貴子	女性のための意思決定援助
5コマ	6/15	金	13:00～14:25	小川久貴子	女性のための意思決定援助
6コマ	6/22	金	13:00～14:25	小川久貴子	女性のための意思決定援助
7コマ	6/29	金	13:00～14:25	小川久貴子	ウーマンズヘルス関連の理論と研究
8コマ	9/ 7	金	13:00～14:25	小川久貴子	ウーマンズヘルス関連の理論と研究
9コマ	9/14	金	13:00～14:25	小川久貴子	ウーマンズヘルス関連の理論と研究
10コマ	9/21	金	13:00～14:25	小川久貴子	ウーマンズヘルス関連の理論と研究
11コマ	10/ 5	金	13:00～14:25	小川久貴子	ウーマンズヘルス関連の理論と研究
12コマ	10/12	金	13:00～14:25	小川久貴子	ウーマンズヘルスと援助理論
13コマ	10/19	金	13:00～14:25	小川久貴子	ウーマンズヘルスと援助理論
14コマ	10/26	金	13:00～14:25	小川久貴子	ウーマンズヘルスと援助理論
15コマ	11/ 2	金	13:00～14:25	小川久貴子	まとめ

科目担当者：水野 敏子、小山 千加代

講義概要：老年看護学における理論や最近の研究動向を学び、多様な研究デザインの研究論文のクリティークを通して、研究の能力を養うと共に、老年看護における課題を明確にし、変化する社会情勢の中で、看護活動の質の向上に寄与しうる看護を探求する。

- 到達目標：1. 老年看護学に関連する概念、理論を説明できる。  
 2. 老年看護における課題を明確にすることができる。  
 3. 老年看護学における研究の動向について述べるができる。  
 4. 先行研究の内容、研究デザイン、研究方法、結果等から論文のクリティークができる。

講義のすすめ方：院生のプレゼンテーション、ほか講義等

参考文献：適時紹介

成績評価の方法：レポートならびにプレゼンテーションによって評価

## 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	4/19	木	9:00～10:25	水野 敏子	オリエンテーション 老年看護学に関連する概念、理論、モデル等を理解し、老年看護における課題とその解決方法を探求する。
2・3コマ	4/26	木	9:00～12:00		
4・5コマ	5/10	木			
6・7コマ	5/17	木			
8・9コマ	5/24	木			
10・11コマ	5/31	木	9:00～12:00	小山千加代	老年看護学研究の探求 <ul style="list-style-type: none"> <li>・老年看護学に関連した研究概念について理解し、看護実践に寄与しうる研究について探求する。</li> <li>・英論文を批判的に探求し、質の高い論文の要件を理解する。</li> <li>・研究の方法論について理解を深める。</li> </ul>
12・13コマ	6/7	木	9:00～12:00	水野 敏子	
14・15コマ	6/14	木			

\* 上記講義日程については受講生と相談の上、決定する。

科目担当者：田中 美恵子

講義概要：本科目では、看護現象における諸課題を解釈的スタンスから探求する方法について学び、精神看護学領域の問題について、解釈的スタンスから自立して研究を行える能力を養うことを主眼とする。方法としては、ナラティブ・アプローチ（解釈学的方法、ライフストーリー法）、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、エスノグラフィーを扱う。

到達目標：1. 精神看護学領域の問題について、解釈的スタンスから自立して研究を行える能力を養う。  
2. 解釈的アプローチに基づく質的研究の方法論の哲学的基盤および理論について理解する。

講義のすすめ方：学生による発表と討議を中心に進める。内容によって講義形式をとる。

教科書：特に指定せず。

参考文献：中野卓他：ライフストーリーの社会学、弘文堂、1995。

ヒューバート・L. ドレイファス：世界内存在－『存在と時間』における日常性の解釈学、産業図書、2000。

アーサー・クラインマン、江口重幸他訳：病いの語り、誠信書房、1996。

アーサー・W・フランク：傷ついた物語の語り手－身体、病い、倫理、ゆみる出版、2002。

Riessman, C. K.: Narrative Analysis, A Sage University Paper, 1993.

Spradley, J.P., 田中美恵子・麻原きよみ監訳：参加観察法入門、医学書院、2010。

Patricia Benner: Interpretive Phenomenology Embodiment, Caring, and Ethics in Health and Illness, Sage Publications, 1994. (相良ローゼマイヤーみはる監訳、田中美恵子、丹木博一訳：ベナー解釈的現象学－健康と病気における身体性・ケアリング・倫理、医歯薬出版、2006.)

成績評価の方法：発表の準備度・内容、討議への参加度、レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1・2コマ	5/8	火	13:00～16:00	田中美恵子	解釈学的アプローチ①
3・4コマ	5/15	火	13:00～16:00	田中美恵子	解釈学的アプローチ②
5・6コマ	5/22	火	13:00～16:00	田中美恵子	解釈学的アプローチ③
7・8コマ	5/29	火	13:00～16:00	田中美恵子	解釈学的アプローチ④
9・10コマ	6/5	火	13:00～16:00	田中美恵子	解釈学的アプローチ⑤
11・12コマ	6/12	火	13:00～16:00	田中美恵子	解釈学的アプローチ⑥
13・14コマ	6/19	火	13:00～16:00	田中美恵子	解釈学的アプローチ⑦
15コマ	6/26	火	13:00～16:00	田中美恵子	解釈学的アプローチ⑧

科目担当者：田中 美恵子

講義概要：解釈的アプローチに基づく質的研究のデータ収集方法、分析／解釈の方法の基礎を習得し、精神看護学領域の研究に応用する手法を演習する。

方法としては、ナラティブ・アプローチ(解釈学的方法、ライフストーリー法)、グランデッド・セオリー・アプローチ、エスノグラフィを扱う。

到達目標：1.各自の研究テーマを煮詰め、方法論的吟味を行い、解釈的アプローチに基づく質的研究のデータ収集方法、分析／解釈の方法の中から1つを選択し、その方法の基礎を習得する。  
2.選択した方法を用いて精神看護学領域の研究を行うための技術をデータ分析演習を通して獲得する。

講義のすすめ方：学生による発表と討議を中心に進める。内容によって講義形式をとる。

教科書 特に指定せず

参考文献：Riessman, C. K.: Narrative Analysis, A Sage University Paper, 1993.

Spradley, J.P., 田中美恵子・麻原きよみ監訳：参加観察法入門、医学書院、2010.

Patricia Benner: Interpretive Phenomenology Embodiment, Caring, and Ethics in Health and Illness, Sage Publications, 1994. (相良ローゼマイヤーみはる監訳、田中美恵子、丹木博一訳：ベナー解釈的現象学－健康と病気における身体性・ケアリング・倫理、医歯薬出版、2006.)

箕浦康子:フィールドワークの技法と実際、ミネルヴァ書房、1999.

成績評価の方法：発表の準備度・内容、討議への参加度、レポート

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1～3コマ	10/2	火	13:00～17:35	田中美恵子	解釈学的方法①
4～6コマ	10/9	火	13:00～17:35	田中美恵子	解釈学的方法②
7～9コマ	10/16	火	13:00～17:35	田中美恵子	解釈学的方法③
10～12コマ	10/23	火	13:00～17:35	田中美恵子	解釈学的方法④
13～15コマ	10/30	火	13:00～17:35	田中美恵子	解釈学的方法⑤
16～18コマ	11/6	火	13:00～17:35	田中美恵子	解釈学的方法⑥
19～21コマ	11/13	火	13:00～17:35	田中美恵子	解釈学的方法⑦
22～24コマ	11/20	火	13:00～17:35	田中美恵子	解釈学的方法⑧
25～27コマ	11/27	火	13:00～17:35	田中美恵子	解釈学的方法⑨
28～30コマ	12/4	火	13:00～17:35	田中美恵子	解釈学的方法⑩

科目担当者：柳 修平、伊藤 景一、中田 晴美、山口 直人

講義概要：地域保健領域における看護活動を社会的条件とともに考察し、個人と家族・集団のヘルスプロモーションおよび多様な集団から構成されるコミュニティ全体をケアすることを目的とした研究方法を開発する能力を養う。

到達目標：1.看護対象別に各レベルのヘルスプロモーションの展開方式を比較し説明することができる。  
2.ヘルスプロモーション活動の評価方式を挙げるができる。  
3.地域ケアシステムの課題を提案することができる。

講義のすすめ方：講義および国内外の文献の講読を通し、地域保健領域においてヘルスプロモーションに資する看護研究の最近の動向を明らかにし、その成果をプレゼンテーションする。

参考文献：講義ごとに必要とするものを提示する。

成績評価の方法：出席・参加態度・課題発表を総合的に評価する。

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	4/24	火	9:00～10:25	柳 修平	オリエンテーション
2コマ	5/8	火	9:00～10:25	柳 修平	ヘルスケアニーズと地域看護活動
3コマ	5/15	火	9:00～10:25	柳 修平	地域看護活動の展開方式
4・5コマ	6/5	火	9:00～12:00	柳 修平	地域看護活動の評価方式
6・7コマ	6/12	火	9:00～12:00	中田 晴美	地域保健領域のヘルスプロモーションに関する看護理論と社会的成立条件
8・9コマ	6/26	火	9:00～12:00	伊藤 景一	個人・家族・集団の継続的ヘルスプロモーションに資する研究方法
10・11コマ	7/10	火	9:00～12:00	山口 直人	疫学的エビデンスに関する最近の知見と地域看護領域への示唆
12・13コマ	9/11	火	9:00～12:00	柳 修平	ヘルスプロモーション研究の最近の動向（文献レビューおよびプレゼンテーション）
14コマ	9/18	火	10:35～12:00	伊藤 景一	地域ケアシステムにおける課題、指標、評価法の動向と活用に向けた討議
15コマ	9/25	火	10:35～12:00	柳 修平 伊藤 景一	まとめ

科目担当者：日沼 千尋、関森 みゆき

講義概要：小児看護と小児保健領域における多様な課題に関する理論と研究成果を基盤として、小児看護の質の向上に寄与する研究課題および方法について探求する。

到達目標：1.文献の検討から小児看護、小児保健領域に関する研究課題を明確にすることができる。  
2.研究課題に応じた研究方法に関して検討し、その詳細について述べることができる。

講義のすすめ方：学生の発表と討議を中心として、内容により講義形式とする。

参考文献：随時紹介する

成績評価の方法：学生のレポートとプレゼンテーションの内容により評価する。

#### 講義日程

コマ数	月/日	曜日	時間	担当者	講義概要
1コマ	5/10	木	13:00～14:25	日沼 千尋 関森みゆき	オリエンテーション
2コマ	5/31	木	13:00～14:25	日沼 千尋	小児看護学の概念に関する研究
3コマ	5/31	木	14:35～16:00	日沼 千尋	
4コマ	6/7	木	13:00～14:25	関森みゆき	小児看護研究の方法と課題
5コマ	6/7	木	14:35～16:00	関森みゆき	
6コマ	6/21	木	13:00～14:25	関森みゆき	小児保健に関する研究
7コマ	6/21	木	14:35～16:00	関森みゆき	
8コマ	7/12	木	13:00～14:25	日沼 千尋	小児看護を取り巻く環境に関する研究
9コマ	7/12	木	14:35～16:00	日沼 千尋	
10コマ	7/26	木	13:00～14:25	関森みゆき	親子関係の発達に関する研究
11コマ	7/26	木	14:35～16:00	関森みゆき	
12コマ	9/6	木	13:00～14:25	日沼 千尋	小児看護実践に関する研究1
13コマ	9/6	木	14:35～16:00	日沼 千尋	
14コマ	9/20	木	13:00～14:25	日沼 千尋	小児看護実践に関する研究2
15コマ	9/20	木	14:35～16:00	日沼 千尋	

科目名 論文指導

論文指導教員：佐藤 紀子

講義概要：博士後期課程で学んだ成果をもとに、自己の専門領域における研究課題について指導教員と論議を行い、研究計画書を作成する。さらに、倫理的配慮を十分に吟味し、エビデンスに基づいた研究方法および研究結果を踏まえて、博士論文を完成し、成果を発表する一連の研究プロセスを修得する。

到達目標：研究テーマの背景を述べることができる  
研究目的に適した研究方法を説明することができる  
研究上で配慮すべき倫理的課題を説明することができる  
研究対象および対象者に対応した倫理的配慮の手順を記述することができる  
研究実施計画書を定められた形式で記述することができる  
指導教員の助言を得ながら研究活動を実施し、その過程を説明することができる  
学位論文を作成することができる  
学位論文の成果をプレゼンテーションすることができる

講義のすすめ方：受講生は研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究テーマに適した研究方法を選択し、研究の枠組みおよび概念枠組みを明確にする。配慮すべき倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成する。研究計画書にそって具体的に調査・実験等の研究活動を設定し、得られた成果を討論し、新しい知見を抽出でき、学術的な論文構成に従って学位論文を作成できる。また、研究成果を的確に分かりやすく決められた時間内でプレゼンテーションすることができる。

参考文献：研究分野ごとに別途提示する。

指導日程

論文指導は、通年 30 コマとする。

実施曜日：毎週木曜日

時間帯：4 限（14:35～16:00）

科目名 論文指導

論文指導教員：久米 美代子

講義概要：博士後期課程で学んだ成果をもとに、自己の専門領域における研究課題について指導教員と論議を行い、研究計画書を作成する。さらに、倫理的配慮を十分に吟味し、エビデンスに基づいた研究方法および研究結果を踏まえて、博士論文を完成し、成果を発表する一連の研究プロセスを修得する。

到達目標：研究テーマの背景を述べることができる

研究目的に適した研究方法を説明することができる

研究上で配慮すべき倫理的課題を説明することができる

研究対象および対象者に対応した倫理的配慮の手順を記述することができる

研究実施計画書を定められた形式で記述することができる

指導教員の助言を得ながら研究活動を実施し、その過程を説明することができる

学位論文を作成することができる

学位論文の成果をプレゼンテーションすることができる

講義のすすめ方：受講生は研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究テーマに適した研究方法を選択し、研究の枠組みおよび概念枠組みを明確にする。配慮すべき倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成する。研究計画書にそって具体的に調査・実験等の研究活動を設定し、得られた成果を討論し、新しい知見を抽出でき、学術的な論文構成に従って学位論文を作成できる。また、研究成果を的確に分かりやすく決められた時間内でプレゼンテーションすることができる。

参考文献：研究分野ごとに別途提示する。

指導日程

論文指導は、通年30コマとする。(前期15コマ・後期15コマ)

実施曜日：隔週月曜日

時間帯：4限(14:35～16:00)または5限(16:10～17:35)

科目名 論文指導

論文指導教員：水野 敏子

講義概要：博士後期課程で学んだ成果をもとに、自己の専門領域における研究課題について指導教員と論議を行い、研究計画書を作成する。さらに、倫理的配慮を十分に吟味し、エビデンスに基づいた研究方法および研究結果を踏まえて、博士論文を完成し、成果を発表する一連の研究プロセスを修得する。

到達目標：研究テーマの背景を述べることができる  
研究目的に適した研究方法を説明することができる  
研究上で配慮すべき倫理的課題を説明することができる  
研究対象および対象者に対応した倫理的配慮の手順を記述することができる  
研究実施計画書を定められた形式で記述することができる  
指導教員の助言を得ながら研究活動を実施し、その過程を説明することができる  
学位論文を作成することができる  
学位論文の成果をプレゼンテーションすることができる

講義のすすめ方：受講生は研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究テーマに適した研究方法を選択し、研究の枠組みおよび概念枠組みを明確にする。配慮すべき倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成できる。研究計画書にそって具体的に調査・実験等の研究活動を設定し、得られた成果を討論し、新しい知見を抽出でき、学術的な論文構成に従って学位論文を作成できる。また、研究成果を的確に分かりやすく決められた時間内でプレゼンテーションすることができる。

参考文献：研究分野ごとに、別途提示する。

指導日程

論文指導は、通年 30 コマとする。

平成 24 年 4 月 12 日より平成 25 年 1 月 28 日までの間（ただし 8/2～8/23、1/3 は除く）

毎週火曜日 14：35～16：00 16：10～17：35 の 4・5 限 2 コマ

毎月第 3 土曜日 9：00～12：00 の 1・2 限 2 コマ

以上を原則とするが、内容によって調整する

科目名 論文指導

論文指導教員：田中 美恵子

講義概要：博士後期課程で学んだ成果をもとに、自己の専門領域における研究課題について指導教員と論議を行い、研究計画書を作成する。さらに、倫理的配慮を十分に吟味し、エビデンスに基づいた研究方法および研究結果を踏まえて、博士論文を完成し、成果を発表する一連の研究プロセスを修得する。

到達目標：研究テーマの背景を述べることができる

研究目的に適した研究方法を説明することができる

研究上で配慮すべき倫理的課題を説明することができる

研究対象および対象者に対応した倫理的配慮の手順を記述することができる

研究実施計画書を定められた形式で記述することができる

指導教員の助言を得ながら研究活動を実施し、その過程を説明することができる

学位論文を作成することができる

学位論文の成果をプレゼンテーションすることができる

講義のすすめ方：受講生は研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究テーマに適した研究方法を選択し、研究の枠組みおよび概念枠組みを明確にする。配慮すべき倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成する。研究計画書にそって具体的に調査・実験等の研究活動を設定し、得られた成果を討論し、新しい知見を抽出し、学術的な論文構成に従って学位論文を作成する。また、研究成果を的確に分かりやすく決められた時間内でプレゼンテーションする。

参考文献：研究分野ごとに、別途提示する。

指導日程

論文指導は、通年 30 コマとする。

実施曜日：毎週月曜日

時間帯：5 限（16:10～17:35）

科目名 論文指導

論文指導教員：柳 修平

講義概要：博士後期課程で学んだ成果をもとに、自己の専門領域における研究課題について指導教員と論議を行い、研究計画書を作成する。さらに、倫理的配慮を十分に吟味し、エビデンスに基づいた研究方法および研究結果を踏まえて、博士論文を完成し、成果を発表する一連の研究プロセスを修得する。

到達目標：研究テーマの背景を述べることができる。

研究目的に適した研究方法を説明することができる。

研究上で配慮すべき倫理的課題を説明することができる。

研究対象および対象者に対応した倫理的配慮の手順を記述することができる。

研究実施計画書を定められた形式で記述することができる。

指導教員の助言を得ながら研究活動を実施し、その過程を説明することができる。

学位論文を作成することができる。

学位論文の成果をプレゼンテーションすることができる。

講義のすすめ方：受講生は研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究テーマに適した研究方法を選択し、研究の枠組みおよび概念枠組みを明確にする。配慮すべき倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成できる。研究計画書にそって具体的に調査・実験等の研究活動を設定し、得られた成果を討論し、新しい知見を抽出でき、学術的な論文構成に従って学位論文を作成できる。また、研究成果を的確に分かりやすく決められた時間内でプレゼンテーションすることができる。

参考文献：研究分野ごとに、別途提示する。

指導日程

論文指導は、通年 30 コマとする。

【前期】

2012年4月11日から2012年7月15日の期間中、15週の月曜日、16:10～17:35(1コマ)とする。

【後期】

2012年10月3日から2013年1月27日の期間中、15週の月曜日、16:10～17:35(1コマ)とする。

科目名 論文指導

論文指導教員：伊藤 景一

講義概要：博士後期課程で学んだ成果をもとに、自己の専門領域における研究課題について指導教員と論議を行い、研究計画書を作成する。さらに、倫理的配慮を十分に吟味し、エビデンスに基づいた研究方法および研究結果を踏まえて、博士論文を完成し、成果を発表する一連の研究プロセスを修得する。

到達目標：研究テーマの背景を述べることができる。

研究目的に適した研究方法を説明することができる。

研究上で配慮すべき倫理的課題を説明することができる。

研究対象および対象者に対応した倫理的配慮の手順を記述することができる。

研究実施計画書を定められた形式で記述することができる。

指導教員の助言を得ながら研究活動を実施し、その過程を説明することができる。

学位論文を作成することができる。

学位論文の成果をプレゼンテーションすることができる。

講義のすすめ方：受講生は研究テーマに関する文献レビュー等から研究課題を位置づけ、研究テーマに適した研究方法を選択し、研究の枠組みおよび概念枠組みを明確にする。配慮すべき倫理的課題を明確にし、定められた形式で研究計画書を作成できる。研究計画書にそって具体的に調査・実験等の研究活動を設定し、得られた成果を討論し、新しい知見を抽出でき、学術的な論文構成に従って学位論文を作成できる。また、研究成果を的確に分かりやすく決められた時間内でプレゼンテーションすることができる。

参考文献：研究分野ごとに、別途提示する。

指導日程

論文指導は、通年 30 コマとする。

【前期】

2012 年 4 月 11 日から 2012 年 7 月 15 日の期間中、15 週の月曜日、16:10~17:35(1 コマ)とする。

【後期】

2012 年 10 月 3 日から 2013 年 1 月 27 日の期間中、15 週の月曜日、16:00~17:35(1 コマ)とする。



満期退学後2ヶ年以内の者による  
学位申請（甲）  
論文提出による学位申請（乙）

**平成24年度 満期退学後2ヶ年以内の者による学位申請(甲)  
・論文提出による学位申請(乙) 学事暦**

	事項	日程
前 期	学位論文申請のための語学試験（乙申請者のみ）	5月 12日(土)
	学位申請書提出日(1回目)	6月 29日(金) 13時まで
	資格審査と論文の受理ならびに審査委員会の構成委員の決定	7月 6日(金)
	審査委員会による論文審査と最終試験日	～8月 31日(金)までに実施する。
	学位論文主査による最終試験結果提出日	9月 3日(月)
	研究科委員会による学位授与の可否決定	9月 7日(金)
	学生への学位授与の可否通知	9月 10日(月)
	学位記授与	10月発行予定
	発表会(博士学位論文の発表会と同様)	3月 21日(木)
後 期	学位申請書提出日(2回目)	1月 28日(月) 13時まで
	資格審査と論文の受理ならびに審査委員会の構成委員の決定	2月 1日(金)
	審査委員会による論文審査と最終試験日	2月 12日(火)～16日(土)の期間中に実施する。
	学位論文主査による最終試験結果提出日	2月 25日(月)
	研究科委員会による学位授与の可否決定	3月 1日(金)
	学生への学位授与の可否通知	3月 4日(月)
	学位記授与	3月発行予定
	発表会(博士学位論文の発表会と同様)	3月 21日(木)

## 論文提出による学位申請について

ここでは、論文提出による学位申請について説明する。

### 1. 学位申請の資格

論文提出により、博士（看護学）の学位を申請することのできる者は、次のいずれかに該当するものとする。

(1)看護学研究科博士後期課程に3年以上在学し、所定の単位を修得して退学した者。

(2)語学試験に合格し、看護学において5年以上の研究歴のある者。

語学試験の期日及び試験方法については、別に定める「学位論文提出のための語学試験内規」による。

(注) 前項の研究歴と年数は次に該当するものをいう。

#### 1-1 研究歴

(1)大学の専任職員として研究に従事した期間

(2)大学院（博士前期課程及び博士後期課程）を中途退学した者の場合は大学院（博士前期課程及び博士後期課程）に在学した期間

(3)権威ある研究施設において専任職員として研究に従事した期間。なお、権威ある研究施設とは次のものとする。

①国公立の看護系大学及びその付置研究施設

②看護学に関係ある国公立の研究所、研究施設等の研究機関

③財団法人若しくは社団法人組織による看護学に関係のある研究所

④その他看護学研究科委員会において前各号に準ずると認めた施設

(4)大学が、前記各号と同等以上と認める方法により研究に従事した期間

#### 1-2 研究歴年数

(1)前項の研究歴年数は、看護学の課程を修了した者に適用され、外国において看護学の課程を修了した者にも同様に適用されるが、この場合は、看護学研究科委員会の審議を経なければならない。

なお、看護学の課程を修了しない者が提出する場合は下記の年数とする。

①大学院博士前期課程（修士課程）修了者は6年以上

②大学卒業者は8年以上

③短期大学及び専門学校卒業者は10年以上

④大学、短期大学及び専門学校未修了者は12年以上

#### 1-3 外国人の学位申請の資格要件

(1)申請者が所属している、またはしていた研究施設が、注の1-1の(3)に該当するかどうかを看護学研究科委員会が判断できる資料（研究施設の規模、研究活動等の概要を示したもの等）を提出すること

(2)本学の研究生として1年以上在籍すること

## 2. 論文の提出

提出する論文（学位申請論文）は印刷公表されたものを原則とする。また申請者単独の著作であることを原則とする。ただし、共著の場合、提出者は第一著者とし、共著者数は、原則として提出者を含め 5 名以内とする。共著者は次の事項を記した同意書を提出するものとする。

- (1) 提出者がその研究で主な役割をつとめていること
- (2) 提出者がその論文で学位を申請することに異議がないこと
- (3) 提出者以外がその論文で学位を申請することはないこと

本学以外で研究に従事した者は参考論文（印刷公表されたもの）を 3 編以上併せて提出するものとする。

## 3. 提出書類

- |   |                       |
|---|-----------------------|
| (1) 論文博士学位申請書   | 1 部                   |
| (2) 履歴書   | 14 部                  |
| (3) 卒業証明書   | 1 部                   |
| (4) 大学院単位修得者はその証明書  | 1 部                   |
| (5) 研究歴証明書  | 1 部                   |
| (6) 論文目録  | 14 部                  |
| (7) 学位申請論文  | 14 部                  |
| (8) 学位申請論文和文要旨(1200 字以内)・英文要旨(250words 程度)  | 各 14 部                |
| (9) 参考論文（印刷公表されたもの）がある場合  | 各 14 部（最高 10 編まで・写し可） |
| (10) 学外提出の場合、本学看護学研究科教授の紹介状   | 1 部                   |
| (11) 語学試験合格証明書（但し、1. 学位申請の資格の（2）に該当する場合）  |                       |
| (12) 審査手数料 [学内提出者は 15 万円、学外提出者は 30 万円とする。本学に在籍した者で辞職（教職員）、研修修了（医療練士、研修生）又は退室（研究生）後 2 年以内に提出する場合は学内提出扱いとする。] |                       |

## 4. 提出期限（期限厳守）

原則として毎年 6 月末日、1 月下旬（学事歴による）

**注）上記の期限を過ぎた提出についてはいかなる理由があろうとも一切受理しない。**

## 5. 資格審査と論文の受理

論文提出により博士（看護学）の学位の申請があった場合には、看護学研究科委員会において、提出書類（履歴・研究歴・学位申請論文要旨等）により資格審査を行う。資格審査の方法については、「学位審査内規」に別に定める。

## 6. 提出先

看護学部学務課

## 7. 学位審査

学位審査および最終試験の方法、その他学位に必要な事項は、「学位規程」および「学位審査内規」に別に定める。

## 8. 博士学位論文の発表

看護学研究科委員会において、学位（博士）論文の審査および最終試験に合格した者は、博士（看護学）の学位を授与される。論文審査ならびに最終試験の合格の後に、研究発表会で発表を行うものとする。

様式博士2-2(乙)

## 論文博士学位申請書

年 月 日

東京女子医科大学大学院  
看護学研究科長 殿

氏名 \_\_\_\_\_ 印  
\_\_\_\_\_ 年 月 日 生

本学学位規定にもとづき、必要書類を添えて論文博士学位論文の審査を申請いたします。

### 必要書類

論文博士学位申請書[様式 2-2]	1 部
履歴書	14 部
卒業証明書	1 部
大学院単位修得者はその証明書	1 部
研究歴証明書	1 部
論文目録	14 部
学位申請論文	14 部
学位申請論文和文要旨(1200 字以内)・英文要旨(250words 程度)	各 14 部
参考論文がある場合	各 14 部(最高 10 編まで・写し可)
学外提出の場合、本学看護学研究科教授の紹介状	1 部
語学試験合格証明書(学位申請の資格の(2)に該当する場合)	
審査手数料[学内提出者は 15 万円、学外提出者は 30 万円]	



共 通

第1章 総則

(目的)

第1条 本大学院は医学および看護学に関する学術の理論および応用を教授研究しその深奥を究めて、文化の進展に寄与するとともに社会に貢献すべき有為の人材を養成する。

(自己点検・評価)

第2条 本大学院は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的を達するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その結果に基づいて教育研究活動等の改善および充実に努める。

2. 前項の点検および評価を行うにあたっての項目の設定、実施体制等については、別に定める。

(大学院組織)

第3条 本大学院に医学研究科博士課程および看護学研究科博士前期課程・博士後期課程をおく。医学研究科博士課程は、独創的研究によって、従来の学術水準に新しい知見を加え、文化の進展に寄与するとともに、専攻分野に関し研究を指導する能力を養うものとする。但し、内科系専攻および外科系専攻においては、新しい医療技術の開発および高度な専門技術の修得を含むものとする。

看護学研究科博士前期課程は、専攻分野に関し知見を深めるとともに高度な専門性を有する看護の実践能力や研究者の基礎能力を養うものとする。

看護学研究科博士後期課程は、複雑多岐にわたる看護の事象を理論的に深く探求し、研究的思考を磨き、自立して創造的に研究を実施できる能力を育成するものとする。

2. 医学研究科博士課程および看護学研究科博士前期課程・博士後期課程に次の専攻をおく。

(1) 医学研究科博士課程

形態学系専攻

機能学系専攻

社会医学系専攻

内科系専攻

外科系専攻

先端生命医科学系専攻

共同先端生命医科学専攻

(2) 看護学研究科博士前期課程

看護学専攻

(3) 看護学研究科博士後期課程

看護学専攻

(修業年限)

第4条 医学研究科博士課程の標準修業年限は4年、但し、共同先端生命医科学専攻は3年とし、看護学研究科博士前期課程の標準修業年限は2年、博士後期課程は3年とする。但し、特例として、この修業年限が短縮されることがある。年限の特例に関しては別に定める。

(学生定員)

第5条 第3条に定める医学研究科と看護学研究科の学生定員は次のとおりとする。

(1) 医学研究科

形態学系専攻

入学定員 5名 総定員 20名

機能学系専攻

入学定員	4名	総定員	16名
社会医学系専攻			
入学定員	4名	総定員	16名
内科系専攻			
入学定員	8名	総定員	32名
外科系専攻			
入学定員	10名	総定員	40名
先端生命医科学系専攻			
入学定員	8名	総定員	32名
共同先端生命医科学専攻			
入学定員	5名	総定員	15名
計 入学定員	44名	総定員	171名

(1) 看護学研究科

看護学専攻博士前期課程

入学定員 16名 総定員 32名

看護学専攻博士後期課程

入学定員 10名 総定員 30名

第2章 学年・学期および休業日

(学年・学期)

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月末日に終わる。

2. 学年は次の学期に分ける。

前期 4月1日より9月末日まで

後期 10月1日より翌年3月末日まで

(休業日)

第7条 定期休業日を次のとおりとする。

(1) 土曜日、日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律に定める休日

(3) 本学創立記念日である12月5日

2. 前項に定めるもののほか、臨時の休業日を定めることがある。

第3章 分野、学科目および単位数、時間数

(分野、学科目および単位数、時間数)

第8条 医学研究科博士課程および看護学研究科博士前期課程・博士後期課程の各専攻に以下の基幹分野をおく。

(1) 医学研究科博士課程

内科系および外科系専攻には、基幹分野に所属する関連分野をおくことができる。その設置については別に定める。なお、先端生命医科学系専攻および共同先端生命医科学専攻に所属する分野は関連分野相当とする。

形態学系専攻

解剖学分野

解剖学・発生生物学分野

病理学(第一)分野

病理学(第二)分野

微生物学免疫学分野

機能学系専攻

生理学（第一）分野

生理学（第二）分野

生化学分野

薬理学分野

社会医学系専攻

衛生学公衆衛生学（一）分野

衛生学公衆衛生学（二）分野

法医学分野

国際環境・熱帯医学分野

医学教育学分野

内科系専攻

内科学（第一）分野

内科学（第二）分野

内科学（第三）分野

内科学（第四）分野

循環器内科学分野

消化器内科学分野

神経内科学分野

血液内科学分野

精神医学分野

小児科学分野

皮膚科学分野

放射線腫瘍学分野

画像診断学・核医学分野

加齢・老年医学分野

外科系専攻

外科学（第一）分野

外科学（第二）分野

心臓血管外科学分野

消化器外科学分野

脳神経外科学分野

整形外科学分野

形成外科学分野

眼科学分野

耳鼻咽喉科学分野

産婦人科学分野

麻醉科学分野

泌尿器科学分野

歯科口腔外科学分野

救急医学分野

先端生命医科学系専攻

先端工学外科学分野

遺伝子医学分野

代用臓器学分野

再生医工学分野

総合医科学分野

共同先端生命医科学専攻

共同先端生命医科学分野

(2) 看護学研究科博士前期課程

看護学専攻

看護基礎科学分野（食看護学・基礎看護学）

看護管理学分野（看護管理学）

看護職生涯発達学分野（看護職生涯発達学）

実践看護学分野Ⅰ（クリティカルケア看護学・がん看護学）

実践看護学分野Ⅱ（ウーマンズヘルス）

実践看護学分野Ⅲ（老年看護学）

実践看護学分野Ⅳ（精神看護学）

実践看護学分野Ⅴ（地域看護学）

実践看護学分野Ⅵ（小児看護学）

(3) 看護学研究科博士後期課程

看護学専攻

看護基礎科学分野

食看護学

看護管理学

看護職生涯発達学

実践看護学分野

クリティカルケア看護学・がん看護学

ウーマンズヘルス

老年看護学

解釈的精神看護学

地域看護学

小児看護学

2. 学生は前項の分野の中から主分野を選択するものとする。

3. 単位数、時間数は別に定める「履修方法に関する内規」による。

4. 看護学研究科博士前期課程看護学専攻実践看護学分野Ⅱ（ウーマンズヘルス）に関する事項について別に定める。

#### 第4章 学科目の履修方法および単位修得の認定

(履修方法)

第9条 学科目の履修方法は次のとおりとする。

(1) 医学研究科博士課程の履修方法

①学生は30単位以上を修得し、更に独創的研究に基づく学位論文を作成しなければならない。

②学科目の履修については、主分野の担当教授の指導および承認を得なければならない。各分野の担当教授は、その分野の教育研究の指導教授で、原則として医学部の当該分野に相当する講座の主任教授が兼務する。なお、関連分野および先端生命医科学系専攻を担当する教員を大学院教授・大学院准教授・大学院講師と称する。

③研究科委員会が教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき他の大学院で10単位を限度として授業科目を履修させ、これを修得単位に加えることができる。

④研究科委員会が教育上有益と認めるときは、学生は他の大学院、研究所等において必要な研究指導を受けることができる。この場合主分野主任教授（関連分野にあっては所属する基幹分野の主任教授、先端生命医科学系専攻に所属する分野にあっては研究科委員となる大学院教授）は、あらかじめ他の大学院等当該機関との間に研究指導の範囲、期間、その

他実施上必要とされる具体的な措置について協議するものとする。

⑤その他履修方法の細目は別に定める「履修方法に関する内規」による。

(2) 看護学研究科博士前期課程の履修方法

①学生は、30 単位以上を修得しなければならない。

②学生は修士論文コースと実践看護コースのいずれかを選択するものとする。なお、修士論文コースおよび実践看護コースの定義等については別に定める「修士論文コースおよび実践看護コースの定義等に関する内規」による。

③修士論文コースの学生は学術的研究に基づく学位論文を作成しなければならない。実践看護コースの学生は、実践に基づく専門領域を追及する論文を作成しなければならない。

④学科目の履修については、担当教授の指導および承認を得なければならない。各分野の教授は、その分野の教育研究の指導教授である。

⑤その他履修方法の細目は別に定める「履修方法に関する内規」による。

(3) 看護学研究科博士後期課程の履修方法

①学生は、6 単位以上を修得しなければならない。

②学生は学術的研究に基づく学位論文を作成しなければならない。

③学科目の履修については、担当教授の指導および承認を得なければならない。各分野の教授は、その分野の教育研究の指導教授である。

④その他履修方法の細目は別に定める「履修方法に関する内規」による。

(単位修得の認定)

第 10 条 各学科目の単位修得の認定は試験または研究報告等により、当該学科目担当教授が学期末または学年末に行う。

2. 各学科目の成績は、100 点を満点とし、60 点以上を合格、60 点未満を不合格とし、合格、不合格の 2 種とする。但し不合格の学科目については事情により次の試験に受験させることがある。

第 5 章 修了の要件および学位、審査機関

(修了の要件)

第 11 条 本大学院医学研究科博士課程および看護学研究科博士前期課程・博士後期課程の修了要件は次のとおりとする。

(1) 修業年限で定められた年数以上在学すること、(2)所要学科目を履修し医学研究科博士課程は 30 単位以上、看護学研究科博士前期課程は 30 単位以上、博士後期課程は 6 単位以上修得すること、および(3)学位論文の審査に合格することとする。但し(1)および(2)の要件を満たして退学した者で、退学後 2 年以内に学位論文を提出し合格すれば、医学研究科または看護学研究科を修了したものとみなす。

(課程博士および課程博士前期・課程博士後期)

第 12 条 本大学院医学研究科および看護学研究科に所定の期間在学して、所定の単位を修得し、学位論文の審査および最終試験に合格した者には博士(医学)、博士(生命医科学)および修士(看護学)・博士(看護学)の学位を授与する。

(論文博士)

第 13 条 大学院医学研究科の博士課程を終え学位を授与される者と同等以上の内容を有する学位論文を提出してその審査に合格し、かつ専攻学術に関し、同様に広い学識を有することを、試験により確認(学力確認)された者には博士(医学)の学位を授与する。

(学位審査機関)

第 14 条 学位論文の審査は医学研究科委員会および看護学研究科委員会において各々行う。

2. 学位論文の審査および試験の方法、その他学位に関する必要な事項は別に定める「学位規程」

および「学位論文審査内規」による。

## 第6章 入学、休学、主分野の変更および復学、退学、再入学

(入学の時期)

第15条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学の資格)

第16条 本大学院医学研究科および看護学研究科に入学を志願することのできる者は、次の各号の1に該当する者とする。

(1) 医学研究科博士課程

- ①大学医学部または医科大学を卒業した者
- ②本大学院において、これと同等以上の学力があると認めた者

(2) 看護学研究科博士前期課程

- ①大学看護学部あるいは看護学科、看護大学を卒業した者
- ②看護師、保健師、助産師のいずれかの資格を有し、学士号を持つ者
- ③本大学院において、これと同等以上の学力があると認めた者

(3) 看護学研究科博士後期課程

- ①修士の学位を有する者
- ②外国において修士の学位に相当する学位を授与された者
- ③本大学院において、これと同等以上の学力があると認めた者

(入学志願の手続き)

第17条 本大学院に入学を志願する者は、入学願書に所定の書類および検定料を添えて願い出なければならぬ。

(入学の検定)

第18条 入学の検定は、前条の入学志願者につき、人物、学力および身体について行うものとする。試験の期日および試験方法については別に定める。

(入学の決定)

第19条 入学の決定は、医学研究科委員会および看護学研究科委員会にて各々行う。

(入学の手続きおよび許可)

第20条 入学を許可された者は、定められた期日以内に入学の手続きを終了し、同時に入学料を納付しなければならない。この手続きを怠るものは、入学の許可を取り消すことがある。

(学籍票)

第21条 入学を許可された者は、所定の期日までに所定の学籍票を学長に提出しなければならない。

(休学)

第22条 学生が病気その他の事故により3ヵ月以上休学しようとするときは、医師の診断書または詳細な理由書を添え、保証人連署で、学長に願い出許可を受けなければならない。

2. 学長は特に必要と認めた者には休学を命ずることがある。

(休学期間)

第23条 休学の期間は1年を超えることができない。但し、特別の事情があるときは更に1年以内の休学を許可することがある。休学期間は通算2年を超えることができない。

(主分野の変更)

第24条 主分野の変更は原則として認めない。但し、特別の事情あるものに限り医学研究科委員会または看護学研究科委員会の議を経て許可することがある。

2. 主分野を変更した後の修業年限は、医学研究科委員会または看護学研究科委員会の議を経て前履修学科目の内容により決定する。前項により修業年限を変更された者の在学年限は、第4条による標準修業年限の2倍を超えることができない。

(復学)

第25条 休学者が復学しようとするときは保証人連署で、復学を願い出なければならない。

(退学)

第26条 学生が病気その他の事情で退学しようとするときは、保証人連署で学長に願い出、その許可を受けなければならない。

(除籍)

第27条 学長は次の各号のいずれかに該当する者には、医学研究科委員会または看護学研究科委員会の議を経て、退学を命ずることがある。

- (1) 在学年限が第4条による標準修業年限の2倍を超える者
- (2) 病気その他の事情で成業の見込みがないと認めた者

(再入学)

第28条 前条第1号以外の理由により除籍されたのちその理由が消滅して、再入学を願い出た者は、選考のうえこれを許可することがある。再入学者は前在学中に所属した主分野に所属するものとする。

2. 再入学を許可されたものの在学年数は、第4条による標準修業年限の2倍を超えることはできない。
3. 再入学者の前在学中における取得単位は、医学研究科委員会または看護学研究科委員会の認定により第9条に規程する単位に加えることができる。

## 第7章 学 費

(学費)

第29条 入学検定料、入学料、授業料その他納入すべき学費に関する規程は、別表にこれを定める。

第30条 特別な場合、学費の減免を行うことができる。

2. 学長は申請があった場合、第40条第2項に定める大学院委員会に諮問する。同委員会は別に定める内規に基づき、適否を判定し、学長に答申する。学長は該当者について理事長の了解を得て、これを許可する。
3. 減免額および期間については別に定める。

## 第8章 委託生、聴講生、特別聴講学生、および外国人学生

(委託生)

第31条 国または公共団体から、一定の在学期間と履修学科目を定めて、入学を願い出た者に対して、選考の上委託生として入学を許可することがある。

(委託生の入学資格)

第32条 委託生の入学資格については第16条を準用する。

(委託生の合格証明書)

第33条 委託生はその履修した学科目について試験を受けることができる。試験に合格した者には、願い出によってその学科目の合格証明書を与える。

(聴講生)

第34条 医学研究科または看護学研究科において1学科目または数学科目の聴講を希望する者がある場合は、選考の上聴講生として聴講を許可することがある。聴講を希望する者の出願手続きは、別に定めるところによる。

(特別聴講学生)

第35条 他の大学院との協議に基づき特別聴講学生として学科目を10単位を限度として履修させることができる。特別聴講学生は履修した学科目につき試験を受け、合格した場合は単位取得証明書が与えられる。

2. 他の大学院との協議に基づき当該大学院学生の研究指導を行うことができる。

(外国人学生)

第36条 第16条の各号の1に該当する資格があり、かつ外国公館の証明する外国人は、選考の上外国人学生として入学を許可する。

第37条 委託生、聴講生、特別聴講学生、及び外国人学生に関しては、本学則を準用する。

## 第9章 教員組織

(教員組織)

第38条 大学院の授業および研究指導を担当する教員は、本学の教授、准教授、講師、助教をもって充てる。

## 第10章 運営組織

(委員会)

第39条 本大学院の管理運営のため医学研究科委員会および看護学研究科委員会をおく。

2. また、医学研究科大学院委員会および看護学研究科大学院委員会をおく。

(医学研究科委員会および看護学研究科委員会)

第40条 医学研究科委員会および看護学研究科委員会は、学長を委員長とし、医学研究科委員会においては、分野の担当主任教授および先端生命医科学系専攻の大学院教授をもって組織する。

なお、同専攻の兼担大学院教授が主査として学位を申請する場合には原則として審査に加わる。

2. 看護学研究科委員会においては、担当教授の代表1名をもって組織する。

3. 必要ある場合には、その他の教授または准教授の出席を求めることができる。

(医学研究科委員会および看護学研究科委員会の役割)

第41条 研究科委員会は次の事項を審議する。

(1) 研究および教育に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 課程、専攻、分野、学科目に関する事項

(4) 学生の入学、休学、主分野の変更、および復学、退学、再入学並びに賞罰に関する重要事項

(医学研究科大学院委員会および看護学研究科大学院委員会)

第42条 医学研究科大学院委員会および看護学研究科大学院委員会の組織は次のとおりとする。

(1) 医学研究科大学院委員会は、学長、医学部長、研究科委員若干名をもって組織する。

(2) 看護学研究科大学院委員会は、学長、看護学部長、研究科委員若干名をもって組織する。

(各大学院委員会の役割)

第43条 各大学院委員会は次の事項を協議する。

(1) 大学院に関する重要な規則の制定および改廃に関する事項

(2) 大学院の予算概算の方針に関する事項

(3) 大学院学生定員に関する事項

(4) 大学院の運営に関する事項

(5) その他各研究科委員会より委嘱された事項

2. 前各号の事項の細部については別に定める。

3. 医学研究科共同先端生命医科学専攻については連絡協議会により管理・運営を行う。なお、連絡協議会に関する事項は別に定める。

(大学院協議会)

第44条 医学研究科、看護学研究科に共通する重要な事項を協議するため、大学院協議会をおく。

2. 大学院協議会は、学長、医、看護学部長、医学研究科大学院委員会および看護学研究科大学院委員会の代表各1名により組織する。ただし、必要に応じて学長は医学研究科委員、看護学研

究科委員を参加させることができる。

(大学院生に関する規定)

第45条 個人情報保護に関する本学のガイドラインに則り、大学院生生活で得られる個人情報は大学院の到達目標を達成する目的のみに利用し、適切に管理するとともにこれを生涯守秘することを義務とする。なお、指示に応じてその都度、所定の誓約書に署名するものとする。

2. 本学則に定めるもののほか大学院学生に関して必要な事項は、大学学則の規程を準用する。

附則 本学則は平成24年4月1日から施行する。

# 学位規程

平成19年4月1日改訂

## (目的)

第1条 この規程は、学位規則（昭和28年文部省令第9号、以下「省令」という）第13条の規程に基づき本学において授与する学位の種類、論文審査及び試験の方法その他学位に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (学位の種類)

第2条 本学において授与する学位は学士、修士、及び博士とする。

学士（医学）

学士（看護学）

修士（看護学）

博士（医学）

博士（看護学）

## (学位授与の要件)

第3条 学士の学位は、本大学学則の定めるところにより、当該課程を修了した者に授与する。

2. 修士の学位は、本学大学院学則第11条の定めるところにより、博士前期課程を修了した者に授与する。

3. 博士の学位は、本学大学院学則第11条の定めるところにより、医学研究科博士課程および看護学研究科博士後期課程を修了した者に授与する。医学研究科博士課程および看護学研究科博士後期課程の修了には、所定の期間在学して所定の単位を修得し、かつ学位論文を提出して、その審査及び最終試験に合格しなければならない。

4. 博士の学位は前項に規程するもののほか、本学大学院学則第13条の定めるところにより、本学に学位論文を提出してその審査及び試験に合格し、本学大学院の医学研究科博士課程および看護学研究科博士後期課程の修了者と同等以上の学力があると認められた者に授与することができる。

## (学位論文の提出時期)

第4条 前条第3項の学位論文の提出期間は、大学院課程の所定期間終了後2ヶ年以内とする。

## (学位論文の審査及び試験の方法)

第5条 第3条第2項の看護学研究科博士前期課程の所定の単位修得者より提出された、修士論文コースの修士論文、実践看護コースの課題研究論文の、審査及び試験の方法は、別に定める「学位論文審査内規」による。

第6条 第3条第3項の医学研究科博士課程および看護学研究科博士後期課程の所定単位修得者により提出された学位論文、並びに第3条第4項による学位論文の提出者の資格及び提出された学位論文の、審査及び試験の方法は、別に定める「学位論文審査内規」による。

2. 学位論文の審査は、当該論文を受理してから、原則として1年以内に終了させるものとする。

## (学位の授与)

第7条 医学研究科委員会は博士の学位の授与の可否について、看護学研究科委員会は修士及び博士の学位の授与の可否について議決をする。

2. 前項の医学研究科委員会は委員総数の2分の1以上の出席がなければ開くことができな

い。医学研究科委員会においては海外旅行中の委員及び休職中の委員は、委員総数には算入しない。

3. 第1項の看護学研究科委員会は委員総数の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

4. 第1項の議決は出席委員の3分の2以上の賛成を必要とする。

(学位記の交付)

第8条 学長は、医学研究科委員会の議決により、博士の学位の授与、看護学研究科委員会の議決により修士及び博士の学位の授与を決定し、学位を授与するものとする。

2. 不合格者についてはその旨通知する。

(論文要旨の公表)

第9条 本学は、博士の学位を授与したときは当該博士の学位を授与した日から3ヶ月以内に、その論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表するものとする。

(学位論文の公表)

第10条 博士の学位の授与を受けた者は、博士の学位の授与を受けた日から1年以内に、その論文を印刷公表するものとする。但し、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表した時はこの限りではない。

(学位の名称の使用)

第11条 学位の授与を受けた者が、学位の名称を用いるときは学士(医学、看護学)、修士(看護学)、博士(医学、看護学)のそれぞれに「東京女子医科大学」と附記するものとする。

2. 学位記の様式は、別表のとおりとする。

(学位授与の取消)

第12条 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったとき、又は不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は当該研究科委員会の議を経て、学位の授与を取り消すことができる。

2. 前項の議決については、第7条の議決方法を準用する。

(学位記の再交付)

第13条 学位記の再交付を受けようとするときは、その事由を具し、学長に願い出なければならない。

2. 再交付料は5千円とする。

(学位授与の報告)

第14条 本学において博士の学位を授与したときは、学長は、省令第12条の定めるところにより文部科学大臣に報告するものとする。

(細則)

第15条 この規程で定めるもののほか、必要な内規は各研究科委員会が学長の承認を経て定めることができる。

附 則 この規程は平成19年4月1日から施行する。

## 倫理委員会規程

昭和62年 1月28日制定  
平成24年 3月13日改訂

### (目 的)

第1条 倫理委員会（以下「委員会」という）は、学長の諮問機関として、東京女子医科大学（以下「本学」という）で行われる人を対象とする研究あるいは医療行為が、ヘルシンキ宣言の趣旨に沿った倫理的配慮のもとに行われるよう必要な事項を審議し、指示を与えることを目的とする。

### (職 務)

第2条 委員会は、本学で行われる研究あるいは医療行為に関して、当該研究の実施責任者から申請された実施計画につき、倫理的観点及び科学的観点に立ってその妥当性を審査する。なお、人遺伝子解析研究については、遺伝子解析研究に関する倫理審査委員会において審査するものとする。

2. 介入を伴う臨床研究の研究課題については、委員会のもとに設置する病院倫理委員会において審査するものとする。

### (委員会)

第3条 委員会は、男女両性で構成された以下の委員により構成される。

- (1) 学長の指名する本学教授10名以上
  - (2) 法律学の専門家等医学分野以外の学外者を含む有識者3名
  - (3) 一般の立場を代表する者1名
2. 委員会に委員長をおき、委員長は委員の互選により選出する。
  3. 委員長は委員会を招集し、その議長となる。委員長がやむを得ない事由により職務を遂行できないときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
  4. 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員が任期の途中で退任したときは新たに委員を選任することができる。任期は前任者の残任期間とする。
  5. 委員会は、定員の過半数が出席し、かつ第1項の(2)及び(3)に定める委員から少なくとも1名の出席により成立する。
  6. 審議事項の議決は、出席委員の3分の2以上の合意によるものとする。
  7. 委員は、他の委員を代理人として、その議決権を行使することができる。ただし、議決権の代理公使は5名を上限とする。
  8. 委員会が必要と認める時は、委員以外の者の出席を求めることができる。

(守秘義務)

第4条 委員会の委員は、職務上知り得た情報を正当な理由なく漏らしてはならない。その職務を辞した後も同様とする。

(審議)

第5条 委員会審議事項のうち、委員会が書類審議に適していると判断する申請については、書類送付により審議とすることができる。

2. 委員長は次の場合、あらかじめ指名した委員、または小委員会による迅速審査を行うことができる。

(1) 研究計画の軽微な変更

(2) 共同研究であって、既に主たる研究機関での倫理審査を受け承認された研究計画を実施しようとする場合

(3) 研究参加者に対して最小限の危険（日常生活や日常的な医学検査で被る身体的、心理的、社会的危害の可能性の限度を超えない危険であって、社会的に許容される種類のものをいう。）を超える危険を含まない研究

3. 審査の経過および決定は記録として保存し、委員会が必要と認める場合は、公表することができる。この際個人のプライバシーを侵害してはならない。

(申請と答申)

第6条 人を対象とする研究あるいは医療行為で、倫理審査を要する行為を行おうとする実施責任者は、所定の「審査申請書」を作成し、学長に審査を申請しなければならない。

2. 委員長は審議終了後に速やかに、その結果にもとづき文書で学長に答申しなければならない。

3. 申請者は審査の結果に異議があるときは、再審査を求めることができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、研究支援部倫理・知財・産学連携課が行う。

(雑則)

第8条 本規程に定めるもののほか、本規程の実施にあたり必要な事項は、委員会が別に定める。

(規程の変更)

第9条 本規程の変更は、医学部及び看護学部教授会の議を経なければならない。

附 則 本規程は、平成24年 3月13日から施行する。

## 看護学研究科倫理審査委員会規程

平成23年3月23日制定

### (目的)

第1条 本委員会は、東京女子医科大学（以下「本学」という）大学院看護学研究科博士前期課程に所属する学生が行う人を対象とする研究および医療行為が、適切な倫理的配慮のもとに行われるよう、本学倫理委員会に先だって、倫理的ならびに科学的観点からその妥当性を審査し、審査結果を本学倫理委員会に報告し、よって本学倫理委員会の審査の円滑化をはかることを目的とする。

### (職務)

第2条 本委員会は、本学大学院看護学研究科博士前期課程に所属する学生が行う研究および医療行為に関して、担当教授から提出された実施計画につき、倫理的ならびに科学的観点からその妥当性を審査するものとする。審査の過程には教育的指導も含まれる。

### (組織)

第3条 本委員会は、看護学研究科教授および研究科長が指名する教員若干名をもって組織される。委員会の下に審査会を置き、申請課題ごとの審査を行う。

2. 委員会に委員長をおき、委員長は委員の互選により選出する。
3. 委員長は委員会を招集し、その議長となる。委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。
4. 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

### (審査の申請)

第4条 人を対象とする研究および医療行為で、倫理的な検討を要すると考えられる行為を行おうとする学生の担当教授は、審査を申請しなければならない。申請の手続きは別に定める。

### (審査会)

第5条 審査会は、委員長と担当教授、および委員長が指名する教員2名の計4名から構成される。

2. 審査会の議長は審査会委員の互選により選出する。
3. 審査の決議は出席委員の合意によるものとする。但し、担当教授は決議には加わらない。
4. 研究科長は随時審査会に出席し、意見を述べることができる。

5. 審査会が必要と認める場合には、委員以外の者の出席を求めることができる。
6. 審査の経過および決定は記録として保存し、看護学研究科倫理審査委員会に報告し承認を受けるものとする。

(倫理委員会への報告と審査)

第6条 本委員会の審査結果は、報告書(様式 1.)をもって本学倫理委員会に報告し、最終的な判定は倫理委員会に委ねるものとする。

2. 申請者は倫理委員会の審査結果に異議があるときは、倫理委員会に対し直接再審査を求めることができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、学務部看護学部学務課が行う。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施にあたり必要な事項は、委員会が別に定める。

(規程の変更)

第9条 この規程の変更は、倫理委員会および看護学研究科委員会の議を経なければならない。

附則 この規程は、平成23年3月23日から施行する。

看倫審 様式 1

平成 年 月 日提出

看護学研究科倫理審査委員会 審査結果報告書

審査年月日	平成 年 月 日	審査回数	第 回目
課題名			
研究責任者名		職名	
研究分担者名		所属	
審査結果概要			
東京女子医科大学倫理委員会委員長殿 倫理的観点からの審査の結果、承認であることをご報告いたします。 看護学研究科倫理審査委員会委員長 氏名 _____ 印			

# 廣澤克江看護国際交流助成金規程

平成23年 3月23日制定

## (目的)

第1条 本規程は、廣澤克江氏（元東京女子医科大学看護短期大学教授）の遺贈による寄附金をもって原資とする助成金について定める。

## (助成金の使途)

第2条 この助成金は、東京女子医科大学（以下「本学」という）大学院看護学研究科博士前・後期課程学生、本学大学院看護学研究科および看護学部専任教員の国際学会発表、海外研修、および海外留学の助成に充てる。

2. 支給される助成金額は、1名につき上限10万円とする。年間助成総額を50万円程度とする。

## (選考委員会)

第3条 助成金の被授与者は選考委員会で選考するものとし、毎年若干名とする。

2. 選考委員会は学長、国際交流委員会室長、看護学部長、国際交流委員会委員1名、看護学研究科委員会で選出された教授1名、看護学部教授会で選出された教授1名をもって構成し、学長が委員長となる。
3. 選考委員会は、書類審査にて決議し、選考結果を看護学研究科委員会ならびに看護学部教授会に報告し承認を得る。
4. 看護学研究科委員会および看護学部教授会より選出された委員の任期は2年とする。

## (応募方法と公示)

第4条 助成金の授与を希望する者は、応募理由書（様式1）を学長に提出するものとする。

2. 応募は、原則として毎年5月末、11月末までに行うものとし、選考結果は応募締切後1か月以内に公示する。

## (被授与者の遵守事項)

第5条 助成金を受けた者は次の事項を遵守する。

- 1) 帰国後、1か月以内に学長に報告書を提出する。
- 2) 帰国後、1か月以内に補助金使用について領収書添付のうえ報告する。

## (事務)

第6条 選考に関する事務は学務部看護学部学務課が行う。

## (雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、この規程の実施にあたり必要な事項は、選考委員会が別に定める。

## (規程の変更)

第8条 この規程の変更は、看護学研究科委員会および看護学部教授会の議を経なければならない。

附則 この規程は、平成23年3月23日から施行する。

東京女子医科大学学長  
殿

### 廣澤克江看護国際交流助成金応募理由書

申請者名		職名 (所属名)	
助成金使途目的		申請額	円
渡航先			
渡航期間	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日		
応募理由			
助成金使途計画			

## Kidney 太田奨励賞規程

平成13年9月26日制定  
平成15年1月29日改訂  
平成20年6月25日改訂

第1条 本規程は、本学太田和夫名誉教授よりの寄附金ならびにその他の寄附金をもって原資とする奨励賞について定める。

第2条 この奨励賞は、東京女子医科大学看護学部学生のうちで特に学業成績人物とともに優秀な者および大学院看護学研究科の学生で成績優秀かつ優れた研究・論文発表を行なった者に対し授与する。

第3条 被授与者の選考は、看護学部の教務委員会で看護学部生2名、看護学研究科委員会で大学院生2名を選考し、看護学部長に報告する。

第4条 被授与者の選考は3月中旬までに行うものとする。

第5条 看護学部長は、被授与者の選考結果を学長に報告し、承認を得る。

第6条 授与式は卒業式および大学院修了式当日に行う。

第7条 奨励賞は、奨励金・記念品・賞状とし、奨励金と記念品については別に定める。

第8条 選考に関する事務は学務部看護学部学務課が行う。

附 則 本規程は、平成20年6月25日から施行する。

## 図書館利用案内

本学の図書館施設には、東京女子医科大学図書館（以下「本館」という）と大東分室、河田町分室、東医療センター図書室、八千代医療センター図書室、および看護専門学校図書室があります。本館と各分室には、各々「利用案内」があります。医学系および看護系の図書・雑誌やビデオテープ・DVD等があります。また、情報科学室ではパソコンをはじめとする情報機器が設置されていてカリキュラム講座等の時間以外は自由に使えます。

### 1) 大東分室・河田町分室閲覧規則

(開館時間)

- ・開館時間を下記の通りとする。

月曜日～金曜日 午前9時～午後7時

土曜日 午前9時～午後1時

(ただし河田町分室のみ第2土曜日の開館時間を午後1時～5時とする。)

- (1) 季節休業期間は開館時間を変更し、その都度これを掲示する。

(休館日)

- ・休館日を下記の通りとする。

第三土曜日(原則として)、日曜日、国民祝日、本学創立記念日(12月5日)、年末年始

- (1) 臨時休館の際は、その都度これを掲示する。

(館内閲覧)

- ・入館に際して、閲覧に不要な所持品は所定のコインロッカーにおく。
- ・資料を閲覧する時は、所定の閲覧室を利用し、閲覧を終えた資料は直ちに返却し、所定の手続きを経ずにこれを館外に持ち出してはならない。
- ・館内においては静粛を旨とし音読、談話、飲食、喫煙をしてはならない。

(館外貸出)

- ・資料を館外に帯出する時は、大学発行の「職員証」「学生証」あるいは図書館発行のゲスト・カードを係員に提示し、所定の手続きをとる。
- ・館外に帯出できる資料の冊数および貸出期間は下記の通りとする。  
冊数 単行本・雑誌 各5冊以内  
貸出期間 7日以内
- ・貸出期間の延長は単行本に限り1回のみ認める。
- ・新着資料は一定期間展示し、貸出しを認めない。

(視聴覚資料)

- ・館外貸出の本数および貸出期間は下記の通りとする。  
本数 3本以内  
貸出期間 3日以内
- ・原則として、閲覧室内の所定の場所において利用するものとするただし、著作権処理済の資料についてのみ、館外貸出を認める。

(文献複写)

- ・館内の資料は所定の機器により著作権法に基づき複写をすることができる。
- ・複写物については所定の料金を徴収するものとする。

(規則の遵守及び利用の停止)

- ・貸出期間を超過した場合は、下記により延滞料金を徴収する。

(1) 貸出期間を超過した図書・雑誌は1日につき1冊20円の延滞料金を徴収する。

(2) 貸出期間を超過した視聴覚資料は、1日につき1本100円の延滞料金を徴収する。

- ・返却した日が返却予定日より30日以上超過した場合は、延滞料金を徴収し、かつ返却した日より3ヵ月間の貸出停止とする。
- ・オーバーナイト制による貸出期間を守らない場合は、次回より貸出しを停止することがある。
- ・館内において不都合な行為のあった時は退室を要求するか、あるいは相当の処置をとることがある。

- ・正規の使用がなされていないとみられるコインロッカーについては、必要に応じて分室長がこれを開放させ、中の品物を遺失物として扱うことができる。
- ・閲覧または貸出中の資料を紛失、破損または汚損した時は現品により弁償する。あるいは修繕費を負担する。但し、現品の入手が不可能な場合は受入価格をもって弁償する。
- ・返却予定日より3カ月以上返却されない場合は、紛失したものとみなし、弁償する。
- ・使用中に、コインロッカーの鍵を紛失した時は、実費をもって弁償する。

## 2) 情報実習室（大東・河田町キャンパス）利用規則

情報実習室にはパーソナル・コンピュータやレーザプリンターを設置しており授業や講座等の時間以外は自由に使えます。

1. 開室時間  
(大東キャンパス)  
午前9時～午後6時30分（土曜日は、午後12時30分まで）  
(河田町キャンパス)  
午前9時～午後8時（土曜日は午後1時まで）
2. 休室日 日曜日、国民祝日、本学創立記念日（12月5日）、年末年始  
第三土曜日(原則として)（大東キャンパスのみ）
3. 大東キャンパスでは、利用の際には必ず情報実習室入口の利用記録簿に氏名を記入して下さい。
4. 「パーソナル・コンピュータ」の電源はディスプレイと本体の2ヵ所です。「立ち上げ」、「終了」の際には2ヵ所を確認して下さい。
5. 基本ソフト（Mac OS・Windows）やアプリケーションソフトの設定は変えないで下さい。装備してあるソフトのコピーは出来ません。また、自作のデータはコンピュータ上に残さず自分のCD-R、USBメモリー等に保存して下さい。
6. 無駄なプリントをしないよう心がけて下さい。
7. ソフトの使い方や、機器のトラブル等、解らないことがあれば担当者に連絡して下さい。  
\*担当者 大東キャンパス：図書館、学務課  
河田町キャンパス：学務課
8. 室内で飲食・喫煙はしないで下さい。

## 3) 本館・情報科学室利用規則

### 本館

1. 開館時間 月曜日～金曜日 午前9時～午後10時  
土曜日 午前9時～午後5時
2. 休館日 日曜日、国民祝日、本学創立記念日、年末年始、蔵書点検期間
3. 入館  
(イ) 入館ゲートを通るには「職員証」「学生証」が必要です。
4. 貸出  
(イ) 冊数 単行本・雑誌 各5冊以内  
(ロ) 貸出期間 雑誌及び単行本とも7日間以内。但し、単行本の延長は1回のみ認めます。  
(ハ) 資料を館外に帯出する時は大学発行の「職員証」「学生証」あるいは図書館発行のゲスト・カードを係員に提示し、所定の手続きをとってください。  
(ニ) 貸出期間を過ぎた場合は延滞料を徴収します。

#### 4. 複写

- (イ) 館内の資料は所定の機器により著作権法に基づき複写をすることができます。
- (ロ) 複写物については所定の料金を徴収します。

#### 5. 視聴覚室 (AV 資料)

- (イ) 利用時間 午前 9 時～午後 7 時 (土曜日は午後 4 時)
- (ロ) 1 回 3 時間以内。予約制

### 情報科学室

- 1) 中央校舎 3 階にあります。入退室は中央校舎 2 階の図書館入口をご利用ください。
- 2) 利用時間  
月曜日～金曜日 午前 9 時～午後 7 時  
土曜日 午前 9 時～午後 4 時  
授業・講習等で利用できない場合があります。予定表は図書館入口右の掲示板、当室入口に掲示してあります。
- 3) パソコンは Windows 機を主体として Macintosh 機も設置しています。プリンター、スキャナーなどの周辺機器も各種整備しています。ポスター印刷が出来る大判プリンター (有料)、フィルム専用スキャナーは予約が必要です。
- 4) Microsoft Office、統計解析、画像処理など各種ソフトウェアの利用やインターネットができます。  
作成したファイルはパソコンに残さずにお持ち帰りください。残っているものは削除します。
- 5) 情報科学室の詳しい案内はホームページ (<http://> (学内専用)) をご覧ください。  
内線

その他、東医療センター図書室、八千代医療センター図書館、看護専門学校図書室も利用できます。不明の点はお相談ください。

※図書館の詳しい利用案内・お知らせ等は、図書館ホームページをご覧ください。

- ・ <http://> (学内専用)
- ・ <http://> (学外向け)

# 学生生活の手引き

## 学生証・諸届・諸手続等

みなさんの学生生活が円滑に行えるよう、学務部は教育にかかわる直接の事務を担当しております。学務部には大東事務室と学務課があり、学生の皆さんの窓口となっています。

窓口取扱時間

平日	9:00～17:00
土曜日	9:00～13:00

### 1) 学生証・定期券・学割

#### (1) 学生証

学生証は本学学生の身分を証明するものですから、学内では左胸に着用し、又常時所持すること。

- ① 学生割引証の請求、定期券を購入する際は学生証の提示が必要です。
- ② 学生証を紛失した場合は、速やかに再発行願を提出し、再交付を受けなければなりません。(学生証の再交付手数料 1,000 円)
- ③ 学生証は1年生の年度初めに交付します。

#### (2) 通学定期券の購入

通学定期券の区間は現住所の最寄り駅から大学までに限られています。最寄りの定期券発行所で、大学で発行する「通学証明書」(学生証裏面シール)に所定事項を記入し、学生証を添えて申し込んでください。バスで通学する場合も同様です。

#### (3) 学生割引証の交付

- ① JR で片道区間 100km をこえて旅行する場合、個人学生割引を利用すると、大人普通旅客運賃が 2 割引となります。  
この割引証交付にあたっては学務課の窓口で「学割申込用紙」に所定事項を記入し、学生証を添えて申し込むことが必要です。  
学生割引証は、年間 10 枚まで交付されます。その有効期限は交付後 3 ヶ月以内です。学生割引証裏面の注意事項を厳守してください。窓口の発行は 1 度に 2 枚までです。交付は翌日となりますので、必ず前日までに申し込んでください。
- ② 合宿や大会にクラブで参加する場合は、学務課の窓口にあるクラブ学割交付願に所定事項を記入して申し込んでください。交付は 1 週間後です。(年間 10 枚の交付には含まれません。)
- ③ 教職員が引率する学生 15 名以上の団体が発着駅および経路を同じくし、その全行程を同一人員で旅行する場合、団体学生割引(教職員は 3 割引、学生は 5 割引)を受けることができます。団体学生割引を利用しようとする時には、JR 駅にある団体旅行申込書に記入して、学務課に提出してください。証明は翌日になります。

### 2) 各種証明書・諸届・願出

在学期間中に数多くの届や証明書の交付申請が必要となります。また卒業後も必要となることがあります。次ページの表を参照してください。届出、願出書類によっては印鑑が必要な場合があります。

<各種証明書の申込方法>

1. 学務課窓口カウンターにある「証明書等交付願」に必要事項を記入する。  
※申込日、提出先などの記入漏れがある場合は受付いたしません。
2. 記入後、学務課窓口へ提出し必要に応じて証明書代金を支払う。
3. 交付については下記のとおりになります。

※即日発行は原則いたしませんので余裕を持って申し込むこと。

受付曜日	発行日時
月曜日～木曜日	翌日の午後2時以降
金曜日～土曜日	翌週月曜日の午後2時以降

※祝日（年末年始を含む）の前日に申し込んだ場合は休み明けの午後2時以降となる。

項目	手数料 1通につき	備考
現住所変更届		
欠席届		
改姓・改名届		新戸籍抄本添付
保証人変更届		
遺失物・拾得物届		
休学願・復学願・退学願・満期退学願		
集会願・合宿願		
施設借用願		
掲示願		
学生証（IDカード） 紛失届ならびに再発行願	1,000円	1ヵ月後交付
証明書等交付願		
学生割引の発行		翌日午後2時交付、年間10枚まで
在学証明書の発行	200円	翌日午後2時交付
〃（英文）	500円	7日後交付（注）
修了証明書の発行	200円	翌日午後2時交付
〃（英文）	500円	7日後交付（注）
成績証明書の発行	200円	翌日午後2時交付
〃（英文）	500円	7日後交付（注）
修了見込証明書の発行	200円	翌日午後2時交付
調査書の発行	500円	7日後交付（注）
推薦書の発行		7日後交付（注）
通学証明書		翌日午後2時交付
追再試験受験願	2,000円	1科目につき
事故報告書		

（注）1ヶ月以上の期間を要することがあります。詳細は申込の際に確認してください。

### 3) 住所変更

在学中に本人または保証人が住所を変更した時は現住所変更届を速やかに学務課へ提出してください。

### 4) 学費

#### ・学費の納入

2学年以上の学費、諸会費は毎年度5月31日が納入期限になります。毎年度始めに経理部経理課より納入金額の明細と、送金先を学資負担者宛に通知いたします。

## 学生生活

### 1) 健康管理・健康相談

#### (1) 定期健康診断に関して

- 年1回定期健康診断（胸部X線、耳鼻科、眼科）を実施する。実施時期は看護学部学生の健康診断日程と同様とする。
- ② 費用に関しては、大学負担で実施する。
  - ② 定期健康診断は、希望者に実施する。各自医療機関を受診することや、社会人である学生は勤務先での健康診断を選択することも可能とする。学外で受診した場合は胸部X線検査結果についての診断書を提出すること。
  - ③ 定期健康診断で実施する胸部X線は、過去3ヵ月以内に実施されている場合には、医師の診断書を以て有効とする。
  - ④ 定期健康診断以外の検診項目や予防接種などが、学業との関連において必要な場合は、各自の責任において実施すること。

#### (2) 診療

- ① 東京女子医科大学病院で受診を希望する場合は、a 学生証、b 健康保険証を持参して診療科にて受診する。学生証、保険証がないと補助が受けられない。
- ② 自宅外通学者への注意  
病院等での治療の際、社会保険や国民健康保険の適用を受けるためには、「遠隔地被保険者証」を必要とする。在学証明書を学務課から発行してもらい、扶養者（父母等）に送付し、「遠隔地被保険者証」の発行を依頼する。この発行は、扶養者が社会保険に加入している場合は、扶養者の勤務先で、国民健康保険の場合は、市・区・町・村の役所か出張所の国民健康保険証取り扱い窓口で行っている。  
「遠隔地被保険者証」はいつも手元に保持していることが必要であり、旅行や合宿に参加する場合にも必ず携帯すること。

#### (3) 診療費補助について

学生が本学附属病院を受診した場合、補助対象項目に限り、診療費自己負担額の一部を払い戻す制度がある。

##### ① 申請方法

補助の申請は学務課にある「受診報告（届）」に必要事項を記入し、「領収書」を添えて毎月末日までに提出する。※1ヶ月分をまとめて記入すること。診療費差額分の支払いは、受診報告（届）に記載されている振込先に翌日末に振り込まれる。

#### (4) 学生相談

メンタルヘルス等の相談を校医・学生委員の教員およびカウンセラーが担当しており、利用することができる。

##### ① カウンセラー学生相談日

- ・大東キャンパス学生相談日

1階学生相談室 毎週水曜日 午後4時30分～6時30分

申し込みは相談開催日に直接申し込む。電話

- ・河田町キャンパス学生相談日

学生健康管理センター 毎週月曜日 午後3時30分～6時30分

申し込みは相談開催日に直接または電話で申し込む。

電話 （内線）

#### (5) 保健室・休養室・救急箱

気分が悪くなった時などには看護学部内に休養室があるので利用することができる。看護学部内の休養室は学務課窓口に申し出てから、利用すること。また、救急薬品と多少の常備薬は備えてある。

- ・大東キャンパス 1階保健室
- ・河田町キャンパス 第1校舎2階124室(休養室)

#### 2) 就職相談(キャリアサポート)

就職についての相談を受けている。就職で困っていること分からないときは、就職担当者に、自由に相談も可能であるが、まずは研究の担当教員に相談のこと。

キャリアサポートの担当に相談を希望の場合は、直接メールをして時間の調整をすること。

#### 3) 学生懇話会(オフィスアワー)

学生懇話会は、教職員と学生が懇談を通じて交流をはかり、教育および学生生活を一層充実させることを目的とする。

本懇話会の形態はオフィスアワーでの面談として行われ、担当は看護学部の全教員である。面談を希望する学生は、教員のメールアドレスに連絡し、事前に予約を取ること。

(詳細は掲示等にて通知する)

#### 4) 掲示による連絡

授業担当の変更、休講、追再試験、その他学生への連絡は、所定の掲示板により連絡しますので、常時注意して見るように心がけること。

一旦掲示した事項は学生に周知されたものとみなし、これを見なかったことによって生じる不利益はすべて学生自身が負うものである。また、掲示物は公のものである。勝手に修正、持ち出し等手を加えないよう注意すること。

#### 5) 教室等の使用

講義室および実習室等の使用については別に定める。

#### 6) ロッカー

学生用個人ロッカールームがある。使用に際しては施錠、整理整頓等に心がけること。現金等貴重品は置かないように注意すること。

#### 7) 紛失物、拾得物

紛失物・拾得物は直ちに届けること。拾得物は事務室で1週間掲示し、保管する。その後、大学保安課に届ける。

#### 8) 河田町キャンパス食堂・売店

食堂 佐藤記念館1階にあり業者に委託して販売している。

営業時間 平日 AM11:00~PM2:00

売店 病院内の施設にある。

#### 9) その他

- ・本学は、すべての敷地内において禁煙です。
- ・授業中は携帯電話等の電源を切ること。
- ・学生宛の私的な郵便物・ファックス等について取り扱わない。

## 傷害保険・賠償責任保険

正課中や課外活動中といった教育研究活動中に、不慮の災害事故が発生し傷害を受けた場合、学外施設等で看護実習時損害を与えてしまった場合などに何らかの安心策を講じておく必要があります。具体的な手段としては、以下の保険への加入となります。

### (1) 賠償責任保険

この保険は、正課の実習中に学生が事故により他人を害した場合、法律上の賠償責任を負担することによって被る損害を補填するためのものです。

なお、保険料は大学が負担しております。

また、当該保険は大学が法的に訴えられた際に適用となります。

### (2) 傷害保険（学生教育研究災害傷害保険）

学生の教育研究活動中の事故による傷害などに対する救済制度で、(財)日本国際教育支援協会が保険契約者となり、国内の損害保険会社 20 社との間で一括契約している保険です。大学は、(財)日本国際教育支援協会の賛助会員として、被保険者となる学生の保険加入とりまとめの事務を行っています。加入方法につきましては、別途掲示等でお知らせします。

#### \*保険の内容

正課中・学校行事中・課外活動中（課外活動とは大学の認めた学内学生団体の管理下で行う活動）・学校施設内での休憩中の事故等が担保範囲となります。保険金・保険金が支払われる事故の範囲は約款で詳しく定められていますので、別途配布する「学生教育研究災害傷害保険のしおり」を参照してください。

#### \*事故が起きたときの手続

この保険で対象となる事故が起きた場合には、被保険者（学生）が保険を請求することとなります。その手順は、以下を参照してください。

#### 〔学生教育研究災害傷害保険 請求手続（概要）〕

- 1：事故報告のハガキ（※）を速やかに保険会社に送付してください。
- 2：請求資格を満たしたら保険金請求をしてください。
- 3：治療終了後 1 ヶ月以内に請求書を学務課に提出してください。
- 4：提出された書類は大学が加入証明をします。
- 5：保険会社の審査後、入金となります。

※ハガキは学務課にあります。

## 奨学金制度

有為な人材を育成するために必要な学資を貸与して、勉学を援助する次のような奨学金制度があります。それぞれの制度によって、出願の時期、資格、方法が異なりますので掲示板により、その都度連絡いたします。

種 類	月 額	備 考
東京都看護師等修学資金 <u>(博士前期課程のみ)</u>	第一種貸与 83,000 円	卒業後、 <u>都内指定施設</u> で5年以上看護業務に従事すると全額免除
	第二種貸与 25,000 円 (1口)	返還免除なし 2口まで可
日本学生支援機構 奨 学 金	第一種奨学金（無利子） 博士前期課程 50,000 円、88,000 円から選択 博士後期課程 80,000 円、122,000 円から選択  第二種奨学金（有利子） 50,000 円、80,000 円、 100,000 円、130,000 円 150,000 円 から選択	返還は日本学生支援機構返還規程による  ※第一学年入学生で一定の条件を満たす学生に対して、希望により入学月または機構の定める月の貸与月額に定額 10 万円、20 万円、30 万円、40 万円、50 万円の増額貸与を選択することができる

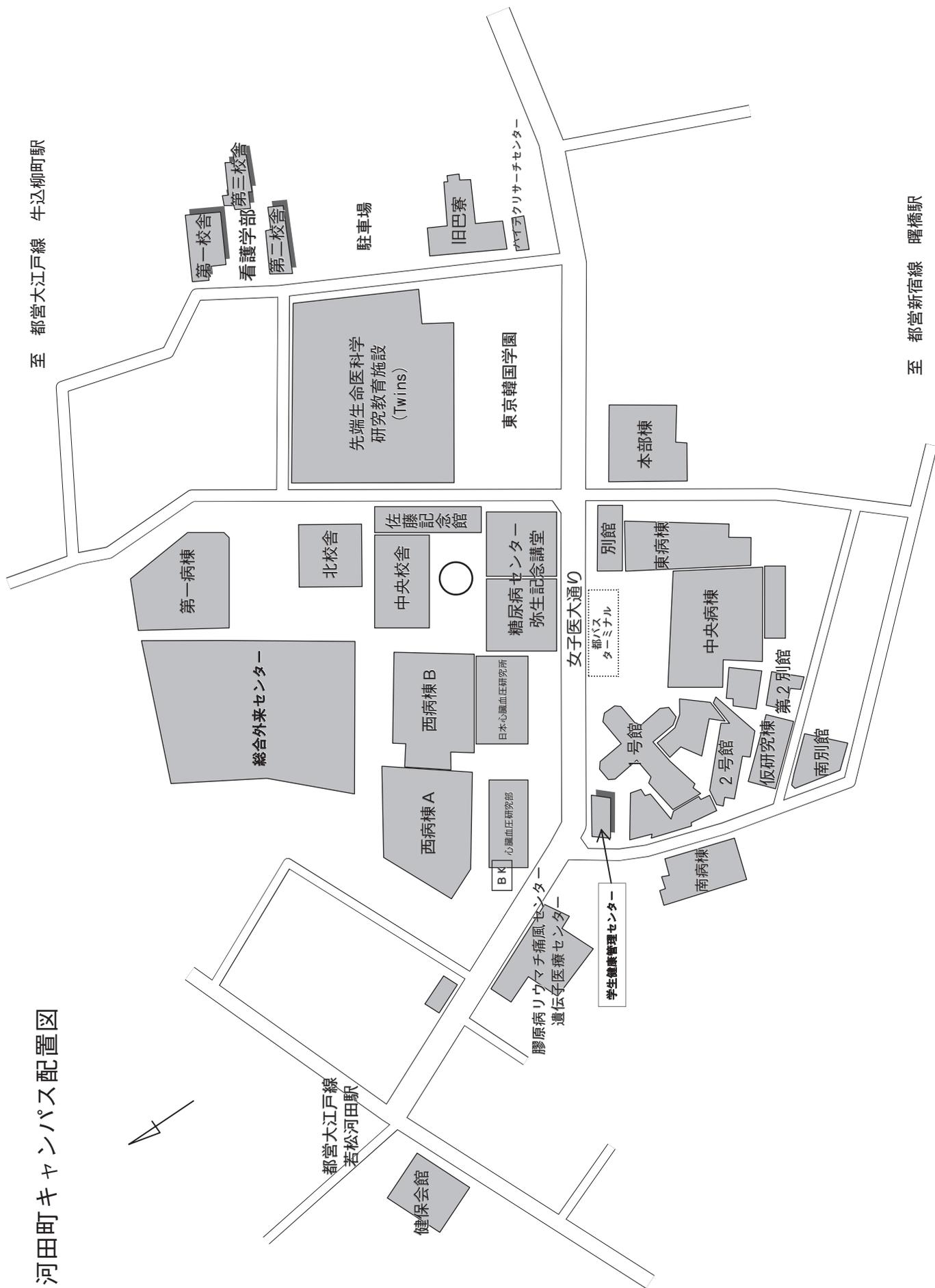
上記募集は掲示により行う。

### 厚生労働省「教育訓練給付制度」（博士前期課程のみ）

本学看護学研究科博士前期課程は、「教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」である。一定の条件に該当した場合、授業料の一部が支給される。（平成18年度入学生から適用）

# 河田町キャンパス配置図

至 都営大江戸線 牛込柳町駅



至 都営新宿線 曙橋駅

# フローラドミトリー使用規程

(平成10年4月1日制定)

平成11年7月1日改正

(目的)

第1条 このドミトリーは、大東キャンパスで行う授業、セミナー、研究活動および課外活動等において学生、教職員が宿泊するための施設である。

(利用心得)

第2条 利用者は諸規定を守り、互いに快適な生活が送れるよう努めるものとする。

(利用者)

第3条 利用者は原則として看護学部の学生および教職員とする。

(利用順位)

第4条 利用の優先順位は、4年次における地域看護学実習および小児看護学実習のための宿泊を第一とし、その他の宿泊については申し込み順とする。

ただし、医学部学生が学習の一環として利用する場合は、看護学部学生の実習に準じて扱う。

2. 看護学部学生、教職員以外の者の宿泊については看護学部学生部長が決める。

(利用手続き)

第5条 宿泊を希望する者は、学務部看護学部学務課に利用申込書を提出し、宿泊料金と引き換えに利用券の交付を受ける。

2. 利用者は到着後直ちに大東事務室（または管理人）に利用券を提出し、利用室を決定の上鍵を受け取り入室する。

3. キャンセルによる宿泊料金の払戻しは宿泊予定日の2日前までとする。

(利用者の責務)

第6条 利用者は居室内および共用部分の管理に責任をもつものとする。

附 則

利用料および利用上の細則は別に定める。

# 時間割



前期日程【2012. 4～9】

看護学研究科博士前期課程時間割

	I (9:00～10:25)	II (10:35～12:00)	III (13:00～14:25)	IV (14:35～16:00)	V (16:10～17:35)	VI (17:45～19:10)
月	社会学(4月～6月) 131A教室	臨床心理学(6月～9月)	ウーマンズヘルス 131A教室 看護職生涯発達学 131B教室 小児看護学 331B教室	ウーマンズヘルス 131A教室 看護職生涯発達学 131B教室 小児看護学 331B教室 がん看護学 331C教室	ウーマンズヘルス(助産選択科目) 142教室 他	
火		看護理論 131A教室	小児看護学 131A教室 ウーマンズヘルス 131B教室 クリティカルケア看護学 がん看護学 331B教室 基礎看護学	ウーマンズヘルス(助産選択科目) 142教室 他		
水	演習					
木	小児看護学 131B教室 精神看護学 131A教室 ウーマンズヘルス(助産選択科目) 142教室 他		地域看護学 クリティカルケア看護学 ウーマンズヘルス 131B教室 基礎看護学 老年看護学	保健統計学 (通年) 131A教室		
金		看護研究 (4月～10月) 131A教室	看護職生涯発達学 131A教室 がん看護学 131B教室 ウーマンズヘルス(助産選択科目) 142教室 他	ウーマンズヘルス 131A教室		
土		看護政策論 (6月～10月) 131A教室				

夏期集中講義 ○フィジカルアセスメント☆ (8月～9月) 131B教室 他

注：  
 の講義科目は共通必修科目です。  
 の講義科目は共通選択科目です。  
 ☆ の講義科目は自由選択科目です。

後期日程【2012. 10～2013. 3】

看護学研究科博士前期課程時間割

	I (9:00～10:25)	II (10:35～12:00)	III (13:00～14:25)	IV (14:35～16:00)	V (16:10～17:35)	VI (17:45～19:10)	VII (19:20～20:45)
月	国際コミュニケーション英語演習 131A教室		地域看護学 看護職生涯発達学 131B教室 がん看護学 131A教室	ウーマンズヘルス 142教室 他 臨床薬理学☆ 131A教室			
火	人間学* 131A教室  看護管理論* 131A教室	クリティカルケア看護学 がん看護学 331B教室 ウーマンズヘルス 131B教室 小児看護学 131A教室  基礎看護学			先端医療 *18:15～19:45 131A教室ならびに Twins 2階講義室		
水	老年看護学 ウーマンズヘルス 142教室 他 小児看護学 131B教室 基礎看護学 地域看護学 精神看護学 131A教室	演習					
木		看護教育論* 131B教室  コンサルテーション論* 131B教室	看護教育論* 131B教室  コンサルテーション論* 131B教室		基礎統計学 (通年) 131A教室		
金	研究方法(生体生理) 131B教室	看護研究 (4月～10月) 131A教室	がん看護学 131B教室 看護職生涯発達学 131A教室 クリティカルケア看護学 ウーマンズヘルス(注: 助産選択科目も一部含む) 142教室 他	がん看護学 131B教室 看護職生涯発達学 131A教室 クリティカルケア看護学 ウーマンズヘルス(注: 助産選択科目も一部含む) 142教室 他	看護倫理 (注:1月以降一部 2限に講義あり) LL教室	病態生理学☆ 131B教室	研究方法 (臨床医学) 131B教室
土		家族論(11月10日、12月15日、1月19日 月1回 後期集中) 131A教室					

注:  
 の講義科目は共通必修科目です。  
 の講義科目は共通選択科目です。  
 ☆ の講義科目は自由選択科目です。

\* 火曜1・2限「人間学」「看護管理論」両方履修可。(日程重複なし)  
 \* 木曜3・4限「看護教育論」「コンサルテーション」両方履修可。(日程重複なし)

## 2年次(前期・後期) 看護学研究科博士前期課程時間割

	I	II	III	IV	V	VI
	<b>修士論文コース</b>					
月		食看護学特別研究				
		基礎看護学特別研究				
		看護管理学特別研究				
		看護職生涯発達学特別研究				
		クリティカルケア看護学特別研究				
火		がん看護学特別研究				
		ウーマンズヘルス特別研究				
		老年看護学特別研究				
		精神看護学特別研究				
		地域看護学特別研究				
水		小児看護学特別研究				8単位選択
	<b>実践看護コース</b>					
木		クリティカルケア看護学実習				
		がん看護学実習				
		ウーマンズヘルス実習				
		老人看護学実習				
		精神看護学実習				
金		地域看護学実習				
		小児看護学実習				6単位選択
						(+自由選択科目4単位)
		クリティカルケア看護学課題研究				
		がん看護学課題研究				
土		ウーマンズヘルス課題研究				
		老人看護学課題研究				
		精神看護学課題研究				
		地域看護学課題研究				
		小児看護学課題研究				2単位選択

\* その他一部演習あり



前期日程【2012.4～9】

看護学研究科博士後期課程時間割

講義は136教室で行います。(一部を除く)

	I (9:00～10:25)	II (10:35～12:00)	III (13:00～14:25)	IV (14:35～16:00)	V (16:10～17:35)	VI (17:45～19:10)	VII (19:20～20:45)
月				哲学特論			
火	地域看護学特論		解釈的精神看護学特論				
水		クリティカルケア看護学・がん看護学特論 第3水曜	＜通年＞				
木	老年看護学特論			＜通年＞ 統計学特論	小児看護学特論		
金	＜通年＞ 看護職 生涯発達学特論					心理学特論(4月～6月)	
			＜通年＞ ウーマンズヘルス 特論				

夏期集中講義 ○倫理学特論 8月31日、9月7日、14日、21日、28日(いずれも13:00～17:35) \*LL教室にて講義を行います。

夏期集中講義 ○研究方法特論 (8月) \*詳細はシラバス参照のこと

の講義科目は共通選択科目です。

後期日程【2012.10～2013.3】

看護学研究科博士後期課程時間割

講義は136教室で行います。(一部を除く)

	I (9:00～10:25)	II (10:35～12:00)	III (13:00～14:25)	IV (14:35～16:00)	V (16:10～17:35)	VI (17:45～19:10)	VII (19:20～20:45)
月							
火				解釈的精神看護学演習			
水				クリティカルケア看護学・がん看護学特論 第3水曜			
木						〈通年〉 統計学特論	
金		〈通年〉 看護職 生涯発達学特論					
			〈通年〉 ウーマンズヘルス 特論				

の講義科目は共通選択科目です。

